

コンピュータガイド

－ インターネット編 －

－cc 環境の利用者へ－

京都産業大学
計算機センター事務室

初版'94. 3.23

改訂'97. 4. 1

緒 言

本学でコンピュータ関係の出版物を最初に発刊したのは1968年である。研究報告を主としたものであったが、計算機科学研究所彙報として刊行された。当時はTOSBAC3400というバッチ処理のみの計算機であった。その後、1983年からは計算機科学研究所所報として継続的に発刊されている。その頃、計算機学習コースという科目が設けられ、受講者対象であるが、計算機利用マニュアルが作られている。当時のFACOM M180というTSS処理の計算機のために、端末機などの利用部分はセンタのメンバーが、プログラム言語の部分は各担当の先生が書いたものをまとめ、毎年改訂していた。そして、1994年に全学の利用者のために、UNIXガイドが発刊された。これは、内容と紙面の斬新さのために好評となり、9月にはたちまちUNIXガイド増補版が出された。1995年、1996年にその改訂版を出版し、1997年の本書となった。

コンピュータの発展は本当に速い。本書の初版はUNIXワークステーションの利用のためであった。本学にUNIXが導入されたのは1985年の立石電機製のスーパーメイトである。なんとUNIXはシステムV1.0であった。その後1989年に工学部開設とともに、ワークステーションが急激に増加した。さらに1994年にはUNIXサーバとワークステーション教室が設置され、インターネット利用のワークステーションがなだれ込むようになった。また、1995年には100台近いMAC機の教室が増設され、ネットワークの利用者が飛躍的にのびている。

ガイドブックの内容も変化せざるを得ない。プログラム言語から応用ソフトへの内容変化はずでに終わっている。そして、コンピュータ利用のためのガイドブックからネットワーク利用のためのガイドブックに変わりつつある。この内容の変化に即時に対応できるのは学内の多大なユーザサポートとセンタメンバーのたゆまない努力の結果であると確信している。これからも、本書の充実に期待したい。

最後に、学内のユーザにお願いしたいことをひとつ。ネットワークに接続されたコンピュータは世界中のコンピュータを使い、また使われる可能性がある。つまり、本学のネットワークとコンピュータ利用のモラルは世界から注目されうることを知ってもらいたい。やって良いこと、やってはいけないことを知り、また我流ではなく、スマートに使いこなすために、おおいに本書を活用していただきたい。

工学部 黒住祥祐

コンピュータガイドの読み方

コンピュータガイドは、初心者および入門用として、電子メール、ネットニュースなどの利用方法を中心とした手引書と一歩踏み込んで UNIX アプリケーションの利用方法を中心とした中級、上級者用の手引書に分けて書いてあります。

本編の「インターネットの手引」は、前者の初心者および入門用として記述しており、京都産業大学の共用 UNIX コンピュータを利用して生活する為の手引書として書かれてあります。1「はじめに」では全ての利用者に共通の注意を説明しています。2で基本的な用語や操作の説明、3で各情報処理教室からの使い方を説明、そして4から5までで UNIX の基本的な操作方法から始まり、電子メールやネットニュースなどが使えるようになるまでを説明しています。ここまでは全ての UNIX 利用者に習得して欲しいと思います。コンピュータのことをほとんど何も知らなくても、何とかここまではたどりつけるように書いたつもりです。頑張ってください。

後の章は、UNIX のより進んだ使い方、自宅のコンピュータ（パソコン）から通信網（電話）を利用して本学のネットワークに接続する方法、C3 情報処理教室の NeXT コンピュータ（UNIX コンピュータの一種）の利用方法などについて説明しています。是非、頑張ってください。

別冊の「アプリケーション編」は、それぞれ以下の事について説明しています。必要に応じて読んで下さい。

HTML	World Wide Web のページ作成について
L ^A T _E X	文書処理システム L ^A T _E X について
AUC _T E _X	L ^A T _E X を Mule と組み合わせてより便利にする AUC _T E _X について
レポートシステム	レポートを電子メールで提出するシステムについて
Mathematica	数式処理システム Mathematica について
GNUPLOT	グラフ作成システム GNUPLOT について
tgif	画像作成システム tgif について
<i>xv</i>	画像処理システム <i>xv</i> について
xpaint	画像作成システム xpaint について
NQS	バッチ処理を実現するシステム NQS について

また、巻末の付録にはリファレンスとして各種コマンドや記号などの一覧表、情報処理教室を利用する際の注意、著作権法の抜粋などがまとめられています。参考文献の一覧も付けてあります。

目次

第 1 章	はじめに	1
1.1	コンピュータ利用にあたって	1
1.1.1	学内コンピュータ利用憲章	1
1.1.2	具体的な利用の心構え	1
1.2	利用者サポート	3
1.2.1	相談窓口	3
1.2.2	各種ドキュメントがほしいとき	3
第 2 章	UNIX はいかが	4
2.1	UNIX 環境	4
2.1.1	計算機センター運用の UNIX 環境	4
2.1.2	ユーザ名とパスワード	4
2.1.3	パスワードの安全対策	5
2.1.4	Sign しよう!	6
2.1.5	ユーザ登録申請	10
2.2	これ以降の読み方	10
2.3	login と logout	11
2.4	キーボード	11
2.5	ウィンドウ環境	12
2.5.1	マウス	12
2.5.2	ウィンドウ環境の画面	13
2.5.3	メニュー	15
2.5.4	ボタン	16
2.5.5	ウィンドウ環境のトラブル傾向と対策	16
2.6	どこから login?	18
2.6.1	パソコンから UNIX を利用する為の予備知識	18
2.7	コンピュータウイルス	20
第 3 章	UNIX への道	21
3.1	これ以降の読み方	21
3.2	Ultra1 を使う	22
3.2.1	まず部屋へ	22
3.2.2	電源を入れる	22
3.2.3	login する	23
3.2.4	ちょっとメッセージ	24
3.2.5	ターミナルはあるかな?	25
3.2.6	パスワードを変える	26
3.2.7	logout する (セッションを終了する)	28

3.2.8	シャットダウンする	28
3.2.9	部屋を出る	29
3.2.10	さて、さて、	29
3.2.11	マニュアルなど	29
3.3	Macintosh の telnet で cc2000 を使う	30
3.3.1	でも、そのまえに	30
3.3.2	端末ソフトの起動	30
3.3.3	さあ、login しよう	31
3.3.4	ちょっとメッセージ	31
3.3.5	パスワードを変える	31
3.3.6	logout をしよう	32
3.3.7	端末ソフトを終了する	32
3.3.8	困った時の対処	33
3.3.9	cc2000 以外のホストコンピュータを使う時の注意	33
3.3.10	マニュアルなど	34
3.4	Digital PC200i から telnet で cc2000 を使う	35
3.4.1	まず部屋へ	35
3.4.2	電源を入れる	36
3.4.3	WindowsNT にログオンしましょう	36
3.4.4	まずは WindowsNT のパスワードを変更しましょう	37
3.4.5	端末ソフトを起動しましょう	38
3.4.6	ホストコンピュータへの接続	39
3.4.7	さあ、login しよう	40
3.4.8	ちょっとメッセージ	41
3.4.9	パスワードを変える	41
3.4.10	logout をしよう	42
3.4.11	端末ソフトを終了する	42
3.4.12	ログオフ (シャットダウン) しましょう	42
3.4.13	さて、さて、	43
3.4.14	困った時の対処	43
3.4.15	マニュアルなど	44
3.5	Contura から telnet で cc2000 を使う	45
3.5.1	まず部屋へ	45
3.5.2	机の引出しからパソコンを取出す	45
3.5.3	電源を入れる	46
3.5.4	Windows の動かし方	46
3.5.5	Windows に関する基礎知識 (絶対にやってはいけない事)	47
3.5.6	端末ソフトの起動	48
3.5.7	ホストコンピュータへの接続	49
3.5.8	さあ、login しよう	49
3.5.9	ちょっとメッセージ	50
3.5.10	パスワードを変える	50
3.5.11	logout をしよう	51
3.5.12	端末ソフトを終了する	51

3.5.13	電源を切る	51
3.5.14	パソコンを机の引出しにしまう	52
3.5.15	部屋を出る	52
3.5.16	さて、さて、	52
3.5.17	困った時の対処	52
3.5.18	マニュアルなど	53
3.6	FMV から X で cc2000 を使う	54
3.6.1	まず部屋へ	54
3.6.2	電源を入れる	55
3.6.3	Windows の動かし方	55
3.6.4	Windows に関する基礎知識 (絶対にやってはいけない事)	56
3.6.5	端末ソフトの起動	57
3.6.6	login する	58
3.6.7	ちょっとメッセージ	58
3.6.8	ターミナルはあるかな?	59
3.6.9	パスワードを変える	60
3.6.10	logout (セッションの終了)	61
3.6.11	電源を切る	62
3.6.12	部屋を出る	62
3.6.13	さて、さて、	62
3.6.14	困った時の対処	62
3.7	FMV から telnet で cc2000 を使う	64
3.7.1	まず部屋へ	64
3.7.2	電源を入れる	65
3.7.3	Windows の動かし方	65
3.7.4	Windows に関する基礎知識 (絶対にやってはいけない事)	66
3.7.5	端末ソフトの起動	67
3.7.6	ホストコンピュータへの接続	67
3.7.7	さあ、login しよう	68
3.7.8	ちょっとメッセージ	69
3.7.9	パスワードを変える	69
3.7.10	logout をしよう	70
3.7.11	端末ソフトを終了する	71
3.7.12	電源を切る	71
3.7.13	部屋を出る	71
3.7.14	さて、さて、	72
3.7.15	困った時の対処	72
3.7.16	マニュアルなど	73
3.8	DECpc から telnet で cc2000 を使う	74
3.8.1	まず部屋へ	74
3.8.2	電源を入れる	74
3.8.3	端末ソフトの起動	76
3.8.4	ホストコンピュータへの接続	76
3.8.5	さあ、login しよう	77

3.8.6	ちょっとメッセージ	79
3.8.7	パスワードを変える	79
3.8.8	logout をしよう	80
3.8.9	端末ソフトを終了する	80
3.8.10	電源を切る	80
3.8.11	部屋を出る	81
3.8.12	さて、さて、	81
3.8.13	困った時の対処	81
3.8.14	マニュアルなど	83
第 4 章	UNIX それから	84
4.1	基礎知識をもう一度	84
4.1.1	login	84
4.1.2	キー表記	84
4.1.3	カーソル	85
4.2	コマンド	86
4.2.1	コマンドって何だ？	86
4.2.2	プロンプト	86
4.2.3	簡単なコマンド	86
4.2.4	引数とオプションのあるコマンド	87
4.2.5	対話的なコマンドとそのサブコマンド	88
4.2.6	コマンドの使い方を調べる	89
4.2.7	UNIX によるコマンドの違い	91
4.2.8	トラブルからの脱出	91
4.3	シェル	93
4.3.1	コマンド入力時の編集	93
4.3.2	ヒストリ	94
4.3.3	イベント	95
4.4	ファイル	96
4.4.1	でもやっぱりファイルって何？	96
4.4.2	ファイルの一覧を見る	96
4.4.3	試しにファイルを作ってみましょう	97
4.4.4	ファイルの内容を見る	97
4.4.5	ファイル名を変える	98
4.4.6	ファイルの複写	99
4.4.7	ファイルの消去	99
4.5	ファイルを編集する	100
4.5.1	Mule での作業の流れ	100
4.5.2	Mule の起動	100
4.5.3	A. の場合：X ウィンドウ環境での Mule の起動とエラー対策	101
4.5.4	B. の場合：非 X ウィンドウ環境での Mule の起動とエラー対策	102
4.5.5	ファイル名の指定	103
4.5.6	編集	103
4.5.7	ファイルへの保存	105

4.5.8	Mule の終了	105
4.5.9	Mule もっともっと	105
4.6	印刷	108
4.6.1	どんなプリンタがあるか	108
4.6.2	ファイルの印刷	108
4.6.3	印刷状況をチェックする	109
4.6.4	印刷の取消し	110
4.6.5	利用上の注意	110
4.7	状況の変化	112
4.8	ファイルの階層構造	113
4.8.1	ディレクトリ	113
4.8.2	ツリー構造におけるファイル名の表記	116
4.8.3	ディレクトリの扱い	117
4.8.4	ディレクトリを意識したコマンドの書き方	118
第 5 章	ネットワークの世界へようこそ	123
5.1	ネットワークサービス紹介	123
5.1.1	ネットワークサービスと向き合う	123
5.1.2	電子メールって何？	124
5.1.3	ネットニュースって何？	124
5.1.4	WWWって何？	124
5.1.5	京都産業大学のネットワーク	125
5.1.6	Internet とは？	125
5.1.7	Internet mail サービスってどんなもの？	126
5.1.8	Internet news サービスってどんなもの？	127
5.1.9	WWW サービスってどんなもの？	127
5.1.10	ネットワークでの暮らし方	128
5.2	電子メール準備体操	128
5.2.1	Internet mail アドレスについて	128
5.2.2	計算機センター運用のコンピュータのメールアドレス	129
5.2.3	相手のメールアドレス	130
5.2.4	自分のメールアドレス	131
5.2.5	さあ、本番！	131
5.3	MHE : Mule による電子メールの読み書き	132
5.3.1	はじめに	132
5.3.2	メールを読む	133
5.3.3	メールを書く	136
5.3.4	来たメールの返事を書く	137
5.3.5	メールの整理	139
5.3.6	メールが来ているかどうか確認する	139
5.3.7	メールの実体はどこに？	140
5.3.8	トラブルからの脱出	141
5.3.9	MHE もっともっと	141
5.4	まとめ	141

5.5	メールを書くときの注意	141
5.6	GNUS : Mule によるネットニュースの読み書き	144
5.6.1	用語説明	144
5.6.2	はじめに	144
5.6.3	GNUS の起動	144
5.6.4	記事を読む	145
5.6.5	GNUS を終了する、再起動する	147
5.6.6	ニュースグループを選ぶ	147
5.6.7	記事を投稿する (けどちょっと待てよ)	148
5.6.8	新しい記事を投稿する	149
5.6.9	記事にフォローする	151
5.6.10	記事のキャンセル	152
5.6.11	メールで返事をする	152
5.6.12	古い記事を読み返す	153
5.6.13	記事の保存	154
5.6.14	ちょっとしたテクニック	154
5.7	記事を書くときの注意	155
5.8	ファイルをコンピュータ間で移動	157
5.8.1	フロッピーディスクの種類	158
5.8.2	ファイルの種類	160
5.8.3	ファイルをフロッピーディスクにコピー	163
5.8.4	UNIX 間でファイルのコピー	166
5.8.5	FTP コマンドの詳細	167
5.8.6	anonymous FTP	168
5.8.7	archie	170
5.9	World Wide Web	171
5.9.1	URL	171
5.9.2	ブラウザ	171
5.9.3	ブラウザの終了	172
5.9.4	基本的なブラウザの利用方法	172
5.9.5	情報送信	173
5.9.6	ブラウザの問題点	174
5.9.7	トラブルは出さない	174
5.9.8	あなたも作れるホームページ	175
第 6 章	UNIX もっともっと	176
6.1	ファイルの整理	176
6.1.1	ファイルの大きさを調べる	176
6.1.2	身に覚えのないファイル	177
6.1.3	ファイルを削除する	178
6.1.4	ディスクの利用量をチェックする	179
6.2	情報検索	180
6.2.1	学内の利用者情報の検索	180
6.2.2	学外の組織などの情報を調べる	181

6.3	ファイルのアクセス権	184
6.3.1	アクセス権	184
6.3.2	UNIX におけるアクセス権	184
6.3.3	アクセス権限を調べる	185
6.3.4	アクセス権限を設定する	186
6.4	シェルよもう一度	188
6.4.1	ファイル名の補完	188
6.4.2	対話的なファイル名の補完	189
6.4.3	シェル変数と環境変数	190
6.4.4	リダイレクション	191
6.4.5	パイプ	193
6.4.6	シェルの鬼へのヒント	194
6.4.7	シェルよ永遠に	196
第 7 章	Mule	197
7.1	なにそれ?	197
7.2	Mule の仕組み	197
7.3	これだけ覚えたら Mule は使える!	198
7.4	もうちょっと覚えよう	199
7.5	日本語入力	201
7.5.1	かな漢字変換	201
7.5.2	ためしに変換	202
7.5.3	特殊な文字列の入力	204
7.5.4	まとめ	205
7.5.5	ローマ字入力のヒント	206
7.6	ちょっと中級者	206
7.6.1	単語登録	206
7.6.2	検索	208
7.6.3	画面分割	208
7.6.4	パッファリスト	208
7.6.5	モードライン	208
7.6.6	Dired モード	209
7.7	上級者に向けて	210
7.8	X 環境での Mule	210
7.9	とりあえずここまで	211
第 8 章	どこからでも telnet	212
8.1	スロースタート	212
8.1.1	どこから telnet?	212
8.1.2	どこへ telnet?	213
8.1.3	これ以降の読み方	213
8.2	誰かが管理してくれているコンピュータから	213
8.2.1	トラブル対策	214
8.3	あなたのパソコンから	215
8.3.1	準備段階	215

8.3.2	接続する二つの方法	217
8.3.3	ダイヤルアップ IP 接続とターミナルサーバ接続の違い	219
8.4	ダイヤルアップ IP 接続の設定と利用法	221
8.4.1	利用上の注意と制限	221
8.5	Windows95 編	223
8.5.1	用意する物	223
8.5.2	インストール	223
8.5.3	ネットワークソフトウェアの入手およびインストール	226
8.6	Windows3.1 編	232
8.6.1	用意する物	232
8.6.2	インストール	232
8.6.3	接続を切る	237
8.6.4	自動起動	238
8.6.5	ネットワークソフトウェアの入手およびインストール	238
8.7	Macintosh 編	244
8.7.1	用意するもの	244
8.7.2	インストール	246
8.7.3	使い方	250
8.8	ターミナルサーバ接続の設定と利用法	252
8.8.1	準備	252
8.8.2	ターミナルサーバの使い方	253
8.8.3	利用上の注意と制限	254
8.8.4	一般的なトラブル対策	254
8.9	慣れている人のために	256
8.9.1	ダイヤルアップ IP 接続に関する情報	256
8.9.2	ターミナルサーバ接続に関する情報	257
第 9 章	NeXT	259
9.1	初めて NeXTStation を使う人へ	259
9.1.1	まず部屋へ	259
9.1.2	電源を入れる	260
9.1.3	login する	261
9.1.4	ちょっとメッセージ	262
9.1.5	基礎知識	262
9.1.6	パスワードを変える (NeXT に初めて触れるなら...)	262
9.1.7	logout する	263
9.1.8	電源を切る	264
9.1.9	部屋を出る	264
9.1.10	マニュアルなど	265
9.1.11	さて、それから	265
9.2	NeXT ファイル管理術	266
9.2.1	はじめに	266
9.2.2	ファイルビューアの各部名称	266
9.2.3	ファイルとは	267

9.2.4	フォルダで整理	267
9.2.5	コピー	268
9.2.6	移動	268
9.2.7	コピーと移動の違い	268
9.2.8	ファイルをフォルダにドラッグすると...	268
9.2.9	名称変更	269
9.2.10	削除	269
9.2.11	リンク	270
9.2.12	アクセス権	271
9.2.13	アプリケーションドック	271
9.2.14	シェルフ	272
9.2.15	フロッピーディスク	273
9.2.16	光磁気ディスク	274
9.2.17	おわりに	274
9.3	NeXT で使うネットワークサービス	275
9.3.1	最初に	275
9.3.2	文通しよう	275
9.3.3	ネットニュースしよう	279
9.3.4	最後に	283
付録 A 章リファレンス		284
A.1	UNIX コマンド	284
A.1.1	ファイル管理に関するコマンド	285
A.1.2	ファイルに関する雑多なコマンド	286
A.1.3	テキスト処理に関するコマンド	287
A.1.4	プリンタに関するコマンド	289
A.1.5	アクセス権、アクセス制御に関するコマンド	289
A.1.6	マニュアルに関するコマンド	290
A.1.7	雑多なコマンド	290
A.1.8	ファイル圧縮などに関するコマンド	292
A.1.9	プロセスに関するコマンド	293
A.1.10	現在使っているコンピュータに関するコマンド	293
A.1.11	利用者に関するコマンド	294
A.1.12	ネットワークサービスに関するコマンド	295
A.1.13	シェル (tcsh) のサブコマンド	296
A.1.14	索引	298
A.2	UNIX でよく使われる記号など	299
A.2.1	シェル変数の一覧	299
A.2.2	環境変数の一覧	299
A.2.3	リダイレクション記号など	300
A.2.4	ファイル指定のワイルドカードなど	300
A.2.5	コマンド履歴を扱う為の表記法	300
A.2.6	正規表現	301
A.3	Mule コマンド	302

A.3.1	絶対覚えておいた方がいいもの	302
A.3.2	必要に応じて覚えるもの	303
A.4	京都産業大学 FAQ(抄)	311
A.4.1	目次	311
A.4.2	はじめに	312
A.4.3	UNIX 編	312
A.4.4	Mac 編	322
A.4.5	Program 編	323
A.4.6	その他	323
付録 B 章情報処理教室の利用について		324
付録 C 章著作権法 (抜粋)		326
付録 D 章参考文献		331

第1章 はじめに

1.1 コンピュータ利用にあたって

みなさんは、これから京都産業大学の学内に設置されたコンピュータを利用しようとしているところです。その利用方法や困ったときの対処の仕方など、今後、コンピュータを利用してゆく上で出会うであろう様々な場面で役に立つ情報が、このガイドには記されていますので、それらの情報を参考にしながら個々の設備を利用してゆくこととなります。しかし、設備を利用する前に、絶対に忘れてはならないことがあります。それは技術的なこと以前に、「本学に設置されているコンピュータ設備は京都産業大学の共有資源である」ということです。つまり利用に当たっては、規則、慣習、道徳、法律などが明示的又は暗黙的に存在し、それを守ることが利用者の義務であるということです。これについて説明します。

1.1.1 学内コンピュータ利用憲章

学内に設置されたコンピュータを利用するに当たり、以下の憲章を理解し守るようにしてください。

- 第1条：本学のコンピュータ設備は、「建学の精神」及び「教学の理念」に則り、利用者の教育・研究、学習、自己研鑽をその利用目的とする。
- 第2条：本学のコンピュータ設備を利用しようとする者は、第1条に沿って設備を利用する義務を有する。
- 第3条：本学全体の利用者の利益を鑑みて、第2条に反する行為を行う利用者に対しては、倫理的常識的に妥当な措置が取られる。

1.1.2 具体的な利用の心構え

上記の憲章では、漠然として分かりにくいかも知れませんが、もう少し具体的に書いてみます。

目的に沿った利用

本学の設備は教育・研究のための共用設備です。その目的のために整備されているわけですから、例えば、自分の技術習得や講義のレポート作成や課題遂行のためには積極的に利用してください。しかし、それ以外の目的の利用は当然制限がかかってきます。具体的にどのような利用が制限されるのかを全て列挙するのは不可能なので書きませんが、常識的に判断してください。良く分からない場合は計算機センターに相談しましょう。例えば、電子メールを利用する場合、友人との日常連絡に用いるの電子メールの利用技術を習得するという観点から、適切な利用と言えますが、商業活動として¹ダイレクトメールを配付したりするのは適切な利用ではありません。

¹ お金もうけをすること。

個々の設備に関する規則

それぞれのコンピュータ設備は、設備毎に管理者がそれぞれ技術的な理由または教務的な理由など様々な理由で利用規則を設けています。それらが明文化されているか暗黙の合意なのかは場合によりけりですが、いずれにせよ合理的理由があって設けられていますので、それを守るようにしましょう。それぞれの規則は管理者の方に問い合わせてください。管理者が誰か分からない場合は計算機センターに訊ねてみましょう。

慣習や道徳

学内のコンピュータ設備は、本学の構成員（学生、教員、職員）の共有資源です。つまり、特定の個人が独占的に利用できるものではなく、全員が互いに譲り合って利用しなければなりません。ある行為をやるうとして、それが「自分自身の利益のため」であるが「他の誰かの迷惑になる」行為であれば、その行為はしないでください。要するに、お互いに気持ち良く譲り合って利用しましょうということです。それ以上詳しくは書けませんが、常識的に考えて実践してください。

法律

コンピュータを利用している場合でも、法律（国内法、国際法等々）は適用されます。コンピュータの世界は特別ということではなく、一般社会に存在している法律は当然守らねばなりません。特に、コンピュータの世界で簡単に法律に触れる可能性として次の2つを挙げておきます。

- 著作権： コンピュータ上のデータは技術的には簡単に複製したり改竄したりできます。しかし、これは元のデータを作成した人が有している著作権を侵害している可能性があります。例えば商品として流通しているソフトウェアを複製するなどがそれです。処罰される可能性もありますので注意しましょう。
- 人権： コンピュータを利用して様々な意見や情報を非常に簡単に公開・発信・交換できますが、あまりに容易に出来てしまうために、権利の侵害をしているという意識も無いままに、その内容が特定の個人や団体の様々な権利を毀損・侵害してしまっている場合があります。

利用者モラルの維持高揚

単に利用者の心得として、上記のような行為をしないというだけでなく、積極的にモラルを向上させるようにしてください。利用者憲章に反する様な行為を見つけたら、それを看過しないで、お互いに注意しあうようにしましょう。それが結果的には本学のコンピュータ利用者全体の利益につながります。お互いの関係で解決されない場合は「計算機センター」に相談・連絡してください。基本的には次のような過程を経て、そのような行為を止めてもらうようにしています。

1. 行為の実体を把握したうえで、「指導的立場の教員」が教育的指導を行う。また、計算機センター及び設備管理者を経由して是正の依頼を行う。
2. それでも改善されない場合は、教員の依頼に基づき、行為の是正がなされるまでコンピュータ利用を一時的に停止するなどの処置を取る。

1.2 利用者サポート

上記のような注意をあなたが遵守して学内のコンピュータを利用していくのであれば、以下のサポートを受けることができます。

1.2.1 相談窓口

学内のコンピュータのうち、幾らかは計算機センターが管理しています。これらのコンピュータを利用するに当たって質問、要望、トラブルがあれば計算機センター窓口の担当員に尋ねるのがいいでしょう。学内からの電話であれば内線電話 2578 で連絡が付きます。通常の授業が行なわれている期間の授業時間帯であれば計算機運用補助員が各情報処理教室を巡回していますのでその時に質問してもいいでしょう。

学内には以下の複数の情報処理教室などに多くのコンピュータが設置してあります。あなたは恐らくこれらの設備を利用することになるでしょう。各室に設置されているコンピュータの名称と所管部署の一覧を挙げておきます。

建物	教室名	機器		所管
計算機科学研究所棟 2 階	C1 情報処理教室	FMV-466D	32 台	計算機科学研究所
計算機科学研究所棟 3 階	C2 情報処理教室	PanaStation	22 台	理学部
計算機科学研究所棟 3 階	C3 情報処理教室	NeXTstation	15 台	計算機科学研究所
計算機科学研究所棟 4 階	C4 情報処理教室	NeXTstation	6 台	理学部
1 号館 2 階	11 情報処理教室	PowerMacintosh6100	90 台	一般教育研究センター
2 号館 4 階	21 情報処理教室	Ultra1/170E	40 台	理学部
3 号館 2 階	31 情報処理教室	PowerMacintosh6100	44 台	外国語学部
3 号館 1 階	32 情報処理教室	PowerMacintosh8500	98 台	計算機センター 平成 9 年 6 月から運用
5 号館 1 階	51 情報処理教室	DigitalPC200i	35 台	経済学部
5 号館 2 階	52 情報処理教室	Compaq Contura	45 台	経営学部
図書館 1 階	パソコンコーナー	DECpc466MTE	12 台	図書館
図書館 1 階	パソコンコーナー	PowerMacintosh6100	12 台	図書館
図書館 1 階	パソコンコーナー	PowerMacintosh7200	12 台	図書館
図書館 1 階	パソコンコーナー	FMV DeskPowerSE5133	12 台	図書館

慣れている人の為の情報： FMV, Contura, DECpc は IBM PC/AT 互換機です。Microsoft Windows 3.1 もしくは Microsoft Windows 95 が動作します。PowerMacintosh は俗に Macintosh もしくはマックなどと呼ばれているパソコンです。PanaStation, Ultra1/170E は UNIX ワークステーションです。X Window が動作します。PanaStation は Sun Workstation 互換機です。NeXTstation は俗に NeXT と呼ばれている UNIX ワークステーションです。一般の UNIX ワークステーションとはかなり操作感覚が違います。

情報処理教室の設備を利用する前には、付録の「情報処理教室の利用について」を一読しておいてください。特に C2,C4 情報処理教室の設備は特定の学科にのみ提供されているものですので注意してください。机、電灯、空調など部屋の設備についての連絡、相談はその教室を管理する所管の事務室をお願いします。コンピュータの操作、動作不良などに関する連絡、相談は計算機センター相談窓口までお願いします。

図書館のパソコンコーナーの机、電灯、空調などの設備やコンピュータに関する連絡、相談は全て図書館のカウンターをお願いします。

1.2.2 各種ドキュメントがほしいとき

各種ドキュメントの入手については上記の相談窓口にお問い合わせください。

第2章 UNIX はいかが

UNIX¹ は現在、大学や研究機関で最も多く利用されているコンピュータ環境の一つです。産業用にも非常に多く利用されており、今後も多方面で利用されるでしょう。京都産業大学にも UNIX 環境が複数あります。ここではその中でも計算機センターが運用しているマシンで利用出来るサービスについて、その概要と利用方法を説明します。

2.1 UNIX 環境

2.1.1 計算機センター運用の UNIX 環境

計算機センターでも幾つかの UNIX コンピュータを運用しています。計算機センターが運用し、京都産業大学の教員、学生に提供しているコンピュータのうち、UNIX 環境のコンピュータは以下のものです。ホスト名とはネットワーク上の各コンピュータの名前です。以降各コンピュータはホスト名で表現します。

機種名	ホスト名	
SPARCcenter2000	cc2000	計算機センター 1 階に設置の Sun 社製コンピュータ。
Ultra1/170E	cssol000 ~ 039	理学部 4 階 21 情報処理教室に 40 台設置の Sun 社製コンピュータ。
NeXTstation	ccns001 ~ 015	計算機科学研究所 3 階 C3 情報処理教室に 15 台設置の NeXT 社製コンピュータ。

上記のコンピュータを利用するためには「ユーザ名」と「パスワード」と呼ばれるものを取得して計算機センターに利用申請をする必要があります。この申請によってあなたは「ユーザ名」でコンピュータに登録され、ようやく各コンピュータが利用可能な状態になります。この登録が行われないと、あなたは UNIX コンピュータを利用する際にコンピュータから問い合わせられる「ユーザ名」と「パスワード」に答えられず、結果としてコンピュータを利用することが出来ません。上記のコンピュータを利用するために必要なユーザ名とパスワードは一つだけです。一つのユーザ名とパスワードで上記の全てのコンピュータを利用できます。

ユーザ名とパスワード以外の要素でも上記 3 種類の UNIX コンピュータたちは密接に連係しています。この環境を「cc 環境」と呼ぶことにします。

2.1.2 ユーザ名とパスワード

ユーザ名とは「みんなで使うコンピュータ」を利用する際に、誰が使うのかを識別するために、利用者個人ごとに一意に決定されたキーワードです。コンピュータ上での利用者の名前だと認識してもいいでしょう。コンピュータ上で扱い易いように 3 文字から 8 文字の英小文字と数字で構成されています。ユーザ名は次に説明する方法によって利用者が自分で決定します。但し、教員も、学生も、京都産業大学に在籍し

¹ 「ゆにつくす」と読んで下さい。

ている間はずっと同じ名前で通さなければなりません。途中での変更は認めませんので、慎重に名前を考えてください。ユーザ名は電子メールを UNIX 上で利用する際の宛名²にもなりますので、あなたを連想し易い名前がいいでしょう。逆に複雑な名前を付けると誰も覚えられなくなります。反社会的な名前を付けたりすると誰からも相手にされなくなったり、後で困るかも知れません。また、コンピュータが個人の識別を行うため、1つのコンピュータ環境内に同じユーザ名の人が存在する事ができません。従って自分の希望している名前を既に誰かが使っていたとしたら残念ながら別の名前を考えて貰うことになります。とにかく他の人と重複しないように一意に決まっていることが重要です。

以下に島田 宏明(しまだ ひろあき)さんを例にとって、これからユーザ名を決める人達の参考の為に典型的なユーザ名のパターンを列挙しておきます。

名字もしくは名前	shimada , simada , hiroaki
その組合せ	shimadah , hshimada , shiroaki , hiroakis , simahiro
縮めて	shima , sima , hiro , aki
ニックネーム	shimasan , simasan, shima3 , simachan , simachon , shimachi
ミドルネーム (?) を入れて	has

この、学内で誰も使っていない名前をユーザ名として獲得する作業は Sign 登録作業と呼ばれており、まだ Sign 登録が済んでいない利用希望者が自分自身で行います。(Sign 登録は京都産業大学独自のもので、この用語は一般的ではありません。)

2.1.3 パスワードの安全対策

パスワードとは、本人確認のための秘密のキーワードです。毎回、あなたはコンピュータを利用する最初のときにユーザ名を計算機に通知します。しかし誰かほかの人があなたの名前を「騙る(かたる・他人の名前を悪用する)」かも知れません。これでは困るのでユーザ名と一対一に対応した、コンピュータと利用者本人しか知らない秘密のキーワードを用意します。ユーザ名と、それに対応するパスワードの組み合わせを正しくコンピュータに伝えられた者は、その本人に違い無いと言う訳です。ユーザ名は公開のもですが、パスワードは非公開です。誰にも教えないように、知られないようにして下さい。計算機センターでもパスワードが何であったかを調べることは出来ません。忘れないように注意してください。

ところで最近パスワードを調べて悪意に満ちた事をする人がいます。このような人達のために我々が防御策を立てていかななくてはならないのは大変馬鹿馬鹿しい事ですが、それを怠って悪意に満ちた人の攻撃を受けても困ります。そのようなことがないように、まずパスワードを誰にも推測されにくいものにする事を強く推奨します。

UNIX の世界ではパスワードは 8 文字以内の英文字と数字で作りますが、例えば english とか alphabet 等の英単語は大変危険です。takako などのローマ字の名字や名前、rakkyo のように国語辞典に載っている単語のローマ字も駄目です。単なる数字の列なども危険です。例えば az802g など、全く誰も考え付かないような文字列が最良ですが、これはなかなか覚えにくいかも知れません。以下に覚え易くて安全な例を挙げます。

² 詳しくは 129 ページを参照してください。

takotyū	たこちゅー	どこの国の辞書にもありません。基本です。
ikasen	いかせん	これも基本形ですね。
iyambaka	いやんばか	さんま風に、、、
iya3	イヤミー	ちょっと古いネタでしたか、
ku/mi	くしゃみ	記号も考え次第では覚え易くできます。
bin-	ピンボー	まあヤンボーでもマーボーでも良いのですが。
NikkEi*	日経何でもあり	途中で意味もなく英大文字を入れると強力です。
Dobu6Da4	どぶろくだよ	大文字小文字、数字の合わせ技ならさらに強力です。

要はアイデア次第でこういう単語は幾らでも湧いてくるものです。途中で記号、数字、英大文字を含ませたりして判りにくさを補強すればなお良いですね。

パスワードは一度判りにくいものに決めてしまった後でも、半年おきなど定期的に変更することが大切です。なぜならパスワードを変えるということは、もしパスワードがばれて誰かに使われていたとしても被害を最小限に押さえる事ができるからです。パスワードを変えてしまえばそれまで不正に使っていた人は使えなくなりますからね。

もしも忘れてしまった場合は計算機センターの相談窓口で学生証を持って来て頂ければ、新しいパスワードでやり直すことができますから安心して下さい。逆に覚え易くしたい余りに、簡単過ぎるパスワードにしてしまったり、一度決めたきり変更しないで使い続ける方が危険です。注意して下さい。

2.1.4 Sign しよう！

Sign 登録するには幾つかの方法が提供されていますが、ここではそのうちの幾つかを示します。

- 計算機センター相談窓口で担当員に登録して貰う。
但しこの方法だと春先など込み合う時期はかなり時間的に待たされる可能性があります。時間的に空いていそうなときに来てください。
- 2号館の4階21情報処理教室にある Ultra1 を利用して登録する。
この方法だと窓口が込んでいても待ち時間無しで登録できます。
- 学内の UNIX コンピュータを利用している知人（ないしは指導教員）に手伝って貰う。
この方法だとわざわざ2号館4階まで行かなくても作業が出来ます。cc2000 コンピュータにユーザ名 sign でリモートログインすると、Ultra1 を利用した場合の「いよいよ Sign 登録」での作業と同じ事が出来ます。

ここでは Ultra1 を利用して Sign 登録をする手順を紹介します。これだと誰にでも簡単に出来て、計算機センターの手間も省けますので、ぜひこちらにチャレンジしてください。

部屋に入って Ultra1 の電源を入れる

部屋に入って電源を入れる説明については 22 ページの 3.2.1 と、その次の 3.2.2 に詳しく書いてあります。ちょっと回り道ですが、そこを参照して下さい。

いよいよ Sign 登録

電源をうまく入れることが出来たら以下のような絵が画面中央に表示されているでしょう。

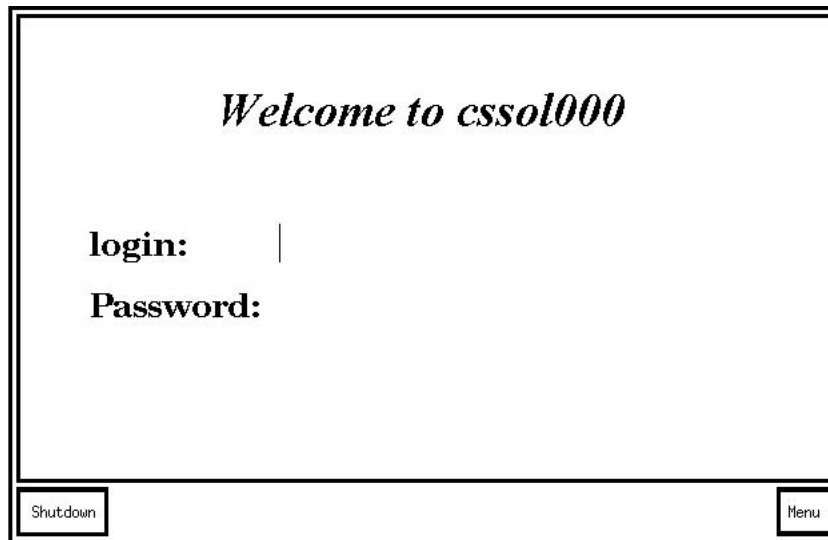


図 2.1 電源投入後に現れる画面

この画面の右下隅に注目して下さい。次のように小さく Menu と書かれた枠が見えるでしょう。



図 2.2 Menu ボタン

マウス（下図参照）の前後左右の動きに連動して画面上を上下左右に動く小さな×印をこの Menu の文字の上に重ねてマウスの左ボタンを一度だけ押してすぐ離します。このマウスのボタンを押してすぐ離す操作の事をクリックと呼んでいます。

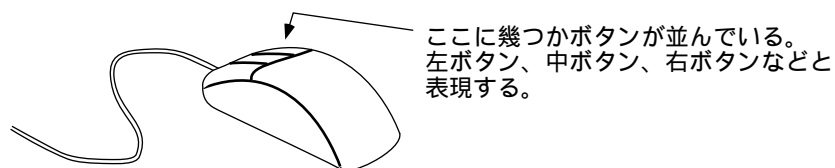


図 2.3 マウス

そうすれば画面には新しく枠が表示され、そこには以下のように表示されているでしょう。

Sign 登録システム. version 0.3

- 1 学生
- 2 教員
- 3 院生
- 9 中止

どのような人のための登録か選んで下さい (1-9) ?

これ以降は学生ユーザ安田さんが yasuda というユーザ名で Sign 登録する例を用いて説明します。例を見ながら、実際にはあなた自身の情報をタイプして行って下さい。教員、大学院生でも操作そのものは殆ど同じです。いずれにしても表示される質問に次々と答えて行くだけです。

コンピュータに対しての返事はキーボードのキーをタイプする事で行ないます。タイプするのはキーボードのキーをその通りに一つずつ押す事です。キーは押しっぱなしにすると繰り返して押した事になりますので、押したら指を離して下さいね。もしもキーを打ち間違えた時は BackSpace キー (キーボード右上の小さな マークと一緒にいるキー) を押して下さい。一度押すたびに一文字ずつ戻ります。大抵の場合、指定の文字がタイプ出来たらリターンキーを押す必要があります。リターンキーはアルファベットの並びの右端にあるキーです。「Return」と書いてあります。

Sign 登録システム. version 0.3

- 1 学生
- 2 教員
- 3 院生
- 9 中止

どのような人のための登録か選んで下さい (1-9) ?

まず、どの種類の人かを尋ねてきています。安田さんは学生ですから、1 をタイプしてリターンキーを押しました。

どのような人のための登録か選んで下さい (1-9) ? 1

何人も続けて登録しますか (y/n) ?

ここでは繰り返して何人も登録するかどうかを尋ねています。今回は安田さん一人分しか登録しませんから n をタイプしてリターンとしました。

何人も続けて登録しますか (y/n) ? n

Sign registration program by Y.Yasuda. update by K.Ozaki.

学生番号を入力して下さい :

ここでは登録する人の学生証番号を尋ねています。安田さんの番号は 473088 ですから、473088 とタイプしてリターンとしました。

学生番号を入力して下さい :473088

あなたの名前は... :Yutaka Yasuda

誕生日は何月何日? (mddd) :

学生証番号をタイプするとフルネームを表示して来ますから、間違いないことを確認してください。そして今度は更に確認のために誕生日を聞いてきます。誕生日は月と日をそれぞれ二桁で表します。例えば安田さんの誕生日は 1 月 28 日ですから、タイプする内容は 0128 です。

誕生日は何月何日? (mddd) :0128

希望のユーザ名は何ですか :

誕生日が間違いないければ、いよいよ希望のユーザ名を尋ねてきます。安田さんは素直に名前の通り yasuda が良いなと思って yasuda とタイプしてリターンしました。

希望のユーザ名は何ですか :yasuda

** 'yasuda' は既に他の人に使われています

希望のユーザ名は何ですか :

すると、上記のようなメッセージが表示されて、もう一度ユーザ名の希望を聞いてきました。つまり yasuda は既に他の人が使っているのです。じゃあイニシャルを入れて y.yasuda がいいなと思ったのですが、使える文字はアルファベット小文字と数字だけですからピリオドが使えませんのでこれは駄目です。仕方ありませんから安田さんは「やっさん」と呼んでねというつもりで yasu3 とタイプしてリターンキーを押しました。

勿論一回で誰も使っていないユーザ名を見つけられる人もいるでしょう。逆に何度やっても自分の希望するユーザ名が全て使われていて、ちょっと考え直したい人もいるかも知れません。そういう場合はユーザ名の代わりに exit とタイプしてリターンすれば Sign 登録作業を中断することが出来ます。すると恐らくは「リターンキーを押せば終了します」というメッセージが現れますから、そこでもう一度リターンキーを押せば Sign 登録作業を終了することが出来るのです。

希望のユーザ名は何ですか :yasu3

あなたの希望するユーザ名は 'yasu3' ですね? [y or n]:y

keyword 'yasu3' was registered in resource list.

**

** あなたのユーザ名は 'yasu3'

** パスワードは 'word'

** です。覚えて下さい。

**

リターンキーを押せば終了します

yasu3 はどうやら誰も使っていなかったようで、yasu3 で登録の確認を求めてきました。ユーザ名に間違いがなければ y と答えます。これで無事登録できました。ここで表示されているユーザ名(例では yasu3)と初期パスワード(例では word)をどこかに書き留めて記録してください。後で利用申請を計算機センターに出す時と、利用者登録が済んだ後で必要になる情報です。特にパスワードはもう二度と表示されませんので注意してください。

ひょっとするとここでも何等かの失敗があって、もう一度やり直す必要があるかもしれません。その場合は上記の例とは違って、エラーがあったからやり直してね、という表示が出ますので注意して見てください。

ユーザ名とパスワードをメモしたら、この状態を終るためにリターンキーを一度押してください。

Ultra1 をシャットダウンして電源を切り部屋を出る

シャットダウンから電源を切って部屋を出るまでの説明については 28 ページの 3.2.8、3.2.9 に詳しく書いてあります。再びちょっと回り道ですが、そこを参照して下さい。

2.1.5 ユーザ登録申請

Sign 登録が終わったら計算機センターにて自分を Sign 登録したユーザ名で登録手続きをしましょう。そのためには計算機センターが主催する「インターネットオリエンテーション」³に参加した際に配布された「UNIX 利用登録申請書」に必要事項を記入し、計算機センター相談窓口の担当員に提出してください。提出の際に再び「騙り(かたり)」を防ぐために必ず本人が、学生証をもって来てください。提出された書類を元に、計算機センターがいつ登録作業を行うかは時期によってまちまちです。急いでいる人はいつ利用可能になるか窓口で確認しておくべきでしょう。

2.2 これ以降の読み方

ユーザ登録が済めばいよいよ UNIX コンピュータを利用することになります。本当はここでいきなり UNIX コンピュータを使わせてあげたいのですが、いろいろと予備知識が必要になるというのが実情です。つまり UNIX コンピュータを利用するところまでたどり着く前に、あなたのコンピュータに対する理解度、環境に応じて事前の学習が必要になると言うことです。これ以降はあなたにとって必要な部分を読み進み、UNIX コンピュータまでたどり着いてください。

但し計算機科学研究所棟 3 階の C3 情報処理教室に設置してある NeXT Station は、UNIX コンピュータには変わり無いのですが、その使い方はかなり他の UNIX コンピュータと違って独特です。そのためこのガイドではその使い方を一緒に説明することはしません。9 にまとめてありますのでそちらをご覧ください。

これ以降は以下の事項についてそれぞれ説明します。あなたの理解度に応じて必要な所を「つまみ読み」してください。

- login と logout
- キーボード
- ウィンドウ環境
- どこから login?
- コンピュータウィルス

この章の最後には、具体的に UNIX コンピュータを利用する時にどの部屋に行って作業するべきかについて説明します。ここの所は特に重要です。では、3 まであなたの理解度に応じて読み進みましょう。少々読むのが面倒でもくじけずに、頑張ってください。

³ まだ参加していない人は次の開催スケジュールを今すぐ掲示版でチェックしましょう。計算機センター相談窓口前にも掲示しています。



2.3 login と logout

UNIX コンピュータを利用する際には、先に述べたユーザ名を使って、誰が UNIX コンピュータをこれから利用するのかをその都度確認する作業があります。これを login⁴ と呼びます。また、利用が終了したときに今まで使っていたコンピュータを解放して、他の人が使えるようにするために行う作業を logout⁵ と呼びます。login してから logout するまでの間を「セッション」などと呼ぶ場合もあります。login する代わりに「セッションを開始する」、logout する代わりに「セッションを終了する」などと表現するときもあるでしょう。

この login を実際に行なうには、様々な方法があります。後でまとめて説明します。

2.4 キーボード

コンピュータで作業する為には、キーボードによって文字を打ち込まなければならない事が多いと思います。特に UNIX コンピュータは殆どの場合「あれをしろ」とか「これをしろ」と、決められた文法で指示を（呪文のような）文字列としてコンピュータに入力する事によって操作しますから、キーボードは操作には欠かせません。

- キーボードのキーを、入力したい文字の順番に押して行くことを「タイプ」もしくは「打ち込み」などと言います。コンピュータの操作関係の説明で、「～～とタイプする」もしくは「～～と打ち込む」などと書いてあった場合は、その通りキーを押すのだなと解釈してください。
- 単語と単語を分けるために空白を一つ入力したいときは「スペース」キーを押します。キーボード最下段の何も書かれていない横長のキーです。
- 普通にアルファベットのキーをタイプしただけだと一般的には英文字の小文字 (a b c など) が入力されます。英大文字 (A B C など) を入力したい場合はシフトキーを押しながらアルファベットのキーを押すことによって行います。シフトキーはキーボード上に二つあり、左側ならアルファベットの並びの最も左下にある「Z」のすぐ左、右側ならアルファベットの並びの最も右下にある「M」のいくつか右にあります。キーには「shift」などと書いてあるでしょう。キーボードによっては上矢印が書いてあったりします。
- 文字を入力していて次の行に行きたくなくなったり、コマンド（後述）を入力し終って実行させたいときには「リターン」キーを押します。改行キーは右側のシフトキーの真上、もしくは二段上くらいにあります。「Return」「改行」などと書いてあります。
- 打ち間違えた文字の修正には delete キーを利用します。一度 delete キーを押すと、一つ前の文字が消えます。delete キーは大抵改行 (return) キーの真上、もしくは二段上くらいにあります。一般的には「DEL」「delete」などと書いてあります。「Back space」の場合もありますね。文字ではなく  や、  などと絵で表現してある場合もあります。
- UNIX で時々「コントロールC」などと言う表現を使うときがあります。表記では Control - C や C-c などと書かれている事が多いようです。この場合はコントロールキーを押しながらアルファベットの C キーを押すことを意味しています。コントロールキーは、大抵アルファベットの A キーの左か、左シフトキーの下かどちらかにあります。キーには大抵「Control」「CTRL」などと書いてあります。

⁴ ログインと読んでください。

⁵ ログアウトと読んでください。

2.5 ウィンドウ環境

最近のコンピュータでは当たり前になってきた、ウィンドウ環境の操作方法について説明しておきます。ウィンドウ環境と曖昧に呼んでいますが、厳密な呼び名はありません。最近のコンピュータはユーザの操作がやりやすい様に、画面に絵柄を表示します。つまりそれぞれの絵柄に意味を持たせ、絵で表示されるものを操作させることでコンピュータにユーザの希望を伝えようと言うわけです。勿論コンピュータがユーザに伝えたい希望（もしくは情報）も絵で表示できるわけで、要はコンピュータとユーザの対話に絵柄を利用しよう、という訳です。このアイディアはアメリカから輸入されたものですから、一般にはグラフィカルユーザインタフェイスなどと英語で呼ばれています。

コンピュータの種類に応じて様々なウィンドウ環境が使われています。UNIX では X Window と呼ばれるシステムをベースにしたウィンドウ環境がほとんどです。パソコンでは Microsoft Windows や Macintosh のいずれかでしょう。

これらのウィンドウ環境でキーボードに代わってコンピュータの操作に活躍するのが次に説明する「マウス」です。

2.5.1 マウス

「マウス」とはキーボードの横に置いてある以下のようなものです。



図 2.4 マウス外観

幾つかのボタンが上の方（奥の方）に付いており、その向こうに細い電線が付いています。ボタンの数はコンピュータの種類によってまちまちです。手前側を頭に見立てると、向こうのおしり側に尻尾が付いている形からネズミのつもりでマウスと呼んでいます。利き手で握って机もしくは専用の台の上を前後左右に滑らせて使います。

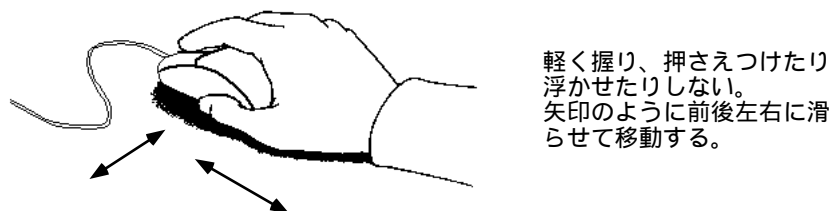




図 2.5 マウスの握り方と移動

初めはちょっと使いにくいと感じるでしょう。これは練習して慣れるしかありません。滑らせて動かすことに注意して下さい。強く握って押さえつけたり、前後左右に動かす時に浮かせたりしないように注意して下さい。マウスはキーボードでは指示できない、画面に表示されている「もの」に対して指示を与え

るために利用します。画面を良く見ると、マウスの前後左右の動きに連動して画面上を上下左右に動く小さな矢印  (もしくは小さな X 印) が見つかるでしょう。これを指示したい対象 (絵柄) の上まで運んでいって、マウスボタンの操作によって動作をその対象に対して起こさせるのです。

- 小さな矢印  を「指し示すもの」という意味でポインタ、マウスポインタと呼びます。マウスポインタは状況に応じて形が変わります。例えば X などになることもありますが、これも同じくマウスポインタと表現します。
- マウスにはボタンが幾つか付いています。それぞれ左ボタン、中ボタン、右ボタンなどと呼んでいます。
- マウスのボタンを押しっぱなしにすることを「プレス」と呼んでいます。
- マウスのボタンを押してすぐ離すことを「クリック」と呼んでいます。
- マウスのボタンを二度続けて短い時間間隔でクリックする (要するに続けて二回クリックすること) を「ダブルクリック」と呼んでいます。一度目のクリックと二度目のクリックの間にマウスが移動しないように注意して下さい。ボタンを強く押さえている人は力が余ってマウスも一緒に押してしまうようです。
- マウスのボタンをプレスして、そのまま移動することを「ドラッグ」と呼んでいます。目標の場所までマウスポインタが移動したら、ボタンを離します。
- 上記のクリック、ドラッグなどの操作の説明で、特にボタンを指定せずに「クリックする」と表現してある場合は左ボタンで操作を行なうことを意味しています。ボタンが一つしかないマウスでは当然「その」ボタンです。
- マウスを動かして、例えばもっと右端までポインタを移動したいのにマウスを更に右に動かすスペースがなくなってしまう時があるかも知れません。この場合は一旦マウスを持ち上げて少し左にマウスを運び、それからまたマウスを右に滑らせます。
- ポインタを選びたいものの絵柄の上まで持って行って、どのボタンでクリックすると (もしくはダブルクリックすると) どのような反応をするかは状況に応じてまちまちです。一応標準的な規約はあって、このような絵柄のものに対してクリックするとどう反応すると言う事が決まっています。それが、そう完全でもありません。これについては慣れて行くしかないでしょう。

2.5.2 ウィンドウ環境の画面

では、Ultra1 の login 直後の標準的な画面表示を例に、ウィンドウ環境のものの呼び方を説明します。

ウィンドウ

なにはともあれウィンドウ (窓) です。ウィンドウ環境では一般的に以下のような四角い枠の中にさまざまな情報が表示されます。

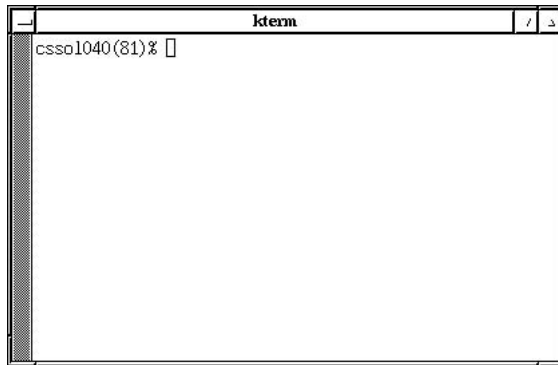


図 2.6 ウィンドウの例

このような枠（窓？）のことを「ウィンドウ」と呼んでいます。ウィンドウはコンピュータの画面の中に一つだけとは限りません。大抵幾つも表示させて使うことになるでしょう。つまり一つの画面の中に複数の小さな画面が幾つも作れる、と言う訳です。

ウィンドウの移動

ウィンドウは画面上のどこにでも配置することが出来ます。ウィンドウの枠の上の部分を見ると、そこにはタイトルが表示されている部分があると思います。



図 2.7 ウィンドウのタイトル部分

このタイトル文字の真上にマウスポインタを移動して、そのままマウスの左ボタンを押してドラッグ（ボタンを押しっぱなしにしたまま移動）します。するとポインタの移動と共にウィンドウ、もしくはウィンドウの外枠が移動するのが判るでしょう。目的の地点までドラッグしたら、マウスのボタンを離します。

ウィンドウの上下関係を変える

ウィンドウを同時に二つ三つ出す程度ならせいぜい重ならない場所に移動するだけでいいのですが、画面の大きさには限りがあって、大抵ウィンドウは重なりあってしまいます。下の図のような状態です。

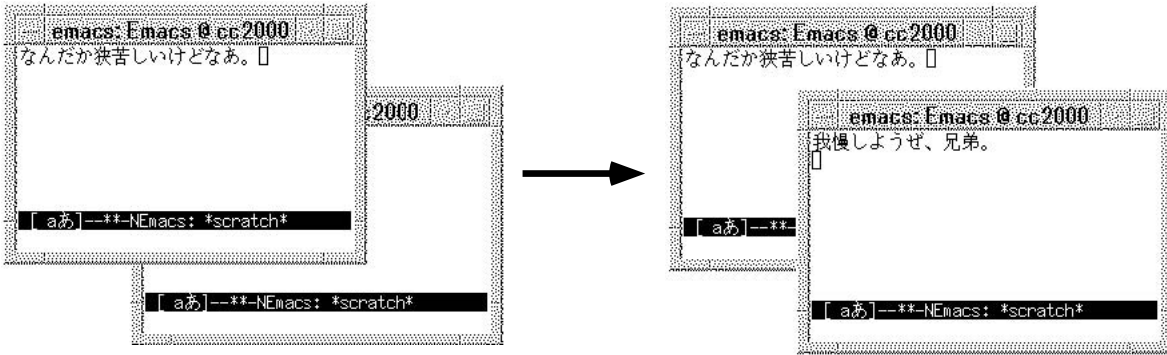


図 2.8 ウィンドウの上下関係を変える

ウィンドウの上下関係を変えたい場合は、自分が上に持ってきていたいと思うウィンドウのどこかの部分をマウスの左ボタンでクリックします。簡単ですね。この図では初め左上のウィンドウが右下のウィンドウを下敷にしていたのですが、右下のウィンドウの見える部分をクリックすることによってその上下関係が逆転したところを示しています。

ウィンドウを選ぶ

現在のウィンドウ環境ではコンピュータに対する指示は、画面上のたった一つのもの（例えばウィンドウ）にしか同時には行なえません。つまりどのような操作にしても、その指示対象はたった一つのものに向けられているのです。そのため、常にウィンドウ環境ではたったひとつのウィンドウが指示対象として「選ばれて」います。この選ばれたウィンドウのことを「アクティブウィンドウ」と呼んでいます。「そのウィンドウを指示対象として選ぶ」ということを「そのウィンドウをアクティブにする」などともいいます。

目標のウィンドウをアクティブにするのは簡単で、単にそのウィンドウを一度マウスの左ボタンでクリックするだけです。アクティブなウィンドウは常に画面上でもっとも上に来ています。先のウィンドウの上下関係を変える例では、アクティブなウィンドウも右側のものに切り替わっているというわけです。

2.5.3 メニュー

ウィンドウ環境で指示を与える方法として、「メニュー」によるものがあります。つまり一覧から自分の望みのものを選ぶというやり方です。勿論一覧の中に自分の望みの指示が含まれていなければいけません。メニューの形はいろいろあって、そのすべてについて網羅的に紹介することは出来ません。ただ、すべてに共通のやり方としては、項目ないしは絵柄、場合によっては画面の背景などをマウスでクリックすればそこから一覧が湧いて出て、その中から自分の望みの指示をマウスでクリックすることによって選択します。ウィンドウシステムによっては項目ないしは絵柄をプレスすればそこから一覧が湧いて出て、その中から自分の望みの指示の項目までドラッグすることによって選択する場合もあります。

ここでは例として Ultra1 に見られるメニューを挙げます。

Root Menu
KTerm
Mule
Netscape
Applications ▾
MO Disk ▾
Floppy Disk ▾
Restart fvwm
Exit

図 2.9 メニューの例：Ultra1 のルートメニュー

このメニューにはたくさんの項目が用意されています。ここで例えば「セッション終了」の行までマウスポインタを移動させてからマウスボタンを離すと、それはつまり「ルートメニューからセッション終了を選択し、実行する」ということを意味しています。

2.5.4 ボタン

ウィンドウ環境で指示を与える方法として「ボタン」⁶によるものがあります。つまりあるボタンを押すことによって、そこに割り当てられた動作を指示するという訳です。ボタンの形や配置はいろいろあって、そのすべてについて網羅的に紹介することは出来ません。

ここでは例として xv のデータ保存時に見られるボタンを挙げます。



図 2.10 ボタンの例：xv のメッセージの確認

このウィンドウには「OK」と「Cancel」の二つのボタンがあります。ここで利用者はそのどちらを実行するかをマウスの左ボタンでクリックすることによってコンピュータに指示するというわけです。

ちなみにこのウィンドウのように、ユーザに強制的に指示を要求する小さなウィンドウのことを「ダイアログ」と呼ぶ場合もあります。

2.5.5 ウィンドウ環境のトラブル傾向と対策

ここでは良く起きるトラブルの傾向とその対策を示します。但しこれですべてのトラブルが解決する訳ではありませんし、本当にコンピュータが故障したのかも知れません。ですから対処は慎重に、ゆっくり確かめながら行なって下さい。

⁶ マウスのボタンじゃなく、画面のボタンです！

とにかくトラブルなんですけど！

これ以降をじっくり読んで、自分が該当しているトラブルがあるかどうか調べて下さい。どうにも当てはまらない場合はまず良く知っていそうな人に聞くのがいいでしょう。それでも解決しない場合は計算機センターの相談窓口まで連絡してください。気が短い人やパーソナルコンピュータを使い慣れている人の中には突然コンピュータの電源を切ったりする人もいますが、決してそれだけはしないで下さい。特に UNIX コンピュータは非常に壊れやすく、突然電源を切ったりすると次に電源を入れても二度と立ち上がらなくなるが多々あります。

キーボードをタイプしても、目的の場所に文字が入力されない

目的のウィンドウがアクティブになっていないのではないのでしょうか。目的のウィンドウを一度左ボタンでクリックして下さい。

それでも直らない場合は C-q (コントロールキーを押しながら「Q」キーを押す) してみてください。

キーボードをタイプしたらカタカナもしくは変な文字が入力される

キーボード上の「かな」キーを押してしまったのではありませんか？もう一度「かな」キーを押すか「英数」キーを押すなどして解除して下さい。

目的のウィンドウが他のウィンドウの下敷になって見えなくなってしまった

仕方がありません。上にあるウィンドウを移動させて下敷になっているウィンドウが見えるように場所を変えます。ひょっとするとウィンドウの背景(どのウィンドウの上でもないところ)にマウスポインタを持って行って左ボタンをプレスすれば「次のウィンドウ」「前のウィンドウ」などというメニューが現れるかも知れません。それらを使って奥にあるウィンドウを前に出してくることも出来ます。

2.6 どこから login?

UNIX コンピュータを利用するには以下の二つの形態があります。

- UNIX コンピュータの前に直接座ってそれを利用する。
- UNIX コンピュータを、離れた所にあるパソコンから遠隔操作で利用する。

UNIX コンピュータを遠隔操作で利用するということは、UNIX コンピュータとは離れた所にある別のコンピュータから UNIX コンピュータに login するという事を意味しています。

当然のことですが、UNIX コンピュータを利用するには直接その前に座って利用の方が操作は簡単です。しかし UNIX コンピュータは台数に限りがある上、設置場所が限られていますから、学内のどこに居ても使えると言うわけではありません。それに対してパソコンであれば多くの建物に共同利用のものが置いてあります。様々な事情⁷ から UNIX コンピュータの前に直接座るのではなく、これらのパソコンの前に座って作業したい場合があるでしょう。そのような時でも遠隔操作によってパソコン経由で UNIX コンピュータを利用することが出来るのです。

但しこの場合は UNIX コンピュータそのものの使い方に加えて、そのパソコンの使い方もある程度は理解する必要がありますから少し操作は難しくなるかも知れません。初心者は可能であれば UNIX コンピュータの前に直接座って操作することをお勧めします。

具体的に cc 環境の UNIX コンピュータを利用するには、以下のような方法となるでしょう。自分の事情に合わせてどの部屋から利用するかを決めて下さい。それによって UNIX コンピュータの前に直接座るか、パソコンの前から遠隔操作するかが決まります。

種別	場所	部屋名	設置されているコンピュータ
直接操作	2号館 4階	21 情報処理教室	Ultra1/170E
遠隔操作	1号館 2階	11 情報処理教室	PowerMacintosh 6100/66
	3号館 2階	31 情報処理教室	PowerMacintosh 6100
	3号館 1階 (平成9年6月~)	32 情報処理教室	PowerMacintosh 8500
	5号館 1階	51 情報処理教室	DigitalPC200i
	5号館 2階	52 情報処理教室	Compaq Contura
	計算機科学研究所棟 2階	C1 情報処理教室	FMV-466D
	図書館 1階	パソコンコーナー	DECpc466MTE
	図書館 1階	パソコンコーナー	PowerMaintosh 6100
	図書館 1階	パソコンコーナー	PowerMaintosh 7200
	図書館 1階	パソコンコーナー	FMV DeskPowerSE5133

もしも直接 UNIX コンピュータを利用しようと考えた場合は、具体的には 21 情報処理教室の Ultra1 に向かう事になります。これ以降の説明は読み飛ばして、3 から読み続けて下さい。

もしも遠隔操作で UNIX コンピュータを利用しようと考えた場合は、具体的には各情報処理教室のパソコンに向かうこととなります。これ以降に書かれている節を順々に読み進んで下さい。

2.6.1 パソコンから UNIX を利用する為の予備知識

ここではパソコンから UNIX コンピュータを遠隔操作で利用するための最低限の予備知識を説明します。あまり厳密に解釈しなくて結構ですので、イメージだけを頭に描いて読んでください。

⁷ いつも授業で使っていて空きがない、部屋が遠い、階段を上がるのが嫌、など

遠隔操作

遠隔操作と言いましたが、それほど不便でも面倒でもありません。身近な遠隔操作の例としてビデオデッキを挙げておきましょう。ビデオテープを見る際に、ビデオデッキの再生ボタンを押す場合もあるでしょうが、リモコン⁸の再生ボタンを押すときもあるでしょう。ビデオデッキに当たるのがUNIXコンピュータ、リモコンに相当するのがパソコンだと思ってください。つまりUNIXコンピュータに直接向かう代わりにパソコンからリモコン操作でUNIXコンピュータを利用しようと言うことです。

ビデオデッキのリモコンは、デッキの方を向けて「ぴっ」とやってやるだけで良いのですが、コンピュータのリモコンは現在のところ電線でつないでやらないといけません。この役割りを果たす電線がすなわち京都産業大学のコンピュータ・ネットワーク⁹というわけです。ここでリモコンとして紹介するパソコンは全て予めネットワークにつながれていますから、UNIXコンピュータをパソコンから利用する場合にあなたがいちいち電線をつないだりする必要はありません。

用語について

UNIXコンピュータなどの為の遠隔操作機器はビデオデッキなどの場合と違って「リモコン」とは呼ばず、一般的には「端末」ないしは「ターミナル」と呼ばれます。端末を経由して利用しようとするコンピュータそのものはビデオデッキの場合と違って「本体」などとは呼ばず、一般的には「ホストコンピュータ」ないしは短く「ホスト」などと呼ばれます。UNIXコンピュータはほぼ例外なくホストコンピュータとなる為の機能を持っています。UNIXコンピュータ以外のコンピュータでもホストコンピュータとなる為の機能を持っているものは幾らもあります。

端末とホストコンピュータは常にネットワークで接続されていますが、ネットワーク上には複数のホストコンピュータが存在します。一般的にネットワークに接続された端末は、ホストコンピュータをどれにするか選ぶことができます。ちょうどリモコンを「ぴっ」とやる時に、向けた方向によって指示するビデオデッキを選べる¹⁰ような感じです。つまり端末を使い始める最初の時に、まずどのホストコンピュータを利用するか端末に指示してやるのです。この過程を「(端末をホストコンピュータに)接続する」と表現しています¹¹。但し、実際にはcc環境で遠隔利用する場合のホストコンピュータはcc2000マシンになると思います。それ以外のマシンをホストに選ぶことはしないで下さい。これ以降の説明でもホストにはcc2000を利用することを前提に行なっています。

例えばあなたがC1情報処理教室のFMVの前に座って遠隔操作でcc2000を利用している場合、「FMVを端末にcc2000をホストコンピュータとして利用している」などというように表現します。

パソコンによるUNIX端末：telnet環境とX環境

パソコンはUNIXコンピュータとは別の独立したコンピュータですが、UNIXコンピュータを遠隔操作する機能を追加することが出来ます。この「UNIXコンピュータのリモコンとなる為の機能を実現するもの」を端末ソフトないしはターミナル・エミュレータ・ソフトと呼んでいます。

端末ソフトが提供するUNIX環境は大別して二種類あります。文字情報だけを扱うtelnet¹²環境と、Xウィンドウによる文字情報とグラフィクス情報の両方を扱うX¹³環境です。様々な要因がある為、telnet

⁸ Remote Controller、リモート・コントローラの略。即ち遠隔操作機器のことですね。

⁹ このネットワークにはKING2(「きんぐつー」と読んでください)という名前が付けられています。

¹⁰ 現実には余程広い部屋の四方の隅にビデオデッキを置かないとうまく行かないでしょうけど。

¹¹ これはネットワークなどと言うものが現れる以前には端末にホストを選ばせる事が出来ず、そうしたい場合は端末から出ている電線を実際に別のホストコンピュータにつなぎ変えていた歴史的経緯から来た表現だと思えます。

¹² 「てるねっと」と読んでください。

¹³ 単に「えっくす」と読んでください。

環境と X 環境のどちらがあなたにとって使いやすいかは一概には言えません。いろいろ試してみるのが良いでしょう。

2.6 で遠隔操作として紹介した情報処理教室の全てのパソコンに telnet 端末ソフトが用意されています。また、計算機科学研究所 2 階 C1 情報処理教室の FMV-466D には X 端末ソフトが用意されています。

2.7 コンピュータウイルス

大変残念なことです。コンピュータを利用する上でコンピュータウイルスが非常な脅威となっています。パーソナルコンピュータを利用する上でもこれを避けて通ることは出来ません。特に計算機センターが管理しているパーソナルコンピュータにはマックと IBM PC 互換機が含まれており、これらは他の国産のパーソナルコンピュータに比べてウイルスの多さなどの理由からウイルス感染の危険性が非常に高いことを意識しておく必要があります。

パーソナルコンピュータに感染したウイルスが引き起こす害悪は様々です。例えば利用者の書類を瞬で消したり、書類の中の数字をほんの一桁だけ加算したりします。それは長時間の努力の積み重ねの仕事を消し去ったり、間違った結果をもたらします。ウイルスに感染することは被害者にとって悲しく腹立たしいことです。しかし、もっと残念なのは、自分が感染していることを知らずに人にもウイルスを移してしまうことです。

情報処理教室のパーソナルコンピュータはいつもウイルスの脅威にさらされています。いつ感染するか分からないし、いつあなたが被害を被るか分からないからです。このような理由から、ウイルスの被害を最小限にするため各情報処理教室への「外部ソフトウェア」の持ち込みは原則として認めておりません。

ここで言う「外部ソフトウェア」とは情報処理教室のパーソナルコンピュータに正式に認められていないソフトウェアを指しています。アプリケーション、システムソフトウェア等がこれに該当します。これらのソフトウェアの持ち込みがウイルス感染の原因となっているからです。

ウイルスからあなたの書類を守るために以下のことに気を配ってください。情報処理教室のパーソナルコンピュータにはウイルス除去用のソフトウェア (scan, Disinfectant 等) が入れてあります。

時々で良いのですが、そのウイルス除去ソフトウェアであなたがこれから使おうとするパーソナルコンピュータと、あなたのフロッピーを調べてください。このソフトウェアの動かし方が分からなければ、誰か知って良そうな人に尋ねるか、計算機センター相談窓口聞いてください。

もし人からフロッピーを預かって仕事をしなければならぬときは、そのフロッピーがコンピュータ・ウイルスに感染していないことを確かめてから仕事をする習慣を付けてください。

もし自分のフロッピーがコンピュータウイルスに感染していることが分かったら、面倒ですが計算機センターの相談窓口ご連絡してください。あなたのフロッピーからウイルスを除去するのは簡単ですが、むしろウイルスの感染経路を特定し、他にも感染している人がいないか調べる必要があるからです。

第3章 UNIXへの道

ここでは様々な場所の様々なコンピュータから cc 環境の UNIX マシンを利用する方法について、その部屋ごと、そのコンピュータごとに説明します。これまでの説明の部分であなたはもう既にどの部屋のコンピュータから login するか決めているはずです¹。

既に説明したように cc 環境の UNIX コンピュータを利用する場合、21 情報処理教室以外の部屋からはパソコンを利用して telnet もしくは X によって遠隔操作で cc2000 マシンを利用することになります²。

3.1 これ以降の読み方

これ以降は部屋ごと、コンピュータごとに説明を行いません。説明は節を分けて並列になっていますが順に読む必要はなく、あなたが利用しようと思っている部屋の部分についてだけ読めば良いでしょう。

- 21 情報処理教室の Ultra1 を使う (22 ページより)
- 11, 31, 32 情報処理教室及び図書館パソコンコーナーの Macintosh から telnet で cc2000 を使う (30 ページより)
- 51 情報処理教室の DigitalPC200i から telnet で cc2000 を使う (35 ページより)
- 52 情報処理教室の Contura から telnet で cc2000 を使う (45 ページより)
- C1 情報処理教室の FMV から X で cc2000 を使う (54 ページより)
- C1 情報処理教室の FMV から telnet で cc2000 を使う (64 ページより)
- 図書館パソコンコーナーの DECpc から telnet で cc2000 を使う (74 ページより)

繰り返しますが初心者は UNIX コンピュータを直接操作する方が簡単ですので、最初は 21 情報処理教室の Ultra1 を利用されることをお勧めします。

C1 情報処理教室の FMV に関しては telnet と X と両方の方法による login が可能ですので、FMV に限ってはその両方とも説明しています。どちらを使えば良いのか判らない人は X 環境を選択してください。

全ては例示を伴っていますので、この段階でとにかくその部屋に行って実際に作業しながら読み進んでいけばいいでしょう。各節ではその部屋に入ってコンピュータの電源を入れるところから login するまでと、そのコンピュータでの作業が終って logout して電源を切るまでの一連の操作を説明しています。実際に試してみて、一連の操作が出来るようになったら 4 に進んでください。

¹ まだ決まっていなければあなたは重要なところを読み飛ばしています。今すぐ 10 ページの 2.2 まで戻ってください。

² telnet, X, 遠隔操作という単語に聞き覚えがなければやはりあなたは重要なところを読み飛ばしています。今すぐ 10 ページの 2.2 まで戻ってください。

3.2 Ultra1 を使う

Ultra1 は 2 号館 4 階の 21 情報処理教室に設置してあります。Ultra1 それ自身を利用するばかりでなく、計算機センターが用意している SPARCcenter2000 や、DEC-3500 を利用する場合の窓口ともなるでしょう。

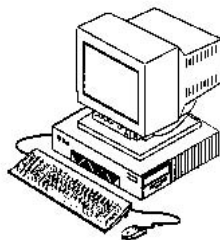


図 3.1 Ultra1 外観

3.2.1 まず部屋へ

Ultra1 は 2 号館 4 階の 21 情報処理教室に設置してあります。この部屋は常時カードロックシステムが働いており、学生証を入り口のドア横の機械に通すことによって鍵が開きます。入室可能な時間帯、曜日、期間に限りがありますので、付録の「情報処理教室の利用について」を一読してください。もしもカードを通して鍵が開かない場合は、カードの向き、表裏、カードを通過させる速度（遅すぎても速すぎても駄目）を変えてやってください。どうしても駄目な場合はカードの磁気情報がおかしくなっている可能性があります。カードを通す機械にあなたのカードでなぜ鍵が開かないか、その理由が出ていますので、それを控えて計算機センターまで連絡してください。

部屋に入るときは、そこで授業をやっていないことを確認しましょう。もし授業中であれば入室して利用していいかどうか指導教員に確認を取るのが礼儀と言うものです。部屋に誰も居なかった場合は照明、空調機が切れている場合があります。これらのスイッチは部屋に入ったそのすぐ右手の壁に集中して置いてありますので、自分で適当に操作してください。部屋の管理そのものは理学部事務室が行っていますので、何か部屋の状態について質問、要望があれば理学部事務室までお願いします。コンピュータについての質問、要望は計算機センターの相談窓口までお願いします。

3.2.2 電源を入れる

自分が利用するコンピュータを選びます。これが最初の利用であれば、電源の入っていないマシンを選ぶのがいいでしょう。というのは、もし電源が入っていたら、それは誰かが既に使っているものかも知れないからです。ディスプレイ（テレビのような画面）の下方にボタンが並んでいますがその右端の長いボタンがディスプレイの電源ボタンです。

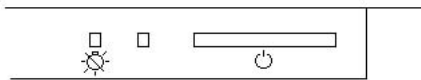



図 3.2 Ultra1 ディスプレイの電源

電源ボタンの左が使用中に点く緑のランプ、その左が本体の電源が切れたときの省電力モードを表すオレンジのランプです。緑、オレンジのどちらのランプも消えていたら電源ボタンを押してください。緑色のランプがどのくらい明るく点灯するか判らないので点灯しているのかいないのか区別が付かないと言う人は入り口に最も近いマシンのランプを見てください。このマシン (cssol000) は常時電源が入っていますので、比較になるでしょう。

ランプを確認せずに、画面が真っ暗だからと言ってそのマシンの電源が切れているかどうかは判りません。Ultra1 には、しばらく誰もキーボードを触らなかったら利用途中でも画面を真っ暗にしてしまう機能があるからです。念のためにマウスを動かしてみて、それでも画面に何の変化もないことを確認しましょう。電源が入っていないマシンが見つかったら、そのマシンのキーボードの右上にある電源キー () を押してください。

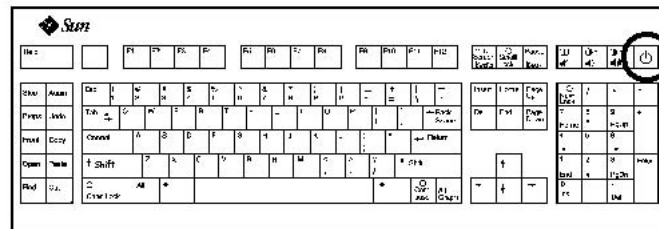


図 3.3 Ultra1 キーボード：電源スイッチ

電源が入ったらピーという音と共にファンが回る音がして、画面が白くなります。それから画面に色々な文字が流れていって、合計 2 分足らずで利用可能な状態になります。

3.2.3 login する

画面中央には以下のウィンドウが表示されていると思います。



図 3.4 login ウィンドウ

キーボードを使ってまずあなたのユーザ名をタイプします。ユーザ名をタイプし終り、リターンキーを一度押せば今度はパスワードを入力できる状態になります。ここでパスワードを入力するのですが、パスワードは横から見ている他の人にバレないように、タイプしてもその文字が画面に表示されません。キーを打ち間違えないように注意して入力し、もう一度リターンキーを押します。うまくユーザ名とパスワードを入力できれば画面表示が変わります。キーを打ち間違えたりして login に失敗するとウィンドウの下の部分に赤い文字で「Login incorrect」と表示されます。この場合はもう一度ユーザ名のタイプからやり直します。

もしこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login であればパスワードは Sign 登録時にあなたがメモしたものの筈です。もし何度試しても login 出来ないようであればユーザ名、パスワードのいずれかが間違っているか、まだあなたのユーザ登録作業が計算機センター側で完了していないのです。計算機センターに自分のユーザ名が既に登録されているかどうか確認してください。もしもユーザ名も正しく、また登録作業も完了しているなら、これはパスワードが違っているとしか考えられません。計算機センター相談窓口で連絡してパスワードを強制変更して貰ってください。

3.2.4 ちょっとメッセージ

login すると、ときには利用者宛の通知、おしらせが以下のように画面に表示されるかも知れません。

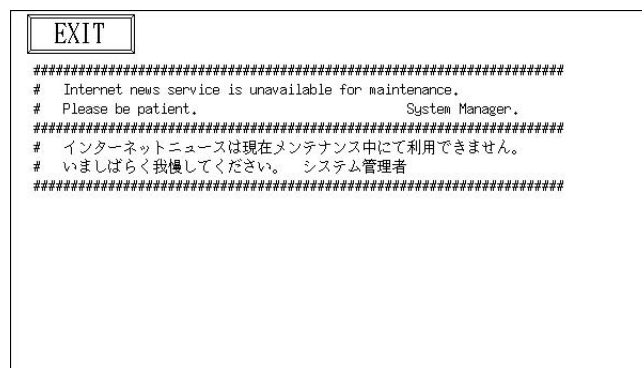


図 3.5 login 直後のメッセージ

よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。確認が済めば、リターンキーを一度押すだけでこの表示を消すことが出来ます。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談

窓口まで連絡するのがいいでしょう。

3.2.5 ターミナルはあるかな？

login に成功すると以下のような画面表示になっていると思います。

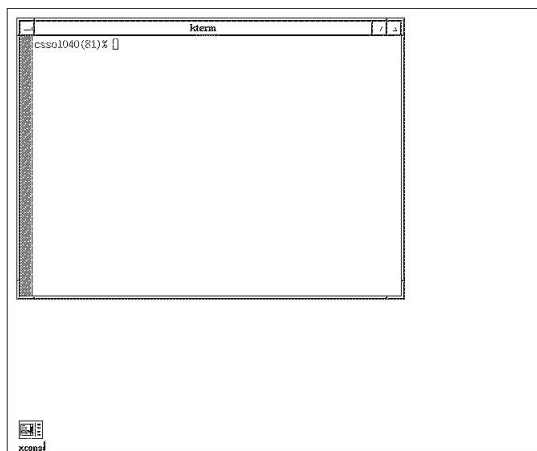


図 3.6 X の初期画面

画面の中に「kterm」というタイトルのついた以下のようなウィンドウがあるかどうかさがしてください。そのようなウィンドウが見つかれば、ひとつ飛ばして「ターミナルは大丈夫かな？」まで進んで下さい。もしも見つからなければこのまま次に進んで下さい。

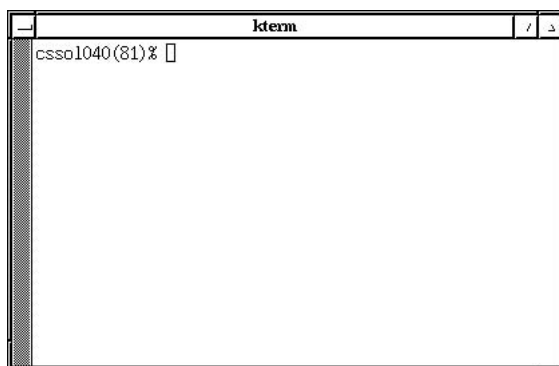


図 3.7 kterm

ターミナルを起動する

画面の背景、特にウィンドウの無い場所にマウスカursorを持って行って、マウスの左ボタンを押しっぱなしにします。すると以下のようなメニューが現れるでしょう。この一連の操作を「ルートメニューを表示させる」と呼びます。

Root Menu
KTerm
Mule
Netscape
Applications ▾
MO Disk ▾
Floppy Disk ▾
Restart fvwm
Exit

図 3.8 ルートメニュー

マウスのボタンを押したままにして、マウスカーソルを「KTerm」と書いてある行の上に持っていきます。「KTerm」の行の上まで来たらその場所でマウスボタンを離します。これで KTerm が起動されるはずですが。

この一連の操作を「メニューから「KTerm」を選択する」と呼びます。このメニューでは「KTerm」が選択されると KTerm が起動するようになっています。

ターミナルは大丈夫かな？

ターミナルのウィンドウの左隅には `cssol001(81)%` などと表示されていると思います。(但し数字は違うかもしれません。)ここで試しに `date` とタイプしてリターンキーを押してみてください。文字をタイプしても `cssol001(81)%` に続いて表示されない場合は、ターミナルウィンドウがアクティブになっていません。一度 `cssol001(81)%` 辺りをクリックしてターミナルウィンドウをアクティブウィンドウにした後、`date` とタイプし直してください。以下のように今日の日付と時間が表示されれば大丈夫、ターミナルを使える状態になっています。

```
cssol001(81)% date
1997年03月25日(火)19時28分49秒 JST
cssol001(82)%
```

3.2.6 パスワードを変える

もしもこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、余り安全とは言えません。必ずパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更してください。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で既に述べた事に注意してください。また、この教室の機械はパスワード付け替えの際に安全なパスワードかどうか、簡単なチェックをする機能がついています。そのため、他の教室からつけられたパスワードでもここではつけることができないかもしれません。

パスワードを変更するには `yppasswd` コマンド³ を利用します。上の節で説明したターミナルを見ると、

```
cssol001(81)%
```

³ 綴りがちょっと変ですが、間違っていないです。

などとなっていますね。(但し数字は 001 と 81 ではないかもしれません。)ここで yppasswd とタイプし、リターンキーを押します。すると以下のような状態に成りますね。(以下はユーザ名 yasuda の例。yasuda の部分にはあなたのユーザ名が表示されているはずです。)

```
csso1001(81)% yppasswd
yppasswd: Changing password for ozaki
Enter login(NIS) password:
```

指示通りここでは古い、つまり今先ほどまで使っていたパスワードをタイプし、リターンキーを押します。ここでは login の時と同じくパスワードをタイプしている間、横の人の覗き見によってあなたのパスワードがバレないように、タイプした文字は画面に表示されない事に注意してください。表示されなくともタイプした文字はちゃんと入力されていますから、安心して確実に一文字ずつタイプして最後にリターンキーをタイプしてください。すると今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
New password:
```

では指示通り新しい、つまり次からこれにしようと言うパスワードをタイプし、リターンキーを押してください。ここでもタイプした文字は表示されません。今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
Re-enter new password:
```

これはいましがたタイプした新しいパスワードが打ち間違いで無いことを確認するためのものです。もう一度新しいパスワードをタイプしてリターンキーを押してください。今度は以下のような状態になります。

```
NIS(YP) passwd/attributes changed on ccnic
csso1001(82)%
```

この NIS (YP) passwd/attributes changed が表示されれば成功です。もしもパスワードが短すぎたりタイプミスがあったりしたらなんらかのエラーメッセージが表示されます。途中でおかしくなったと思う場合は C-c (つまりコントロールキーを押しながらCキーを押す)で csso1001(82)% を表示させます。それからもう一度 yppasswd コマンドをやり直します。

よく表示されるエラーメッセージを紹介しておきます。

```
Password must contain at least two alphabetic characters and
at least one numeric or special character.
```

パスワードには少なくとも2つのアルファベットと少なくとも1つの数字か記号を含まなければいけません。この条件を満たしていないのでパスワード変更は受け付けられませんでした。

```
Password is too short - must be at least 6 characters.
```

パスワードは6文字から8文字にしてください。(9文字以上入力することもできませんが認証に使われるのは8文字目までです。)

```
Passwords must differ by at least 3 positions
```

古いパスワードと変化の少ないものを付けることはできません。

Too many failures - try later.

失敗しすぎです。もう一度最初からどうぞ。

パーミッションが与えられていません。

何かを失敗したためにユーザ本人と認められませんでした。そのためパーミッション（権限）がないと判断されました。

3.2.7 logout する（セッションを終了する）

他にやりたいことも色々あるでしょうが今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみるという意味で、logout をこの場でやってみることを勧めます。

画面の背景、特にウィンドウの無い場所にマウスカーソルを持って行って、マウスの左ボタンを押しっぱなしにします。すると以下のようなメニューが現れるでしょう。この一連の操作を「ルートメニューを表示させる」と呼びます。

Root Menu
KTerm
Mule
Netscape
Applications ▾
MO Disk ▾
Floppy Disk ▾
Restart fvwm
Exit

図 3.9 ルートメニュー

マウスのボタンを押したままにして、マウスカーソルを恐らくは一番下にある「Exit」と書いてある行の上に持っていきます。「Exit」の行の上まで来たらその場所でマウスボタンを離します。この一連の操作を「メニューから「Exit」を選択する」と呼びます。このメニューでは「Exit」が選択されると logout（セッションの終了）作業が行なわれるようになっています。Exit すると元の login 画面に戻ります。

これが Ultra1 での logout 操作です。実際には logout という名前のコマンドも操作も実行しないことに注意してください。Ultra1 ではつまり logout とはセッションの終了だということです。セッション終了の操作を行なって数十秒すると、最初に電源を入れて login 操作をする直前の状態に戻って図 3.4 が表示されます。もしもその状態にならない、つまり正しくセッションが終了できなければ、計算機センター相談窓口まで連絡ください。そのまま放置するのはいけません。また電源を無理に切るのは機械が壊れるので厳禁です。

3.2.8 シャットダウンする

セッションが終了できれば、最初に電源を入れて login する直前の状態に戻ります。

注意

本体とキーボードの間に「このマシンの本体電源は切らないでください」というようなカードが置いてあった場合は、この節と次の節は読み飛ばして 3.2.9 まで進んでください。恐らくそのマシンは誰かほかの人が夜間利用するつもりなのです。

今度は図 3.4 の左下隅のボタンに注目してください。

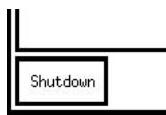


図 3.10 Shutdown ボタン

ここで今度はこのボタンをクリックしてください。すると数十秒で画面が白くなって、電源が自動的に切れます。この操作をシャットダウンと呼んでいます。

電源が自動的に切れない場合は何かトラブルがあったと思われます。決して電源スイッチを切らないでください。また、おかしなまま放置するのもいけません。計算機センター相談窓口まで連絡ください。また、部屋の入り口に最も近い場所にある cssol000 と、cssol000 正面に向かって右隣にある cssol001 の二台については電源は常時入りっぱなしです。このマシンはシャットダウンできないようになっています。この 2 台は電源を切らないでください。

3.2.9 部屋を出る

マシンの電源を切って部屋を出るとき、他に使用者がいなければ空調機、照明も切って行きましょう。

3.2.10 さて、さて、

最初の利用はこれでおしまいです。大変よくできました。あとは精進して UNIX ユーザへの道を歩まれるわけですね。それには UNIX での一般的なコマンド操作などについて説明している、4 へと進んでください。

3.2.11 マニュアルなど

Ultra1 のマニュアルは部屋の入り口から最も離れた奥のロッカーに数冊置いてあります。但し一部ずつしかないのので皆で同時に見ることは出来ません。うまく共有してください。

次は、84 ページの 4 へ進んでください。

3.3 Macintosh の telnet で cc2000 を使う

ここでは1号館2階の11情報処理教室、3号館2階の31情報処理教室、3号館1階の32情報処理教室(平成9年6月オープン)及び図書館1階のパソコンコーナーのMacintoshからtelnet環境でcc2000をホストコンピュータとして利用する手続きについて説明します。

Macintosh(以下「マック」という。)はApple Computer社製のパソコンで、学内には、1号館2階の11情報処理教室にPowerMacintosh 6100/66という機種が90台、3号館2階の31情報処理教室にPowerMacintosh 6100/60AVという機種が44台、3号館1階の32情報処理教室にPowerMacintosh 8500/180という機種が96台、図書館1階のパソコンコーナーにPowerMacintosh 6100/66という機種が12台とPowerMacintosh7200/120が12台計254台設置してあります。

これらの部屋のマックでは端末ソフトとして「NCSATelnet」を利用します。このソフトはマックでtelnet環境を提供します。では、さっそく使ってみましょう、といたいところなのですが、

3.3.1 でも、そのまえに

本項は、読者がすでに教室設置の「情報処理教室ガイド」を熟読し、自分がいま利用しようとしている教室のルール、マナー、さらに利用するコンピュータについて基礎的な知識を習得していることを前提に書かれています。

くれぐれも、「情報処理教室ガイド」記載事項の理解なしには、これ以降の作業を決して行わないください。また、これら一連の作業は、本学cc2000(UNIXコンピュータ)にログインすることを意味します。よってあなたがまだcc環境のアカウントを有していない場合は作業できませんので注意してください。

さて以上の点をクリアできているならば、マック(MacintoshユーザーはMacintoshのことを、親しみを込めてこう呼びます)を起動して、さあ、スタートです。

3.3.2 端末ソフトの起動

まず端末ソフトを起動しましょう。マックのマウスを使ってアップルメニューからNCSATelnet(cc2000)を選びます。うまく起動できると、telnetウインドウが一つ開いて、

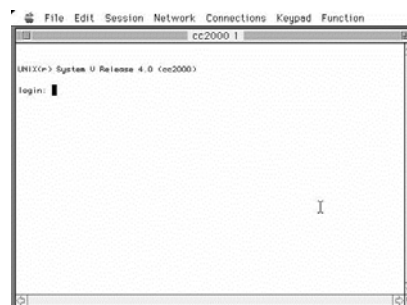


図 3.11 NCSATelnet の login 画面

そこには login: と催促文字が表示されている筈です。

3.3.3 さあ、login しよう

いよいよ login です。ここからはもうあなたのキーボードに対する入力はホストコンピュータに対する遠隔操作となっています。

ユーザ名とパスワードを入力しましょう。

正しくユーザ名をタイプし<Return>キーを押すと、パスワードを聞いて来ます。これも正しくタイプし<Return>キーを押すと login できます。入力するパスワードは横から見ている人にばれないように、タイプしても画面に表示されないの注意して正しく入れてください。

もしパスワードの入力途中で間違ったときは、それまで入力した文字数より少し多めに<Delete>キーを押してもう一度最初からパスワードを正しく入れてみましょう。

ちゃんと login 出来ましたか？

いくらユーザ名とパスワードを入れても login 出来ない方は、ユーザ名とパスワードを間違えて入っていませんか。UNIX は大文字と小文字の区別があるので注意してください。

どうしてもうまくいかない場合は 11,31,32 情報処理教室では計算機センター相談窓口まで、パソコンコーナーでは図書館の補助員まで連絡してください。

3.3.4 ちょっとメッセージ

login すると、ときには利用者宛の通知、おしらせが以下のように画面に表示されるかも知れません。

```
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3 Generic September 1993
4月15日深夜、ファイルサーバである ccnfs (cc2000) の
リポートが予定されています。
これにともない cc 環境の全てのマシンの利用が出来なくな
ります。夜間に長時間のジョブを実行する予定のある利用者
はそれまでに実行が終るよう注意して下さい。
cc2000(84)% □
```

図 3.12 login 直後のメッセージ

よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談窓口まで連絡するのがいいでしょう。

3.3.5 パスワードを変える

もしもこれがあなたに取って Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、あまり安全とは言えません。必ずパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更して下さい。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で既に述べた事に注意してください。

パスワードを変更するには yppasswd コマンド⁴ を利用します。上の節で説明したターミナルを見ると、

```
cc2000(81)%
```

⁴ 綴りがちょっと変ですが、間違っていないです。

などとなっていますね。(但し数字は 81 ではないかもしれませんが。)ここで `yppasswd` とタイプし、リターンキーを押します。すると以下のような状態に成りますね。(以下はユーザ名 `yasuda` の例。`yasuda` の部分にはあなたのユーザ名が表示されているはずです。)

```
cc2000(81)% yppasswd
Changing NIS password for yasuda
Old NIS password:
```

指示通りここでは古い、つまり今先ほどまで使っていたパスワードをタイプし、リターンキーを押します。ここでは `login` の時と同じくパスワードをタイプしている間、横の人の覗き見によってあなたのパスワードがバレないように、タイプした文字は画面に表示されない事に注意してください。表示されなくともタイプした文字はちゃんと入力されていますから、安心して確実に一文字ずつタイプして最後にリターンキーをタイプして下さい。すると今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
New password:
```

では指示通り新しい、つまり次からこれにしようと言うパスワードをタイプし、リターンキーを押してください。ここでもタイプした文字は表示されません。今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
Retype new password:
```

これはいましがたタイプした新しいパスワードが打ち間違いで無いことを確認するためのものです。もう一度新しいパスワードをタイプしてリターンキーを押してください。今度は以下のような状態になります。

```
NIS passwd changed on ccnic
cc2000(82)%
```

この `NIS passwd changed` が表示されれば成功です。もしもパスワードが短すぎたりタイプミスがあったりしたらなんらかのエラーメッセージが表示されます。途中でおかしくなったと思う場合は `C-c` (つまりコントロールキーを押しながら `C` キーを押す) で `cc2000(82)%` を表示させます。それからもう一度 `yppasswd` コマンドをやり直します。

3.3.6 logout をしよう

次は、`logout` です。他にやりたいことも色々あるでしょうが今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみると言う意味で、`logout` をこの場でやってみることを勧めます。

画面上に `cc2000(81)%` が表示されていることを確認してください。ただし、括弧の中の数字は気にしないでね!!

ここで、`logout<Return>` と入力するだけで `telnet` ウィンドウが消え `logout` されます。

```
cc2000(81)% logout
```

3.3.7 端末ソフトを終了する

`logout` するといきなり `telnet` ウィンドウが消えます。少し驚くかも知れませんが、それでいいのです。すでにホストコンピュータとの遠隔操作を終わっているのです。

さて、端末ソフトを終了するにはマウスで「File」メニューの「Quit」を選択します。これで `NCSATelnet` は終了します。

さあ、どうでしたか？スムーズにここまで来れたでしょうか。すこしややこしかったかもしれませんが、決して難しくはなかったと思います。はじめは誰もが初心者です。くじけないで頑張れば、すぐに鼻歌まじりで使えるようになります。

3.3.8 困った時の対処

文字をタイプしても表示されない

目的の telnet ウィンドウがアクティブになっていないことが考えられます。アクティブになっているかいないかはウィンドウのタイトルバーに横線が現れているかいないかで知ることが出来ます。

入力したいウィンドウの一部をマウスボタンでクリックするとそのウィンドウがアクティブになります。

文字をタイプすると日本語が出てしまう

キー入力が日本語モードになっていることが考えられます。

日本語入力モードをやめて英語入力モードにするには command キーを押しながら Space バー (空白キー) を押します。メニューバーの右から二つ目の小さなアイコンが「米国旗」になれば英語入力モードになっています。

telnet 画面が表示されない

最初にアップルメニューから NCSATelnet(cc2000) を選択した時に telnet 画面が現れないなんてことは、あなたの操作が正しく、かつ cc2000 が稼働しておれば考えられないことです。

このような場合は近くで使っている人が cc2000 をうまく利用できているかどうか調べましょう。と言うのもホストコンピュータである cc2000 そのものが何らかの事情で止まっているとか、ネットワークが不通になっていることが考えられるからです。もし近くの人でも cc2000 との接続がうまく行っていないようなら、計算機センター相談窓口にご電話をしてください。

日本語が壊れたようになって正しく表示されない

これもアップルメニューから NCSATelnet(cc2000) を選択して使っているときは起こらない現象です。一旦 logout して、アップルメニューから NCSATelnet(cc2000) を選択する操作からやり直してください。

3.3.9 cc2000 以外のホストコンピュータを使う時の注意

NCSATelnet を使って cc2000 以外のホストコンピュータに login する事も出来ます。ASLTelnet アイコンを直接ダブルクリックして NCSATelnet を起動するか、何とかして NCSATelnet が起動されている状態で、File メニューの Open Connection... を選択する事によってホストコンピュータを指定する為のウィンドウが表示されます。ここでホスト名をタイプして<Return>キーを押せば指定したホストコンピュータへの login が可能になるでしょう。

ところでアップルメニューの NCSATelnet(cc2000) を選択して使っている時は計算機センターが用意した各種の設定が効いているので正しく動作していますが、Open Connection... でホストコンピュータを指定した場合はそれらの設定が及んでいませんので幾らかの動作でおかしくなる可能性があります。以下に典型的な症状と原因、対処法を示しておきます。

telnet ウィンドウが表示されない

Open Connection... ウィンドウでタイプしたホストコンピュータの名前を (例えば cc2000 ならば cc200 など) 間違っている可能性があります。File メニューの Open Connection... を選択する操作からやり直してください。

ホスト名を間違えていない場合には、目的のコンピュータが何らかの事情で止まっているとか、ネットワークが不通になっている可能性があります。目的のコンピュータの管理者などに確認してみてください。

漢字の部分が正しく表示されない

NCSATelnet がホストコンピュータに送る日本語コードとホストコンピュータから送られてくる漢字コードがうまく合っていないときにこのような状況になります。(この表現の意味が判らない場合は cc2000 以外のホストコンピュータを利用しない方がいいでしょう。)

「Session」メニューに「Translation」または「Code」という項目があります。自分が使おうと思っているホストコンピュータの漢字コードが何かを確認して、これを正しい値 (例えば cc2000 ならそれぞれ「EUC」または「EUC & JIS7」) にしてください。

これで日本語が正しく表示されます。

3.3.10 マニュアルなど

マニュアルは情報処理教室やパソコンコーナーのロッカーか書架に置いてあります。使っているマックのそばに持ってきて利用して構いませんが、終わればみんなのために元に戻しておいてください。

次は、84 ページの 4 へ進んでください。

3.4 Digital PC200i から telnet で cc2000 を使う

Digital PC200i は 5 号館 1 階の 51 情報処理教室に設置してあります。このパソコンには、Microsoft 社の WindowsNT4.0 がインストールされており、まずユーザー認証が行なわれます。このユーザー認証は、UNIX のユーザー名を使用していますが、パスワードは UNIX と連携しておりません。この後の章を読んで各自設定してください。

また UNIX のユーザー名の交付を受けていない方は、絶対に利用することはできないので、計算機センターが開催している「インターネットオリエンテーション」を受け、ユーザー名の交付を受けてください。

3.4.1 まず部屋へ

この部屋は常時カードロックシステムが働いており、学生証を入り口横の機械に通すことによって鍵が開きます。入室可能な時間帯、曜日、期間に限りがありますので、付録の「情報処理教室の利用について」を一読してください。もしカードを通して鍵が開かない場合は、カードの向き、表裏、カードを通過させる速度（遅すぎても速すぎても駄目）を変えてください。どうしても駄目な場合はカードの磁気情報がおかしくなっている可能性があります。カードを通す機械にあなたのカードでなぜ鍵が開かないか、その理由が出ていますので、それを控えて計算機センターまで連絡してください。

入室した際、部屋に誰も居なかった場合は照明、空調機が切れている場合があります。照明のスイッチはドア付近の左手または右手の壁、空調機の照明スイッチの近くまたは部屋の後部にあります。自分で探し操作してください。

部屋の管理そのものは経済学部事務室が行っていますので、何か部屋の状態についての質問、要望があれば経済学部事務室までお願いします。

コンピュータについての質問、要望は計算機センターの相談窓口までお願いします。

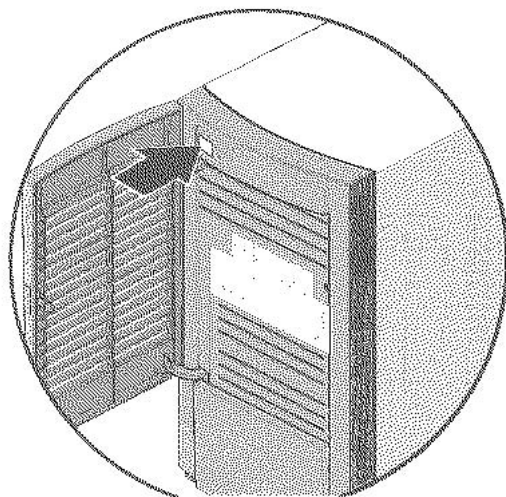


図 3.13 Digital PC : 電源スイッチを入れる

3.4.2 電源を入れる

自分が利用するコンピュータを選びます。この場合、電源の入っていないパソコンを選ぶのがいいでしょう。というのは、もし電源が入っていたら、それは誰かが既に使っているかも知れないからです。電源が入っていないパソコンは、ディスプレイ（テレビの様な画面）の下部および本体上部に緑色のランプが点灯していないことで識別できます。ランプを確認せずに、画面が真っ暗だからと言ってそのパソコンの電源が切れているかどうかは判りませんので、ディスプレイと本体の両方を必ず確認しましょう。

電源が入っていないパソコンが見つかったら、先ほどの本体上部のランプのそばにあるスイッチを押してください。このスイッチは押しても形状は変化せず、緑色のランプが点灯することによって電源が入っているか、いないかを確認できます。

電源が入ったら画面に色々な文字などが表示され、画面上に「ログオンの開始」と書かれたダイアログボックスが表示されると利用可能な状態になります。それまでの間、何も触らず待っててください。



図 3.14 起動後の画面

3.4.3 WindowsNT にログオンしましょう

電源を入れるのに成功すると画面の色が青色になり、しばらくすると「ログオン開始」のダイアログボックスが画面上に表示されます。そこには、「ログオンするには、Ctrl+Alt+Del キーを押してください」と書かれてあります。これは、「Ctrl」キーと「Alt」キーを同時に押しながら、「Delete」キーを押すことを意味します。では、押してください。「ログオン情報」の画面が現れ、ユーザー名、パスワードが入力できます。



図 3.15 ログオン画面

では、あなたのユーザー名（UNIX のユーザー名）とパスワードを入れてください。なお、パスワードは UNIX と連携しておりませんので、各自の初期パスワードか、あなたが設定したパスワードを入力してください。初期パスワードは、教室設置の「情報処理教室ガイド」を参照してください。

ログオンした後、あなたのパスワードが初期設定のままなら、すぐにパスワードを変更してください。変更方法は、次章を参照してください。ログオンに成功すると、図 3.16 の画面になります。

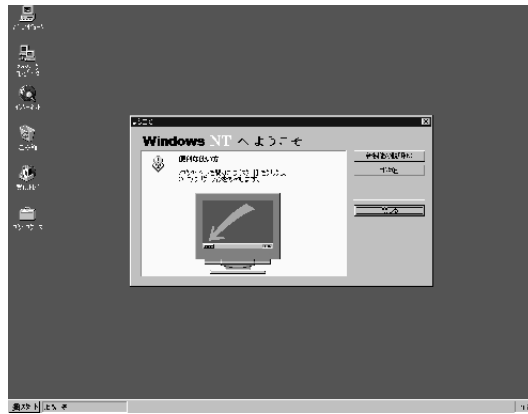


図 3.16 ログオン完了後の画面

3.4.4 まずは WindowsNT のパスワードを変更しましょう

すでに WindowsNT のパスワードを変更した方は、次章の 3.4.5 に進みましょう。また、定期的にパスワードを変更するよう心がけてください。パスワードの変更がまだなら、この章を読んで変更してください。

WindowsNT と UNIX の 2 つのパスワードを管理するのが面倒な方は、どちらか一方のパスワードに合わせましょう。どちらかのパスワードを変更した方は、もう一方のパスワードも同じように変更すると便利です。なお、パスワードはあなたにとってキャッシュカードの暗証番号と同じようなもの、扱いに十分注意してください。

図 3.16 の状態になれば、Ctrl キーと Alt キーを同時に押しながら、Delete キーを押してください。画面上に図 3.17 が表示されます。

「パスワード変更」を選択してください。図 3.18 が表示されます。今のパスワード、新しいパスワードを入力し終わったら、確認のためもう一度入力するボックスがあります。そこに新しいパスワードを入力してください。

なお、入力した文字はセキュリティの関係で表示されません。入力の間違いはなかったですか？無いようなら「OK」を押してください。くれぐれも忘れないように！

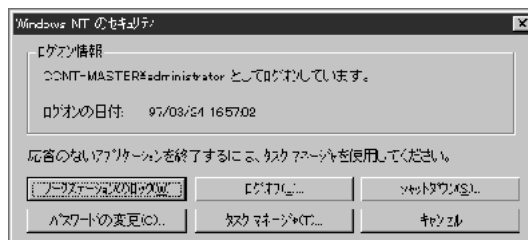


図 3.17 パスワード変更選択画面



図 3.18 パスワード変更画面

3.4.5 端末ソフトを起動しましょう

ここでは 5 号館 1 階の 51 情報処理教室の Digital PC200i から telnet 環境で cc2000 をホストコンピュータとして利用する手続きについて説明します。端末ソフトとしての「TeratermPRO」を利用します。

Digital PC200i のキーボードでは、一般的に「Enter」と呼ばれるキー⁵には、折れ曲がった矢印記号 (↵) が刻印されています。ここではこのキーを「リターンキー」と表現します。例示に<Return>と書いてある場合は、この折れ曲がった矢印記号 (↵) キーを押してください。

さて画面下部に「START」ボタンがありますね。画面上の矢印（以下「マウスポインタ」という）を「START」に重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリック⁶すると、メニューが現れます。そのメニュー上部に「プログラム」という項目があります。マウスポインタを動かし、「プログラム」に重ね合わせます。

マウスポインタを動かすだけで図 3.19 のようになります。「TeraTermPRO」がメニューの中にありますね？マウスポインタを重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリックしてください。「TeraTermPRO」が起動し、図 3.21 になります。



図 3.19 WindowsNT のメニュー一覧

⁵ キーボード真中やや右の大きめのキー

⁶ マウスのボタンを 1 回押す



図 3.20 TeratermPRO のアイコン

3.4.6 ホストコンピュータへの接続

Teraterm が起動されると、図 3.21 が画面に表示されます。もし画面に現れなかったら、あなたはソフトウェアの起動に失敗しています。もう一度図 3.20 にマウスポインタ (矢印) を重ね合わせてマウスの左ボタンをクリックしてください。

図 3.21 の画面に注目してください。マウスポインタを「OK」ボタンに重ね合わせマウスの左ボタンを押すか、そのまま「Enter」キーを押してください。

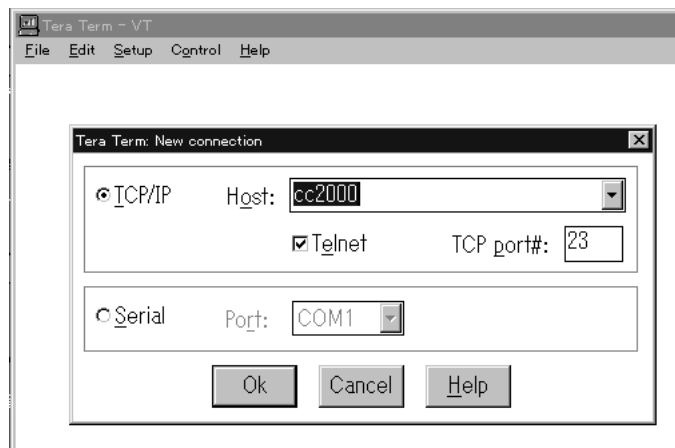


図 3.21 TeratermPRO の初期画面

画面に図 3.22 のウィンドウが表示されます。

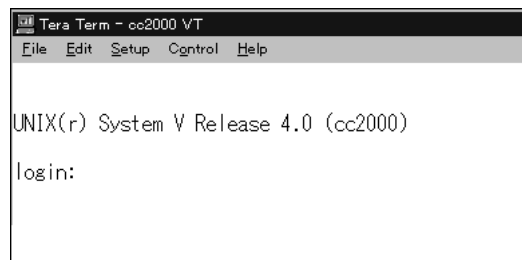


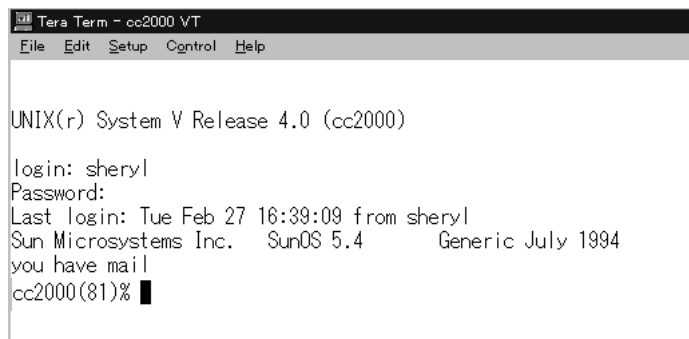
図 3.22 cc2000 のプロンプト

ここで login:などと login の為の催促文字が表示されていることを確認して下さい。

3.4.7 さあ、login しよう

いよいよ login です。ここからはもうあなたのキーボードに対する入力はホストコンピュータに対する遠隔操作となっているのです。

ユーザ名とパスワードを入力しましょう。login:の後にあなたのユーザ名を入力して下さい。ユーザ名には大文字、小文字の区別があるので注意して下さい。ユーザ名の入力が完了したら、一度リターンキーを押して下さい。次にパスワードを入力します。ユーザー名を入力した時とは違い、パスワードは横から見ている他の人にバレないように、タイプしてもその文字が画面に表示されません。キーを打ち間違えないように注意して入力し、もう一度リターンキーを押して下さい。



```
Tera Term - cc2000 VT
File Edit Setup Control Help

UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)

login: sheryl
Password:
Last login: Tue Feb 27 16:39:09 from sheryl
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.4 Generic July 1994
you have mail
cc2000(81)% █
```

図 3.23 cc2000 のログインの SAMPLE

図 3.23 のようになりましたか?もし、ならなかった場合は、この後の「困ったときの対処」を参照してください。

3.4.8 ちょっとメッセージ

login すると、ときには利用者宛の通知、おしらせが以下のように画面に表示されるかも知れません。

```
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3 Generic September 1993
4月15日深夜、ファイルサーバである ccnfs (cc2000) の
リポートが予定されています。
これにともない cc 環境の全てのマシンの利用が出来なくな
ります。夜間に長時間のジョブを実行する予定のある利用者
はそれまでに実行が終るように注意して下さい。
cc2000(84)% □
```

図 3.24 login 直後のメッセージ

よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談窓口まで連絡するのがいいでしょう。

3.4.9 パスワードを変える

もしもこれがあなたに取って Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、あまり安全とは言えません。必ずパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更して下さい。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で既に述べた事に注意してください。

パスワードを変更するには `yppasswd` コマンド⁷ を利用します。上の節で説明したターミナルを見ると、

```
cc2000(81)%
```

などとなっていますね。(但し数字は 81 ではないかもしれませんが。)ここで `yppasswd` とタイプし、リターンキーを押します。すると以下のような状態に成りますね。(以下はユーザ名 `yasuda` の例。yasuda の部分にはあなたのユーザ名が表示されているはずです。)

```
cc2000(81)% yppasswd
Changing NIS password for yasuda
Old NIS password:
```

指示通りここでは古い、つまり今先ほどまで使っていたパスワードをタイプし、リターンキーを押します。ここでは login の時と同じくパスワードをタイプしている間、横の人の覗き見によってあなたのパスワードがバレないように、タイプした文字は画面に表示されない事に注意してください。表示されなくともタイプした文字はちゃんと入力されていますから、安心して確実に一文字ずつタイプして最後にリターンキーをタイプして下さい。すると今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
New password:
```

では指示通り新しい、つまり次からこれにしようと言うパスワードをタイプし、リターンキーを押してください。ここでもタイプした文字は表示されません。今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
Retype new password:
```

⁷ 綴りがちょっと変ですが、間違っはけません。

これはいましがたタイプした新しいパスワードが打ち間違いで無いことを確認するためのものです。もう一度新しいパスワードをタイプしてリターンキーを押してください。今度は以下のような状態になります。

```
NIS passwd changed on ccnic
cc2000(82)%
```

この NIS passwd changed が表示されれば成功です。もしもパスワードが短すぎたりタイプミスがあったりしたらなんらかのエラーメッセージが表示されます。途中でおかしくなったと思う場合は C-c (つまりコントロールキーを押しながら C キーを押す) で cc2000(82)% を表示させます。それからもう一度 yppasswd コマンドをやり直します。

3.4.10 logout をしよう

次は logout です。他にやりたいこともいろいろあるでしょうが、今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみると言う意味で logout をこの場でやってみることを勧めます。画面上に cc2000(81)% が表示されていることを確認してください。但し括弧の中の数字は気にしないでね!! 以下のように、logout <Return> と入力してください。

```
cc2000(81)% logout
```

3.4.11 端末ソフトを終了する

logout すると自動的に今まで表示していた画面が閉じ、最初の状態 (図 3.16) になります。ログインした最初の状態に戻りましたよね。

DigitalPC から telnet 端末環境で cc2000 を利用する場合に必要な手続きの説明は以上です。もちろんこの後パソコンの利用を終了する場合は、正しく決められた手続きで Windows を終了し電源を切って下さい。間違ってもこの段階でいきなり電源スイッチを切ったりしてはいけません。

3.4.12 ログオフ (シャットダウン) しましょう

画面上に「START」ボタンがあります。画面上のマウスポインター (矢印) をボタンの上に重ね、マウスの左ボタンを押してください。メニューが現れ、そのメニューの一番下の行に「シャットダウン」があります。選択してください。

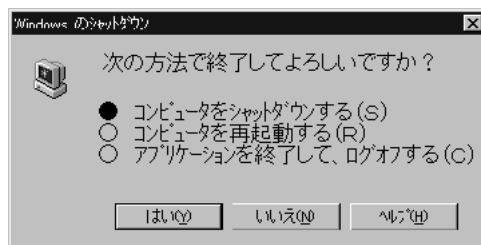


図 3.25 ログオフおよびシャットダウン画面

図 3.25 が画面上に現れます。「コンピュータをシャットダウンする」を選択し、「Enter」キーを押してください。しばらくすると、電源が切れる状態になります。画面上に電源を切って良いメッセージが表示

されるので、指示に従ってください。操作の途中で電源を切ったり、叩いたりしないでください。故障の原因になります。

3.4.13 さて、さて、

最初の利用はこれでおしまいです。大変よくできました。あとは精進して UNIX ユーザへの道を歩まれるわけですね。それには UNIX での一般的なコマンド操作などについて説明している、4 へと進んで下さい。

3.4.14 困った時の対処

ホストコンピュータに接続出来ない

- 図 3.21 が表示されていない場合。図 3.20 をマウスの左ボタンでダブルクリック時に失敗している事が考えられる。再度、図 3.20 をクリックする。

login ができない

- 図 3.26 が画面に表示されて図 3.23 にならない場合がある。接続先のホスト名が間違っていて入力されている可能性があります。接続しようとするホスト名をもう一度確認し再度実行してください。



図 3.26 接続失敗の画面

- 図 3.27 のように login incorrect が表示される。ユーザー名かパスワードが間違っている事が考えられる。大文字、小文字等の入力間違いがないかを確認、再度入力して下さい。

```
Tera Term - cc2000 VT
File Edit Setup Control Help

UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)
login: sheryl
Password:
Login incorrect
login: SHERYL
Password:
Login incorrect
login:
```

図 3.27 login 失敗の画面

文字が全角になる

- 図 3.28 のように、shery1 と入力しているのに「しえ r y l」と画面上に現れる事がある。これはパソコンの日本語変換機能が起動されている事が考えられる。「Alt」キー（キーボード左下）を押しながら「半角/全角」キー（キーボード左上）を押して、日本語変換機能を止めてください。

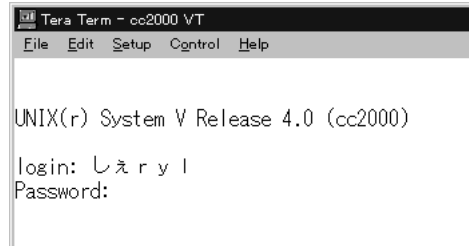


図 3.28 文字が全角になる

3.4.15 マニュアルなど

パソコンのマニュアルは部屋内の本棚に入っています。どうぞ自由に取り出してみてください。但し、持ち帰りはいけません!!。禁帯出です。

次は、84 ページの 4 へ進んでください。

3.5 Contura から telnet で cc2000 を使う

Contura は 5 号館 2 階の 52 情報処理教室に設置してあります。Contura はコンパック株式会社が発売している IBM 製パーソナルコンピュータ（以下「パソコン」と呼ぶ）の互換機ノート型パソコンです。

ここでは 5 号館 2 階の 52 情報処理教室の Contura から telnet 環境で cc2000 をホストコンピュータとして利用する手続きについて説明します。

52 情報処理教室の Contura では端末ソフトとして NetManage 社の「Telnet」を使用します。これは telnet 環境を提供します。

Contura のキーボードでは、一般的にリターンキーと呼ばれるキー⁸には「Enter」と刻印されています。ここではこのキーを「リターンキー」と表現します。例示に<Return>と書いてある場合は Contura ではこの「Enter」キーを押して下さい。

3.5.1 まず部屋へ

この部屋にてパソコンを利用するためには、2つの鍵が必要です。部屋のドア用と机の引出し用です。パソコンはそれぞれの机の引出しに入っています。この2つの鍵は経営学部事務室が管理しています。したがって、部屋に入る人は、経営学部事務室で鍵を受取ってください。もし、あなたが学部学生または大学院生であれば、鍵を受取るときに学生証を提示しなければなりません。

部屋に入るときは、そこで授業をやっていないことを確認しましょう。もし授業中であれば入室して利用していいかどうか指導教員に確認を取るのが礼儀と言うものです。部屋に誰も居なかった場合は照明、空調機が切れている場合があります。照明のスイッチは、部屋に入ったそのすぐ左手の壁にありますので、自分で適当に操作してください。空調機のスイッチは、照明スイッチと同じ壁面にあります。部屋の前半部と後半部用にダイヤル式のスイッチが1つずつあります。部屋の温度を考えながら調整してください。部屋の管理そのものは経営学部事務室が行っていますので、何か部屋の状態について質問、要望があれば経営学部事務室までお願いします。コンピュータについての質問、要望は計算機センターの相談窓口までお願いします。

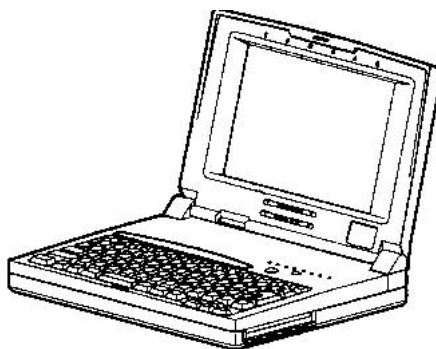


図 3.29 Contura 本体

3.5.2 机の引出しからパソコンを取出す

机の引出し用鍵には、机上番号に対応した番号札が付いています。その番号に対応する机に座ってください。それでは、机の引出しからパソコンとマウスの2つを取出しましょう。机の化粧板の陰になって確

⁸ キーボード真中やや右の大きなキー

認しにくいのですが、パソコンには、赤い腹巻をした小箱状の装置が付いています。この小箱状の装置を机の化粧板にぶつけない様に、引出しを十分開けてから取出してください。パソコン本体には電源や通信用のケーブルを1つに束ねた黒いスパイラルチューブが付いています。このスパイラルチューブを引っ張りすぎないようにやさしく取扱ってください。

3.5.3 電源を入れる

パソコンの電源ボタンは液晶画面の下に隠れていますので、先ず液晶画面を開けましょう。この液晶画面を開けるには、手前のボタンを親指で押し下げながら、そのまま指を引っ掛ける様にして上に持ち上げてください。では、本体の電源を入れましょう。電源ボタンはキーボードの右上にある、紫色をした丸い2つのボタンの内の大きい方のボタンです。電源がすでに入っている場合は、電源ボタンの上方のグリーンランプが点灯していますのでグリーンランプが消えているのを確認してから、丸い紫色の電源ボタンを押してください。電源が入ったらモーターの回転音がして、画面の左上に数字メータが表示されカウントアップが始まります。それから画面に色々な文字が流れていって、合計1分足らずでマイクロソフト社のWindowsが立ち上がります。画面上に絵が現れたら、これで一段落です。もし、画面が文字の状態のまま全然変化しなかったら、パソコンの後ろに付いている赤い腹巻をした小箱状の装置を上から覗き込んで見てください。この小箱状の装置のランプが1つも点灯していなければ、この小箱状の装置に付属する線類の接触状況を調べてください。おそらくどれかが外れかかっているハズです。外れかかっている線類をしっかり固定してから、電源を再度入れ直してください。電源の入り切りは同じ大きい方の紫色の丸いボタンスイッチで操作できます。

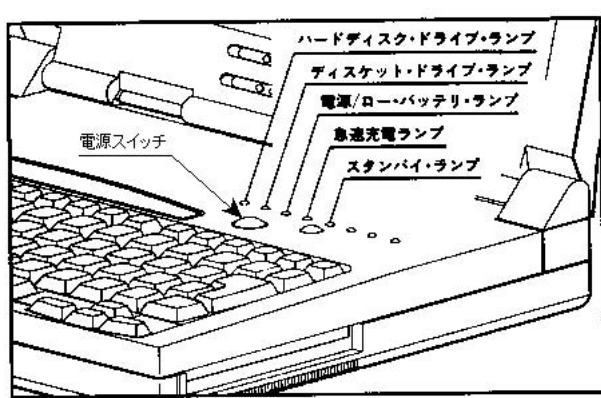


図 3.30 Contura のボタンとランプ

3.5.4 Windows の動かし方

Windows が立ち上がった状態（画面上に絵が表示された状態）になっています。Windows は、色々な機能を満載しているながら、基本的な操作はほとんど共通に利用出来ます。焦らずゆっくりとマニュアルを読んで操作すれば大丈夫です。

C1 情報処理教室には、初心者向けに「Quick ユーザーズガイド」が設置してあります。「Quick ユーザーズガイド」のポイント1からポイント10まで、読まれることをお奨めします。52 情報処理教室には、「今日から使える Windows3.1」と「機能ガイド」があります。「今日から使える Windows3.1」は初心者向けに書かれてありますので目を通すことをお奨めします。「機能ガイド」は Windows の詳細な機能が書か

れてあります。

マニュアルの設置場所は、「マニュアルなど」の説明に書かれてありますので、そちらをお読みください。

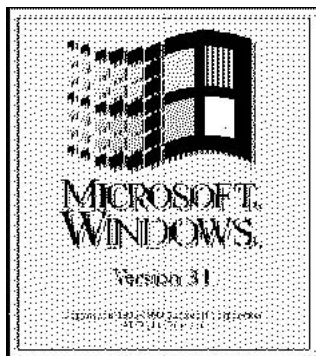


図 3.31 Windows 起動画面

3.5.5 Windows に関する基礎知識（絶対にやってはいけない事）

いきなり電源オフ

パソコンの操作方法がわからなくなってしまった時、ほとんどの方がとる手段が、電源を切ってしまうことです。これは絶対にしてはいけません。急に電源を切ってしまうと、パソコンの中の情報が破壊されて、次に電源をいれても正常に動作しません。あなたがパソコンの操作に迷った時は、取りあえず周りの人に聞くとよいでしょう。周りに人がいないのなら、部屋のコードレスホンで計算機センター相談窓口まで電話をしてください。それでほとんどが解決するはずですが、いきなり電源を切らないでください。

書き込み中のフロッピー取り出し

フロッピーが動作しているかどうか（書き込み中であるかないか）を知るには、本体のやや真ん中右よりのフロッピー差し込み口を見てください。緑色のランプが点灯していれば、まさに書き込み中です。（52 情報処理教室の Contura ではランプは電源ボタンの上に並ぶランプの内のディスク・ドライブ・ランプです。図 3.30 を参照して下さい。因みにフロッピー差し込み口は本体右側面にあります。）このランプが点灯しているときに、フロッピーを取り出すと中身が壊れます。あなたが作った物すべてが読めなくなるかもしれません。フロッピーを取り出す時には十分注意しましょう。

むやみに削除を選択すること

Windows は自分が作成した文章、プログラムおよびパソコンを起動させるプログラムを簡単に表示、削除、移動、複写が行えます。あなたが作成した文章やプログラムを操作する分については問題がないのですが、パソコンにとって重要なプログラムを削除すると、特定の機能が使えなくなるか、パソコンが動かなくなります。もしわからなくなった場合は、周りの人に尋ねるか、計算機センター相談窓口まで問い合わせてください。

むやみに設定を変更すること

Windows には、色々な機能を満載していますが、その一つ一つは細々した設定がなされています。パソコンは不特定多数の利用者によって使われるますので、私たち計算機センターは可能な限りいつでも同じ環境を提供したいと思っています。設定が気に入らない場合もあるでしょうが、そのままの状態でご覧ください。もちろん「このようにした方がもっといいと思いますよ」といった提案はいつでも計算機センター相談窓口までお願いします。

3.5.6 端末ソフトの起動

まず端末ソフトを起動しましょう。

パソコン本体に電源が入れば、自動的にマイクロソフト社の Windows が起動し、図 3.32 が現れます。



図 3.32 Windows 初期メニュー

図 3.32 の中の一つに「TELNET ネットワーク端末」図 3.33 があります。このアイコン（絵）にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせて、マウスの左ボタンをダブルクリック（連続 2 回押し）してください。Telnet が起動されます。



図 3.33 Telnet のアイコン

3.5.7 ホストコンピュータへの接続

この端末ソフトは、起動すれば自動的に cc2000 に接続されます。

Telnet が起動されると、図 3.34 が画面に表示されます。もし画面に現れなかったら、あなたはソフトウェアの起動に失敗しています。もう一度図 3.33 にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせてマウスの左ボタンをダブルクリックしてください。それでも図 3.34 が現れない場合は計算機センター相談窓口まで連絡してください。



図 3.34 cc2000 のプロンプト

ここで login: などと login の為の催促文字が表示されていることを確認して下さい。

3.5.8 さあ、login しよう

いよいよ login です。ここからはもうあなたのキーボードに対する入力は UNIX コンピュータに対する遠隔操作となっているのです。

ユーザ名とパスワードを入力しましょう。login: の後にあなたのユーザ名を入力して下さい。ユーザ名には大文字、小文字の区別があるので注意して下さい。ユーザ名の入力が完了したら、一度リターンキーを押して下さい。次にパスワードを入力します。ユーザ名を入力した時とは違い、パスワードは横から見ている他の人にバレないように、タイプしてもその文字が画面に表示されません。キーを打ち間違えないように注意して入力し、もう一度リターンキーを押して下さい。



図 3.35 cc2000 のログインの SAMPLE

図 3.35 のようになりましたか？もし、ならなかった場合は、この後の「困ったときの対処」を参照してください。

3.5.9 ちょっとメッセージ

login すると、ときには利用者宛の通知、おしらせが以下のように画面に表示されるかも知れません。

```
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3 Generic September 1993
4月15日深夜、ファイルサーバである ccnfs (cc2000) の
リポートが予定されています。
これにともない cc 環境の全てのマシンの利用が出来なくな
ります。夜間に長時間のジョブを実行する予定のある利用者
はそれまでに実行が終るように注意して下さい。
cc2000(84)% □
```

図 3.36 login 直後のメッセージ

よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談窓口まで連絡するのがいいでしょう。

3.5.10 パスワードを変える

もしもこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、あまり安全とは言えません。必ずパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更して下さい。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で既に述べた事に注意してください。

パスワードを変更するには `yppasswd` コマンド⁹ を利用します。上の節で説明したターミナルを見ると、

```
cc2000(81)%
```

などとなっていますね。(但し数字は 81 ではないかもしれませんが。)ここで `yppasswd` とタイプし、リターンキーを押します。すると以下のような状態に成りますね。(以下はユーザ名 `yasuda` の例。yasuda の部分にはあなたのユーザ名が表示されているはずです。)

```
cc2000(81)% yppasswd
Changing NIS password for yasuda
Old NIS password:
```

指示通りここでは古い、つまり今先ほどまで使っていたパスワードをタイプし、リターンキーを押します。ここでは login の時と同じくパスワードをタイプしている間、横の人の覗き見によってあなたのパスワードがバレないように、タイプした文字は画面に表示されない事に注意してください。表示されなくともタイプした文字はちゃんと入力されていますから、安心して確実に一文字ずつタイプして最後にリターンキーをタイプして下さい。すると今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
New password:
```

では指示通り新しい、つまり次からこれにしようと言うパスワードをタイプし、リターンキーを押してください。ここでもタイプした文字は表示されません。今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
Retype new password:
```

⁹ 綴りがちょっと変ですが、間違っはけません。

これはいましがたタイプした新しいパスワードが打ち間違いで無いことを確認するためのものです。もう一度新しいパスワードをタイプしてリターンキーを押してください。今度は以下のような状態になります。

```
NIS passwd changed on ccnic
cc2000(82)%
```

この NIS passwd changed が表示されれば成功です。もしもパスワードが短すぎたりタイプミスがあったりしたらなんらかのエラーメッセージが表示されます。途中でおかしくなったと思う場合は C-c (つまりコントロールキーを押しながらCキーを押す) で cc2000(82)% を表示させます。それからもう一度 ypasswd コマンドをやり直します。

3.5.11 logout をしよう

次は logout です。他にやりたいこともいろいろあるでしょうが、今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみると言う意味で logout をこの場でやってみることを勧めます。画面上に cc2000(81)% が表示されていることを確認してください。但し括弧の中の数字は気にしないでね!! 以下のように、logout <Return>と入力してください。

```
cc2000(81)% logout
```

3.5.12 端末ソフトを終了する

logout すると図 3.34 に良く似た画面が表示されていると思います。その図の左上部分に注目してください。「ファイル」という文字があります。それにマウスポインタを重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリックしてください。機能の一覧が表示されます。図 3.37 です。その最下行に「終了」があります。マウスポインタを「終了」に重ね合わせてマウスの左ボタンをクリックしてください。電源を入れた最初の状態(図 3.32)に戻ります。

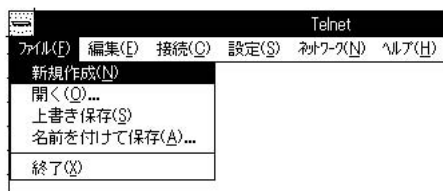


図 3.37 Telnet の終了

3.5.13 電源を切る

Windows を終了させるには、「Windows 終了」という絵(アイコン)をマウスポインタで二度クリックします。「Ms-Windows を終了します」という確認メッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。Windows の終了ができれば、画面に電源を切っても大丈夫ですといった様なメッセージが表示されます。紫色の丸い電源ボタンを押して電源を切ってください。お疲れさまでした。

3.5.14 パソコンを机の引出しにしまう

パソコンとマウスを元通りに机の引出しにしまってから、鍵を閉めてください。引出しがしみにくいときは、引出しの中の線類をやさしく手前に引いてみてください。無理に引っ張ると断線する恐れがありますので、注意してください。

3.5.15 部屋を出る

部屋に誰も残らないようなら空調機、照明を切り、最後に部屋の鍵を閉めてから経営学部事務室まで鍵を返しに行ってください。

3.5.16 さて、さて、

最初の利用はこれでおしまいです。大変よくできました。あとは精進して UNIX ユーザへの道を歩まれるわけですね。それには UNIX での一般的なコマンド操作などについて説明している、4へと進んで下さい。

3.5.17 困った時の対処

ホストコンピュータに接続出来ない

- 図 3.34 が表示されていない場合。図 3.33 をマウスの左ボタンでダブルクリック時に失敗している事が考えられる。再度、図 3.33 をダブルクリックする。
- 図 3.34 は表示されているが、図 3.32 の後ろに隠れてしまっている事が考えられる。「Alt」キー（キーボード左下）を押しながら<ESC>キー（キーボード左上）を押して画面を切替えて探してください。
- 図 3.38 が画面に表示されて図 3.34 にならない場合がある。接続したいコンピュータが何らかの理由で停止しているかまたは貴方が使用しているパソコンに障害が生じている可能性があります。計算機センターの相談窓口まで連絡してください。



図 3.38 接続失敗の画面

login ができない

- 図 3.39 のように login incorrect が表示される。ユーザー名かパスワードが間違っている事が考えられる。大文字、小文字等の入力間違いがないかを確認、再度入力して下さい。

```
Telnet - cc2000
ファイル(F) 編集(E) 切断(D) 設定(S) ネットワーク(N) ヘルプ(H)

UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)

login: sheryl
Password:
Login incorrect
login: SHERYL
Password:
Login incorrect
login: █
```

図 3.39 login 失敗の画面

文字が全角になる

- 図 3.40 のように、sheryl と入力しているのに「しゑりゃい」と画面上に現れる事がある。これはパソコンの日本語変換機能が起動されている事が考えられる。画面右下に「あ自R漢」が表示されているのであれば、「Alt」キー（キーボード左下）を押しながら「半角/全角」キー（キーボード左上）を押して、日本語変換機能を止めてください。画面右下の「あ自R漢」が消えます。

```
Telnet - cc2000
ファイル(F) 編集(E) 切断(D) 設定(S) ネットワーク(N) ヘルプ(H)

UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)

login: しゑりゃい █
```

図 3.40 文字が全角になる

3.5.18 マニュアルなど

パソコンのマニュアルは部屋に入った左側に設置してあるロッカーに入っています。どうぞ自由に取り出してみてください。但し、持ち帰りはいけません!!。禁帯出です。
次は、84 ページの 4 へ進んでください。

3.6 FMV から X で cc2000 を使う

ここでは計算機科学研究所棟 2 階の C1 情報処理教室の FMV から X 環境でホストコンピュータを利用する手続きについて説明します。利用するホストコンピュータとしては cc2000 を例として示しています。

C1 情報処理教室の FMV では端末ソフトとして Hummingbird Communications 社の「eXceed」を使用します。これは X 環境を提供します¹⁰。

FMV のキーボードでは、一般的にリターンキーと呼ばれるキー¹¹には「Enter」と刻印されています。ここではこのキーを「リターンキー」と表現します。例示に<Return>と書いてある場合は FMV ではこの「Enter」キーを押して下さい。

3.6.1 まず部屋へ

この部屋は常時カードロックシステムが働いており、学生証を入り口のドア横の機械に通すことによって鍵が開きます。入室可能な時間帯、曜日、期間に限りがありますので、付録の「情報処理教室利用要項」を一読してください。もしもカードを通して鍵が開かない場合は、カードの向き、表裏、カードを通過させる速度（遅すぎても速すぎても駄目）を変えてやってください。どうしても駄目な場合はカードの磁気情報がおかしくなっている可能性がありますので、カードを通す機械にあなたのカードでなぜ鍵が開かないか、その理由が出ていますので、それを控えて計算機センターまで連絡してください。

部屋に入るときは、そこで授業をやっていないことを確認しましょう。もし授業中であれば入室して利用していいかどうか指導教員に確認を取るのが礼儀と言うものです。部屋に誰も居なかった場合は照明、空調機、ブレーカー（供給元電源）が切れている場合があります。照明のスイッチは、部屋に入ったそのすぐ左手の壁にありますので、自分で適当に操作してください。空調機は、部屋の奥（窓の下側）に 3 台取り付けてあります。スイッチは各空調機の左側上部の push 式扉の下に隠れています。部屋の温度を考えながら調整してください。ブレーカーのスイッチは、部屋に入って左側柱の奥にある黒いスイッチです。黒いスイッチが上向きになっている状態であれば電源が供給されています。部屋の管理そのものは計算機センター事務室が行っていますので、何か部屋の状態について質問、要望があるばあい、またコンピュータについての質問、要望なども計算機センターの相談窓口までお願いします。

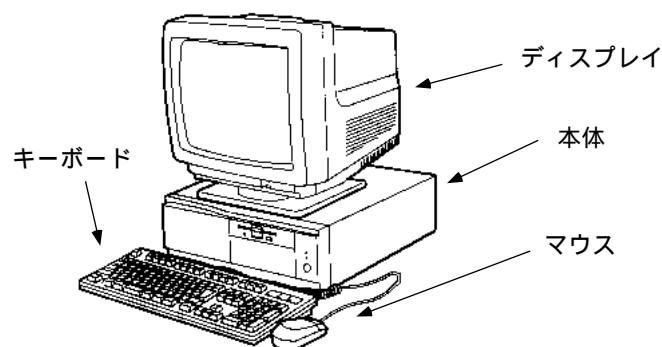


図 3.41 FMV 本体

¹⁰ このように X 環境を提供する端末ソフトを X 端末ソフトと呼んだりします

¹¹ キーボード真中やや右の大きなキー

3.6.2 電源を入れる

自分が利用するコンピュータを選びます。32台ありますので空いている場所を見つけて着席してください。その時、ディスプレイ装置（テレビみたいな物）、本体（ディスプレイ装置の下にある箱）にグリーンランプが点灯していないか確認してください。もし、グリーンランプが点灯しているのであれば、誰かがすでに利用しているのかもしれない。

ではまず、ディスプレイ装置（テレビみたいな物）の電源を入れましょう。ディスプレイ装置右端下に少し大きめの長四角のボタンがあります。その長四角のボタンの左横に小さい四角窓があり、グリーンランプが点灯していないのを確認してください。点灯していないようなら、長四角のボタンを押してください。グリーンランプが点灯しているのであれば、すでにディスプレイ装置に電源が入っています。次に、本体の電源を入れます。本体はディスプレイ装置の下にある四角い箱です。本体の電源は、右端真ん中にある丸いボタンです。電源がすでに入っている場合は、丸いボタンの上にグリーンランプが点灯していますので、グリーンランプが消えているのを確認してから、丸い電源ボタンを押してください。グリーンランプの点灯がディスプレイ装置、本体と確認できたら、しばらく（30秒ぐらい）待ってください。自動的にプログラムが起動されてマイクロソフト社の windows が立ち上がります。画面上に絵が表れたら、これで一段落です。

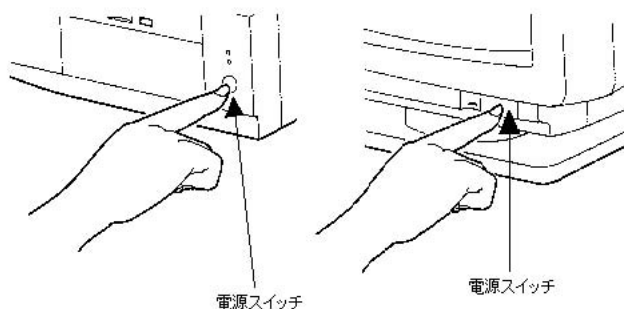


図 3.42 左図：F M V 本体の電源オン、右図：ディスプレイ装置の電源オン

3.6.3 Windows の動かし方

Windows が立ち上がった状態（画面上に絵が表示された状態）になっています。Windows は、色々な機能を満載しているながら、基本的な操作はほとんど共通に利用出来ます。焦らずゆっくりとマニュアルを読んで操作すれば大丈夫です。

C1 情報処理教室には、初心者向けに「Quick ユーザーズガイド」が設置してあります。「Quick ユーザーズガイド」のポイント1からポイント10まで、読まれることをお奨めします。52情報処理教室には、「今日から使える Windows3.1」と「機能ガイド」があります。「今日から使える Windows3.1」は初心者向けに書かれてありますので目を通すことをお奨めします。「機能ガイド」は Windows の詳細な機能が書かれています。

マニュアルの設置場所は、「マニュアルなど」の説明に書かれてありますので、そちらをお読みください。

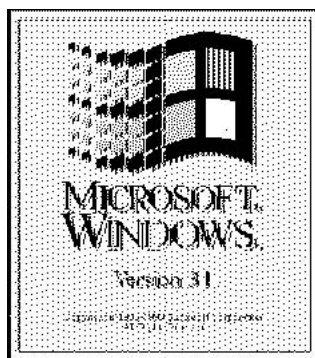


図 3.43 Windows 起動画面

3.6.4 Windows に関する基礎知識（絶対にやってはいけない事）

いきなり電源オフ

パソコンの操作方法がわからなくなってしまった時、ほとんどの方がとる手段が、電源を切ってしまうことです。これは絶対にしてはいけません。急に電源を切ってしまうと、パソコンの中の情報が破壊されて、次に電源をいれても正常に動作しません。あなたがパソコンの操作に迷った時は、取りあえず周りの人に聞くとよいでしょう。周りに人がいないのなら、部屋のコードレスホンで計算機センター相談窓口まで電話をしてください。それでほとんどが解決するはずです。いきなり電源を切らないでください。

書き込み中のフロッピー取り出し

フロッピーが動作しているかどうか（書き込み中であるかないか）を知るには、本体のやや真ん中右よりのフロッピー差し込み口を見てください。グリーンランプが点灯していれば、まさに書き込み中です。（52 情報処理教室の Contura ではランプは電源ボタンの上に並ぶランプの内のディスク・ドライブ・ランプです。図 3.30 を参照して下さい。因みにフロッピー差し込み口は本体右側面にあります。）このランプが点灯しているときに、フロッピーを取り出すと中身が壊れます。あなたが作った物すべてが読めなくなるかもしれません。フロッピーを取り出す時には十分注意しましょう。

むやみに削除を選択すること

Windows は自分が作成した文章、プログラムおよびパソコンを起動させるプログラムを簡単に表示、削除、移動、複写が行えます。あなたが作成した文章やプログラムを操作する分については問題がないのですが、パソコンにとって重要なプログラムを削除すると、特定の機能が使えなくなるか、パソコンが動かなくなります。もしわからなくなった場合は、周りの人に尋ねるか、計算機センター相談窓口まで問い合わせてください。

むやみに設定を変更すること

Windows には、色々な機能を満載していますが、その一つ一つは細々した設定がなされています。パソコンは不特定多数の利用者によって使われるますので、私たち計算機センターは可能な限りいつでも同じ環境を提供したいと思っています。設定が気に入らない場合もあるでしょうが、そのままの状態を使って

ください。もちろん「このようにした方がもっといいと思いますよ」といった提案はいつでも計算機センター相談窓口までお願いします。

3.6.5 端末ソフトの起動

まず端末ソフトを起動しましょう。

パソコン本体とディスプレイ装置に電源が入れば、自動的にマイクロソフト社の Windows が起動し、図 3.44 が現れます。



図 3.44 Windows 初期メニュー

図 3.44 の中の一つに「cc2000 UNIX 接続」図 3.45 があります。このアイコン（絵）にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせて、マウスの左ボタンをダブルクリック（連続 2 回押し）してください。eXceed が起動されます。すぐ近くに良く似た形の「eXceed/W」というアイコンがあるかも知れませんが、これと間違わないように注意して下さい。



図 3.45 eXceed のアイコン

上記の手続きで eXceed が起動されると、まず画面全体が灰色になります。そして画面中央に図 3.46 が表示されます。もし画面全体が変わらなかったら、あなたは端末ソフトの起動に失敗しています。もう一度図 3.45 にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせてマウスの左ボタンをダブルクリックしてください。それでも図 3.46 が現れない場合は計算機センター相談窓口まで連絡してください。



図 3.46 eXceed の初期画面

3.6.6 login する

いよいよ login です。

ユーザ名とパスワードを入力しましょう。

まずあなたのユーザ名をタイプして下さい。「login:」の右にタイプされた文字が入力されていくのがわかりますね。ユーザ名には大文字、小文字の区別があるので注意して下さい。ユーザ名の入力が完了したら、リターンキーを押して下さい。

次にパスワードを入力します。ユーザー名を入力した時とは違い、パスワードは横から見ている他の人にバレないように、タイプした文字は画面に表示されません。キーを打ち間違えないように注意して入力し、ここでリターンキーを押して下さい。



図 3.47 cc2000 の X 端末からのログインの SAMPLE

図 3.47 のようになりましたか？もし、ならなかった場合は、この後の「困ったときの対処」を参照してください。

3.6.7 ちょっとメッセージ

login すると、ときには利用者宛の通知、おしらせが以下のように画面に表示されるかも知れません。

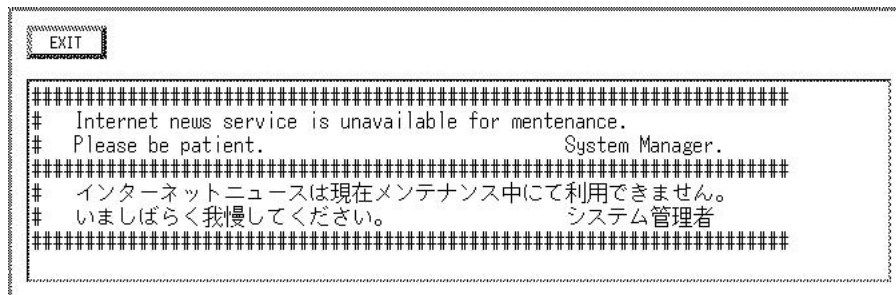


図 3.48 login 直後のメッセージ

よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。この表示はリターンキーを一度押すことによって消す事が出来ます。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談窓口まで連絡するのがいいでしょう。

3.6.8 ターミナルはあるかな？

画面の中に「kterm」というタイトルのついた以下のようなウィンドウがあるかどうかさがしてください。そのようなウィンドウが見つければ、ひとつ飛ばして「ターミナルは大丈夫かな？」まで進んで下さい。もしも見つからなければこのまま次に進んで下さい。

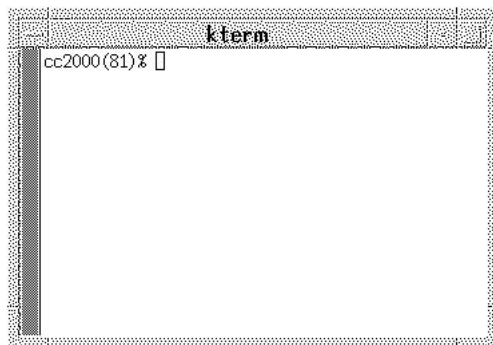


図 3.49 kterm

ターミナルを起動する

画面の背景、特にウィンドウの無い場所にマウスカーソルを持って行って、マウスの左ボタンを押せばなしにします。すると以下のようなメニューが現れるでしょう。この一連の操作を「ルートメニューを表示させる」と呼びます。

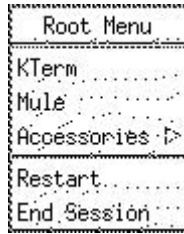


図 3.50 ルートメニュー

マウスのボタンを押したままにして、マウスカーソルを「Kterm」と書いてある行の上に持っていきます。「Kterm」の行の上まで来たならその場所でマウスボタンを離します。これで Kterm が起動されるはずです。

この一連の操作を「メニューから「Kterm」を選択する」と呼びます。このメニューでは「Kterm」が選択されると Kterm が起動するようになっています。

ターミナルは大丈夫かな？

ターミナルのウィンドウの左隅には cc2000(81)% などと表示されていると思います。(但し数字は違うかもしれません。)ここで試しに date とタイプしてリターンキーを押してみてください。文字をタイプしても cc2000(81)%に続いて表示されない場合は、ターミナルウィンドウがアクティブになっていません。一度 cc2000(81)% 辺りをクリックしてターミナルウィンドウをアクティブウィンドウした後、date とタイプし直してください。以下のように今日の日付と時間が表示されれば大丈夫、ターミナルを使える状態になっています。

```
cc2000(81)% date
1994年02月27日(日)20時05分03秒
cc2000(82)%
```

3.6.9 パスワードを変える

もしもこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、あまり安全とは言えません。必ずパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更して下さい。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で既に述べた事に注意してください。

パスワードを変更するには yppasswd コマンド¹² を利用します。上の節で説明したターミナルを見ると、

```
cc2000(81)%
```

などとなっていますね。(但し数字は 81 ではないかもしれません。)ここで yppasswd とタイプし、リターンキーを押します。すると以下のような状態に成りますね。(以下はユーザ名 yasuda の例。yasuda の部分にはあなたのユーザ名が表示されているはずです。)

```
cc2000(81)% yppasswd
```

¹² 綴りがちょっと変ですが、間違っていないです。

Changing NIS password for yasuda

Old NIS password:

指示通りここでは古い、つまり今先ほどまで使っていたパスワードをタイプし、リターンキーを押します。ここでは login の時と同じくパスワードをタイプしている間、横の人の覗き見によってあなたのパスワードがバレないように、タイプした文字は画面に表示されない事に注意してください。表示されなくともタイプした文字はちゃんと入力されていますから、安心して確実に一文字ずつタイプして最後にリターンキーをタイプして下さい。すると今度は以下のようなプロンプトを表示します。

New password:

では指示通り新しい、つまり次からこれにしようと言うパスワードをタイプし、リターンキーを押してください。ここでもタイプした文字は表示されません。今度は以下のようなプロンプトを表示します。

Retype new password:

これはいましがたタイプした新しいパスワードが打ち間違いで無いことを確認するためのものです。もう一度新しいパスワードをタイプしてリターンキーを押してください。今度は以下のような状態になります。

NIS passwd changed on ccnic

cc2000(82)%

この NIS passwd changed が表示されれば成功です。もしもパスワードが短すぎたりタイプミスがあったりしたらなんらかのエラーメッセージが表示されます。途中でおかしくなったと思う場合は C-c (つまりコントロールキーを押しながらCキーを押す) で cc2000(82)% を表示させます。それからもう一度 yppasswd コマンドをやり直します。

3.6.10 logout (セッションの終了)

他にやりたい事も色々あるでしょうが、今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみるという意味で、logout をこの場でやってみる事を勧めます。

画面の背景、特にウィンドウの無い場所にマウスカーソルを持って行って、マウスの左ボタンを押せばなしにします。すると以下のようなメニューが現れるでしょう。この一連の操作を「ルートメニューを表示させる」と呼びます。

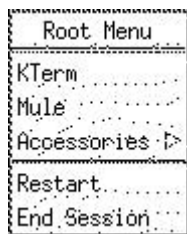


図 3.51 cc2000 のルートメニュー

マウスのボタンを押したままにして、マウスカーソルを恐らくは一番下にある「End Session」と書いてある行の上に持っていきます。「End Session」の行の上まで来たらその場所でマウスボタンを離します。こ

の一連の操作を「メニューから「End Session」を選択する」と呼びます。このメニューでは「End Session」が選択されると logout（セッションの終了）作業が行なわれるようになっています。

これが FMV の X での cc2000 からの logout 操作です。実際には logout という名前もコマンドも操作も実行しない事に注意して下さい。FMV から X で cc2000 を使っている場合ではつまり logout とはセッションの終了だという事です。セッション終了の操作を行なって数十秒すると、端末ソフトも自動的に終了処理がなされ、端末ソフトを起動する前の状態、つまり図 3.44 が表示された状態になります。もしもそうならなければセッション終了操作をやり直しです。

3.6.11 電源を切る

Windows を終了させるには、「Windows 終了」という絵（アイコン）をマウスポインタで二度クリックします。「Ms-Windows を終了します」という確認メッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。Windows の終了ができたなら、本体電源スイッチの上にオレンジランプが点灯していないのを確認してから、丸い電源ボタンを押してください。その次に、ディスプレイ装置の長四角のボタンを押してください。ディスプレイ装置、本体にグリーンランプの点灯がなければ電源が切れています。お疲れさまでした。

3.6.12 部屋を出る

パソコンの電源が切れたら部屋を出ます。このとき、部屋に誰も残らないようなら空調機、照明、ブレーカーを切って行きましょう。ブレーカーを切るときは、すべてのパソコンに電源が入っていないのを確認してからにしてください。

3.6.13 さて、さて、

最初の利用はこれでおしまいです。大変よくできました。あとは精進して UNIX ユーザへの道を歩まれるわけですね。それには UNIX での一般的なコマンド操作などについて説明している、4 へと進んで下さい。

3.6.14 困った時の対処

端末ソフトが起動しない

- 図 3.45 をマウスの左ボタンでダブルクリック時に失敗している事が考えられる。再度、図 3.45 をダブルクリックする。
- 表示はされているが、図 3.44 の後ろに隠れてしまっている事が考えられる。「Alt」キー（キーボード左下）を押しながら<ESC> キー（キーボード左上）を押して画面を切替えて探してください。

login ができない

- 赤い文字で「Login incorrect」と表示される。
ユーザー名かパスワードが間違っている事が考えられます。大文字、子文字等の入力間違いがないかを確認して、再度ユーザ名の入力からやり直しです。

文字が全角になる

- パソコンの日本語変換が起動されている事が考えられる。キーボードをタイプしても画面上にタイプした文字とは違うひらがなや漢字が表示されたり、画面右下に「あ自R漢」が表示されているであれば、「Alt」キーを押しながら「半角/全角」キー（キーボード左上）を押して、日本語変換機能を止めて下さい。画面右下の「あ自R漢」が消えます。

次は、84 ページの 4 へ進んでください。

3.7 FMV から telnet で cc2000 を使う

FMV は計算機科学研究所棟の C1 情報処理教室に設置してあります。FMV とは (株) 富士通が発売している IBM 製パーソナルコンピュータ (以下「パソコン」と呼ぶ) の互換機です。

ここでは計算機科学研究所棟 2 階の C1 情報処理教室の FMV から telnet 環境で cc2000 をホストコンピュータとして利用する手続きについて説明します。

C1 情報処理教室の FMV では端末ソフトとしてノベル株式会社の「Host Presenter」を利用します。これは telnet 環境を提供します。

FMV のキーボードでは、一般的にリターンキーと呼ばれるキー¹³には「Enter」と刻印されています。ここではこのキーを「リターンキー」と表現します。例示に<Return>と書いてある場合は FMV ではこの「Enter」キーを押して下さい。

3.7.1 まず部屋へ

この部屋は常時カードロックシステムが働いており、学生証を入り口のドア横の機械に通すことによって鍵が開きます。入室可能な時間帯、曜日、期間に限りがありますので、付録の「情報処理教室利用要項」を一読してください。もしもカードを通して鍵が開かない場合は、カードの向き、表裏、カードを通過させる速度 (遅すぎても速すぎても駄目) を変えてやってください。どうしても駄目な場合はカードの磁気情報がおかしくなっている可能性がありますので、カードを通す機械にあなたのカードでなぜ鍵が開かないか、その理由が出ていますので、それを控えて計算機センターまで連絡してください。

部屋に入るときは、そこで授業をやっていないことを確認しましょう。もし授業中であれば入室して利用していいかどうか指導教員に確認を取るのが礼儀と言うものです。部屋に誰も居なかった場合は照明、空調機、ブレーカー (供給元電源) が切れている場合があります。照明のスイッチは、部屋に入ったそのすぐ左手の壁にありますので、自分で適当に操作してください。空調機は、部屋の奥 (窓の下側) に 3 台取り付けてあります。スイッチは各空調機の左側上部の push 式扉の下に隠れています。部屋の温度を考えながら調整してください。ブレーカーのスイッチは、部屋に入って左側柱の奥にある黒いスイッチです。黒いスイッチが上向きになっている状態であれば電源が供給されています。部屋の管理そのものは計算機センター事務室が行っていますので、何か部屋の状態について質問、要望があるばあい、またコンピュータについての質問、要望なども計算機センターの相談窓口までお願いします。

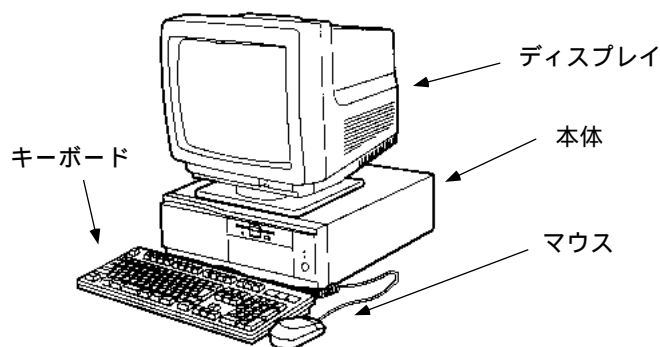


図 3.52 FMV 本体

¹³ キーボード真中やや右の大きなキー

3.7.2 電源を入れる

自分が利用するコンピュータを選びます。32台ありますので空いている場所を見つけて着席してください。その時、ディスプレイ装置（テレビみたいな物）、本体（ディスプレイ装置の下にある箱）にグリーンランプが点灯していないか確認してください。もし、グリーンランプが点灯しているのであれば、誰かがすでに利用しているのかもしれない。

ではまず、ディスプレイ装置（テレビみたいな物）の電源を入れましょう。ディスプレイ装置右端下に少し大きめの長四角のボタンがあります。その長四角のボタンの左横に小さい四角窓があり、グリーンランプが点灯していないのを確認してください。点灯していないようなら、長四角のボタンを押してください。グリーンランプが点灯しているのであれば、すでにディスプレイ装置に電源が入っています。次に、本体の電源を入れます。本体はディスプレイ装置の下にある四角い箱です。本体の電源は、右端真ん中にある丸いボタンです。電源がすでに入っている場合は、丸いボタンの上にグリーンランプが点灯していますので、グリーンランプが消えているのを確認してから、丸い電源ボタンを押してください。グリーンランプの点灯がディスプレイ装置、本体と確認できたら、しばらく（30秒ぐらい）待ってください。自動的にプログラムが起動されてマイクロソフト社の windows が立ち上がります。画面上に絵が表れたら、これで一段落です。

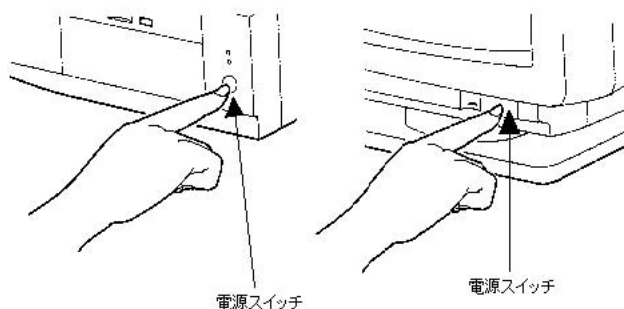


図 3.53 左図：F M V 本体の電源オン、右図：ディスプレイ装置の電源オン

3.7.3 Windows の動かし方

Windows が立ち上がった状態（画面上に絵が表示された状態）になっています。Windows は、色々な機能を満載しているながら、基本的な操作はほとんど共通に利用出来ます。焦らずゆっくりとマニュアルを読んで操作すれば大丈夫です。

C1 情報処理教室には、初心者向けに「Quick ユーザーズガイド」が設置してあります。「Quick ユーザーズガイド」のポイント1からポイント10まで、読まれることをお奨めします。52情報処理教室には、「今日から使える Windows3.1」と「機能ガイド」があります。「今日から使える Windows3.1」は初心者向けに書かれてありますので目を通すことをお奨めします。「機能ガイド」は Windows の詳細な機能が書かれています。

マニュアルの設置場所は、「マニュアルなど」の説明に書かれてありますので、そちらをお読みください。

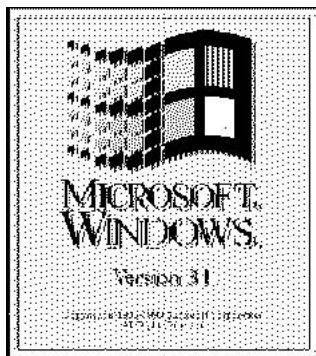


図 3.54 Windows 起動画面

3.7.4 Windows に関する基礎知識（絶対にやってはいけない事）

いきなり電源オフ

パソコンの操作方法がわからなくなってしまった時、ほとんどの方がとる手段が、電源を切ってしまうことです。これは絶対にしてはいけません。急に電源を切ってしまうと、パソコンの中の情報が破壊されて、次に電源をいれても正常に動作しません。あなたがパソコンの操作に迷った時は、取りあえず周りの人に聞くとよいでしょう。周りに人がいないのなら、部屋のコードレスホンで計算機センター相談窓口まで電話をしてください。それでほとんどが解決するはずです。いきなり電源を切らないでください。

書き込み中のフロッピー取り出し

フロッピーが動作しているかどうか（書き込み中であるかないか）を知るには、本体のやや真ん中右よりのフロッピー差し込み口を見てください。グリーンランプが点灯していれば、まさに書き込み中です。（52 情報処理教室の Contura ではランプは電源ボタンの上に並ぶランプの内のディスク・ドライブ・ランプです。図 3.30 を参照して下さい。因みにフロッピー差し込み口は本体右側面にあります。）このランプが点灯しているときに、フロッピーを取り出すと中身が壊れます。あなたが作った物すべてが読めなくなるかもしれません。フロッピーを取り出す時には十分注意しましょう。

むやみに削除を選択すること

Windows は自分が作成した文章、プログラムおよびパソコンを起動させるプログラムを簡単に表示、削除、移動、複写が行えます。あなたが作成した文章やプログラムを操作する分については問題がないのですが、パソコンにとって重要なプログラムを削除すると、特定の機能が使えなくなるか、パソコンが動かなくなります。もしわからなくなった場合は、周りの人に尋ねるか、計算機センター相談窓口まで問い合わせてください。

むやみに設定を変更すること

Windows には、色々な機能を満載していますが、その一つ一つは細々した設定がなされています。パソコンは不特定多数の利用者によって使われるますので、私たち計算機センターは可能な限りいつでも同じ環境を提供したいと思っています。設定が気に入らない場合もあるでしょうが、そのままの状態を使って

ください。もちろん「このようにした方がもっといいと思いますよ」といった提案はいつでも計算機センター相談窓口までお願いします。

3.7.5 端末ソフトの起動

まず端末ソフトを起動しましょう。

パソコン本体とディスプレイ装置に電源が入れば、自動的にマイクロソフト社の Windows が起動し、図 3.55 が現れます。

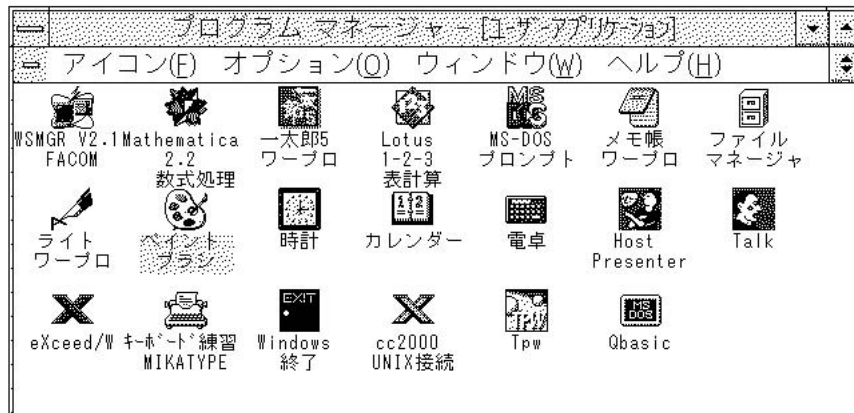


図 3.55 Windows 初期メニュー

図 3.55 の中の一つに「Host Presenter」図 3.56 があります。このアイコン（絵）にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせて、マウスの左ボタンをダブルクリック（連続 2 回押し）してください。Host Presenter が起動されます。



図 3.56 Host Presenter のアイコン

3.7.6 ホストコンピュータへの接続

端末ソフトが起動されたら、まずはどのホストコンピュータの端末になるかを指示します。

Host Presenter が起動されると、図 3.57 が画面に表示されます。もし画面に現れなかったら、あなたはソフトウェアの起動に失敗しています。もう一度図 3.56 にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせてマウスの左ボタンをダブルクリックしてください。それでも図 3.57 が現れない場合は計算機センター相談窓口ま

で連絡してください。

セッションのオープン

ホスト名(N)
cc2000

セッション名(S)
Unix (EUC) 京都産業大学

オープン(O) キャンセル ヘルプ(H)...

プロファイルのロード(L)

ログイン先のホストの名前

図 3.57 Host Presenter の初期画面

画面上には、図 3.57 が表示されており、ホスト名として「cc2000」が網掛けの文字として表示されています。(もし、表示されていない場合は、英小文字と数字で「cc2000」と入力してください。)そこでリターンキーを押して下さい。画面に図 3.58 のウィンドウが表示されます。

Unix (EUC) 京都産業大学

ファイル(F) 編集(E) 送出(T) VT機能キ(K) VTソフト機能キ(I) 設定(S)

UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)

login: _

図 3.58 cc2000 のプロンプト

ここで login: などと login の為の催促文字が表示されていることを確認して下さい。

3.7.7 さあ、login しよう

いよいよ login です。ここからはもうあなたのキーボードに対する入力はホストコンピュータに対する遠隔操作となっているのです。

ユーザ名とパスワードを入力しましょう。login: の後にあなたのユーザ名を入力して下さい。ユーザ名には大文字、小文字の区別があるので注意して下さい。ユーザ名の入力が完了したら、一度リターンキー

を押して下さい。次にパスワードを入力します。ユーザー名を入力した時とは違い、パスワードは横から見ている他の人にバレないように、タイプしてもその文字が画面に表示されません。キーを打ち間違えないように注意して入力し、もう一度リターンキーを押して下さい。

```
Unix (EUC) 京都産業大学
ファイル(F) 編集(E) 送出(I) VT機能+(K) VTソフト機能+(I) 設定(S)... ^L^P

UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)

login: sheryl
Password:
Last login: Wed Aug  3 10:11:38 from c1nf01.kyoto-su.
tcsh: using dumb terminal settings.
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3      Generic September 1993

cc2000(81)% _
```

図 3.59 cc2000 のログインの SAMPLE

図 3.59 のようになりましたか？もし、ならなかった場合は、この後の「困ったときの対処」を参照してください。

3.7.8 ちょっとメッセージ

login すると、ときには利用者宛の通知、おしらせが以下のように画面に表示されるかも知れません。

```
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3      Generic September 1993

4月15日深夜、ファイルサーバである ccnfs (cc2000) の
リポートが予定されています。
これにともない cc 環境の全てのマシンの利用が出来なくな
ります。夜間に長時間のジョブを実行する予定のある利用者
はそれまでに実行が終るように注意して下さい。

cc2000(84)% □
```

図 3.60 login 直後のメッセージ

よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談窓口まで連絡するのがいいでしょう。

3.7.9 パスワードを変える

もしもこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、あまり安全とは言えません。必ずパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更して下さい。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で既に述べた事に注意してください。

パスワードを変更するには `yppasswd` コマンド¹⁴ を利用します。上の節で説明したターミナルを見ると、

```
cc2000(81)%
```

などとなっていますね。(但し数字は 81 ではないかもしれませんが。)ここで `yppasswd` とタイプし、リターンキーを押します。すると以下のような状態に成りますね。(以下はユーザ名 `yasuda` の例。`yasuda` の部分にはあなたのユーザ名が表示されているはずです。)

```
cc2000(81)% yppasswd
Changing NIS password for yasuda
Old NIS password:
```

指示通りここでは古い、つまり今先ほどまで使っていたパスワードをタイプし、リターンキーを押します。ここでは `login` の時と同じくパスワードをタイプしている間、横の人の覗き見によってあなたのパスワードがバレないように、タイプした文字は画面に表示されない事に注意してください。表示されなくともタイプした文字はちゃんと入力されていますから、安心して確実に一文字ずつタイプして最後にリターンキーをタイプして下さい。すると今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
New password:
```

では指示通り新しい、つまり次からこれにしようと言うパスワードをタイプし、リターンキーを押してください。ここでもタイプした文字は表示されません。今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
Retype new password:
```

これはいまいがタイプした新しいパスワードが打ち間違いで無いことを確認するためのものです。もう一度新しいパスワードをタイプしてリターンキーを押してください。今度は以下のような状態になります。

```
NIS passwd changed on ccnic
cc2000(82)%
```

この `NIS passwd changed` が表示されれば成功です。もしもパスワードが短すぎたりタイプミスがあったりしたらなんらかのエラーメッセージが表示されます。途中でおかしくなったと思う場合は `C-c` (つまりコントロールキーを押しながら `C` キーを押す) で `cc2000(82)%` を表示させます。それからもう一度 `yppasswd` コマンドをやり直します。

3.7.10 `logout` をしよう

次は `logout` です。他にやりたいこともいろいろあるでしょうが、今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみると言う意味で `logout` をこの場でやってみることを勧めます。画面上に `cc2000(81)%` が表示されていることを確認してください。但し括弧の中の数字は気にしないでね!! 以下のように、`logout` `<Return>` と入力してください。

```
cc2000(81)% logout
```

¹⁴ 綴りがちょっと変ですが、間違っはけません。

3.7.11 端末ソフトを終了する

logout すると login する前と同じように、再び図 3.57 が表示されます。その一部分を拡大したのが、以下の図 3.61 です。この図の「キャンセル」にマウスポインタを重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリック（1 回押し）します。



図 3.61 Host Presenter の終了ボタン

図 3.57 が画面上から消えましたか？消えない場合は、マウスポインタが「キャンセル」の位置に重なっていない事が予想されます。もう一度マウスポインタを「キャンセル」の位置に重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリックして下さい。

では次に、画面上にはまだ、図 3.58 に良く似た画面が表示されていると思います。その図の左上部分に注目してください。図 3.62 です。「ファイル」という文字にマウスポインタを重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリックしてください。機能の一覧が表示されます。その最下行に「終了」があります。マウスポインタを「終了」に重ね合わせてマウスの左ボタンをクリックしてください。電源を入れた最初の状態（図 3.55 に戻ります。



図 3.62 Host Presenter の終了

3.7.12 電源を切る

Windows を終了させるには、「Windows 終了」という絵（アイコン）をマウスポインタで二度クリックします。「Ms-Windows を終了します」という確認メッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。Windows の終了ができれば、本体電源スイッチの上にオレンジランプが点灯していないのを確認してから、丸い電源ボタンを押してください。その次に、ディスプレイ装置の長四角のボタンを押してください。ディスプレイ装置、本体にグリーンランプの点灯がなければ電源が切れています。お疲れさまでした。

3.7.13 部屋を出る

パソコンの電源が切れたら部屋を出ます。このとき、部屋に誰も残らないようなら空調機、照明、ブレーカーを切って行きましょう。ブレーカーを切るときは、すべてのパソコンに電源が入っていないのを確認してからにしてください。

3.7.14 さて、さて、

最初の利用はこれでおしまいです。大変よくできました。あとは精進して UNIX ユーザへの道を歩まれるわけですね。それには UNIX での一般的なコマンド操作などについて説明している、4 へと進んで下さい。

3.7.15 困った時の対処

ホストコンピュータに接続出来ない

- 図 3.57 が表示されていない場合。図 3.56 をマウスの左ボタンでダブルクリック時に失敗している事が考えられる。再度、図 3.56 をダブルクリックする。
- 図 3.57 は表示されているが、図 3.55 の後ろに隠れてしまっている事が考えられる。「Alt」キー（キーボード左下）を押しながら<ESC>キー（キーボード左上）を押して画面を切替えて探してください。

login ができない

- 図 3.63 が画面に表示されて図 3.58 にならない場合がある。メモリの空きが少ないことが考えられる、必要以外のソフトウェアを終了し、再度実行する。

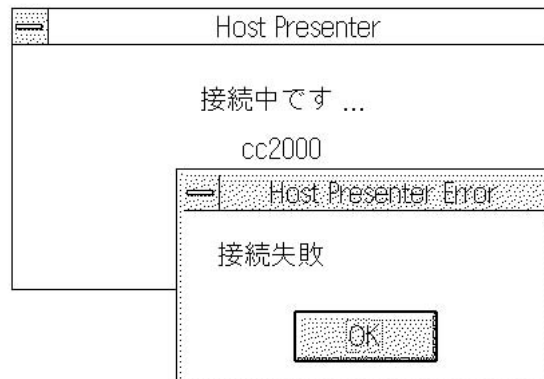


図 3.63 接続失敗の画面

- 図 3.64 のように login incorrect が表示される。ユーザー名かパスワードが間違っている事が考えられる。大文字、小文字等の入力間違いがないかを確認、再度入力して下さい。

```
← Unix (EUC) 京春
ファイル(E) 編集(E) 送出(I) VT機能+(K) VTソフト
UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)
login: sheryl
Password:
Login incorrect
login: SHERYL
Password:
Login incorrect
login:
```

図 3.64 login 失敗の画面

文字が全角になる

- 図 3.65 のように、sheryl と入力しているのに「しゑ r y l」と画面上に現れる事がある。これはパソコンの日本語変換機能が起動されている事が考えられる。画面右下に「あ自 R 漢」が表示されているのであれば、「Alt」キー（キーボード左下）を押しながら「半角 / 全角」キー（キーボード左上）を押して、日本語変換機能を止めてください。画面右下の「あ自 R 漢」が消えます。

```
← Unix (EUC)
ファイル(E) 編集(E) 送出(I) VT機能+(K) \
UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)
login: しゑ r y l
```

図 3.65 文字が全角になる

3.7.16 マニュアルなど

パソコンのマニュアルは部屋の右側に設置してあるロッカーに入っています。どうぞ自由に取り出してみてください。但し、持ち帰りはいけません!!。禁帯出です。大型汎用機である FACOM のマニュアルはロッカー横の書棚に設置してあります。これも自由にみてください。同じく持ち帰りはいけません。次は、84 ページの 4 へ進んでください。

3.8 DECpc から telnet で cc2000 を使う

DECpc は中央図書館の 1 階読書室内にあるパソコンコーナーに設置してあります。DECpc とは日本 DEC(株) が発売している IBM 製パーソナルコンピュータ (以下パソコン) の互換機です。ここでは中央図書館の 1 階読書室内の DECpc から telnet 環境で cc2000 をホストコンピュータとして利用する手続きについて説明します。中央図書館の 1 階読書室内の DECpc では端末ソフトとして寺西 高氏作の「Teraterm」、エムソフト社の「Emterm」があり、ここでは寺西 高氏作の「Teraterm」について説明します。これは telnet 環境を提供します。DECpc のキーボードでは、一般的にリターンキーと呼ばれるキー¹⁵ には「Enter」と刻印されています。ここではこのキーを「リターンキー」と表現します。例示に<Return>と書いてある場合は DECpc ではこの「Enter」キーを押して下さい。

3.8.1 まず部屋へ

この部屋は中央図書館の 1 階読書室内の一角に設けてあり、図書館が開館中であれば誰でも利用が可能です。部屋の管理は図書館が行っていますので、何か椅子、机など部屋の状態及びコンピュータについての質問、要望などがあれば図書館カウンタにお願いします。

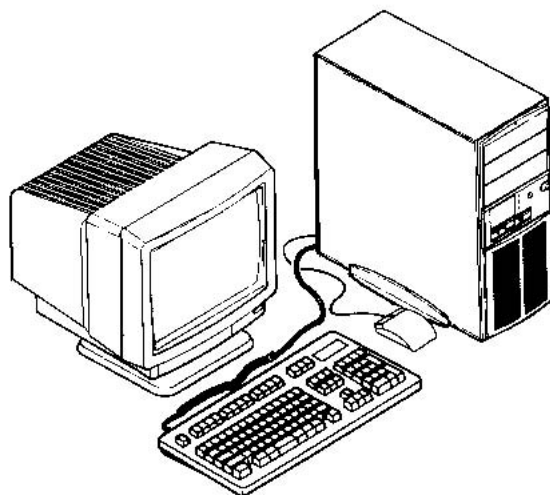


図 3.66 DECpc 本体

3.8.2 電源を入れる

自分が利用するコンピュータを選びます。12 台ありますので空いている場所を見つけて着席してください。その時、ディスプレイ装置 (テレビみたいな物)、本体 (ディスプレイ装置の左横にある箱) にランプが点灯していないか確認してください。もし、ランプが点灯しているのであれば、誰かがすでに利用しているのかもしれないので注意してください。では本体の電源を入れます。本体はディスプレイ装置の左横にある縦長の四角い箱です。本体の電源は、右端真ん中にある丸いボタンです。(図 3.67 参照)

¹⁵ キーボード真中やや右の大きなキー

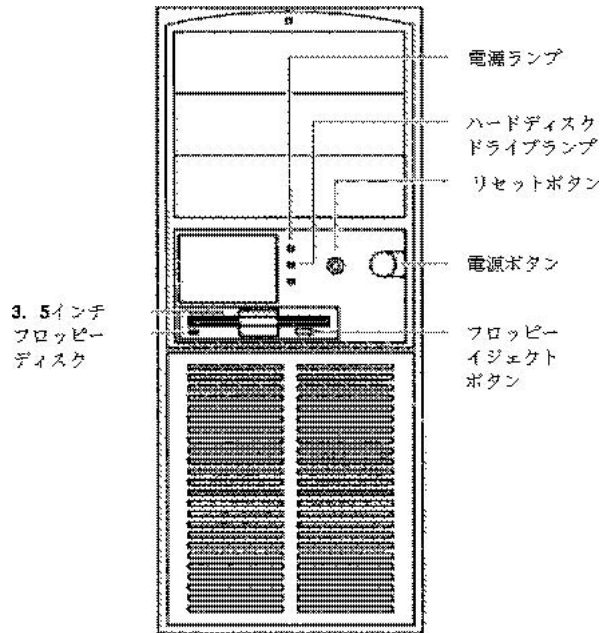


図 3.67 DECpc の電源スイッチ

電源がすでに入っている場合は、丸いボタンの左上にランプが点灯していますので、ランプが消えているのを確認してから、丸い電源ボタンを押してください。ランプの点灯が確認できたら、しばらく (30 秒ぐらい) 待ってください。マイクロソフト社の Windows 95 が立ち上がります。

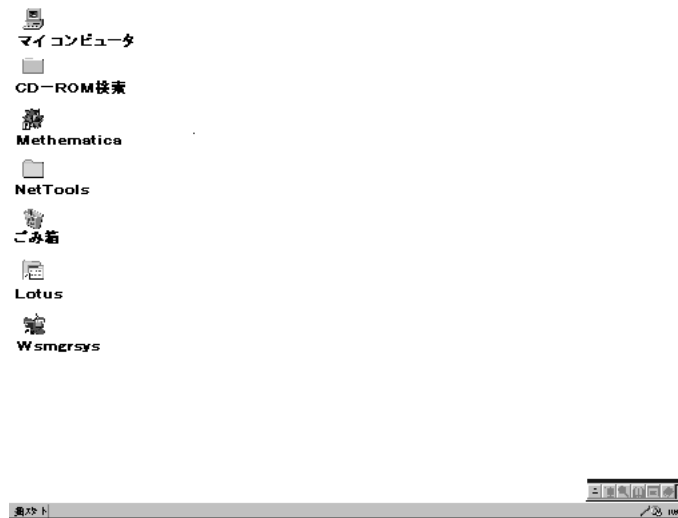


図 3.68 Windows 初期メニュー

3.8.3 端末ソフトの起動

まず端末ソフトを起動しましょう。画面上に図 3.68 が表示されていますね。その中に「NetTools」という絵（アイコン）があります。マウスカーソルを重ね合わせダブルクリックをしてください。画面上に図 3.69 が表示されます。



図 3.69 NetTools を開いた画面

図 3.69 の中の一つに「Teraterm」図 3.70 があります。このアイコン（絵）にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせて、マウスの左ボタンをダブルクリック（連続 2 回押し）してください。端末ソフトが起動します。



図 3.70 Teraterm のアイコン

3.8.4 ホストコンピュータへの接続

Teraterm が起動されると、図 3.71 が画面に表示されます。もし画面に現れなかったら、あなたはソフトウェアの起動に失敗しています。もう一度図 3.70 にマウスポインタ（矢印）を重ね合わせてマウスの左ボタンをダブルクリックしてください。それでも図 3.71 が現れない場合は図書館のカウンタまで連絡してください。図 3.71 の画面に注目してください。マウスポインタを「OK」ボタンに重ね合わせマウスの左ボタンを押すか、そのまま「Enter」キーを押してください。

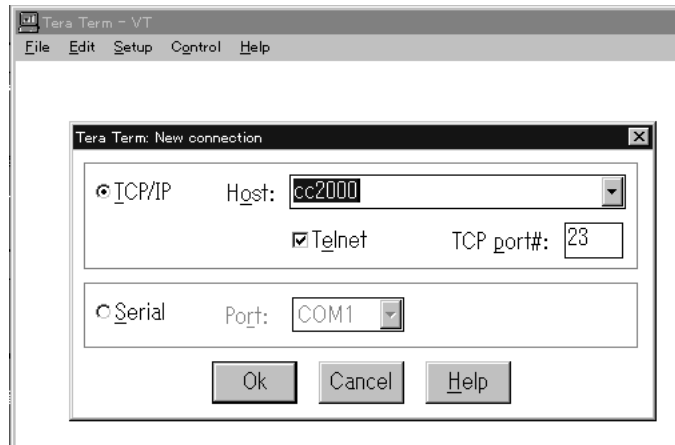


図 3.71 Teraterm の初期画面

画面に図 3.72 のウィンドウが表示されます。

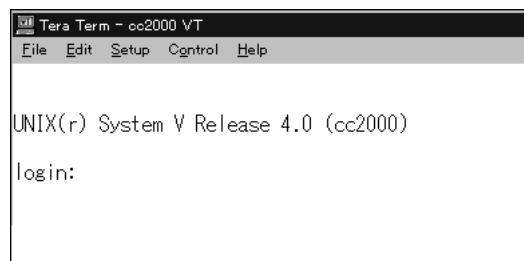


図 3.72 cc2000 のプロンプト

ここで login: などと login の為の催促文字が表示されていることを確認して下さい。

3.8.5 さあ、login しよう

いよいよ login です。ここからはもうあなたのキーボードに対する入力はホストコンピュータに対する遠隔操作となっているのです。

ユーザ名とパスワードを入力しましょう。login:の後にあなたのユーザ名を入力して下さい。ユーザ名には大文字、小文字の区別があるので注意して下さい。ユーザ名の入力が完了したら、一度リターンキーを押して下さい。次にパスワードを入力します。ユーザ名を入力した時とは違い、パスワードは横から見ている他の人にバレないように、タイプしてもその文字が画面に表示されません。キーを打ち間違えないように注意して入力し、もう一度リターンキーを押して下さい。

```
Tera Term - cc2000 VT
File Edit Setup Control Help

UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)

login: sheryl
Password:
Last login: Tue Feb 27 16:39:09 from sheryl
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.4 Generic July 1994
you have mail
cc2000(81)% █
```

図 3.73 cc2000 のログインの SAMPLE

図 3.73 のようになりましたか?もし、ならなかった場合は、この後の「困ったときの対処」を参照してください。

3.8.6 ちょっとメッセージ

login すると、ときには利用者宛の通知、おしらせが以下のように画面に表示されるかも知れません。

```
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3 Generic September 1993
4月15日深夜、ファイルサーバである ccnfs (cc2000) の
リポートが予定されています。
これにともない cc 環境の全てのマシンの利用が出来なくな
ります。夜間に長時間のジョブを実行する予定のある利用者
はそれまでに実行が終るように注意して下さい。
cc2000(84)% □
```

図 3.74 login 直後のメッセージ

よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談窓口まで連絡するのがいいでしょう。

3.8.7 パスワードを変える

もしもこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、あまり安全とは言えません。必ずパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更して下さい。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で既に述べた事に注意してください。

パスワードを変更するには `yppasswd` コマンド¹⁶ を利用します。上の節で説明したターミナルを見ると、

```
cc2000(81)%
```

などとなっていますね。(但し数字は 81 ではないかもしれませんが。)ここで `yppasswd` とタイプし、リターンキーを押します。すると以下のような状態に成りますね。(以下はユーザ名 `yasuda` の例。yasuda の部分にはあなたのユーザ名が表示されているはずです。)

```
cc2000(81)% yppasswd
Changing NIS password for yasuda
Old NIS password:
```

指示通りここでは古い、つまり今先ほどまで使っていたパスワードをタイプし、リターンキーを押します。ここでは login の時と同じくパスワードをタイプしている間、横の人の覗き見によってあなたのパスワードがバレないように、タイプした文字は画面に表示されない事に注意してください。表示されなくともタイプした文字はちゃんと入力されていますから、安心して確実に一文字ずつタイプして最後にリターンキーをタイプして下さい。すると今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
New password:
```

では指示通り新しい、つまり次からこれにしようと言うパスワードをタイプし、リターンキーを押してください。ここでもタイプした文字は表示されません。今度は以下のようなプロンプトを表示します。

```
Retype new password:
```

¹⁶ 綴りがちょっと変ですが、間違っはけません。

これはいましがたタイプした新しいパスワードが打ち間違いで無いことを確認するためのものです。もう一度新しいパスワードをタイプしてリターンキーを押してください。今度は以下のような状態になります。

```
NIS passwd changed on ccnic
cc2000(82)%
```

この NIS passwd changed が表示されれば成功です。もしもパスワードが短すぎたりタイプミスがあったりしたらなんらかのエラーメッセージが表示されます。途中でおかしくなったと思う場合は C-c (つまりコントロールキーを押しながらCキーを押す) で cc2000(82)% を表示させます。それからもう一度 yppasswd コマンドをやり直します。

3.8.8 logout をしよう

次は logout です。他にやりたいこともいろいろあるでしょうが、今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみると言う意味で logout をこの場でやってみることを勧めます。画面上に cc2000(81)% が表示されていることを確認してください。但し括弧の中の数字は気にしないでね!! 以下のように、logout <Return>と入力してください。

```
cc2000(81)% logout
```

3.8.9 端末ソフトを終了する

logout すると自動的に今まで表示していた画面が閉じ、最初の端末ソフトの起動する前の状態 図 3.69 のウィンドが表示されます。では、このウィンドを閉じます。ウィンドの一部分を拡大したのが、以下の図 3.75 です。この図の「X」にマウスポインタを重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリック (1 回押し) します。



図 3.75 ウィンドを閉じるボタン

図 3.69 が画面上から消えましたか?消えない場合は、マウスポインタが「X」の位置に重なっていない事が予想されます。もう一度マウスポインタを「X」の位置に重ね合わせ、マウスの左ボタンをクリックしてください。電源を入れた最初の画面に戻ります。

DECpc から telnet 端末環境で cc2000 を利用する場合に必要な手続きの説明は以上です。もちろんこの後パソコンの利用を終了する場合は、正しく決められた手続きで Windows を終了し電源を切って下さい。間違ってもこの段階でいきなり電源スイッチを切ったりしてはいけません。

3.8.10 電源を切る

Windows 95 を終了させるには、まず図 3.68 の状態であることを確認してください。画面上に「START」という文字が見えます。マウスポインタを重ね合わせ一度クリックすると、機能一覧メニューが表示されます。機能一覧メニューの「WINDOWS の終了」にマウスポインタを合わせマウスの左ボタンをクリックしてしてください。

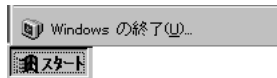


図 3.76 Windows 95 を終了するボタン

画面には、図 3.77 が表示されます。そのまま「Enter」キーを押して、しばらく待ってください。電源が切れる状態になれば画面にその旨のメッセージが表示されます。

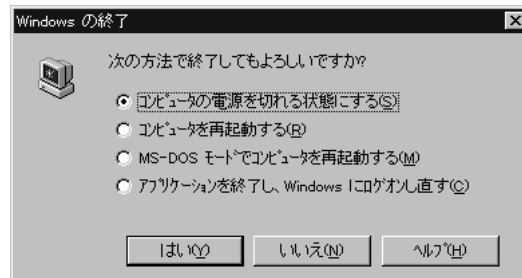


図 3.77 Windows 95 を終了する

3.8.11 部屋を出る

パソコンの電源が切れたら部屋を出ます。

3.8.12 さて、さて、

最初の利用はこれでおしまいです。大変よくできました。あとは精進して UNIX ユーザへの道を歩まれるわけですね。それには UNIX での一般的なコマンド操作などについて説明している、4 へと進んで下さい。

3.8.13 困った時の対処

ホストコンピュータに接続出来ない

- 図 3.71 が表示されていない場合。図 3.70 をマウスの左ボタンでダブルクリック時に失敗している事が考えられる。再度、図 3.70 をダブルクリックする。
- 図 3.71 は表示されているが、図 3.68 の後ろに隠れてしまっている事が考えられる。「Alt」キー (キーボード左下) を押しながら <ESC> キー (キーボード左上) を押して画面を切替えて探してください。

login ができない

- 図 3.78 が画面に表示されて図 3.72 にならない場合がある。接続先のホスト名が間違っていて入力されている可能性があります。接続しようとするホスト名をもう一度確認し再度実行してください。



図 3.78 接続失敗の画面

- 図 3.79 のように login incorrect が表示される。ユーザー名かパスワードが間違っている事が考えられる。大文字、小文字等の入力間違いがないかを確認、再度入力して下さい。

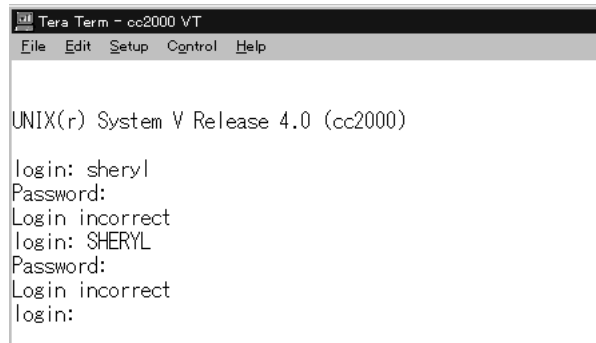


図 3.79 login 失敗の画面

文字が全角になる

- 図 3.80 のように、sheryl と入力しているのに「しゅりゃ」と画面上に現れる事がある。これはパソコンの日本語変換機能が起動されている事が考えられる。「Alt」キー（キーボード左下）を押しながら「半角/全角」キー（キーボード左上）を押して、日本語変換機能を止めてください。

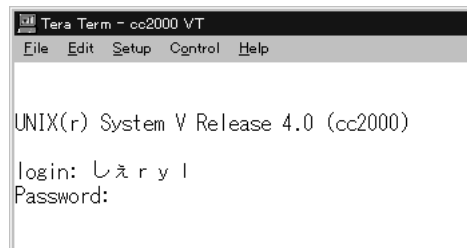


図 3.80 文字が全角になる

3.8.14 マニュアルなど

パソコンのマニュアルは部屋内の本棚に入っています。どうぞ自由に取り出してみてください。但し、持ち帰りはいけません!!。禁帯出です。

次は、84 ページの 4 へ進んでください。

第4章 UNIXそれから

ここでは計算機センターが管理している UNIX 環境を例に取りながら、比較的一般的な UNIX 環境の利用方法を説明します。ここでの説明は網羅的なものではなく、部分を取り上げて曖昧に説明しています。これは本文の読者のコンピュータそのものについての知識のハードルを高くしすぎないためです。読者が UNIX、つまりコンピュータの利用に慣れて行くにしたがって自分でマニュアル、書籍、ネットワークなどから情報を常に取り込んで理解を深めていくことが大切です。

4.1 基礎知識をもう一度

4.1.1 login

UNIX コンピュータを利用する為にはまず初めに、誰がこれから利用するのかをコンピュータに伝える login と呼ばれる作業をしなければなりません。本文では既に login が済んでいるものとして説明を続けます。また、ターミナルが起動され、コマンドを入力できる状態になっていることを前提にしています。機種ごとの login の方法、ターミナルの起動の方法については2の「UNIX はいかが?」をご覧ください。

ところで login するのは良いのですが、ときどき logout しない(もしくはセッションを終了しない)人がいます。logout しないと他の人がそのコンピュータを使えないばかりか、逆に他人に悪用されてしまいますから、しばらくしてまた戻ってくる場合でも席を外す際は logout するべきです。

4.1.2 キー表記

キーボードから様々な文字列を打ち込むことを「タイピング」と呼んでいます。「abc」と打ち込むことを「abcとタイプする」「abcと入力する」などと表現することもあります。UNIXでは通常のアルファベットや数字以外に、様々なキーがあります。例えばアルファベットの A と書かれたキーを押せば、小文字の「a」が入力されるでしょう。もしも大文字の「A」をタイプしたければ「シフトキー」を押しながら A キーを押すことになります。これらのことは既に2の2.4で説明しました。ですからこれ以降は「aBc」とタイプする、と書けば「アルファベットの A キーを押して、シフトキーを押しながら B キーを押して、C キーを押す」というように解釈してください。同様に、以下のような記述で様々なタイピングを表現します。

重要な語句の説明です。覚えてください!!

<Return>	リターンキーを意味します。
<Delete>	削除キーを意味します。一般的には Delete キーに当たります。
<Space>	空白キーを意味します。
<Tab>	タブキーを意味します。一般的にはアルファベットの Q の左にあります。
<ESC>	エスケープキーを意味します。一般的には数字の 1 キーの左にあります。
<Control> X	コントロールキーを押しながら X キーを押すことを意味します。
<ESC> X	エスケープキーを押してから X キーを押すことを意味します。
C-X	コントロールキーを押しながら X キーを押すことを意味します。
M-X	メタキー（一般的には <ESC>キーに同じ）を押してから X キーを押すことを意味します。

4.1.3 カーソル

タイピングしている最中に、次にキーを押したらどこにその文字が入力されて表示されるかを判り易くするために表示する目印のことを「カーソル (cursor)」と呼んでいます。形は状況に応じて様々で、丁度一文字分の大きさの（黒い長方形）だったり、| (縦棒) だったりします。他の文字と見分けが付き易いように点滅している場合もあります。

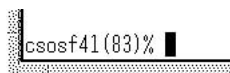


図 4.1 カーソルの例 (黒い長方形)

4.2 コマンド

4.2.1 コマンドって何だ？

コンピュータと言うのは機能の集合体だと考える事が出来ます。これからあなたが利用しようと思っているコンピュータの中には星の数ほどの(いやそんなに無いな、山ほどの)機能があり、その中から利用者は自分の希望の機能を選んで実行させるのです。山ほどの機能にはそれぞれ固有の名前が付けられており、利用者は機能をその名前を選ぶと言うわけです。逆に言うと機能の名前を知らなければどんなに便利な機能がコンピュータの中にあっても利用できませんし、名前を間違えて指定すれば、望みの機能とは違う機能が働き出します。この「機能にそれぞれ付けられている固有の名前」をコマンドと呼んでいます。山ほどあるコマンドを利用者が覚え易いように、その機能を連想し易い名前がコマンド名として付けられています。

あるコマンドを入力するとは、そのコマンドに対応する機能を実行するように指示するという事です。

4.2.2 プロンプト

コンピュータの利用と言うのは実際にはこのコマンド実行の繰返しだと言えます。コンピュータが「コマンドをどうぞ」と言うメッセージを表示し、利用者がコマンドを入力する。コンピュータはコマンドの結果をメッセージとして表示し、「次のコマンドをどうぞ」と、またメッセージを表示する。そして利用者が再びコマンドを入力する、という具合です。見方を変えればコンピュータと利用者はメッセージとコマンドで「対話」しているようにも見えます。このコンピュータが利用者との対話のために用いている「次のコマンドは何ですか?」という催促メッセージのことを一般に「プロンプト(prompt)」と呼んでいます。

cc環境での一般的なプロンプトは `cc2000(81)%` などと表示されます¹。cc2000でloginした直後に見えるウィンドウの左隅に見つけることが出来るでしょう。

4.2.3 簡単なコマンド

date コマンド

ここで一つ非常に簡単なコマンドを実行してみましょう。date コマンドです。プロンプトに続いて `date` <Return>とタイプしてください。以下のように時間が表示されるでしょう。つまりdateは日付と時間を表示するという機能のコマンドです。

以下に示す例は実際にあなたが試してみたときとは結果が違うでしょう。この例を試したときと、今とでは状況が違っているからです。これ以降に挙げる例も、全く同じ結果が表示されるとは限らないことに注意してください。

```
cc2000(81)% date
1997年02月25日(火)15時14分37秒 JST
cc2000(82)%
```

もしもdateとタイプしたのにその通りに入力できない様な場合は2の2.5.5をチェックして下さい。

もしも以下の様に `Command not found` などというメッセージが表示されてしまった場合はコマンドの打ち間違いです。もう一度、今度は正確にコマンドをタイプして下さい。

```
cc2000(81)% data
```

¹ 括弧の中の数字の意味は後でわかります。例と違って気にしないでください。

```
data: Command not found
cc2000(82)%
```

この正しくない操作を利用者が実行しようとしたためにコンピュータの方から「それは駄目だったよ」という意味のメッセージが返ってくる場合があります。このようなメッセージを一般に「エラーメッセージ」と呼んでいます。

hostname コマンド

hostname コマンドで自分が使っているコンピュータのホスト名を得られます。

```
cc2000(82)% hostname
cc2000
cc2000(83)%
```

上記の例から分かるように、cc 環境ではホスト名はプロンプトに含まれていつでも表示されています。

4.2.4 引数とオプションのあるコマンド

ls コマンド

ls コマンドで、コンピュータの中にどんなファイル²があるか確認することが出来ます。ls³ と入力してリターンキーを押してみましょう。

```
cc2000(81)% ls
Apps      Library  Mail     Wnn
```

もう少し詳しい情報を見てみましょう。ls -l⁴ としてリターンキーを押します。

```
cc2000(82)% ls -l
total 4
drwxr-xr-x  2 ozaki   512 Aug 29  1992 Apps
drwxr-xr-x  6 ozaki   512 Dec 10  1993 Library
drwx-----  5 ozaki   512 Nov  2  1993 Mail
drwxrwxrwx  2 ozaki   512 May 20  1996 Wnn
```

通常、辞書順(数字、アルファベット)に出てくるのですがこれを逆に表示するには ls コマンドに -r という指示を出します。

```
cc2000(82)% ls -l -r
total 4
drwxrwxrwx  2 ozaki   512 May 20  1996 Wnn
drwx-----  5 ozaki   512 Nov  2  1993 Mail
drwxr-xr-x  6 ozaki   512 Dec 10  1993 Library
drwxr-xr-x  2 ozaki   512 Aug 29  1992 Apps
```

² 後述。4.4 参照。

³ エル、エスです。

⁴ ハイフン、エルです。ハイフンとは引き算記号、つまり横棒のことで、たいていのキーボードでは横に並んでいる数字キーの 0 の右にあります。

この `-l` や `-r` などのように、コマンドの処理内容を少し変化させるような指示を「オプション」もしくは「コマンドオプション」と呼んでいます。オプションは大抵 `-` 記号（ハイフン）に導かれています。また、オプションが複数並ぶ場合については例のように `-l -r` と並べて書くことも出来ますし、縮めて `-lr` と書くことも出来る場合があります。つまり上記の例だと `ls -lr` と書いても同じ意味です。オプションは常にコマンドの後ろに書きます。逆に言うとコマンドが必ず一番前に来ます。

では、このうち、`Wnn` だけの情報を表示させてみましょう。説明の便宜上、オプションに `ld5` を指定して `ls -ld Wnn` と入力してリターンキーを押してください。

```
cc2000(147)% ls -ld Wnn
drwxrwxrwx  2 ozaki   512 May 20  1996 Wnn
```

この例ではコマンド (`ls`) に続いてキーワード (`Wnn`) を指定しましたね。この様にコマンドの後ろにそのコマンドが実行するために必要な情報を付ける場合があります。このコマンドの後ろに付けるものを「引数（ひきすう）」と呼んでいます。パラメータなどと呼ぶ場合もあります。引数は常にコマンドの後ろに書きます。逆に言うとコマンドが必ず一番前に来て、それからオプション、その後その他の引数という並びになります。

4.2.5 対話的なコマンドとそのサブコマンド

bc コマンド

`bc` コマンドで、簡単な四則演算電卓を利用することが出来ます。`bc <Return>` でカーソルが画面の左端で止まります。そこで四則演算の式を一行入力して `<Return>` すれば、すぐ次の行に結果が表示されます。プロンプトは特に表示されませんが、そこでまた式を入力すればまたその結果が表示されますから計算は何度でも繰り返して行えます。

```
cc2000(65)% bc
1 + 2 * ( 3 + 4 )
15
```

この状態では、コンピュータは四則演算の式を計算する `bc` コマンドの最中で、それ以外の利用者の指示は受け付けられません。式以外、例えば `date` のような通常のコマンドをこの状態でタイプしても以下のようにエラーメッセージを表示するだけです。

```
date
syntax error on line 1 (null)
```

計算を止めてコマンドプロンプトの状態に戻りたければ `quit <Return>` です。

```
quit
cc2000(66)%
```

`bc` などのように、コマンドの中には実行すると更にユーザからの指示を待つような（つまり「対話的な」）動きをするものもあります。`bc` における `quit` などのようにコマンドの処理中にユーザがそのコマンドに対して更に細かい指示を与えるコマンドの事を「サブコマンド」と呼んだりします。

⁵ エル、ディーです。d オプションはディレクトリ（後述）を表示させるものです。

4.2.6 コマンドの使い方を調べる

さて、コマンドと一口に言っても、どうやらその機能と名前を覚えるだけでは済みそうにないことが判りますね。コマンドをどれか一つ取ってみても、それぞれ独自のオプション、引数、もしくはサブコマンドなどがあり、どのコマンドにどんなオプション等があったかを覚えないと実際困りそうです。でもそんなものいつでも全部覚えておけるほどみんな暇ではありません。その為にコマンドの正確な機能、使い方を教えてくれるコマンドがあります。man⁶ コマンドです。例えば先ほど取り上げた `ls` コマンドのオプションなどを忘れてしまった場合にはすかさず `man ls` <Return> です。

```
cc2000(79)% man ls
```

```
ls(1)                                User Commands                                ls(1)
```

NAME

```
ls - list contents of directory
```

SYNOPSIS

```
ls [ -abcCdFgILmnoPqrRstux1 ] [ names ]
```

というわけです。このマニュアル表示は大抵一画面では収まり切りませんから、一ページごとに一旦停止します。<Space>で一ページ分送ります。<Return>で一行分送ります。この表示が送られて行く様子を「スクロール」と呼んでいます。全てを表示し切ったら `man` コマンドは終了します。一旦停止している状態で、`q` キーを押すと最後まで表示せずにその状態で `man` コマンドの表示を終了させることが出来ます。`h` キーか、`?` キーのいずれかを押せば、どのようなキーを押せば一旦停止後にどのような操作が効くかを表示してくれます⁷。

man によるマニュアルの書式

`man` コマンドが表示する内容を良く見てみると、幾つかの項目に分けて説明してあるのが判るでしょう。`ls` の場合だと **NAME**, **SYNOPSIS**, **AVAILABILITY**, **DESCRIPTION**, **OPTIONS**, **EXAMPLES**, **ENVIRONMENT**, **FILES**, **SEE ALSO**, **NOTES** という具合です。上記の項目分けは、全ての UNIX において全く同じではなく、幾らか違う部分もありますが大抵は共通の形式で書かれています。以下にその項目の意味を書いておきます。

- **NAME**, 名前

コマンドの名前とその概要。

- **SYNOPSIS**, 形式

コマンドの形式。コマンドに適用できるオプション、引数などを列挙します。

ここでの表記にはルールがあって、例えば `ls` の例を以下に挙げると、

```
ls [ -abcCdFgILmnoPqrRstux1 ] [ names ]
```

この [] に囲まれた部分は「なくてもいいよ」つまり省略可能だという事を意味しています。特に上記の例のように [] に多くのオプション文字がくられていた場合は、その中のどれでもピックアップして同時に与えていいよ、という意味です。また、... は、その直前のものを繰り返して書い

⁶ 「マニュアル (manual)」 のつもりで `man` です。

⁷ つまりこれらは「表示一旦停止機能」のサブコマンドと言うわけです。

てもいいよという意味です。つまり `ls` ではキーワードを複数書けるのですね。コマンドにオプションや引数をつけてタイプする場合、ここに表示された順番に注意して下さい。

- **FLAG, OPTION, フラグ, オプション**
それぞれのオプションの働きについて詳しく書いてあります。あるオプションとは相反する指示だから、これとこのオプションは同時に指定してはいけないよ、などということも書いてあります⁸。
- **DESCRIPTION, 機能説明**
コマンドの詳細説明。コマンドの機能が詳しく書かれています。ここにオプションの説明を含めている UNIX もあります。
- **FILES, ファイル**
コマンドに関係するファイル⁹ の名前が列挙されます。
- **SEE ALSO, RELATED INFORMATION, 関連項目**
コマンドに関連する項目。深い関係のあるコマンドなどが列挙されます。この項目は再び `man` コマンドで参照できますから、このコマンドのマニュアルだけを読んで良く判らない場合はここを追い掛けて行くのがお勧めです。
- **BUGS, バグ**
コマンド使用上の制限事項。コマンドの動きがどうもおかしいという時は注意してみましょう。

コマンド名を調べる

コマンドの名前が判らないのだけれど、このような機能を持ったコマンドを探したい、と言う時にも `man` コマンドは有効です。キーワードでコマンドを検索するオプションとして `-k` オプションがあります。`man -k password` などとすれば `password` に関係のあるコマンドなどの一覧が表示されます。結構沢山出ますが一行で一つのコマンドを紹介してくれています。一番目の項目がコマンド名、その次の括弧に囲まれた数字がマニュアルの分類番号で、残りがコメントです。

```
cc2000(86)% man -k password
conflict (8)          - search for alias/password conflicts
lock (1)              - Requests and verifies a user password
passwd (4)            - Password files
passwd, chfn, chsh (1) - Changes password file information
popwrd (8)            - Sets password for a POP subscriber
printpw (8)          - Outputs the contents of the password database
pwck, grpck (8)      - Checks the password and group files for inconsistencies
yppasswd (1)         - change password in Network Information Service (NIS)
yppasswdd, rpc.yppasswdd (8) - server daemon for modifying the Network Information Service (NIS) password file
cc2000(87)%
```

このような感じですね。上記の括弧に囲まれたマニュアルの分類番号の一覧を以下に示しておきます。この分類のことをセクションと呼んでいます。

⁸ こういうのを排他的なオプションなどと表現することもあります。

⁹ 後述。4.4 参照

セクション番号	分類
1	ユーザコマンド (一般利用者の為のコマンド)
2	システムコール (プログラム言語から利用します)
3	関数 (プログラム言語から利用します)
4,5	各種ファイルフォーマット
6	ゲームとデモ
8	保守用コマンド (システム管理者が利用します)

ところでこのセクション番号の割当てですが、UNIX によってちょっと違いがあります。セクション 1, 2, 3 位まではどの機種でも同じなのですが、4, 5 あたりについては上記の表は余り当てにならないことに注意して下さい。

さて、例に挙げた password キーワードでのマニュアル検索ではセクション 1 とセクション 4 と両方に `passwd` という項目がありましたね。ここで `man passwd` とすると常に前の方だけ、つまりセクション 1 の方についてだけが表示されます。このような状況でセクション 4 の `passwd` について知りたい場合は、`man` コマンドでセクション番号を明示してやります。ここでちょっと気にしなければいけないのはセクション番号の指定の仕方が UNIX によってまちまちだと言うことです。以下に DEC-3300 (OSF/1) の場合と SPARCcenter2000 (Solaris2) の場合をそれぞれ示します。

機種	OS 名称	コマンド記述
DEC-3300	OSF/1	<code>man 4 passwd</code>
SPARCcenter2000	Solaris2	<code>man -s 4 passwd</code>

4.2.7 UNIX によるコマンドの違い

UNIX は一種類ではなく各メーカーからたくさんの種類の UNIX コンピュータが出荷されています。UNIX はそれぞれのメーカーで独自に改造され、コマンドも少しづつ動きが違います。違う UNIX を採用している場合には、コマンド名は同じでもオプションが違うと言う事は良くあることです。先述の `man` コマンドもその例です。

cc 環境は ULTRA1 (Solaris2), SPARCcenter2000 (Solaris2), NeXTStation (NEXTSTEP) の UNIX マシンの混成です。このドキュメントは一般的な UNIX なら大抵あてはまるようにして書いていますが、今後例示されるコマンドのうちいくつかはその通りでは動作しない可能性があります。おかしいな、と思ったらすぐ `man` コマンドで確認する習慣を身につけましょう。

4.2.8 トラブルからの脱出

UNIX を操作していて、どうにもおかしな状態になってしまって困ることがあります。もう一度始めからやり直したいんだけど、今どういう状況なのか良く判らないなあどうしようどうしよう、こんなとき...

とにかくコマンドを中断して最初からやり直したい

C-c¹⁰ を試してください。何度か C-c するとうまくプロンプトに戻る場合があります。

¹⁰ これどういう意味って? 4.1.2 をもう一度確認してください。

でもキー入力が全然受け付けられていないようなんですけど

C-qを試してください。C-sでキー入力をロックしてしまう場合が時々あります。C-sの解除がC-qです。C-qの後でならキー入力が効くのでは無いでしょうか。

正確な表現をするとC-sでロックされているのはキー入力ではなく、画面表示です。つまりキー入力は受け付けられているのだけれども、その結果の表示がロックされているので、あたかもキー入力が効いていないかのように見えるのです。注意して見ればC-qの後に今までタイプしていた分と、その結果表示が一気に画面に表示されるはずですよ。

それでもC-cが効いてないようなんです

ええい、仕方がありません。C-zを試してください。それでSuspendedなどと表示されてシェルのプロンプトが表示されたらしめたものです。その状態ですぐさまkill %%とやってください。これをしないとプロセス¹¹が残ってしまいます。そのあとは普通にコマンドが打ち込める状態になっているのではないのでしょうか。

画面表示がどうにもおかしくなっているんです

Mule利用中であればC-lを試してください。<Control>と英字のLです。それ以外のコマンドなどで画面が乱れている場合はとりあえずC-cなどしてシェルのプロンプトまで戻り、そこでtsetコマンドを試してください。それでも駄目ならclsコマンド¹²を試してください。

それで戻らなければloginし直すのが早いですね。

でもやっぱりどうにもならないんです

仕方がありません。計算機センター相談窓口まで連絡下さい。情報処理教室なら備え付けの電話をお使いください。¹³

¹¹ 動作中のプログラムのことです。

¹² cc環境独自のコマンドです。一般のUNIXにはありません。

¹³ 聞くは一時の恥。一度聞いておけば次からは自分で対応できますし、自分の能力アップになります。

4.3 シェル

今までコマンドの例を挙げてきました。その時、コンピュータそれ自体が利用者からのコマンドを受け付けて逐一実行してくれているように書いてきましたが、じつはそれは正確な表現ではありません。いままで「cc2000(81)%」などのプロンプトを表示して、利用者からのコマンドを受け付けてくれていたのは「シェル」と呼ばれるプログラムだったのです。

コンピュータはいろいろなプログラムを実行できます。逆に言うと、コンピュータが実行できるのはプログラムだけです。利用者のキーボード入力からコマンドを受け付けてそれに対応するプログラム¹⁴を実行するための仕掛けがシェルなのです。勿論シェルもコンピュータの中ではプログラムで実現されていますから、シェルプログラムなどとも呼ばれます。とにかく利用者がキーボードからのコマンドでコンピュータを操作するときに、利用者とコンピュータを仲介してくれるプログラムなのだと考えてください。

参考

シェルは一種類ではなく、何種類もあります。一般的に UNIX でシェルと言えば `csch`¹⁵ がポピュラーなのですが、`cc` 環境では `tcsh`¹⁶ と呼ばれるシェルを標準的に採用しています。`tcsh` は `csch` の拡張版のようなもので、基本的な動作は `csch` と同じだと考えてください。世間一般で売られている `csch` のための書籍に書いてある事項は殆どそのまま `tcsh` にも適用できますので、安心して `csch` の参考書を使って貰って結構です。

4.3.1 コマンド入力時の編集

シェルには便利な機能があって、コマンドの入力時に利用者のタイピングを手助けしてくれたりします。今までタイピングで間違えたときには、`<Delete>` で一文字づつ戻って間違えたところから打ち直してくれと書いてきました。確かにこれが確実な方法なのですが、しかし例えば `ls -lgd nsgainamae` とタイプし終わったところで「あっ、`nagainamae` が `nsgainamae` になってる！」と気が付いた場合、最初から全て打ち直しになって悲しい思いをすることになります¹⁷。

しかし安心してください。ここでカーソルキーを紹介しましょう。カーソルキーとはリターンキーの少し右辺りに配置してある矢印キーのことです。カーソルについては既に 4.1.3 で説明しましたが、このカーソルが左矢印 (`<`) を一つ押すことによって一つ左に移動します。

上記の悲しい `nsgainamae` の例だと、左矢印キーを十数回押して `g` までたどり着き、そこで `<Delete>` を押して `s` を消し、それから `a` を押します。これでめでたく `ls -lgd nagainamae` が完成しましたね。ここで元気良く `<Return>` とすれば完成したコマンドで実行が行なわれます。

カーソルは右にも動きます。右矢印 (`>`) キーを押すことでカーソルが一つ右に移動します。そして同じように文字を消したり挿入したりできます。これで自由自在にカーソルを左右に移動して編集できますね。

カーソルを左右に動かしたりする編集キーには他にも幾つかあります。以下に一覧を載せておきます。

¹⁴ つまりそれがコマンドの本体なのですね。

¹⁵ 「しーしえる」と読んでください。

¹⁶ 「ていしーしえる」と読んでください。

¹⁷ 特にこのような打ち間違いをするのは初心者の方が多く、タイピングに慣れていない初心者にとっては非常に悲しいものです。

キー	アクション
左矢印 ()	一文字分左へ
C-b	左矢印に同じ
右矢印 ()	一文字分右へ
C-f	右矢印に同じ
C-a	コマンド行先頭 (左端) へ
C-e	コマンド行末尾 (右端) へ
<Delete>	カーソル位置の直前の一文字を消去
C-k	カーソル位置から末尾までを消去
C-u	コマンド行全てを消去

これでもう悲しい思いをせずに済みますね。

4.3.2 ヒストリ

コマンドを何度もタイプしていると、非常に良く似たコマンドを何度も繰り返したり場合によっては何度も同じコマンドを繰り返している事に気が付くでしょう。幾つか前に打ち込んだあのコマンドをもう一度!と思うこともあるでしょう。もっと悲しい場面としては非常に苦勞してタイプした長いコマンドが、実はタイプミスを含んでいてもう一度全部タイプし直さなくてはならない、と言う場合です。

しかし安心してください。そんな時に便利なのがヒストリ (history) 機能です。一つ前のコマンドを呼び戻すにはカーソルキーの上矢印 () キーを一度押します。そこで現れた一つ前のコマンドも、左矢印キーや右矢印キーでカーソルを移動させながら編集し直して実行することが出来ます。二つ前のコマンドを呼び戻すには上矢印キーをもう一度 (つまり二度) 押します。上矢印を押しすぎて、目標のコマンドより戻りすぎた場合は下矢印を押します。

キー	アクション
上矢印 ()	一つ前のコマンド
C-p	上矢印に同じ
下矢印 ()	一つ次のコマンド
C-f	下矢印に同じ

ここで history コマンドを試してください。一体どれだけのコマンドを覚えているかが判ると思います。上下の矢印キーによって、このヒストリの中を上下することが出来ると言うわけです。

```
cc2000(86)% history
  7  21:20  goto label
  8  21:20  man ls
..... (中略)
 82  21:48  ls
 83  21:48  date
 84  21:48  ls -l
 85  21:48  ls -ld Wnn
 86  21:48  history
cc2000(87)%
```

これでまた一つ悲しい思いをせずに済むようになりましたね。

4.3.3 イベント

また、history のリストを見ると、左に番号があるのが判ります。この番号はプロンプトの括弧の中に出てくる数字に一致しています。この番号で、何番目をもう一度実行せよ、という指示も出来ます。例えば 84 番目のコマンドを（もしくは 84 番目のイベントを）もう一度実行したいと言うときは !84 です。

```
cc2000(88)% !84
ls -l
total 4
drwxr-xr-x  2 ozaki  student   512 Aug 29  1992 Apps
drwxr-xr-x  6 ozaki  student   512 Dec 10  1993 Library
drwx-----  5 ozaki  student   512 Nov  2  1993 Mail
drwxrwxrwx  2 ozaki  student   512 May 20  1996 Wnn
cc2000(88)%
```

84 番目のコマンド `ls -l` が念のために !84 のすぐ次の行に表示されているのが判りますね。

また番号ではなく、一番最近に実行した `x` で始まるコマンドをもう一度実行するという指示も可能です。上記の例の状態、`!d` とすると 83 番目の `date` にマッチして、それが実行されます。

```
cc2000(89)% !d
date
1997年02月25日(火) 18時23分31秒 JST
cc2000(90)%
```

83 番目のコマンド `date` が念のために !d のすぐ次の行に表示されているのが判りますね。コマンド名のマッチングの為に ! に続けて指定する文字は何文字でも構いません。書いた文字数の分だけでマッチングし、一番最近のコマンドから逆にさかのぼって一番最初にヒットした（適合した）コマンドが実行されます。もしもさかのぼってヒットするコマンドがなかった場合は「そんなイベントはない」という意味のエラーメッセージが表示されます。実際「イベント」という、この機能にまつわる名前を見るのはこのときぐらいです。

これで随分幸せになりましたね。 (^_^) ¹⁸

¹⁸ これはフェイスマークといって、文字を組み合わせて顔を表しています。ほーら、笑っている顔に見えますね? :-) (このマークは本を横にして見てください)

4.4 ファイル

ファイルとは何かと言うことを本質的に理解できるようになるにはコンピュータの構造を知るところから始めなくてはなりません。これはファイルがコンピュータが発展する過程での歴史的経緯から発生し、現在に至っているからです¹⁹。

ここではファイルとは何か、と言う事については余り言及せず、その仕掛けを利用するとこんな事が出来る、というところを説明します。

4.4.1 でもやっぱりファイルって何？

気になる人の為に少し中途半端なものになるのを覚悟で「ファイル」とは何か説明しましょう。気にならない人は読み飛ばして下さい。

身のまわりの電化製品を見渡すと、ディスクやテープなどの「記録媒体」などと呼ばれるものを容易に見つけることが出来ると思います。例えば音楽を聞くのに使っているCD（コンパクトディスク）や、ビデオテープなどです。前者はキラキラ光る面に溝を刻んで、後者は茶色の鉄粉が塗ってあるテープに磁石で印を付けながら、とにかく「なにか」を記録していきます。UNIX コンピュータにもこれと同じように「なにか」を記録できる「ディスク」が幾つも付いています。きっとあなたも今までにワープロ用のフロッピーや、音楽用の MiniDisk など、コンピュータ用のディスクの類似品を目にしたことがあると思います。このディスクの中にいろんなものを記録していくわけですが、コンピュータのディスクはCDみたいに交換できない上に、UNIX コンピュータは大勢の人が使っているので、整理して「もの」を配置しないとどこに何を記録したのか判らなくなってしまいます²⁰。CDだってアルバム一枚に幾つもの曲を入れてますね。そうしないと5曲目だけ取り出すなんていう事が出来なくて不便です。

コンピュータのディスクの中にもものを記録する場合、記録はそれぞれ他の記録と混同しないように分割して残され、他の記録と区別するためにそれぞれ名前が付けられています。このそれぞれ名前を付けられたひとかたまりの情報の集まりを「ファイル」と呼んでいます。つまりコンピュータのディスクの中にはそれぞれ名前を付けられたファイルが幾つも記録されているということです。

4.4.2 ファイルの一覧を見る

UNIXに限らず現在市場に出ている殆どのコンピュータはファイルという形で情報（データなど）を格納しています。丁度様々な記録を紙に書いて、ファイル（file、書類差し）に入れて保存するようなものです。あなたの机に文書整理用のファイルがいくつも置いてあるように²¹、コンピュータの中のあなたの記録場所にも幾つもファイルを置くことが出来ます。幾つも作ることが出来るので、それぞれを区別するために名前が付けられています。「ファイル名」などと表現します。

ファイル名には実際には殆ど全ての文字が利用できます。しかし様々な理由から、ファイル名として利用する文字としては、アルファベット大文字、小文字、数字、_（アンダースコア）、-（ハイフン）、.（ピリオド）、,（コンマ）、:（コロン）、;（セミコロン）、#（シャープ）、~（オーバーライン）程度にするべきです。これら以外の記号文字、漢字などはファイル名としては利用しない方が無難です。また、ファイル名の長さは255文字が最大です。

ls²² コマンドで、今あるファイルの名前の一覧をチェックすることが出来ます。

¹⁹ などと書いていますが、実はこの文章を書いている人が良く理解していないから説明できないのです。すみません。

²⁰ 長らく使っている留守録用のビデオテープのように

²¹ ない人も、まああると思ってください。

²² 字が判りにくいかも知れませんが、英小文字の L と S です。list を縮めたつもりなのです

```
cc2000(82)% ls
Apps          Library      Mail          jsykojin.dic
cc2000(83)%
```

つまり「Apps」「Library」「Mail」「jsykojin.dic」という名前の4つのファイル²³があるということです。

4.4.3 試しにファイルを作ってみましょう

ファイルの一つの利用方法として、あなたが実行したコマンドの記録を取る方法を紹介します²⁴。script ファイル名 <Return>で、ファイル名のファイルにコマンドの実行結果が記録できます。ここでは例として時刻、実行しているマシンのUNIXの種類、ある月のカレンダーを表示させるコマンドを実行した記録を取ります。ファイル名として、とりあえず test を指定してみます。script コマンドの終了は exit です。つまり今回のサンプルでのタイピングは、

```
script test <Return> date <Return> uname <Return> cal 7 1999 <Return> exit <Return>
となります。
```

```
cc2000(83)% script test
Script started, file is test
cc2000(81)% date
1997年03月5日(水)23時22分51秒
cc2000(82)% uname
SunOS
cc2000(83)% cal 7 1999
      7月1999
日 月 火 水 木 金 土
          1  2  3
 4  5  6  7  8  9 10
11 12 13 14 15 16 17
18 19 20 21 22 23 24
25 26 27 28 29 30 31
cc2000(84)% exit
cc2000(85)% Script done, file is test
```

test という名前のファイルが出来た事を ls コマンドで確認しましょう。

```
cc2000(84)% ls
Apps          Library      Mail          jsykojin.dic test
cc2000(84)%
```

4.4.4 ファイルの内容を見る

cat ファイル名 <Return>で、出来たファイルの内容を表示する事が出来ます。

```
cc2000(85)% cat test
```

²³ cc 環境では作った覚えがなくても、上記の4つのファイル程度は既にホームディレクトリ(後述)に作られています。

²⁴ 学生のレポート提出などに有効でしょう。

```
Script started on Tue Mar 5 23:22:47 1997
```

```
cc2000(81)% date
```

```
1997年03月5日(水)23時22分51秒
```

```
cc2000(82)% uname
```

```
SunOS
```

```
cc2000(83)% cal 7 1999
```

```
7月 1999
```

```
日 月 火 水 木 金 土
```

```
1 2 3
```

```
4 5 6 7 8 9 10
```

```
11 12 13 14 15 16 17
```

```
18 19 20 21 22 23 24
```

```
25 26 27 28 29 30 31
```

```
cc2000(84)% exit
```

```
cc2000(86)%
```

```
script done on Tue Mar 5 23:23:19 1997
```

このように情報をファイルにする事によって、いつでも取り出せる形で保存する事が出来るのです。一般的には、ファイルは明らかに消すと言う操作をしない限り消えることはありません。logout して、再び login しても、コンピュータの電源を切っても残っています。

ファイルの内容が長い場合

cat コマンドでファイルの内容を表示させた場合、その内容が長いと一画面に入り切らずにどんどんスクロールして行ってしまいます。そのような場合には more コマンドで一画面ごとに表示を一旦停止させる事が出来ます。more ファイル名 <Return>です。

一旦停止している時に、以下のキーで様々なアクションを指示出来ます。

キー	アクション
<Space>	一画面分スクロール
<Return>	一行分スクロール
f	一画面分スキップして一画面分スクロール
b	二画面分戻って一画面分スクロール
h	どのキーを押せばどんなアクションをするかを教えてくれる

4.4.5 ファイル名を変える

ファイル名は変更することが出来ます。UNIX においてファイル名を変更するという作業は、実はファイルを別のところへ移動するということを意味します。つまり前のファイルは消えてなくなって、新しい名前生まれ変わるとい事です。コマンドは mv²⁵ です。引数が最低二つ必要で、最初の引数が元のファイル名、最後の引数が移動先のファイルです。例えば以下の例ではとりあえず test と付けたファイル名を log という名前に変えています。これはつまり test というファイルを log というファイルへ移動する、という事です。

²⁵ move を縮めたつもりなのです

```
cc2000(86)% mv test log
```

test という名前のファイルがなくなって log という名前のファイルが出来た事を ls コマンドで確認しましょう。

```
cc2000(86)% ls
```

```
Apps          Library      Mail          jsykojin.dic log
```

```
cc2000(87)%
```

4.4.6 ファイルの複写

ファイルはその内容をそっくりそのままに複写することが出来ます。コマンドは cp²⁶ です。引数が最低二つ必要で、最初の引数が元のファイル名、最後の引数が複写先のファイルです。例えば以下の例では log ファイルを log2 という名前で新しく作り、内容はそっくり log ファイルから引き写しています。先の mv との違いは、元のファイルがそのまま残る (cp) か、それとも消える (mv) かです。

```
cc2000(87)% cp log log2
```

```
cc2000(88)%
```

log2 という名前のファイルが増えた事を ls コマンドで確認しましょう。

```
cc2000(88)% ls
```

```
Apps          Mail          log
Library      jsykojin.dic log2
```

```
cc2000(89)%
```

4.4.7 ファイルの消去

ファイルは消去することが出来ます。逆に消去しない限りいつまでもそこに残っています。ファイルの置き場所は容量的には限りがあり、しかも複数の人で同じ置き場所を使っている場合が多いので、不要なファイルは削除するように心がけましょう。コマンドは rm²⁷ です。引数としてファイル名を与えます。例えば以下の例では log2 ファイルを削除しています。

```
cc2000(89)% rm log2
```

```
cc2000(90)%
```

log2 という名前のファイルが消えた事を ls コマンドで確認しましょう。

```
cc2000(88)% ls
```

```
Apps          Library      Mail          jsykojin.dic log
```

```
cc2000(89)%
```

²⁶ copy を縮めたつもりなのです

²⁷ remove を縮めたつもりなのです

4.5 ファイルを編集する

今まで扱ってきたファイルは、先ほど script コマンドで作成したものです。ファイルは、このようにして作成するばかりでなく、利用者が自分の好きなようにその内容を変更したり、情報を追加したり出来ます。例えば先の script コマンドで作成したファイルも、レポートのつもりであれば自分の学部、学科、氏名を先頭に入れたいものです。

そこでファイルを自由に編集する方法を紹介します。Mule です。ここでは Mule²⁸ を使ってファイルを編集する作業を簡単に説明します。Mule は全く多機能なソフトウェアで非常に多くの機能があります²⁹ が、ここではそれらのほとんどを説明しません。

4.5.1 Mule での作業の流れ

初めに Mule でファイルを編集するときの作業の流れを示しておきます。

- Mule の起動
- ファイル名の指定
- 編集
- ファイルの保存
- Mule の終了

Mule ではコントロールキーを押しながらの作業が多くなります。念のため今一度説明しておきます。

コントロールキーを押しながら x キーを押すことをここでは C-x と表記します。 エスケープキーを押してから x キーを押すことをここでは M-x と表記します。

4.5.2 Mule の起動

Mule を利用する環境には二通りあります。

- A. X ウィンドウ環境が目の前にある場合。計算機センターが管理しているコンピュータ環境における具体例としては ULTRA1 の前に座って利用している場合です。
- B. X ウィンドウ環境が目の前にない場合。計算機センターが管理しているコンピュータ環境における具体例としては、パソコンが置いてある情報処理教室から SPARCcenter2000(cc2000) を利用している場合などです。

いずれの場合も Mule でファイルを編集する場合のコマンド名は mule ですが、それぞれの場合に応じてすこし作法が変わります。以下に Mule を起動するところを別々に説明します。注意深く読んでください。図 4.2 に、最初にうまく Mule が起動できた場合の画面表示を示しておきます。

²⁸ 「みゅーる」と読んでください。

²⁹ それを全て紹介した本の厚さは軽く 2 センチありますね。

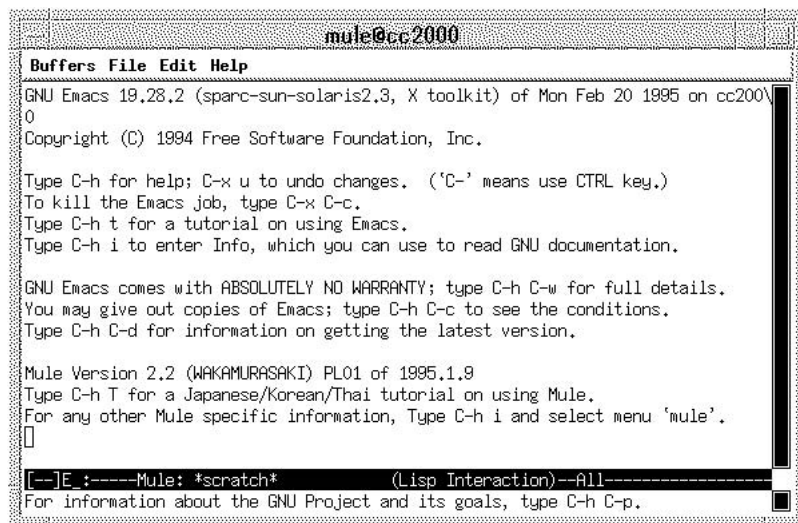


図 4.2 Mule の起動直後

Mule は起動すると常に最初の時点で画面内にメッセージを書いています。いつでも同じメッセージですので、特に気にしないで下さい。

Mule の画面を良く見ると、下から二行目に黒く色が反転した行がありますね。Mule は、この行を境にして、画面をそれより上の数十行の部分とそれより下の一行の部分に分けて使います。上から順番に以下のように呼ばれています。この呼び名は時々説明に現れますので、覚えてください。

- ウィンドウ 編集するファイルの内容が表示される。(X ウィンドウなどのウィンドウと区別するために Mule のウィンドウ、テキストウィンドウなどと表現することもあります。)
- モードライン 編集しているファイルなどについての情報が表示される。常に白黒反転して表示される。
- エコーライン Mule からのメッセージなどが表示される

4.5.3 A. の場合：X ウィンドウ環境での Mule の起動とエラー対策

mule & <Return>で Mule を起動します。

```
csso1001(85)% mule &
[1] 9503
csso1001(86)%
```

新たなウィンドウが一つ開いて、図 4.2 のような画面表示になると思います。もしもそうならない場合は、まず <Return>を一度押して、エラーメッセージがあるかどうかをチェックして下さい。エラーメッセージを見て以下のいずれの症状が発生しているかをよくチェックして、その対処を施し、もう一度 mule & コマンドを試みて下さい。

エラーメッセージ : Please set the environment variable TERM; see tset(1).

このエラーメッセージが表示された場合は以下のコマンドを実行し、再度 `mule & <Return>` です³⁰。

```
csso1001(86)% setenv DISPLAY unix:0.0
```

エラーメッセージ : Xlib: connection to "unix:0.0" refused by server 他

```
Xlib: connection to "unix:0.0" refused by server
Xlib: Client is not authorized to connect to Server
X server not responding. Check your DISPLAY environment variable.
```

上記のようなエラーメッセージが出た場合はちょっと問題です。本当にあなたが利用している環境は X ウィンドウ環境ですか？あなたが該当するのは B. のケースではないですか？一度確認してください。B. のケースであれば B. のケースでのこのエラーの欄を参照してください。

もし本当に X ウィンドウ環境でこのようなことが起きるのなら、以下のコマンドを実行し、再度 `mule & <Return>` です。「`'`」バッククオートに気を付けてください。

```
csso1001(86)% setenv DISPLAY 'hostname':0.0
```

エラーメッセージ : X server not responding. Check your DISPLAY environment variable.

上記のようなエラーメッセージが出た場合はちょっと問題です。本当にあなたが利用している環境は X ウィンドウ環境ですか？あなたが該当するのは B. のケースではないですか？一度確認してください。B. のケースであれば B. のケースでのこのエラーの欄を参照してください。

4.5.4 B. の場合 : 非 X ウィンドウ環境での Mule の起動とエラー対策

`mule <Return>` で、Mule を起動します。

```
cc2000(85)% mule
```

これで図 4.2 のような画面表示になると思います。もしもこうならない場合は、以下のいずれの症状が発生しているかをよくチェックして、その対処を施し、もう一度 `mule` コマンドを試みてください。

エラーメッセージ : Please set the environment variable TERM; see tset(1).

このエラーメッセージが表示された場合は以下のコマンドを実行し、再度 `mule <Return>` です。

```
csso1001(86)% set term=vt100
```

エラーメッセージ : Xlib: connection to "unix:0.0" refused by server 他

```
Xlib: connection to "unix:0.0" refused by server
Xlib: Client is not authorized to connect to Server
X server not responding. Check your DISPLAY environment variable.
```

³⁰ UNIX に慣れた人はおやっと思われるかも知れませんが、一般的に X 環境下で DISPLAY 変数が設定されていれば TERM 変数の問題でトラブルは出ないのです。故にまず DISPLAY 変数が設定されていないことを疑うべきです。

上記のエラーメッセージが表示された場合は以下のコマンドを実行し、再度 `mule <Return>` です。上記の `"unix:0.0"` の部分が多少違っていても対処は同じです。

```
csso1001(86)% unsetenv DISPLAY
```

エラーメッセージ : `X server not responding. Check your DISPLAY environment variable.`

上記のエラーメッセージが表示された場合は以下のコマンドを実行し、再度 `mule <Return>` です。上記の `"unix:0.0"` の部分が多少違っていても対処は同じです。

```
csso1001(86)% unsetenv DISPLAY
```

4.5.5 ファイル名の指定

Mule が無事に起動できたら、まずは編集するファイルの名前を指定しましょう。指定した名前のファイルが存在しない場合、Mule はその名前で作成したファイルを作成します。指定したファイルが既存のものならば、Mule はそのファイルを読み込みます。

起動した直後の状態では、モードラインの左の部分に `*scratch*` と表示されているでしょう。ちょっと覚えておいてくださいね。

ファイルを指定するためには `C-x C-f` です³¹。まずはじめに `C-x` を押してください³²。数秒待つとエコーラインに `C-x-` と現れるでしょう³³。ここで更に追い打ちを掛けるように `C-f` です。するとエコーラインには以下のように表示されますね。

```
Find File: ~/
```

この状態で編集したいファイル名をタイプし、そして `<Return>` です。今回は先ほど作成した `log` ファイルを編集する事にして、ファイル名のところに `log` とタイプしましょう。`<Return>` で `log` ファイルの内容が Mule のテキストウィンドウ部分に読み込まれましたね。

さて、先ほどちょっと覚えておいてと言っていたモードラインの左の部分に `log` と表示されているのが判りますか？つまりモードラインのこの位置は、今現在編集しているファイルの名前を常に表示しているのです。最初に `*scratch*` だったのはまだ何のファイルも編集していないよと示していたのです。

4.5.6 編集

いよいよファイルの編集です。テキストウィンドウには目標のファイルが読み込まれていますね。この状態で、カーソルは恐らくテキストウィンドウの左上端だと思われれます。この状態でタイピングすれば、カーソルのある位置にタイプした文字が入力されます。タイプした文字を消したい場合は `<Delete>` です。

カーソルの移動

カーソルは以下の方法でテキストウィンドウの任意の位置に移動することが出来ます。移動した先でタイプすればその文字がカーソルのある位置に入力されます。

³¹ `C-x` の意味は 85 ページを参照。

³² `C-x` の後で `<Return>` などしてはいけません。

³³ 実はこのエコーラインの表示を待つ必要はありません。慣れたら待たずに次のキーを押して下さい。

左矢印 (),C-b	カーソルを左に一文字移動
右矢印 (),C-f	カーソルを右に一文字移動
上矢印 (),C-p	カーソルを上に一文字移動
下矢印 (),C-n	カーソルを下に一文字移動
C-a	カーソルを行の先頭に移動
C-e	カーソルを行の末尾に移動
M-b	カーソルを左の単語に移動
M-f	カーソルを右の単語に移動
M-a	カーソルを文の先頭に移動
M-e	カーソルを文の末尾に移動

画面の移動

カーソルをどんどん下に動かして行けばいつかテキストウィンドウの下端に到達します。そこで更にカーソルを下に移動させれば画面が一ページ弱スクロールします。カーソルキー以外にも画面を移動させる方法としては、以下のキーがあります。

C-v	画面を下に（つまり次の画面に）移動
M-v	画面を上（つまり前の画面に）移動
M-<	文頭（つまりファイルの先頭に）移動
M->	文末（つまりファイルの最後に）移動
C-1	（<Control>と英字の L です。）カーソルのある行を画面中央に持ってくるように画面を移動

行の移動

Mule でしばらく編集していると、ある行の前後関係を入れ換えたい、もしくはある行を別の行を数行以上またいだ別の位置に移動したいと思うことがあるでしょう。このような場合は以下のステップを追うことで行の移動として実現できます。

1. 移動したい行を C-k で削除する。
2. 移動先にカーソルを移動させる。
3. C-y で 1. により削除した行を複写する。

つまり C-k を一度押すことによってカーソルの位置より右の一行分を削除することが出来ます。C-k を続けて何度か押すことによって更に下の行もまとめて削除することが出来ます。注意しなければならないのは、この削除の最中にカーソルを移動したり、何かほかの操作をしてはならないということです。あくまで連続した C-k の繰返しとして実行する必要があります。

移動する行の削除が済んだら、今度は移動先の位置にカーソルを移動させます。その後で C-y とすると、先ほど削除した行がその場所に割り込むように複写されます。

このようにしておこなう行の移動は、一行でも複数行でも構いません。C-y は何度でも行えますから、行の複製としても応用できます。C-k をやったすぐ後でカーソルを全く動かさずに C-y を実行すれば削除する前の状況に戻りますから、それからカーソルを移動してまた C-y をすれば、行を違う場所に複写することにも使えます。様々な応用が利く方法ですのでぜひ覚えてください。何度か失敗するかも知れませんが、機会を見てじっくり練習するのがお勧めです。

4.5.7 ファイルへの保存

カーソルを自由に動かして自分の思うようにファイルを編集したら、ここで保存をしましょう。ファイルは Mule に読み込まれて Mule の中で編集されているだけで、元のファイルは全く編集されずにそのまま残っています。Mule の中の編集された結果を元のファイルに書き込むことによって、編集の結果が反映されると言う仕掛けです。この種の操作を一般的に「保存」「セーブ (save)」と呼んでいます。

ファイルへの保存は C-x C-s です³⁴。保存がうまく行けばエコーラインに

```
Wrote /NF/home/syokuin0/sheryl/log
```

などと表示されます。

4.5.8 Mule の終了

さて、保存も済んだら Mule を終了したいところですが、再び 4.5.2 の場合分けに戻ります。

A. の場合だと、Mule は別の X のウィンドウとして起動されていますから、もともと Mule を起動したシェルが動いているウィンドウは別に残っており、そこでまた別のコマンドを実行できますから、特に Mule を終了する必要はないでしょう。シェルのウィンドウをクリックしてそちらをアクティブにするだけで良いですね。

B. の場合だと、Mule を終らないとシェルのプロンプトが現れず³⁵、次のコマンドが実行できませんから Mule を終らなければなりません。

いずれにしても Mule を終了するには C-x C-c です。もしもまだ保存していないファイルを編集集中に Mule を終了しようとした場合は、以下のようなメッセージがエコーラインに現れます。

```
Save file /NF/home/syokuin0/sheryl/log? (y ,n, !, ., q, C-r or C-h)
```

編集中のファイルを保存して Mule を終了する場合は y をタイプします。それでシェルのプロンプトが現れるでしょう。

保存しない場合は n をタイプします。この場合、Mule は念のためにもう一度以下のような確認の問い合わせをします。

```
Modified buffers exist; exit anyway? (yes or no)
```

今度は yes<Return>とタイプします。これで編集中の内容はファイルに保存されず、シェルのプロンプトが現れるでしょう。

4.5.9 Mule もっともっと

ここまでで非常に簡単に Mule の使い方を紹介してきました。でもこれだけの機能で日常的にファイルを編集するのはやはり不便があると思います。

実際、Mule にはもっともっとさまざまな機能があります。ここではさらに深く Mule の使い方を知りたい人のためにいくつかの方法を紹介しましょう。

³⁴ くだいですが <Return>キーなど押さずにコントロールキーを押しながら x s と押します。

³⁵ 実はそんな事はなくて Mule の中からシェルを呼び出すことも出来るのですが、ここでは説明しません。

その前にちょっとしたテクニック

Mule は非常に多くの<Control>キーや <ESC> キーを利用した機能があります。これらの機能を実行しようとして、キー操作を間違えてしまったり、操作の途中でおかしくなってしまった場合、下手をするとどんどんと深い失敗の谷に落ちて行くときがあります³⁶。そういう事にならないためには、やはり「あぶない」と思ったときにはすぐに作業を中断するのが得策です。Mule では作業の中断は一般的に C-g です。何が置けてもこれさえ覚えておけばもうそれ以上失敗の傷を広げることはありません。覚えておくといいでしょう。

もっと詳しいドキュメント

7 「Mule」に、より詳しい Mule の使い方についての説明がありますのでそちらを参照して下さい。また、付録の参考文献にも幾らか挙げておきますので、そちらも参照して下さい。

日本語をタイプしたい

今まではアルファベットをタイプする方法しか説明しませんでしたから、普通の人が日常的な言葉として使っている日本語を入力する事は出来ませんね。でも安心して下さい。Mule を利用して日本語も入力できます。これをコンピュータの世界では、かな漢字変換と呼びます。7.5 章に、Mule 上でのかな漢字変換機能についての説明がありますのでそちらを参照して下さい。

チュートリアル

Mule には自己学習の為の機能がついています。図 4.2 に出ている表示を良く読めば判るように、Mule を起動した後、C-h T³⁷ とすれば Language: と表示されます。そこで Japanese とタイプして<Return>して下さい。ここで先頭の J が英大文字である事に注意！シフトキーを押しながら J キーを押します。後はシフトキーを離してapaneseです。以下のような画面表示になると思います。



図 4.3 Mule 入門 (部分)

この入門編を読みながらそこに書かれている通りに操作をしていけば、Mule の殆どの機能について知ることが出来ます。(もしも入門編が英語で表示されたら先ほどの Japanese の綴りを間違えたのでしょうか。一旦終わってからやり直すのがお勧めです。)この入門編を終るには(勿論終わり方も入門編に書いてありますが)4.5.8 を読んで下さい。入門編を始めた時のモードラインを見れば判るのですが、TUTORIAL.jp という名前のファイルを編集している事になっています。その為、終了作業をすると以下のように保存するかどうかを問い合わせてくる場合があります。

³⁶ これが実は結構怖いんです。

³⁷ T は大文字の T です。つまりシフトキーを押しながらアルファベットの T キーを押します。

Save file /NF/home/syokuin0/sheryl/TUTORIAL.jp? (y or n)

ここで 4.5.8 の記述にしたがって保存しておくこのファイルが残ってしまいます。特に必要でない限りはここでは保存しないのがいいでしょう。チュートリアルの中に保存したとしても、もう要らないと思ったらこまめに `rm TUTORIAL.jp <Return>` で消去するのがおすすめです。

4.6 印刷

UNIX 環境では様々なものをプリンタから印刷する事が出来ます。cc 環境でも、幾つかプリンタを用意しており、これは cc 環境を利用出来るコンピュータからならどこからでも誰でも利用出来るものです。

4.6.1 どんなプリンタがあるか

cc 環境から利用出来るプリンタは以下の通りです。プリンタは複数あるので、それぞれ名前が付けてあります。

プリンタ名	設置場所
ccpr01	計算機科学研究所 2 階ミニコン室 (白くて小さな方)
ccpr02	計算機科学研究所 2 階ミニコン室 (茶色の大きな方)
cspr01	2 号館 4 階 21 情報処理教室
cspr02	2 号館 4 階 21 情報処理教室
clpr01	3 号館 2 階 31 情報処理教室
clpr02	3 号館 2 階 31 情報処理教室
clpr03	3 号館 1 階 32 情報処理教室
clpr04	3 号館 1 階 32 情報処理教室
clpr05	3 号館 1 階 32 情報処理教室
clpr06	3 号館 1 階 32 情報処理教室
clpr07	3 号館 1 階 32 情報処理教室
cepr01	5 号館 1 階 51 情報処理教室
c1kpr01	第 1 研究室棟 2 階共同利用室
c2kpr01	第 2 研究室棟 1 階共同利用室
c3kpr01	第 3 研究室棟 1 階共同利用室
cgpr01	11 情報処理教室
cgpr02	11 情報処理教室
cgpr03	11 情報処理教室
cgpr04	11 情報処理教室
c9pr01	9 号館

プリンタを利用する最初のときには、まずそのプリンタのある場所まで行って、実際どのプリンタに出力されるのか確認しておく事をお勧めします。上の表は恒久的なものではなく、様々な要因でプリンタは配置換えをしたり名前を変更したりされる可能性があります。この種の状況の変化については 4.7 に説明している `ccinfo` コマンドを利用して知ることができます。後で参照して下さい。

プリンタの名前はそれぞれのプリンタ自体に貼り付けてありますから、まずプリンタのところに行って、プリンタの名前を確認しておくことがトラブルを起こさないためには重要です。

4.6.2 ファイルの印刷

`lpr -P プリンタ名 ファイル名 <Return>`とすれば指定のプリンタに指定のファイルの内容を印刷する事が出来ます。

```
cc2000(81)% lpr -Pcspr01 log
```

-P オプションに続くプリンタ名の指定は、上記の例のようにくっつけて書いてください。

例えば -P cspr01 などとしてはいけません。第二の引数となるファイル名とプリンタ名の間には一つ以上の空白を開けてください。

注意

上記の方法でファイルを印刷する場合、どんなファイルでも印刷出来るとは限りません。cat コマンドなどで内容が確認出来るような文字ばかりのファイルに限ります。それ以外の、cat したら画面に変な文字がいっぱい表示されるようなファイルは印刷しないでください。プリンタが止まってしまったり無駄に数百ページ印刷されたりします。

4.6.3 印刷状況をチェックする

lpq -P プリンタ名 <Return>で指定のプリンタの現在の状況の確認が出来ます。プリンタの状態を表すメッセージが何行か帰ってきます。

プリンタがすいている状態

以下はプリンタに何も出力待ちのものが無い場合の例です。

```
cc2000(82)% lpq -Pcspr01
cc2000: Tue Mar  8 13:48:02 1994:
no entries
cc2000(83)%
```

上記のようではなく、単に no entries メッセージだけが返ってくる場合もあります。

プリンタがなにかを印刷している状態

以下のようなメッセージが帰ってきたら、それはプリンタが何か印刷している最中か、もしくは印刷のための準備中だと言う事です。

```
cc2000(88)% lpq -Pcspr01
cc2000: Fri Mar 11 15:29:59 1994:
cspr01 is ready and printing
Rank  Owner      Job  Files                Total Size
active tanaka    43   sample.ps           152 bytes
1st   yamada      46   test.text             8 bytes
cc2000(89)%
```

上記の例では tanaka さんの sample.ps というファイルが現在印刷中 (active) で、その次 (1st) の yamada さんの test.text というファイルが印刷待ちだと言う事です。

ユーザ名の右に出ている 43 や 46 の数字は印刷要求それぞれに割り当てられた番号で、ジョブ番号と呼ばれています。

4.6.4 印刷の取消し

一旦 `lpr` コマンドでプリンタに流し込んだ出力要求を取り消して、印刷しないようにできます。 `lprm -P` プリンタ名 ジョブ番号 `<Return>` です。一つ上の例の、yamada さんは慌て者で、間違っ別別のファイルを印刷するようにコマンドを実行してしまいました³⁸。この yamada さんの印刷要求に付けられたジョブ番号は 46 です。これを取り消す例を示します。

(自分以外の印刷要求は決して取り消すことは出来ません。)

```
cc2000(99)% lprm -Pcspr01 46
benkei.kyoto-su.ac.jp: dfA046cc2000 dequeued
benkei.kyoto-su.ac.jp: cfA046cc2000.kyoto-su.ac.jp dequeued
cc2000(100)%
```

上記のメッセージは例で、実際これとはかなり違ったメッセージが表示されるかも知れません。重要なのは `dequeued` で、このメッセージが表示されればまず間違いなく印刷要求は取り消されています。念のためにもういちど `lpq -Pcspr01 <Return>` などして印刷要求が消えていることを確認するのがいいでしょう。

4.6.5 利用上の注意

ちょっとひとこと

最近プリンタの紙の無駄遣いや古紙の散乱が目立ちます。プリンタに印刷しようと思ったら、紙は使い切っているわ、周りは古紙だらけで汚いわ、では困ります。印刷するなど言うつもりはありませんが、慣れるに従ってお互い無駄な印刷はしなくて済ませる様にし、また積極的に散乱しているプリント結果の整理整頓をお願いします。共有して利用するものへの愛情を忘れずにしてください。利用者全体のモラルが問われます。

プリンタのトラブル

プリンタを使っていると、時々紙詰まり（ジャムと呼ばれる）や印刷が薄いなどのトラブルが発生します。この種のトラブルが発生したら計算機センターまで連絡下さい。また、MiCS 補助員（計算機運用補助員）と呼ばれる学生が各情報処理教室を回っていますから、彼らに頼むのもいいでしょう。紙やトナー（インクのようなものです）の補給も彼らが行います。

大量の印刷をする場合

大量の印刷をする場合は他の利用者の迷惑にならないように、印刷要求の少ないときに行ってください。また、紙の補給を行わなければならない可能性のあるくらいページ数の多い印刷をしている場合は極力プリンタの見える位置で作業してください。

我々が利用しているプリンタは低速です。殆どのプリンタは毎分 6 ページ以下の印刷しか出来ません。これはつまり 60 ページのマニュアルを印刷するには 10 分以上掛かるという事です。他の人が何か印刷しようとしても、あなたのマニュアルを印刷し終わるまで 10 分も待たなくてはならないかも知れません。この点に注意して利用者みなでうまくプリンタを共用しましょう。

³⁸ こんな人が紙を無駄遣いするんですね。

ところで大量の印刷については、多少部屋が遠くても計算機科学研究所 2 階ミニコン室に設置してある ccpr02 を利用するのがお勧めです。このプリンタは最大毎分 20 ページの印刷が可能ですので、通常の 1/3 以下の時間で印刷が終了します。

4.7 状況の変化

cc 環境は全く固定的な環境では無く、常に変化しています。例えば先に挙げたプリンタの配置や名前は、新しいプリンタの導入や利用者の要求に応じて変化して行きます。このドキュメントは印刷物ですから、印刷した時点で固定されてしまいます。最近に起こった変化は反映されていない場合もあるでしょう。

それを解決するために cc 環境では ccinfo というコマンドを用意しています。これは cc 環境で配布されているドキュメントや様々な情報の最新のものを利用者が簡単に取り出せる事を目標に設定されました。

ccinfo<Return>で起動できます。以下のようなガイドメニューが表示されるでしょう。この ccinfo コマンドを起動した直後のメニューをトップメニューと呼んでいます。例えばプリンタの情報は「1. cc 環境の設備について」以下にあります。

```
cc2000(125)% ccinfo
```

ここでは一般的な情報の検索が可能です。

まずは分野を選んでください。

- 1 cc 環境の設備について
- 2 各種ドキュメント
- 3 ニュースグループについて
- 4 ネットワーク関係の情報
- 5 各種連絡先
- 6 そのほかの話題

番号を入力してください（0 で終了します）：

ccinfo コマンドは基本的にはメニューに表示される項目について、その番号をタイプすることによって選択する様になっています。番号として 0（ゼロ）を入力すると一つ前のメニューに戻ります。トップメニューで 0 を入力すると ccinfo コマンドそのものを終了します。

ccinfo コマンドのメニュー内容は常に更新され、その機能も常に変化していくでしょう。しかしどのように変化したとしても、基本的にはメニューの番号を選ぶか、問い合わせに対して y または n など返事をする事によって操作が進行するように作られています。

様々な情報が掲載されていますので、一度覗いてみることをお勧めします。

4.8 ファイルの階層構造

これまでで一般的なファイルの操作について説明してきました。ところで UNIX ではファイルは階層化されています。ここでは階層化されたファイルの概念と扱い方を説明します。

4.8.1 ディレクトリ

コンピュータをしばらく使っていると結構ファイルが増えて来て、そのうちのどのファイルが何のためのものだったのか分からなくなるものです。ls コマンドで一覧を見たら一画面では収まり切らなくなったりして大変な状況の人も出てくるでしょう。そうならないために例えばファイルの名前を長くして、その名前を見ればファイルの内容の想像が付くようにするなど利用者は色々な対策を取ったりします。しかしそういう手法で全てが解決するわけでもありませんね。

4の4.4で、UNIX が扱うファイルはあなたの机の上に並ぶファイルのようなものだと言いました。もしもあなたの机の上にファイルが非常にたくさん並びはじめ、ファイルの背表紙にちょっと長めの名前を書いておくくらいでは目的のファイルがどこにあるのかすぐに探せなくなってしまったとしましょう。あなたはどうしますか？

多くの方は「整理が必要だ」と感じるでしょう。ファイルを分類し、分類ごとに大きな区分を作ってファイルを束にして置いておけば良いと言うわけです。分類とは物事を階層化して整理するということです。まず大分類があって、それから中分類、更に必要なら小分類、と言う感じですね。以下に日常的な机の上の分類の例を示します。四角で分類、丸でファイルを表しています。

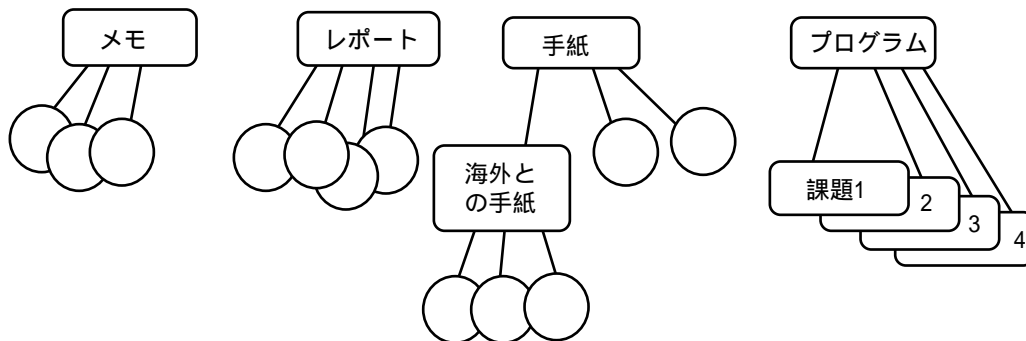


図 4.4 階層化された分類の例 (1)

UNIX でもファイルを階層化して整理することが可能です。以下に先の例に合うような階層化を行ったファイルの配置の例を示します。

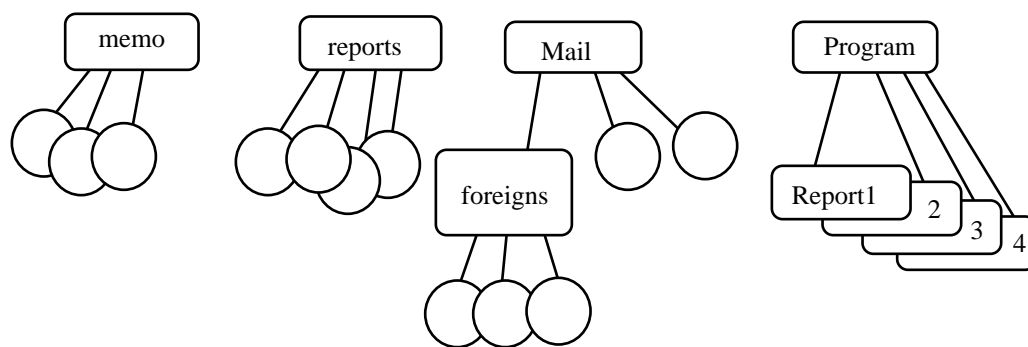


図 4.5 階層化された分類の例 (2)

しかし実は UNIX コンピュータは yasuda さん一人のものではなくて、数多くの人が同時に使っているということを忘れてはいけません。コンピュータにとっては、「yasuda のファイル」という分類がまず最初に既に存在しているのです。

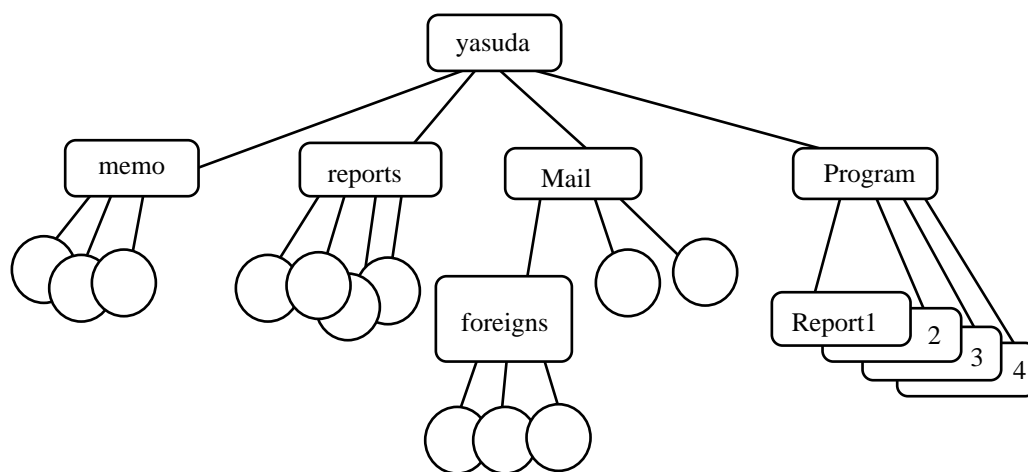


図 4.6 階層化された分類の例 (3)

そして「yasuda のファイル」は以下のようにもっと大きな分類の下に配置されているのです。

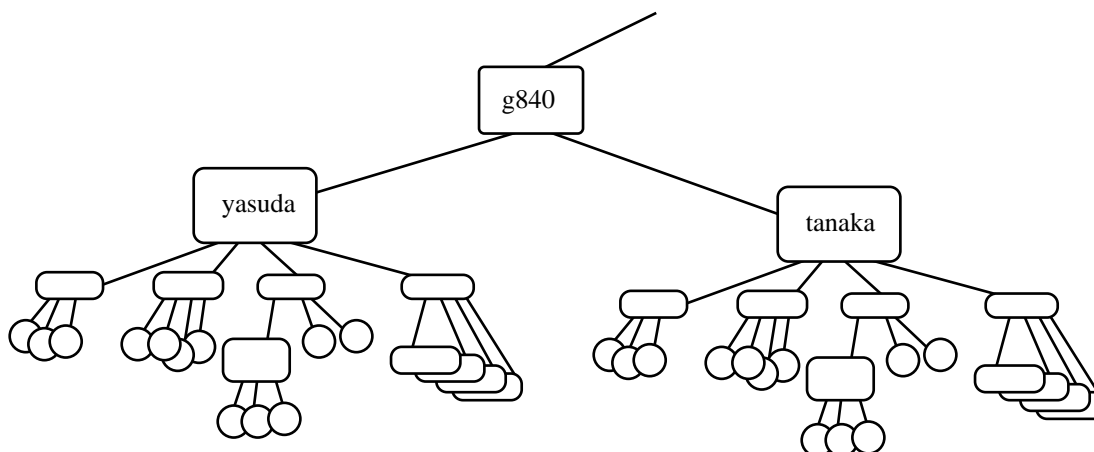


図 4.7 階層化された分類の例 (4)

上の例での「yasuda のファイル」より一つ大きい分類の名前は「g840」です。これは「ある年度に入学してきた学生のファイル」という意味の分類です。これよりもう少し上の存在として「全ての利用者のファイル」というものが有り、更にたどって行くと最終的に「全てのファイル」という最大の分類に到達します。

先ほどからの例では四角で表してきた、ファイルの分類なるものの存在を UNIX では「ディレクトリ³⁹」と呼んでいます。

UNIX では全てのファイルはたどって行けば「全てのファイル」を意味する唯一で最大の分類に到達します。この分類の根本（もしくは頂上）なるものの存在を「ルートディレクトリ⁴⁰」もしくは「トップディレクトリ」などと呼んでいます。

「yasuda のファイル」は実は yasuda という名前が付いたディレクトリなのです。この、利用者ごとに割り当てられた利用者自身のためのディレクトリを「ホームディレクトリ」と呼んでいます。ホームディレクトリは常に利用者のユーザ名が付けられて、利用者登録の際にシステム管理者⁴¹の手によって作成されます。利用者は自分のホームディレクトリ以下に自分のファイルもしくはディレクトリを作り、保存することが出来ます。

いくつかのディレクトリを挙げましたが、いずれにしてもディレクトリには違いありません。

UNIX のディレクトリとファイルの構造を見ると、それが木の根の構造のように見えると思います。また上下をひっくり返せばルートディレクトリを根にしてディレクトリの分類過程が枝のように、そしてファイルが葉のように見えるかも知れません。このようなイメージで表せる構造のことをコンピュータの世界では「木構造」「ツリー (tree) 構造」と呼んでいます。ディレクトリの木構造をディレクトリ・ツリーなどと呼んだりします。

ところで UNIX ではディレクトリはファイルの一種として扱われます。(扱われる、のです。普通のファイルとディレクトリはその意味に違いがあります。) そのため「ディレクトリファイル」などと表現されるときもあります。ディレクトリもファイルと同じ様に名前を付けてそれを他のものと区別して扱います。名前のルール（名前に利用できる文字、文字数の制限など）は普通のファイルと同じです。

³⁹ directory : 住所録？何故この呼び名を採用したのか、私は知りません。

⁴⁰ root directory : 根、ですね。

⁴¹ cc 環境におけるシステム管理者は計算機センターです

4.8.2 ツリー構造におけるファイル名の表記

ファイルにはファイル名が有ることは説明しました。しかし UNIX のディレクトリ・ツリーの中で名前によってそのファイルを指定するにはツリー構造を含めて表現できる方法が必要ですね。

絶対パスによるファイル名の表記

例えばユーザ名 yasuda さんのホームディレクトリの名前は yasuda です。このディレクトリファイルを、UNIX コンピュータ全体のツリー構造の中では「/NF/home/g840/yasuda」などと表現します⁴²。これが正にディレクトリ・ツリーの中で絶対的な位置と名前を表す表記法です。

先頭の「/」はルートディレクトリを表しています。それ以降の「/」はディレクトリ構造の区切り、つまり図 4.7 でのディレクトリとディレクトリもしくはファイルを結ぶ「線」に相当します。「/」には含まれた名前は全て途中に存在するディレクトリの名前であり、最後の名前はディレクトリ、もしくはファイルの名前です。

こうして表現することによってディレクトリ・ツリーの中で、名前によって完全にファイルが指示できるようになります。これを「絶対パスによるファイル名の表記」などと呼んでいます。絶対パスによる表記の場合、その表記はルートディレクトリを起点にして、たどって行くディレクトリの道のり (path : パス) を表現していると看做せます。

相対パスによるファイル名の表記

でも絶対パスによってしかファイルの名前が表現できないとしたらこれは非常に不便なことです。例えば yasuda さんが自分のホームディレクトリの直下にある log というファイルを old-log という名前に変えたいと思ったときに、こんな風にコマンドを書かなくてはなりません。

```
cc2000(82)% mv /NF/home/g840/yasuda/log /NF/home/g840/yasuda/old-log
```

いやこれはたまりません。これでは単に長い名前をファイルに付けているようなもので、何のためにディレクトリと言う概念を導入したのか判りません。

そこでファイルを表現するのに、ディレクトリ・ツリーの前半部分をタイプしなくても済むように覚えておいて、ツリーの残りの部分だけ表現すればいいような表記方法があります。そのために UNIX のシェルは、常にディレクトリ・ツリーのどれか一つのディレクトリに注目しています。そのディレクトリまでのツリーの記述は省略可能となるわけです。例えば先の例の mv において、今注目しているディレクトリがホームディレクトリだったとすると、以下のようにコマンドを短く書くことができます。

```
cc2000(82)% mv log old-log
```

この「今注目しているディレクトリ」もしくは「今省略可能であるディレクトリ」を「カレントディレクトリ⁴³」もしくは「ワーキングディレクトリ」と呼んでいます。カレントディレクトリはコマンドによって変更することが出来ます。(後述)

pwd コマンドでカレントディレクトリを確認する事が出来ます。

```
cc2000(81)% pwd
/NF/home/g840/yasuda
cc2000(82)%
```

⁴² あなたのホームディレクトリはあなたのユーザ名が使われているはずですが。実際のあなたのホームディレクトリの名前が知りたければ login 直後に pwd コマンドで確認できます。

⁴³ current directory : 現在のディレクトリ

先の例の、省略された mv コマンドのファイルに関する表記では、この/NF/home/g840/yasuda が省略されていた⁴⁴ と言うわけです。

ところで、login 直後のカレントディレクトリは常にホームディレクトリです。つまり今まで 4 の 4.4 などでも試してきたファイルは、この省略された表記法によって表現された、あなたのホームディレクトリ直下にあったファイルだったのです。ls コマンドなどでその一覧が表示されていたのも、あなたのホームディレクトリ以下の内容だったというわけです。

こうして表現することによってディレクトリ・ツリーの中で、簡単な表記によってファイルが指示できるようになります。これを「相対パスによるファイル名の表記」などと呼んでいます。相対パスによる表記の場合、その表記はカレントディレクトリを起点にして、たどって行くディレクトリの道のり (path : パス) を表現していると看做せます。

パスによる表記でもう少し

言い遅れましたが「絶対的な表記」と「相対的な表記」の区別は、その表記の先頭が「/」であるか否かで判断されます。

また、パス中には以下の記号が利用できます。

記号	意味
.	カレントディレクトリを意味します 例えば ./sample と書けば、カレントディレクトリにある sample というファイルを意味します。つまり単に sample と書いたのと同義です。(しかしそう書いたのでは駄目な場合もあるので。)
..	一つ上のディレクトリを意味します。 例えば ../sample と書けば、カレントディレクトリの一つ上のディレクトリにある sample というファイルを意味します。 例えば ../../sample と書けば、カレントディレクトリの二つ上のディレクトリにある sample というファイルを意味します。

また、シェルからコマンドの引数としてファイルを記述するとき、パスの先頭であれば以下のような書き方も出来ます。(但し sh では駄目です。tcsh か csh で有効です。)

記号	意味
~	自分のホームディレクトリを意味します
~username	ユーザ名 username のホームディレクトリを意味します

4.8.3 ディレクトリの扱い

ディレクトリの作成

ディレクトリを作成するには mkdir⁴⁵ コマンドを利用します。書式は以下の通りです。

mkdir ディレクトリ名...

⁴⁴ 厳密には pwd の結果の最後にもう一つ/ を付けないといけませんね。

⁴⁵ make directory の略なのです。

ディレクトリの消去

ディレクトリを消去するには `rmdir`⁴⁶ コマンドを利用します。書式は以下の通りです。

```
rmdir ディレクトリ名...
```

ディレクトリの消去は、そのディレクトリより下にディレクトリまたはファイルが含まれていては出来ません。消去したいディレクトリ以下のファイルまたはディレクトリを `rm` または `rmdir` コマンドで予め消しておいてください。

カレントディレクトリの表示

カレントディレクトリを表示するには `pwd`⁴⁷ コマンドを利用します。書式は以下の通りです。

```
pwd
```

カレントディレクトリの変更（移動）

カレントディレクトリを変更するには `cd`⁴⁸ コマンドを利用します。書式は以下の通りです。

```
cd [ディレクトリ名]
```

login した直後はカレントディレクトリは常にホームディレクトリです。それから `cd` コマンドでどこかのディレクトリに移動しても、単に `cd<Return>`（つまり引数であるディレクトリ名を省略）とすると、常にホームディレクトリに移動します。

4.8.4 ディレクトリを意識したコマンドの書き方

今まで紹介してきたファイルを扱うコマンドは、そのほとんどがディレクトリに対しても適用できます。これ以降に以下の図の状況を例に取って説明します。

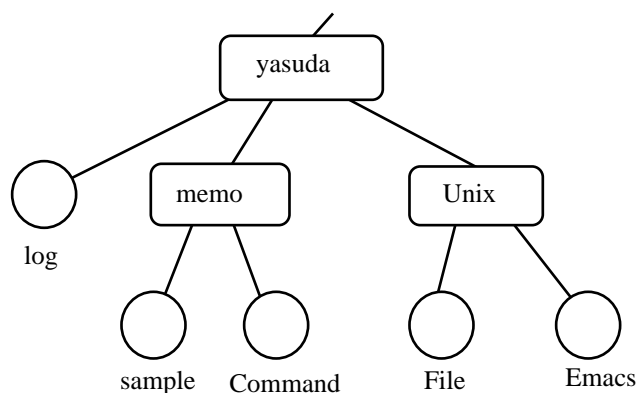


図 4.8 ディレクトリの例

⁴⁶ remove directory の略なのです。

⁴⁷ print working directory の略なのです。

⁴⁸ change directory の略なのです。

まずは練習材料を作る

まず初めに練習のために図 4.8 の状況を作るのがおすすめです。以下にその手順を示します。今のカレントディレクトリはホームディレクトリではないかも知れませんが念のために最初に `cd<Return>` してホームディレクトリに移動しておきましょう。

```
cc2000(84)% cd
cc2000(84)% mkdir memo Unix
cc2000(84)% ls
Apps          Mail          jsykojin.dic  memo
Library       Unix          log
cc2000(84)%
```

ファイルのコピー

`cp` コマンドには以下の 3 通りの書き方があります。

1. `cp [-i] file1 file2`
2. `cp [-i] file... dir`
3. `cp -r dir1 dir2`

`-i` オプション⁴⁹ を与えると、コピーする際に同名のファイルが既に存在し、コピーすることによって書きされて元の内容がなくなってしまうような場合に実行してよいかどうか問い合わせを行う。これに `y` と答えると実行し、それ以外の入力であれば実行しない。

1. の書き方では、`file1` は `file2` に単にコピーされます。
2. の書き方では、(もし複数書けば複数の) `file` は、`dir` のすぐ下に元のファイル名でコピーされます。
3. の書き方では、`dir1` 以下のファイルを全て含めてディレクトリごと `dir2` のすぐ下に元のファイル名、ディレクトリ名でコピーされます。`dir2` が存在しないとそれを作成して、`dir1` 以下のファイルを全て `dir2` のすぐ下に元のファイル名、ディレクトリ名でコピーされます。

例えば `log` ファイルを `memo` ディレクトリ以下に同じく `log` という名前でコピーする場合、以下のようなさまざまな表現が出来ます。

カレントディレクトリ	書き方	コマンド記述
yasuda	1.	<code>cp log memo/log</code>
yasuda	2.	<code>cp log memo</code>
memo	1.	<code>cp ../log log</code>
memo	1.	<code>cp ../log ./log</code>
memo	2.	<code>cp ../log .</code>

例えば `sample` ファイルを `Unix` ディレクトリ以下に同じく `sample` という名前でコピーする場合、以下のようなさまざまな表現が出来ます。

⁴⁹ inquiry 問い合わせ、のつもりでしょうか

カレントディレクトリ	書き方	コマンド記述
yasuda	1.	cp memo/sample Unix/log
yasuda	2.	cp memo/sample Unix
memo	1.	cp sample ../Unix/sample
memo	2.	cp sample ../Unix

例えば memo ディレクトリをツリーごと Unix ディレクトリ以下にコピーする場合、以下のようになります。(今度は書き方は 3. しかありません。)

カレントディレクトリ	コマンド記述
yasuda	cp -r memo Unix
memo	cp -r ../memo ../Unix (どういうわけか cp -r . ../Unix は駄目なのです)
Unix	cp -r ../memo .

この結果、ディレクトリ・ツリーは以下のようになります。

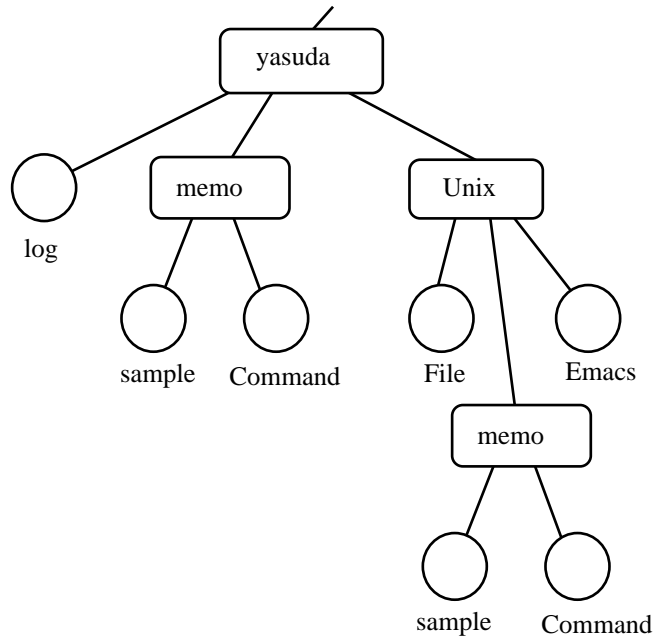


図 4.9 コピー後のディレクトリ・ツリー

ファイルの移動

mv コマンドには以下の 3 通りの書き方があります。

1. mv [-if] file1 file2
2. mv [-if] file... dir
3. mv dir1 dir2

-i オプション⁵⁰ を与えると、移動する際に同名のファイルが既に存在し、移動することによって上書きされて元の内容がなくなってしまうような場合に実行してよいかどうか問い合わせを行う。これに y と答えると実行し、それ以外の入力であれば実行しない。

-f オプション⁵¹ を与えると上書きされて元の内容がなくなってしまうような場合でも問い合わせせず実行する。

1. の書き方では、file1 は file2 に単に移動されます。
2. の書き方では、(もし複数書けば複数の) file は、dir のすぐ下に元のファイル名で移動されます。
3. の書き方では、dir1 以下のファイルを全て含めてディレクトリごと dir2 のすぐ下に元のファイル名、ディレクトリ名で移動されます。dir2 が存在しないとそれを作成して、dir1 以下のファイルを全て dir2 のすぐ下に元のファイル名、ディレクトリ名で移動されます。

mv コマンドはすぐ判るように cp コマンドとほとんど同じ記述方法が出来ます。働きもほとんど同じで、単に元のファイルが残る (cp) が残らない (mv) がだけです。cp コマンドと同じですので、ここでは例を挙げません。

最後の 3. の書き方で memo ディレクトリを Unix ディレクトリにディレクトリ・ツリーごと移動した場合は、図 4.9 に挙げた例の左側の元の memo ディレクトリと、それ以下の sample と Comand ファイルがなくなった状態になります。

ファイルの名前を変える

ファイルの名前の変更は mv コマンドで行ないます。つまり sample というファイルの名前を otamesi に変えるという作業は sample ファイルを otamesi に移動するという事と考えるのです。具体的には単純に mv sample otamesi<Return>です。

ファイルの消去

rm コマンドは以下の書き方をします。

```
rm [-ifR] file...
```

-i オプション⁵² を与えると、消去する際に場合に実行してよいかどうか問い合わせを行う。これに y と答えると実行し、それ以外の入力であれば実行しない。

-f オプション⁵³ を与えると問い合わせせず実行する。

-r オプション⁵⁴ を与えて file の部分がディレクトリだった場合は file 以下のファイルを全て含めてディレクトリ・ツリーごと消去する。

特に rm コマンドに-r を指定してディレクトリ・ツリーごと消去するという例は非常に有用です。なにしろディレクトリの消去である rmdir コマンドは、そのディレクトリ以下の内容が空になっていなければ

⁵⁰ inquiry 問い合わせ、のつもりでしょうか

⁵¹ force 強制、のつもりでしょうか

⁵² inquiry 問い合わせ、のつもりでしょうか

⁵³ force 強制、のつもりでしょうか

⁵⁴ recursive 回帰的、のつもりでしょうか

いけないのです。そのような場合は `rm -r` で一発消去ができます。

第5章 ネットワークの世界へようこそ

ここしばらくの間でインターネットの知名度は非常に上がりました。技術者では無く、利用者の眼から見たインターネットとは、「インターネットを使って出来る事」の集合体です。例えば電子メールや WWW¹ が最も代表的な二つ² でしょうか。この様な「出来る事」をネットワークサービスと呼んでいます。

あなたも cc 環境の利用者として、無数のネットワーク・サービスを利用することが出来ます。ここではそれらのうち、より一般的なものを取り上げてその概要と使い方を説明します。

5.1 ネットワークサービス紹介

ここでは代表的なネットワークサービスとして、「電子メール」「ネットニュース」「WWW」がどのようなものを説明します。既に知識と経験のある人は 132 ページ、5.3 まで読み飛ばして下さい。但し 129 ページ、5.2.2 については読んでおく方が良いかも知れません。

5.1.1 ネットワークサービスと向き合う

「電子メール」や「WWW」とは何なのかを説明するより前に、ネットワークサービスと人との向き合い方に関する話をしましょう。

様々なネットワークサービスの中で、最も重要なサービスは恐らく「電子メール」です。最近のインターネットの流行と、その大きな原動力となっている「WWW³」を無視する訳ではありません。しかし、それでも「電子メール」という、この最も古くからあるネットワークサービスが、今でも、そして今後も最も重要なサービスであることに間違いは無いと考えています。

それは、ネットワークの中で様々な情報を交換し、WWW の中身を含めて様々なものを構築しているのが人間だからです。

人と人とのネットワーク越しの情報交換が、ネットワーク・サービスの本質なのです。電子メールや WWW は、それらの人達の活動を支える単なる道具に過ぎないと言っても良いでしょう。その、ネットワーク越しに行なわれる人と人との情報交換の最も基本的な形が、電子メールなのです。故に電子メールが今後も最も重要なネットワーク・サービスであり続けると考えているのです。

もちろん電子メールを使えなくても WWW を覗くことは出来ますが、それではあなたは単なるネットワーク社会の観客に過ぎません。ガラス越しに、別の部屋からネットワーク社会をただ眺めているのです。

ネットワークは人と人がメッセージを交換する「場」なのです。ただ受けとるだけで誰とも情報を交換しない、ただの観客となるのは詰まらないことです。勿論その逆に言いつばなし、書きつばなしになるのも困ります。一方通行ではない情報の交換が出来てはじめて一人前のネットワークです。ネットワーク社会の住人達が同じ対等な人として向き合うための道具として、電子メールは使われています。逆に電子メールが使えるようになるということは、自分が一人前のネットワーク住人となるための第一歩でもあ

¹ 「だぶりゅーだぶりゅーだぶりゅー」と読むのが妥当なようです。World Wide Web の略。単に「ウェブ」と呼ばれる場合もあります。「だぶだぶだぶ」などと読む人も居ます。

² もちろんインターネット関連の変化は急激で、明日 WWW などより有名になる何かが見れるかも知れません。

³ 雑誌やテレビなどで良く「インターネットのホームページ」などと呼ばれているものです。

るのです。

cc 環境では、その利用者は誰もがネットワーク社会の住人となれます。ネットワーク越しに多くの人とメッセージを交換し、様々なことを実現できるのです。あなたも cc 環境ネットワークの、そしてインターネットの住人になるべく、まず電子メールの読み書きが出来るようになるようではありませんか。ネットニュースでコミュニティに参加しましょう。WWW で情報発信をしましょう。それはただ人が作った WWW ページを眺めて回るより 100 倍楽しいことなのです。

次節から「電子メール」「ネットニュース」「WWW」の概要と使い方を、順を追って説明していきます。

5.1.2 電子メールって何？

電子メールは通常の郵便システムと似た機能を持ちます。大きな相違は紙や物を運ぶのではなく、文字をデータ化して相手に届けるという点です。つまり通常の葉書や封書による郵便は、実際には紙としての葉書や物としての封書を届けるのが第一の目的では無く、そこに書かれた内容、つまり文字を相手に届けることが本質です。しかし実際には紙や物を届けることによって実現しているというのが郵政省の郵便システムと言えます。

それに対して電子メールでは、一般的に文面をコンピュータに入力する事によってデータ化し、コンピュータの機能を使って相手に送り付けます。受け取った側でも、データ化された文書を、受け取った側に読めるようなかたちでコンピュータによって表示します。そうして送り手が書いた内容が受け手に伝わる、と言う仕掛けです。

仕掛けはともあれ、一般の郵便も電子メールも誰かが書いた文章をある特定の相手に届けると言う本質は変わりませんね。

後の 5.1.7 でもっと具体的な利点などを紹介します。

5.1.3 ネットニュースって何？

電子メールが個人と個人間のメッセージ交換であったのに対して、ネットニュースは個人が大勢に対してメッセージをやり取りできるシステムです。

ネットニュースはあたかも掲示板に個人がメッセージを書くようなもので、大勢の人が（もしも興味があれば）そのメッセージを読み、そして自分の意見を再びそれぞれ大勢の人に見えるように書き込みます。こうすることによって、広く一般に向けて公開の議論が可能になると言うわけです。

一般の掲示板は本当の木の板にチョークか何かで書くのですが、ネットワーク上のニュースシステムでは、コンピュータを介する事によってメッセージをデータ化して行います。木の板の文字がデータかともあれ、個人が書いたメッセージを多くの人が覗いて公開の返事を書くという本質は変わりませんね。

後の 5.1.8 でもっと具体的な利点などを紹介します。

5.1.4 WWWって何？

WWW では電子メールやネットニュースと違って、文字以外の絵や、音、動画などが簡単に扱えます。

そして、WWW はネットニュースと同じく掲示板のようなものです。但し、皆で共通の掲示板を読んだり書き込んだりするのではなく、誰かがその人専用で設けられた掲示板に自分で書き込むのです。その人が編集する雑誌のようなものだと考えてもいいかも知れません⁴。そこに詰め込まれる情報には適度な

⁴ 音や動画が含まれているのですから「飛び出す絵本」と呼ぶのが妥当かも知れません。

とまりがあり、それをページと呼んでいます。そのため、WWW の中身のことを「WWW ページ」などと呼んでいます⁵。

WWW には映像や音を扱える以外に、もう一つ特徴があります。「リンク」と呼ばれる、そこをマウスでクリックするだけで簡単に他のページを開くことが出来る仕掛けです。このリンクをたどる事によって、WWW ページを眺める人は、世界中のあちこちにある、色んな人が作った WWW ページを簡単に眺めて回る事が出来るのです。

つまり WWW ページは雑誌のようなもので、WWW 全体が大きな書庫のようなものだと思えば良いのでしょうか。そして書庫の中の雑誌のページはところどころリンクで結ばれているのです。

後の 5.1.9 でもっと具体的な利点などを紹介します。

5.1.5 京都産業大学のネットワーク

京都産業大学のコンピュータは、その多くが学内のネットワークに接続されています。計算機センターが管理しているコンピュータの多くも学内ネットワークに接続され、また上記のネットワークサービスが受けられます。

京都産業大学のネットワークは全世界を覆うネットワークに接続されています。この巨大なネットワークのことを Internet と呼んでいます⁶。京都産業大学のコンピュータの多くは、つまり Internet につながれているということです。そして京都産業大学で行われているネットワークサービスの多くはこの Internet で行われているものと同じものです。それ故に京都産業大学の電子メール、ネットニュース、WWW は、世界中の電子メール、ネットニュース、WWW と通じ合えるという訳です。

「電子メール」という呼び名は時々、インターネットで利用されている電子メールであるという意味で、「インターネットの電子メール」または「Internet mail」などと呼んだりもします。同様に「ネットニュース」は「Internet news」とも呼ばれます。WWW に関しては、現在のところインターネット以外の場には存在しないので、特に「インターネットの」と断る必要は余りありません。

あなたも京都産業大学内のコンピュータを介して世界中の人と電子メールを交換することが出来ます。また、学内のコンピュータを介して世界中の人とネットニュースによって意見を交換することが出来ます。WWW のページを作って、世界中の人に情報を提供することも出来るのです。

5.1.6 Internet とは？

ところでインターネットとは一体なんなのでしょうか？良く「インターネットとはネットワークとネットワークを接続したもの」という説明を目にします。しかしこれは単にその構造を表現したものに過ぎません。そのような技術的な説明では無く、利用者にとっての価値を説明しなければ今はもう通用しないくらいインターネットは技術者以外の人のものになってきました。

ネットワークが人と人との情報交換の「場」であることは既に説明しました。即ち Internet は世界じゅうを覆うくらいに地理的に拡大した、巨大なネットワークユーザ達の「場」なのです。そしてその「場」では、ネットワーク利用者は国境を越え、文化圏を越えて、対等に向き合うことが出来るのです。これは今までに無かったことです。そこからどんなに素晴らしいものごとが生み出されるか、想像してみてください。そしてその場に立ち合うばかりでなく、参加することだって出来る自分の姿を想像して下さい。「インターネット」にこんなに多くの人がワクワクする、その理由の多くはそこにあるのです。インターネットとは、つまりそういうものなのです。

⁵ 良くインターネット関係の雑誌で「インターネットのホームページ」などと呼ばれていますが、これは余り妥当な呼び方ではありません。

⁶ 「なんだか話が SF チックになってきましたね。」このガイドの最初の版、つまり 1994 年にそう書いたものですが、今となっては常識に近付いてきましたね。

用語と構造的な特徴

それでも少しは構造的、技術的な話をしないとイケません。インターネットの特徴として、主に以下のような点が挙げられます。

- Internet には主体となる運営組織は具体的には存在しません。その代わりに多数の委員会の議論と実験によって運営されています。
- 中心となるコンピュータはどこにも存在しません。
- 世界中にある各組織の組織内ネットワークを接続して、協調して電子メールやネットニュースのサービスを提供しています。(各サービスについては以降にもう少し説明します。)

商用のいわゆるパソコンネットとはこれらの点で異なります。以下のようなことも知っておくといいでしょう。

- 国内では Internet に参加している組織は、大学などの教育機関、企業、国立の研究機関などで、'97年3月現在で約1万5千組織です。全世界だと、100万組織は接続しているのでしょうか？
- 各組織のネットワーク(特にメールサービス)の管理者をポストマスターといいます。

これ以上の情報を得るためには、インターネット関係の雑誌や WWW ページ等から自分で勉強するように努力してみてください。図書館にも置いてある各種のコンピュータ雑誌も推薦出来ます。

5.1.7 Internet mail サービスってどんなもの？

Internet で行われている電子メールサービスを利用すると、世界中に散らばる 100 万もの組織の人達に対して手紙を出すことが出来ます。この電子メールサービスは郵政省が行なっているメールサービス(郵便)に比べると以下の点で優れています。

- 速い
たとえ相手が地球の裏側でも、大抵の場合(控え目に見積っても)数分間以内に相手の手元に手紙が届きます。
- いつでも使える
基本的に 24 時間年中無休です。日曜日に休んだりはしません。
- 居ながらにして出せる
京都産業大学のネットワークに接続されたコンピュータがありさえすれば、そこから全ての操作が出来ます。自宅から作業をする事も出来ます。
- 紙がたまらないで済む
頻繁に手紙のやり取りをしていると、結構大きさのまちまちな保存しにくい紙がたまるものです。しかし電子メールでは手紙はコンピュータの中に残り場所を取りません。そして、消さない限りいつでも取り出して読み返せます。更に、計算機の中に入っている限りキーワードで検索可能です。紙をめくって斜め読みする必要はありません。

逆に、以下の点では劣っています。

- 書留郵便がない
出したメールを必ず（何があっても）相手に届けるようなサービスは行なわれていません。メール配送の途中で、停電、機械の故障など何らかの理由によってメールが紛失する可能性があります。人生を左右するような大事なメッセージの交換は、決して電子メールだけに頼ってはいけません。
- 自分がネットワークに加入していないといけない
しかもコンピュータを使わなければなりません。しかし最近ではコンピュータもずいぶん使いやすくなりました。
- 相手がネットワークに加入していないといけない
しかもコンピュータを使っていてくれなければなりません。しかし最近では結構そういう人も増えていきます。

電子メールは世の中の殆どの便利なものと同じ様に、決して万能ではありません。しかし、ある局面では他の何ものにも代えられない位役に立つことがあるのです。

5.1.8 Internet news サービスってどんなもの？

Internet news は NIFTY-serve など、商用のいわゆるパソコンネットの電子掲示板 (BBS) システムに似ています。つまりたくさんの人が掲示板に自分の言いたいことを書き込むと言うものです。この掲示板はまた多くの人に見られていますから、読んでいる人が書き込まれたことに反論したり、意見を添えたりします。

具体的には「私は今度行われる教育改革には反対だ。」「いや、私はこの点で賛成する。」「私も賛成だ。」と言った議論や、「先日若狭に釣りに行ってきました。今は鯛が好調です。」「私も行ってきました。少し沖合いに出るとハマチが来ます。餌は生き餌がいいようです。」「私も行きたいのですが、舟を紹介してください。」と言った趣味の話などが行われています。

また、何かについて困っているときに質問を書き込めば、誰か親切な人が解決法を教えてくれるかも知れません。そんな都合の良い話は無いです？いいえ、これは冗談ではありません。ネットワークの向こうには何千人もの非常に親切でお節介な人が暮らしているのです！⁷

要は多くの人が見ているところに書き込むわけですから、勢い情報交換の場となるのです。しかもこれは世界中の人が参加しています。つまり我々は海外の情報も居ながらにして読むことが出来るのです⁸。

非常にたくさんの方が参加して、いつも多くの書き込みがありますから興味のある話題ごとにグループ化されています。その中には、京都産業大学の内部向けに幾つかのグループが用意されています。外部の情報には興味がない人も、せめてここだけでも覗いて下さい。有用な情報の広報などはここで良く行われます。

5.1.9 WWW サービスってどんなもの？

WWW の利点については、ここであれこれ説明するより、テレビや雑誌を見る方がはやくも知れません。そこではさまざまな会社や個人の、見た目も綺麗な WWW ページが紙面を飾っていたりします。きつと雑誌などには丁寧なその解説までしてくれている事でしょう。

でも少しはここにも書いておきましょう。WWW による情報提供には、以下のような特徴があります。

⁷ 嘘だと思ふならコンピュータ関係のネットニュースを少し覗いてみてください。

⁸ もちろん海外のネットニュースは英語が殆どです。でも日本国内のネットニュースは日本語（漢字）で流れていますから、英語を読みたくない人もご安心下さい。

- 速報性がある。
- 見たい人がわざわざ見に来ないと見られない。
- もっと良く見たい人のためにどんどん詳しい情報を置いておける。
- 滅多に見ることのなくなったような、過去の情報を残しておいてもコストがほとんどかからない。
- 視聴率(?) に関係なく、非常に多くの人に提供できる。
- 非常に安価に提供できる。
- 読者からの情報を集めたりすることも出来る。

ところで WWW には、大企業が出している、自社製品の広告ページもあれば、学生が自分の趣味を紹介している極めて私的なページもあります。そのどちらが WWW の本流という訳ではなく、これら全てのもを対等に受け入れて混ぜ合わせたものが WWW の姿なのです。インターネットにつながれたコンピュータに WWW のページを作って置くだけで、あなたも自分の WWW ページを使って情報を発信することが、つまり世の中の人に何かを伝える事が出来ます。その可能性を大切にしてください。

5.1.10 ネットワークでの暮らし方

ネットワークサービスと共にコンピュータを利用するのは非常に快適なものです。ですが、その環境で快適に暮らすにはある程度ルールを心得ておくことが重要です。ネットワークサービスは機械によって提供されていますが、相手をしているのは機械ではなく、人間であることをとかく忘れがちです。

1 の「はじめに」などでも述べているように、京都産業大学のコンピュータ環境には一般社会と同じ様に規則、慣習、道徳があり、そして法律も適用されます。京都産業大学のネットワークは Internet の一部でもあります。京都産業大学のコンピュータ利用環境よりもっと大きな利用環境である Internet にも勿論様々な規則、慣習があります。お互いに協調して暮らして行けるように心に留めておきましょう。

5.2 電子メール準備体操

5.2.1 Internet mail アドレスについて

Internet でサービスされているメールサービス⁹でも一般的な郵便システムと同じ様に、宛先の住所を明記する必要があります。Internet は世界中でサービスされているので、世界で一意に決まる¹⁰住所がメールサービスを受ける人それぞれに必要です。すなわちそれが住所であり、Internet mail サービスがアメリカ生まれであることからアドレスと呼びます。メールサービスのためのアドレスですから、メールアドレスと言うとその意味合いがもっとはっきりするでしょう。

現在のところ、メールサービスがコンピュータを介して行われているものであるため、メールアドレスはそれぞれのコンピュータの利用者に割り当てられます。逆に言えばメールサービスを利用するためには、メールサービスが利用可能なコンピュータの利用者とならなくてはなりません。

京都産業大学の幾つかのコンピュータは、Internet mail サービスが利用可能です。それらのコンピュータの利用者は Internet mail サービスを利用することが出来るでしょう。つまり Internet mail サービスを受けている世界中に数百万台(もっとかな?)存在するコンピュータのユーザそれぞれとメールを交換することが出来るという事になります。

⁹ これ以降単にメールと言ったら電子メールを差します

¹⁰ 一意に決まる、とは「間違いなくたった一つのものに特定出来る」と言う意味です。

京都産業大学のメールサービスが利用出来るマシンにおけるメールアドレスは一般的には以下のような書式となっています。

foo@bar.kyoto-su.ac.jp

アドレスの表記そのものは西欧式になっており、右側に大きな区分、左側に小さな区分が書かれています。ピリオド(.)で区切られており、右側からそれぞれの区分の意味を以下に示します。

- jp Internet mail アドレス最大の区分で、国を示しています。
- ac jp 以下に存在する中区分であり、教学関係であることを示す。他に co が一般企業、or がその他の組織などとして定義されています。
- kyoto-su 京都産業大学を示しています。
- bar ここには何が来るか一概には言えません。京都産業大学内で、既に決められている宛先に配送されることを示しています。大学のネットワーク管理者が決定した区分のようなものだと考えてください。
- @ これより左はユーザ名であることを示しています。
- foo foo (仮称) というユーザ名宛てに配送されることを示しています。

kyoto-su.ac.jp は、京都産業大学のネットワークを示すアドレスであり、世界中を覆う Internet で一意な名前です。ネットワーク環境の中で、このように階層付けられて一意に確保されているような名前をドメインなどと呼んだりします。kyoto-su.ac.jp より左の foo@bar は京都産業大学内で一意に保たれるように管理されています。あなたが電子メールを利用するときはあなたが利用者として登録されているコンピュータの管理者に、自分のメールアドレスがどのようなものかを確認することが重要です。

5.2.2 計算機センター運用のコンピュータのメールアドレス

ここでは計算機センターが運用しているコンピュータのメールアドレスに限定して説明します。ここで説明するルールは普遍的なものでは無いので、他のマシンのユーザのメールアドレスを類推する役には立たないでしょう。他のマシンのメールアドレスについては、それらのマシンの管理者に問い合わせる必要がある事に注意してください。

計算機センターが運用し、京都産業大学の教員、学生に提供しているコンピュータのうち、メールサービスが利用可能なのは以下のマシンです。ホスト名とはネットワーク上の各コンピュータの名前です。以降各マシンはホスト名で表現します。

機種名	ホスト名	
SPARCcenter2000	cc2000	計算機センター 1 階に設置の Sun 社製コンピュータ。
Ultra1	cssol000 ~ 039	2号館 4階 21 情報処理教室に 40 台設置の Sun 社製コンピュータ。
NeXTstation	ccns001 ~ 015	計算機科学研究所 3 階 C3 情報処理教室に 15 台設置の NeXT 社製コンピュータ。
DEC-3500	ksuvx1	2号館 1階に設置の DEC 社製コンピュータ。

以上のマシンでメールを利用する場合、メールアドレスはそれぞれ以下の通りとなります。

ホスト名	メールアドレス
cc2000 および cssol000 ~ 039	username@cc.kyoto-su.ac.jp
ccns001 ~ ccns015	username@ccnext.kyoto-su.ac.jp
ksuvx1	username@ksuvx1.kyoto-su.ac.jp

上記のうちより左の username には各ユーザのユーザ名を書きます。例えば神山太郎さんは taro というユーザ名で cc 環境にユーザ登録されているとすると、cc2000 や cssol シリーズのマシンでメールを扱うためのメールアドレスは

taro@cc.kyoto-su.ac.jp

となります。また、太郎さんは ccns シリーズも使っています。ユーザ登録情報については cc2000, cssol シリーズと ccns シリーズのマシン群は全て共通なのですが、メールアドレスについては ccns シリーズだけ別個になります。太郎さんが ccns シリーズのマシンでメールを扱うためのメールアドレスは

taro@ccnext.kyoto-su.ac.jp

です。

ところで太郎さんは上記のように二種類のメールアドレスを持っています。複数のマシンにユーザ登録しているから複数のメールアドレスを持つようになるわけで、これは自然なことです。例えば太郎さんが二箇所に部屋を借りているような状態だと想像すれば良いでしょう。しかし太郎さんにメールを送る場合には、上記のうちのどれに送るのが妥当かは送る前に太郎さんに電話なり手紙なりで確認するべきです。つまり太郎さんは二箇所に部屋を借りていて、二つのメールボックスを持っているが、そのどちらを毎日チェックしているかは誰にも想像出来ないからです。これについては次の「相手のメールアドレス」にもっと詳しく書きます。

ところでよくよく考えてみると太郎さんは cc2000, cssol000 ~ 039 マシン群及び ccns001 ~ ccns015 マシン群と合計すると数十台に及ぶ非常に多くのマシンに登録されていることになりますね。しかしそんなにたくさんメールボックスがあっては面倒なので、cc2000 と cssol000 ~ 039 マシン群はメールボックスを共有しており、username@cc.kyoto-su.ac.jp 宛てに送られたメールは、この共用のメールボックスに配送されます。故に cc2000 及び cssol000 ~ 039 のいずれのコンピュータを用いてメールボックスをチェックしても、配送されてきたメールを読むことが出来ます。どのコンピュータからメールボックスをチェックしたとしても、結果的には共通の、たった一つのメールボックスを見ている事になるからです。

また、ccns001 ~ ccns015 マシン群もメールボックスを共有しており、username@ccnext.kyoto-su.ac.jp 宛てに送られたメールは、この共用メールボックスに配送されます。つまり計算機科学研究所 3 階に並んでいる 15 台の NeXT のどれに座っても username@ccnext.kyoto-su.ac.jp 宛てに送られてきたメールを見ることが出来ます。

共用メールボックスを cc2000, cssol000 ~ 039 マシン群と、ccns001 ~ ccns015 マシン群とに分けている理由は ccns マシン群が扱う NeXT メール¹¹ を cc2000, cssol マシン群が扱えないからです。

5.2.3 相手のメールアドレス

いざメールを誰かに送ろうとした場合、相手のメールアドレスが必要になるでしょう。相手のアドレスを調べるには、その相手に聞くしか方法がありません。例えば神山太郎さんが上記の計算機センター管理のコンピュータ、cc2000 や cssol000 ~ 039 に hanako でユーザ登録されている神山花子さんにメールを出そう

¹¹ NeXT メールとは絵や音や様々なデータを簡単な操作でメールに含ませて送ることが出来るシステムで、現在この機能は NeXT コンピュータでしか利用出来ません。cc 環境では ccns001 ~ ccns015 までのマシンで NeXT メールが扱えるという事です。この使い方などについては NeXT のマニュアルを参照してください。

とした場合、hanako@cc.kyoto-su.ac.jp宛てにいきなり出すのは好ましくないと云えます。コンピュータシステムは正直に cc2000 及び cssol000 ~ 039 コンピュータの為の hanako ユーザの共用メールボックスに太郎さんのメールを配送するでしょうが、花子さんが本当に cc2000 などのマシンでメールボックスをチェックしてくれるとは限らないからです。ひょっとしたら花子さんは電子メールなど全く使っていないかもしれません。ひょっとしたら、花子さんは他のコンピュータにも何らかの名前で登録されておりメールはもっぱらそこで利用しているかもしれませんね。

では太郎さんが花子さんにメールを送る場合はどうすれば良いのでしょうか？結論は「君に今後メールを送りたいのだけれど、いったいどこに送れば良いの？¹²」と最初の一回目に（勿論メール以外の方法で）聞くことです。馬鹿馬鹿しいようですがこれは非常に重要なことです。

5.2.4 自分のメールアドレス

自分のメールアドレスが何であるかは自分がユーザ登録されているコンピュータの管理者に確認するのがいいでしょう。但し計算機センターが管理しているコンピュータについてのメールアドレスに関しては先に述べた通りです。

ある人にメールを送って欲しいと思った場合は、どこ宛てに送って欲しいか、すなわち自分が日常的にチェックしているメールアドレスを相手にはっきり通知することが大切です。これは先に書いた相手のメールアドレスをはっきり聞く、という事の裏返しです。同じく非常に重要なことです。

5.2.5 さあ、本番！

準備体操はこのくらいにしておきましょう。実際にメールを読んだり書いたりするのは現在ではコンピュータを操作するという事にほかなりません。即ち普遍的に「こうすればメールを読み、書く事が出来る」という方法はなく、そのコンピュータ独自の操作方法を修得する事になります。

次に計算機センターが運用している cc 環境の UNIX コンピュータを利用してメールを読み書きする方法について説明します。

¹² 当然関西弁でも可

5.3 MHE : Mule による電子メールの読み書き

Mule という名前をここで初めて見た、もしくはほとんど覚えていない人はここまで読み飛ばした人ですね。早くメールを使いたい気持ちは分かりますが、ちょっと焦りすぎです。まずは100ページ、4.5章を読んでください。

MHE¹³ は Mule を利用して電子メールを読み書きする機能を提供します。Mule と共に働きますから、Mule の操作方法についてある程度理解していることを前提に説明します。

5.3.1 はじめに

ここでは以下の流れに従ってメールを扱う方法を説明します。

- メールを読む
- メールを書く
- 来たメールの返事を書く
- メールの整理

この流れの通り、まずメールを読む方法を説明したいところなのですが、ちょっと問題があります。つまり恐らくあなたはまだ誰からもメールを送ってもらっていないので、メールを読む練習をするにも、読むべきメールが届いていないだろうと言うことです。

そこでまず練習のために、自分自身にめがけて実験メールを送るコマンドを紹介します。mailself コマンドです。

```
cc2000(81)% mailself
cc2000(81)%
```

mailself コマンドは実行に数秒以上掛かります。うまく実行出来た場合は、上記のように何もメッセージを表示せずに終了し、プロンプトが返ってくるでしょう。これで一通、新しいメールがあなた宛に届いているはず。次の節からは、そのメールを読むことで練習して行きましょう。

MHE の全ての操作は Mule 上で行います。さあ、mule コマンドで Mule を起動して下さい。

¹³ 名前の由来は「Emacs front end to the MH mail system」から来ています。mh についてはここでは説明しません。man mh でマニュアルが用意されていますが、特に理解する必要はありません。Emacs (「いーまっくす」と読みます) とは Mule の古いバージョンです。

5.3.2 メールを読む

メールを読むためには、Mule が起動されている状態で M-x mh-rmail <Return>とします。<ESC> を1回ポンと押して x を押すと M-x と表示されますので続けて mh-rmail と入力し、<Return>です。

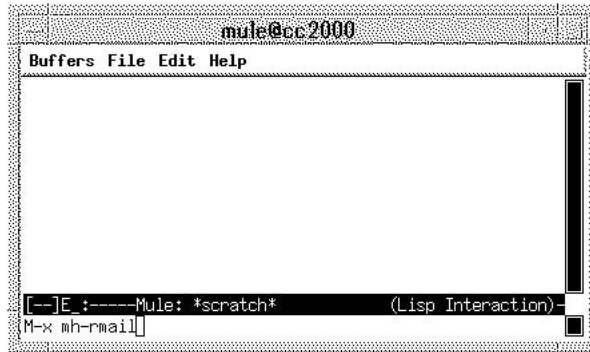


図 5.1 mh-rmail の起動

新規にメールが届いている場合はこれで以下のような画面表示となるでしょう。



図 5.2 メールの一覧表示

到着したメールが一覧として一通一行の形で表示されているでしょう。カーソルは一覧表示の左側にあるはずですが、ここでカーソルを上下させて、自分が読みたいメールの行の左にカーソルを移動させます。カーソルの上下は Mule 上でのファイルの編集の際のカーソルの上下と同じです。つまり上（一つ前の行）に移動したいときは上矢印（`↑`）もしくは C-p キー、下に移動したいときは下矢印（`↓`）もしくは C-n キーです。M-< や M-> で一番先頭や末尾の行への移動が出来ます。

自分が読みたいメールの行の左にカーソルを移動させて「. (ピリオド)」を押せば、そのメールの内容が Mule のウィンドウを二分割して下半分に表示されると思います。

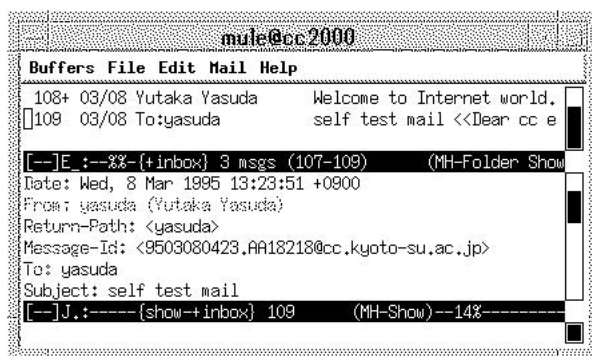


図 5.3 メールの内容の表示

一つのメールの行が長すぎて Mule のウィンドウにおさまり切らないときは <Space>キーで一画面分スクロールさせる事が出来ます。スクロールして過ぎてしまった部分の内容を巻き戻してみたい場合は <Delete>キーです。

用語説明

まず一覧に現れる情報について少し説明しておきます。以下に一覧表示の例を挙げます。

```
19+ 03/17 Yutaka Yasuda      Welcome to Internet world. <<Dear friends,
```

左から順番に項目別に説明して行きます。

19	順番に振られる番号です。番号が新しければ新しいほど昔の、古いメールです。
+	現在このメールに注目しているよという印です。
03/17	日付です。
Yutaka Yasuda	メールの送り元、つまり誰から来たかを示しています。 mailself コマンドで送り付けたテストメールであれば恐らくここは To: に続いてあなたのユーザ名が来るでしょう。
Welcome to Internet world.	メールの表題です。
<<	ここから内容の一部だよという印です。
Dear friends,	恐らくまだ続きがあるはずですが、これがそのメールの本文の先頭部分です。表題だけでメールの内容の想像が付かないときなどは重宝します。

上記の例での Welcome to Internet world.、つまり表題はメールの世界では Subject と呼ばれ、本文とは少し区別して扱われます。つまりメールは主に「宛名」「送り元」「Subject」「本文」の4つの部分からなっているというわけです。

メールの一覧表示とはつまりこの主たる4つの部分のうち、宛名を除いた三つを並べているという事です。この一覧が並んでいる状態を、フォルダモードと呼んでいます。

さて、今度はメールの内容を読んでいる時に表示される部分の初めの方に、必ず付いてくる To: などに導かれた数行に注目してください。これらはメールのシステムが付けたもので、そのメールの補助的な情報が記録されています。一般の郵便で言うと表書きや消印の情報に相当します。この部分をメールのヘッダと呼んでいます。以下にメールヘッダの例を挙げます。

Date: Mon, 21 Mar 1994 12:53:31 +0900
From: Tanaka Hideki <tanaka>
Return-Path: <tanaka>
Message-Id: <9501130246.AA07556@cc.kyoto-su.ac.jp>
To: yasuda
Subject: Re: NOMIKAI again
Cc: tanaka, ryo, omatsu

以下に順番にそれぞれの行ごとに説明して行きます。

Date:	このメールが書かれた日付です。
From:	誰から送られてきたかを示しています。ここでは tanaka さんです。Tanaka Hideki は tanaka というユーザ名の方のフルネームを示しています。
Return-Path:	返事を書いた場合の宛先になりますが、気にしないで下さい。
Message-Id:	これまた気にしないで下さい。
To:	誰宛に送られた手紙かを示しています。ここでは yasuda さん宛ですね。
Subject:	表題です。これはこのメールを書いた人が付けたものです。既に説明しましたね。
Cc:	Carbon Copy を意味しています。Carbon Copy とは複製を意味していて、このメールの複製を誰宛に同時に送ったかを示しています。ここでは tanaka, ryo, omatsu の 3 人に送っています。

次のメールを読む

図 5.3 のようにメールの内容が表示されている状態で、(もしあったとして) 次(もしくは一つ前)のメールを読むには幾つかやり方があります。

- 図 5.3 の状態のまま、カーソルを一つ下(もしくは一つ上)に移動して、そこでもう一度「.(ピリオド)」で内容を読む。
- 図 5.3 の状態のまま、n キーを押して次のメール(もしくは p キーを押して一つ前)の内容をすぐに表示させる。

MHE を終る、再起動する

メールを読み終って、普通の Mule の操作に戻りたいと思ったときは q キーを押します。これで MHE を起動する前、つまり図 5.1 の状態に戻ります。Mule を終りたい場合はいつも通りに C-x C-c です。再びメールを読みたいと思った時は単にもう一度(必要ならば) Mule を起動し、M-x mh-rmail<Return>とだけです。

以前読んでしまったメールを再び読み返す

MHE を再起動してまたメールを読みたいと思っても、mh-rmail はまだ一度も読んでいないメールの一覧を表示しようとしますから、前回メールを読んでから新しいメールが来ていなければ「読んでいないメールは一つも無いよ」と言ってメールを一行も表示しない時があります。あるいは以前に貰っているメールはもっとたくさんある筈なのに僅かしか表示しない時もあります。

そこで以前に読んでしまったメールをもう一度読み返したい場合は mh-rmail を実行してから M-r とします。以前に読んでしまったメールをさかのぼって表示してくれます。とりあえず最近の数通が一覧表示されます。それ以前のメールが見たい場合は C-p もしくは上矢印 () キーなどでカーソルを上を移動させてさかのぼっていけばいいのです。状況によっては C-p しても何の変化もない場合があります。その場合でも実は画面のさらに上に古いメールが持ってこられている場合がありますから、確認のためとにかく C-p してみると良いでしょう。

5.3.3 メールを書く

さて、メールを読むことが出来るようになったら今度はメールを書いて送ってみましょう。一番良いのは誰か知人に相手になって貰うことですが、それが出来ないようならまず自分自身宛に送って、その結果をチェックするのがよいでしょう。

新たにメールを書いて発信するには Mule が起動されている状態で、M-x mh-smail<Return>とするか、mh-rmail を実行してメールの一覧が表示されている図 5.2 の状態で s もしくは m とします。

するとまずエコーラインに To: と表示され、宛先を問うて来ます。ここでメールを送る相手のメールアドレス (5.2.3 で説明したことに注意して下さい) をタイプします。<Return>すると今度は Cc: と表示され、Carbon Copy が必要かどうかを聞いてきます。Carbon Copy とは複写のことで、そのメールの複写を控えとして送ることを差します。もしもあなたがそのメールの Carbon Copy をどこかに (例えば自分自身にでも) 送りたいのであれば Cc: の問いかけに対してメールアドレスをタイプすることで答えます。アドレスは幾つでも並べて書けますので、複数の相手に Carbon Copy を送ることも可能です。並べて書くときはアドレスとアドレスの間に「, (カンマ)」で区切りを入れてやらなければならないことに注意してください。もしも Carbon Copy が必要無ければ単に<Return>してください。

今度は Subject: と表題を聞いてきますので、何かわかりやすい表題をタイプしてください。Subject には漢字やかなのは使わず、アルファベットと数字、記号程度で表現してください¹⁴。

以上の To:, Cc:, Subject: をタイプし終ると画面表示が変わり、手紙の内容を書くウィンドウが用意されます。

¹⁴ 最近 Subject にも漢字が利用できる場合がありますが、これは相手が Subject に漢字を適用できるシステムを持っているか、いないかに依存しますからそれが確認できない限りは漢字は使わない方が無難です。因みに現在の cc 環境の MHE は漢字の Subject には対応していません。

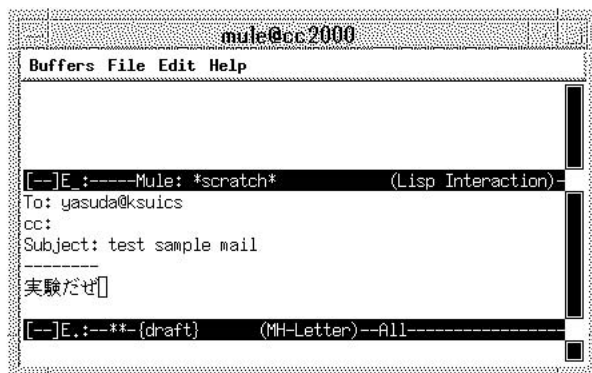


図 5.4 メールの内容を書く

この状態をレターモードと呼んでいます。To:, Cc:, Subject: のすぐ下に-----という行がありますが、これ以降に本文を書いてください。この---行は MHE システムが必要とするもので、削除してはいけません。この状態で普通に Mule によってファイルの内容を編集するときと同じ様にメールの本文を編集する作業が出来ます。Mule の操作に習熟すれば、メールの内容としてどこかのファイルの内容を取り込んだり、さまざまな応用が利くようになるでしょう。Mule の使い方、日本語の入力の仕方は 7 を参照してください。

そうやってメールの本文を書き終わったら、

```
C-c C-c
```

でメールが発信されます。反対にメールを書いている途中で、そのメールを出したくなくなった場合は C-c C-q とします。するとエコーラインに以下のような確認の為の質問をしてくれますので、y と答えてください。

```
Kill draft message? (y or n)
```

これで、そのメールを破棄することが出来ます。

5.3.4 来たメールの返事を書く

来たメールに対する返事を書くには、返事を書こうとしているメールを図 5.3 のような状態で読んでいるときに a キーを押します。すると、そのメールに関係している人の誰に対しての返事を書くのかをエコーラインに以下のようなメッセージを表示して質問してきます。

```
Reply to whom:
```

この質問に対しては以下のいずれかで返事をします。

返答	意味
from	そのメールの差出人、つまり From: に書かれている人に返事を送る。
<Return>	from に同じ
to	そのメールの差出人、つまり From: に書かれている人を To: に、そのメールの To: に書かれている人を Cc: に指定する。
cc	そのメールの差出人、つまり From: に書かれている人を To: に、そのメールの To: 及び From: に書かれている人を Cc: に指定する。
all	そのメールの差出人、つまり From: に書かれている人を To: に、そのメールの To: 及び Cc: 及び From: に書かれている人を Cc: に指定する。

上記の表のいずれかによって返答すると図 5.4 に非常に良く似た状態になり、返事のメールの本文が書けるようになります。(これもレターモードです。)

まだ誰からもメールを貰っていない時にこの返事を書く練習をするには、先ほど自分宛に送ったメールに自分で返事を書くのが良いでしょう。この場合は書かれた返事は再び自分宛に送られることとなります。このように自分が出したメールに返事を書く場合には Reply to whom: の問い合わせに対しては必ず to で答えるようにして下さい。<Return>や、from で返答すると、返事を書く為の画面が正しく生成されず送信に失敗する時があります。

電子メールでの返事の作法

普通の手紙とは違って、電子メールでは返事を書くときに前回の手紙の内容を引用することが簡単にできます。以下の例のように引用と返答とを交互に混ぜながら返事を書くこと判りやすいメールとなることでしょう。

田中さん> 先日は飲み会お疲れ様でした。
いえいえ。ありがとうございました。

田中さん> そこで話しておりました原稿の件ですが、酒の上の事とは言え、冗談と言う
田中さん> わけでもなく、本当にお願ひしたいと思います。
ぎょぎょ。やはり本気だったんですね。(^_^;)
ちょっと怖い気もしますが、了解しました。引き受けさせていただきます。

このような感じでしょうか。以下にこの種の引用を行なう手順を説明します。

返事を書こうとしているときに C-c C-y とすれば、そこに元となるメールの内容が引用されます。引用の際は自動的に各行初めの部分に「この行は引用だよ」ということを示すための記号を付けようとして、以下の質問をしてきます。

Complete cite attribution string: (default Hideki)

このの部分には元のメールを書いた人の名前の一部が表示されていると思います。例では田中秀樹(たなかひでき)さんの Hideki が表示されています。ここでは自分の好みの引用記号をしましょう。漢字も使えますのでここでは 田中さん<Return>としてみましよう。単に <Return>とすると最初に表示されていた Hideki が採用されます。

[あ]Complete cite attribution string: (default >) 田中さん

すると以下のように聞いてきます。

登録しますか? (y or n)

ここで登録すると次回からこの人から来たメールに対する引用記号として「田中さん」を最初に表示します。y と答えると、以下のように聞かれる場合があります。

前の登録が消えますがいいですか? (y or n)

これは以前「田中さん」ではない別の記号で登録されていたのだけれど、それを「田中さん」に置き換えて良いかという確認です。これにも y と答えれば良いのです。

さて、次に引用元の記事を表示しているウィンドウとは別のウィンドウが開いて

```
>>>> On Wed, 08 Mar 1995 21:09:34 +0900, Environment Test Worker <worker> said\  
:
```

と表示されると同時にエコーラインに

```
Showing reference header 1.
```

と表示されます。これは引用を開始する部分の先頭に、どのような記述を含めるかという質問です。n キーを押すことで Showing reference header の数字が 0~6 まで変わり、ウィンドウに表示されるスタイルも変化しているのが判るでしょう。気に入った表示が見つければそこで<Return>してください。すると返事を書こうとしているところに指定した引用記号を付けて元のメールの内容が現れるでしょう。但しそのままではメールヘッダも本文も全ての部分が引用されますので、かなり不要な部分も含まれている可能性があることに注意してください。

こうやって引用された元々のメールのうち、今回のあなたのメールでその返答となる部分以外の行を消去して、先に挙げた例のように引用と返答とを交互に混ぜながら返事を書くことと判りやすいメールとなることでしょう。

5.3.5 メールの整理

メールをしばらく利用していると、送られてきたメールがたくさん溜ってきて邪魔になります。不要なメールは削除することが出来ます。図 5.2 の状態で不要になったメールの行の左にカーソルを移動し、ここで「.(ピリオド)」ならそのメールの内容が読める、と言う状況でピリオドの代わりに d をタイプします。するとメールの一覧表示の番号のすぐ右に D がマークとして表示されます。この段階は単に削除すべきメールにマークを付けているだけで、実際の削除はまだ行われていません。どんどん削除したいメールにマークを付け続けて行くことが出来ます。マークを付け間違えた場合は、D マークの行にカーソルを移動して今度は u キーをタイプすれば D マークが消え、マークが外すことができます。

マークされたメールを実際に削除するには x もしくは e キーです。問い合わせなどはなく、すぐに削除を実行します。メールをいくつか消すと番号が飛び飛びになってしまいますが、これを振り直したければ M-p です。

5.3.6 メールが来ているかどうか確認する

ずーっと Mule を利用している人ならば、時々隙を見て M-x mh-rmail<Return>してメールを確認すれば良いのですが、メールが来ているかどうかを確認するためにわざわざ Mule を起動するのが面倒だと言う人のために、メールが来ているかどうかを簡単に確認する方法を紹介します。from コマンドです。from<Return>です。以下に例を示します。


```
cc2000(88)% from
From yasuda Tue Mar 22 18:51:30 1994
From yasuda Tue Mar 22 18:51:51 1994
cc2000(89)%
```

上記のように from コマンドは未読のメールがあれば、一通あたり一行で「誰からか」「いつ届いたか」を表示します。もしも未読のメールが一つもなければ from コマンドは何も表示せずに以下のように終了します。

```
cc2000(88)% from
cc2000(89)%
```

from コマンドで未読メールが見つかった場合だけ、Mule を起動して MHE で読めば良い、と言う事ですね。

5.3.7 メールの実体はどこに？

MHE は各ユーザのホームディレクトリのすぐ下に Mail というディレクトリを用意し、メールをそこに保存しています。普通に操作をしていけば、MHE は全て inbox というところにメールを溜め込むのですが、その実体は Mail ディレクトリの下にある inbox というディレクトリです。そこに一通のメールを一つのファイルとして保存しています。ファイル名には順番に付けられた番号が使われています。

具体的には Mail/inbox/1 などという名前でメールが残っているはずですが、自分で確かめてみると良いでしょう。以下のようにすると溜まっているメールのファイルが表示されます。メールを読む時に番号が付いていましたが、それと同じ数字のファイル名で 1 通 1 通が保存されています。

```
cc2000(87)% cd                (カレントディレクトリをホームディレクトリに移動)
cc2000(88)% cd Mail/inbox     (カレントディレクトリを Mail/inbox に移動)
cc2000(89)% ls                (ファイル一覧の表示)
```

また、ここには #120 のように # から始まる名前のファイルがあるかもしれません。このファイルはあなたが不必要と判断して D マークを付けて消したメールです。消した、と思っていたメールは実はまだ完全に消えた訳ではなかったのです。#120 というファイルは元120番のメールです¹⁵。もし必要なメールを消してしまっても、このファイル名を元に戻してあげることで復活できるのです。これを知っていれば安心ですね。

さて、安全のためすぐに消えなくなっているのはいいのですが、いわばゴミが溜まっているのですからきれいさっぱり捨ててしまいたいですね。消すのは rm コマンドでした。一つ一つ rm #120 のように消してもいいのですが、たくさんあると消すのに一苦労です。rm ** とすれば、# から始まる全てのファイルを削除します。誤って rm * としてしまうと、必要なメールも含めて本当に「全て」のファイルを消してしまうのでこれを実行する時には十分注意してください。前もって ls コマンドで確認すると安心です。

```
cc2000(88)% ls **
(ここで出てくるファイル名が要らないものばかりであることを確認)
cc2000(89)% rm **
(これで先の ls で出たファイルを消す)
```

¹⁵ メール番号は ?? ページの 図?? でそれぞれのメールの左についている数です。図?? では 108 番と 109 番が表示されていますね。

5.3.8 トラブルからの脱出

MHE を起動しようとするとき、`.mh-profile` がない、というエラーメッセージが表示されるんですけど

Cannot find MH profile /NF/home/..(略)../.mh_profile というメッセージがエコーラインに表示され、MHE が起動できない場合があるかも知れません。このような場合は一度 Mule を終了してから、おまじないとして `inc` コマンドを一度だけ実行してください。何か問い合わせをしてくるかも知れませんが、その時は `y` と答えてください。それでもう一度 Mule を起動し、それから MHE を起動してみてください。

5.3.9 MHE もっともっと

ここに紹介したのは MHE の機能のうちの基本的なものだけです。MHE にはもっと様々な機能がありますが、それについてはここでは説明しません。附録に参考文献を挙げておきますので、それらを参照して下さい。

5.4 まとめ

メールを読み書きする時のコマンドをまとめておきます。カーソルの移動に関しては含みませんので他を参照してください。

M-x mh-rmail		mule をメールが読める状態にする
メールを読む時	.	カーソルの位置のメールを読む
	<Space>	メールの続きを表示する
	<Delete>	メールの内容をまき戻して表示する
	q	メールを読み終わる
	a	カーソルの位置のメールに返事を書く
	d	カーソルの位置のメールに消す印を付ける
	x	d で印を付けたメールの削除を実行する
M-p	番号を 1 から順に振り直す	
M-r	過去に受け取ったメールも表示する	
M-x mh-smail		mule をメールを送る状態にする
メールを書く時	C-c C-c	メールを送信する
	C-c C-q	メールを送るのを止める
	C-c C-y	(返事を書いている状態で) 元のメールの文を引用する

5.5 メールを書くときの注意

ここでは操作方法ではなく、メールの中身の書き方について説明します。

初めてメールを出すときに

始めのうちはいきなり学外や海外にメールを出さずに、学内でメールの練習をしてから送って下さい。練習の相手が見つからない場合は計算機センターに相談してください。

あまり大きなファイルを送らないこと

メールによってファイルを転送することも出来ますが、

- どうしてもメールによってファイル転送する場合は目安として 50 キロバイト¹⁶ /メール以下にしましょう。あまり大きなファイルを送るのは、参加組織に迷惑がかかります。
- どうしてもメールによって大きなファイルを送らなければならないなら、1 メガバイトくらいまでなら分割して送っても大丈夫かもしれません。それ以上ならフロッピーやテープで送りましょう。

そのメールは相手を読めるものですか？

現在のメールがコンピュータによって処理されている限り、自分が利用しているコンピュータによって処理出来た文書が、相手が利用しているコンピュータによって復元出来るとは限らない事に注意しましょう。

- 漢字を含むメールが必ず相手に読めるとは限りません。相手はひょっとしたら漢字が表示出来ないコンピュータを使ってメールを読んでいるかもしれません。相手が漢字を読めるかどうか、まず最初に確認するのがよいでしょう。
- 基本的に Internet は JIS コード漢字を利用していますが、あなたが Internet を利用する窓口になるコンピュータによって漢字コードはまちまちです。たとえば計算機センターが管理している cc2000, cssol000 ~ 039, ccns001 ~ 015 に限っては標準の漢字コードとして EUC コードを採用していますが、メールは JIS コードに変換されて送出されるように設定されています。どの漢字コードを適用すれば良いのか判らない場合はホストコンピュータの管理者に確認してください。
- Subject に漢字は使わないで下さい。
- 使ってはならない文字として、半角カナ（カナ・キーを押して入力したもの）やメーカー独自の文字（(株),I,II,III,IV,V 等の文字が 1 文字で表されているもの、丸の中に文字が書いてあるものなど）があります。また、使わない方が良い文字としては、罫線素片等があります。
- NeXT メールを送るときは相手が NeXT メールをそのメールアドレスで扱えることを確認してください。NeXT メールは音や絵をメールに含ませる事が出来ますが、相手も NeXT コンピュータを利用している必要が有ります。NeXT メール特有の注意事項については別紙に詳しく説明が有りますので、NeXT コンピュータでメールを利用される方は一度読んでください。

メールの信頼性について

送ったメールは相手に確実に届くことも、内容の完全な秘匿性も保証されていません。到着の確実性が要求される場合には、相手にそのメールが届いたら折り返し届いた旨をメールしてもらうように頼みましょう。ある程度の秘匿性が必要ならば暗号化するかまたは直接手渡しして下さい。

一行の長さについて

メール配送を行うコンピュータのシステム自体は一行 255 文字までサポートしています。しかし、そのメールの読み易さや返事を書く時に内容を参照することも考えて、漢字で約 35 文字以下、アルファベット（半角文字）で約 70 文字以下にするのが良いでしょう。

¹⁶ バイトというのはコンピュータ上の資源の大きさを表す単位です。50 キロバイトと言えば漢字にして 25000 字、つまり原稿用紙 50 ページ強辺りとなります

海外へのメールについて

国内以上にアドレスや送るメールの大きさの注意が必要です。また、海外のネットワークにはそれぞれのネットでの取り決めがあるので、それに従うようにしましょう。

メールアドレスに工夫が必要な場合もあります。一般的には宛先のアドレスは user@aaa.bbb.ccc のように .jp で終らないものの、国内と同様の書式です。(user には相手のユーザ名を、aaa,bbb,ccc 等には相手のアドレスを入れます)

著作権および責任の所在

書いたメールに関する責任は、書いた人の属する組織にあるのではなく、書いた人自身ににあります。また、著作権はそのメールを書いた人にあります。

違法行為の禁止

例えば、メールでのソフトの違法な流通などをやってはいけません。

5.6 GNUS : Muleによるネットニュースの読み書き

GNUS は Mule を利用してネットニュースを読み書きする機能を提供します。

Mule と共に働きますから、Mule の操作方法についてある程度理解していることを前提に説明します。

5.6.1 用語説明

Internet news は生まれが USENET と呼ばれる大学間で始まった実験ネットワークです。その歴史的な経緯でネットニュースシステム上で用いられる用語が少し一般のパソコンネットの電子掲示板システムとは違ってきます。以下に列挙しておきましょう。

- ネットニュースは非常にたくさんの人が参加して、いつも多くの書き込みがありますから興味のある話題ごとにグループ化されています。これをニュースグループと呼んでいます。(「NG (エヌジー)」とも呼びます。)これはパソコンネットでは SIG もしくはボード、フォーラムなどと呼んでいるものに相当します。
- ネットニュースにユーザが書き込んだメッセージを記事 (アーティクル) と呼んでいます。
- 記事を書き込むことを投稿 (ポスト) と呼んでいます。

5.6.2 はじめに

ここでは以下の流れにしたがってネットニュースを扱う方法を説明します。

- GNUS の起動
- ネットニュースの記事を読む
- ネットニュースグループの選択
- ネットニュースの記事を投稿する
- ネットニュースの記事にフォローする
- 投稿した記事のキャンセル
- ネットニュースの記事にメールで返事をする
- 古い記事を読み返す
- ネットニュースの記事の保存

GNUS の全ての操作は Mule 上で行います。さあ、mule コマンドで Mule を起動してください。

5.6.3 GNUS の起動

ネットニュースを読むために、まず GNUS を起動します。Mule が起動されている状態で M-x gnu<Return> とします。



図 5.5 GNUS の起動

最初の GNUS の起動には 1 分以上かかる場合があります。これは全ての情報をゼロから構築しているためで、次回からはもう少し短い時間で起動できるようになるでしょう。以下のような状態になるまで、しばらくお待ちください。



図 5.6 ニュースグループ一覧

5.6.4 記事を読む

図 5.6 のように、一つのニュースグループが一行で表わされ、一覧として表示されているでしょう。カーソルは一覧表示のニュースグループの名前の左側にあるはずで、ここでカーソルを上下させて、自分が読みたいニュースグループの行にカーソルを移動させます。カーソルの上下は Mule 上でのファイルの編集の際のカーソルの上下と同じです。つまり上（一つ前の行）に移動したいときは上矢印（`↑`）もしくは C-p キー、下に移動したいときは下矢印（`↓`）もしくは C-n キーです。M-< や M-> で一番先頭や末尾の行への移動が出来ます。

このニュースグループの一覧が表示されている状態を「グループモード」と呼んでいます。

おそらく今は sandai. で始まる産業大学ローカルニュースグループだけが一覧に表示されるはずで、

以下に 97.3 現在のローカルニュースグループの一覧を載せておきます。

内容	ニュースグループ名	期限
簡単な、もしくは一般的な質問	sandai.question	二カ月
娯楽及び趣味に関する話題	sandai.rec	二カ月
その他の、もしくは一般的な話題	sandai.misc	二カ月
下らない話題	sandai.junk	二週間
お知らせ、速報（一週間以内有効）	sandai.news.week	一週間
お知らせ、速報（一カ月以内有効）	sandai.news.month	一カ月
産業大学作品展示会場	sandai.gallery	
実験用ニュースグループ。貴方自身の練習用に	sandai.test	一週間
コンピュータに関する話題	sandai.comp	
学内コンピュータ環境に関するお知らせ	sandai.comp.announce	
コンピュータに関する管理者向けの話題	sandai.comp.admin	
授業に関する話題	sandai.classes	
授業に関する話題 (特に??クラスについて)	sandai.classes.??	
産業大学のネットニュース購読者全員へのお知らせ	sandai.announce	
産業大学の一般的な話題	sandai.general	
計算機センターからのお知らせ	sandai.center.announce	
計算機センターへの一般的な話題	sandai.center.general	

各ニュースグループに投稿された記事は、上記の期限を過ぎると自動的に消去されます。期限の書かれていないニュースグループの記事はそのまま残り続けます。この期限の設定を含めてニュースグループの設定は流動的なものです。最新の情報が知りたい場合は 4.7 で紹介した ccinfo コマンドを利用するか、sandai.question に質問を投稿するなどして下さい。

さて、グループモードで、自分が読みたいニュースグループの行にカーソルを移動させて<Space>キーを押せば、そのニュースグループの記事の表題一覧と、そのなかの記事の内容を表示できる以下のような状態へと移行します。



図 5.7 記事の内容表示

この状態では Mule のウィンドウが二分割され、上半分に先ほど選んだニュースグループの記事の表題の一覧が、下半分にそのニュースグループの先頭の記事の内容が表示されています。下半分に表示されて

いる記事の内容が長すぎて Mule のウィンドウに収まり切らないときは<Space>キーで一画面分スクロールさせることができます。スクロールして過ぎてしまった部分の内容を巻き戻してみたい場合は<Delete>キーです。

次の記事を読む

今度は、ある特定のニュースグループの中の、一つの記事が一行で表わされ、一覧として表示されている訳です。カーソルは一覧表示の番号の右にあるはずですが、ここでカーソルを上下させて、自分が読みたいニュースグループの行にカーソルを移動させます。カーソルの上下は Mule 上でのファイルの編集の際のカーソルの上下と同じです。つまり上（一つ前の行）に移動したいときは上矢印（`↑`）もしくは `C-p` キー、下に移動したいときは下矢印（`↓`）もしくは `C-n` キーです。 `M-<` や `M->` で一番先頭や末尾の行への移動が出来ます。

自分が読みたい記事の行にカーソルを移動させて<Space>キーを押せば、記事の内容が Mule のウィンドウの下半分に表示されます。

また、記事の内容を読んでいるときに<Space>キーを押し続けて行けば、一つの記事を読み終わった段階で自動的に次の記事に移動します。記事を読んでいる途中で `n` キーを押せば、今読んでいる記事の次の未読記事を表示します。 `p` キーを押せば、今読んでいる記事の前の未読記事を表示します。

この、あるニュースグループを選択して、記事を次々と読んで行ける状態を「記事モード」もしくは「アティクルモード」と呼んでいます。

`q` キーで記事モードから抜けてグループモードへ戻ります。図 5.6 のような表示になってグループモードに戻った後は、また違うニュースグループを選んでその記事を読むことが出来ます。

5.6.5 GNUS を終了する、再起動する

記事を読み終って、普通の Mule の操作に戻りたいと思ったときはグループモードで `q` キーを押します。すると、エコーラインに以下のような表示が現れ本当に GNUS を終了するかどうか聞いてきます。

```
Are you sure you want to quit reading news? (y or n)
```

ここで `y` キーを押してやると GNUS を起動する前、つまり図 5.5 の状態に戻ります。Mule を終りたい場合はいつも通りに `C-x C-c` です。

再びネットニュースを読みたいと思ったときは単に `M-x gnus<Return>` とするだけです。

5.6.6 ニュースグループを選ぶ

読みたくないニュースグループを一覧表示から外す

グループモードでは、何も指示しなければ既に示したように `sandai` ニュースグループを全て表示します。その中にはあなたにとってほとんど意味のないニュースグループもあるでしょう。もう読まないと決めてしまったニュースグループはこの一覧に表示させないようにすることができます。図 5.6 のようなグループモードでカーソルを読みたくないニュースグループの行に移動し、そこで `u` キーを押します。するとその行の左端に `U` マークが付きます。 `U` マークを付け間違ってしまった時は、もう一度その行で `u` キーを押すことによって外すことができます。幾つか `U` マークを付けていたら `l` (英小文字の `L`) キーを押してみてください。今まで `U` マークがついていた行が表示されなくなりましたね。

これで次から GNUS を使ってネットニュースを読む時に、全く読まないニュースグループの一覧が出てこなくなって随分楽になると言うわけです。ちなみに u は Unsubscribed の略で「購読しない」と言うことを意味しています。

一覧に出てこなかったニュースグループを一覧に加える

cc 環境ではあらかじめ多くのニュースグループが Unsubscribed されています。最初の利用であれば sandai. で始まる産業大学ローカルニュースグループだけが一覧に表示されるはずですが。

しかし挙げたものは cc 環境で利用できるニュースグループのほんの一部に過ぎません。もっと多くのネットニュースを読みたい!と思った人は一度 Unsubscribed されているニュースグループを全て表示させてみるのが良いでしょう。グループモードで L (今度は英大文字の L) キーを押して下さい。(少し時間がかかります。)一覧に表示されている限り普通の操作でそのニュースグループの記事を読むことが出来ます。

全部で 6000 以上のニュースグループがありますので最初は何を読んでいいのか迷うでしょう。そのうち fj. と tnn. で始まるニュースグループが日本語で書かれている主なものです。その他のほとんどのニュースグループは英語で書かれています。日本とアメリカ以外の各国のネットニュースを気が付いたところだけ並べてみました。参考にして下さい。

can.	uw.	カナダ	de.	zer.	ドイツ	dk.	デンマーク
fr.		フランス	il.		イスラエル	no.	ノルウェイ
nz.		ニュージーランド	swnet.		スウェーデン	uk.	イギリス
za.		南アフリカ共和国					

ただこのままでは次に GNUS を起動した時にはまた一覧から外れてしまいますから、目的のニュースグループを一覧に表示させた状態で、そのニュースグループについている U マークを再度 u キーによって外してやれば良いのです。その効果はグループモードで l (今度は英小文字の L) キーを押すことで確認できますね。

Unsubscribed されているニュースグループの名前があらかじめ判っている場合は、もっと簡単に一覧に表示させることが出来ます。グループモードで j キーを押すと以下のようにニュースグループ名を聞いてきます。

Newsgroup:

ここで目的のニュースグループの名前をタイプして<Return>すると、それがニュースグループ一覧の一番上の行に表示されます。あとは普通の操作でそのニュースグループの記事を読むことが出来ます。次回の GNUS の起動後に再び一覧に表示させておきたい場合はそのニュースグループについている U マークを再度 u キーによって外してやる事を忘れずに。

5.6.7 記事を投稿する(けどちょっと待てよ)

せっかくネットニュースシステムが稼働しているのです。ただ読むだけで全く投稿しないのも面白くありません。ここは一つ何か書き込んでみましょう。

投稿する前にちょっと考えること

記事を投稿するのは GNUS で勿論可能なのですが、ネットニュースを読みはじめて間もなくの頃はとにかく読むのに徹して投稿は控えた方がいいと思います。これはネットニュースと言うものを良く理解しない内に「的外れな」「失礼な」もしくは「迷惑な」記事を投稿する危険があるからです。

ちょっと否定的に書きましたが基本的にはネットニュースも含めてネットワークサービスは参加しないと意味がありません。人の書いたものを読むだけでは面白さも半減です。あまり遠慮しすぎる必要もありません。投稿そのものには賛成します。ネットニュースを盛り上げるためにもぜひ投稿してください。

但しあなたがまだ投稿する事に慣れていない場合は、まず最初に sandai.test ニュースグループに投稿してみましょう。ここは投稿の実験や、練習の為にニュースグループですから操作に失敗しておかしなメッセージを投稿してしまっても誰の迷惑にもなりません。とりあえずここに自己紹介のメッセージでも投稿してみてもどうでしょうか。また、投稿はしばらくの間 sandai で始まるニュースグループに限定するのがお勧めです。つまり fj や comp など始まるインターネットを経由して外部に流れ出てしまうニュースグループには投稿しない方がいいかも知れません。そういうところで投稿に失敗したら、最悪の場合失敗した記事が世界じゅうを駆け巡ることになってしまい、大変迷惑です。しばらく投稿の操作や作法に慣れてからの方がいいでしょう。

何事も順を追ってやりましょう、と言う事です。

さあ投稿してみましょう

さてもう前置きは良いでしょう。何か記事を投稿してみましょう。記事の投稿には二つのケースが考えられます。

1. 全く新しい話題を投稿する
2. 人の記事に対する意見やコメントを投稿する。

ネットニュースをいくらか読んでいるうちに、この二種類の記事に遭遇すると思います。誰かが質問の記事を投稿し、他の誰かがそれに答えたりしているでしょう¹⁷。

まず先に 1. のケースについて説明します。次に 2. のケースについて説明します。2. のケースのように人の記事に対して意見を加えて投稿することをフォローすると呼んでいます。

5.6.8 新しい記事を投稿する

新しい記事を投稿するにはグループモードもしくは記事モードで a キーを押します。すると以下のようなメッセージをエコーラインに表示して確認をしますので y で答えます。

```
Are you sure you want to post to all of USENET? (y or n)
```

もしグループモードで a キーを押した場合は、以下のようなメッセージをエコーラインに表示してどのニュースグループに投稿するのか聞いてきます。記事モードで a キーを押した場合は、キーを押した時のニュースグループが投稿先のニュースグループとなりますので、聞いてくることはありません。

Newsgroup:

¹⁷ え？見たことがない？それは余りに経験が少なすぎます。もうちょっとネットニュースを読み込んでみてから投稿してはいかがですか？

これにはポストする記事のニュースグループをタイプします。するともう一度同じように Newsgroup: と聞いてきますので、単に<Return>とします¹⁸。

すると今度は以下のようなメッセージをエコーラインに表示して投稿する記事の表題を聞いてきます。

Subject:

これには何かわかりやすい表題をタイプしてください。Subject には漢字やかなはつかわず、アルファベットと数字程度で表現してください¹⁹。

すると今度は以下のようなメッセージをエコーラインに表示して投稿する記事の配布範囲を聞いてきます。

Distribution: local

この Distribution は、投稿する記事の配布範囲を示しています。以下のいずれかを答えるようにします。

配布範囲	ニュースグループ	意味
local	sandai.general など	京都産業大学内のローカルニュースグループ用。京都産業大学以外に配布されることはない。
world	fj.jokes , comp.sys.sun など	国際ニュースグループ用。comp, sci, soc など世界じゅうに配布される。

あらかじめ local と表示されていますから、local で良い場合はそのまま<Return>、変更したい場合は local の後ろにあるカーソルを<Delete>キーで戻して world とタイプします。ここまで答えると Mule のウィンドウの状態が変わって、記事の内容を編集できるようになります。



図 5.8 記事を書く

ここで記事を書くわけです。Newsgroups:, Subject:, Distribution: のすぐ下に

--text follows this line--

¹⁸ ここで複数回聞いてくるのはクロスポストという操作方法の為なのですが、ここでは説明しません。

¹⁹ 最近 Subject にも漢字が利用できる場合がありますが、これは相手が Subject に漢字を適用できるシステムを持っているか、いないかに依存しますからそれが確認できない限りは漢字は使わない方が無難です。因みに現在の cc 環境の GNUS は漢字の Subject には対応していません。

という行がありますが、これ以降に本文を書いてください。この行は GNUS システムが必要とするもので、削除してはいけません。この状態で普通に Mule によってファイルの内容を編集するときと同じ様に ネットニュースの本文を編集する作業が出来ます。Mule の操作に習熟すれば、記事の内容としてどこかのファイルの内容を取り込んだり、さまざまな応用が利くようになるでしょう。

そうやって記事の本文が書き終わったら、C-c C-c で記事が発信されます。反対に記事を書いている途中で、その記事を投稿する気がなくなった場合は、C-c C-k とすれば、その記事を破棄することが出来ます。

5.6.9 記事にフォローする

誰かが書いた記事を読んでいて、その記事に対して意見を添えたり、質問をしたり、疑問に答えたりするような記事を投稿する事をフォローと呼んでいます。フォローを行うには、その元となる記事を読んでいる状態で F キーを押します。

すると、単に新たな記事を書いて投稿するときと同じ様に以下のようなメッセージをエコーラインに表示し確認してきます。

```
Are you sure you want to followup to all of USENET? (y or n)
```

これにも y と答えてやります。すると元となる記事の内容を引用するための記号を付けようとして、以下の質問をしてきます。

```
Complete cite attribution string: (default Hideki)
```

このの部分には元の記事を書いた人の名前的一部分が表示されていると思います。例では田中秀樹(たなかひでき)さんの Hideki が表示されています。ここでは自分の好みの引用記号をしましょう。漢字も使えますのでここでは 田中さん<Return>としてみましよう。単に <Return>とすると最初に表示されていた Hideki が採用されます。

```
[あ]Complete cite attribution string: (default >) 田中さん
```

すると以下のように聞いてきます。

```
登録しますか? (y or n)
```

ここで登録すると次回からこの人から来た記事に対する引用記号として「田中さん」を最初に表示します。y と答えると、以下のように聞かれる場合があります。

```
前の登録が消えませんがいいですか? (y or n)
```

これは以前「田中さん」ではない別の記号で登録されていたのだけれど、それを「田中さん」に置き換えて良いかという確認です。これにも y と答えれば良いのです。

さて、次に引用元の記事を表示しているウィンドウとは別のウィンドウが開いて

```
>>>> On Wed, 08 Mar 1995 21:09:34 +0900, Environment Test Worker <worker> said\  
:
```

と表示されると同時にエコーラインに

```
Showing reference header 1.
```

と表示されます。これは引用を開始する部分の先頭に、どのような記述を含めるかという質問です。n キーを押すことで Showing reference header の数字が 0~6 まで変わり、ウィンドウに表示されるスタイルも変化しているのが判るでしょう。気に入った表示が見つければそこで<Return>してください。すると返事を書こうとしているところに指定した引用記号を付けて元の記事の内容が現れるでしょう。但しそのままでは元の記事のヘッダ少しと本文など多くの部分が引用されますので、かなり不要な部分も含まれている可能性があることに注意してください。

あとはメールのときにそうしたように、引用のうちから不要な部分を削除し、残した必要な部分に対するコメントを書き足して行きます。

そうやって記事の本文が書き終わったら、C-c C-c で記事が発信されます。反対に記事を書いている途中で、その記事を投稿する気がなくなった場合は、C-c C-k とすれば、その記事を破棄することが出来ます。

5.6.10 記事のキャンセル

自分で投稿した記事については、その取り消しが可能です。この作業の記事のキャンセルと呼んでいます。例えば投稿した後で、書いた記事の内容に誤りを発見した場合や、投稿するグループを大きく外してしまった時などにキャンセルしたくなると思います。しかしキャンセルは非常手段で、多くの Internet 上の人々に迷惑をかけてしまいます。何よりもまず不注意な記事の投稿をしないように心がけることが大切だということを忘れないでください。

記事をキャンセルするには、図 5.7 の状態のように、キャンセルしたい記事を読んでいる状態で c キーを押します。すると以下のようなメッセージをエコーラインに表示して本当にキャンセルして良いかどうか確認してきます。

```
Do you really want to cancel this article? (yes or no)
```

ここで yes<Return>と答えることによって記事がキャンセルされます。

5.6.11 メールで返事をする

ネットニュースの記事に対する返答というのは、同じく記事によって行なうフォローもあるが、時には記事の投稿者にメールによって返答したくなる場合もあるでしょう。

記事に対してメールで返事をするには、図 5.7 の状態のように、元の記事を読んでいる状態で r キーまたは R キーを押します。r と R の違いは元記事の内容の引用にあります。R は元記事の内容を引用してくれます。引用の際にはフォローの時と同じように引用記号を何にするか聞いてきます。いずれにしても以下のような状態になり、ここでメールを書くわけです。



図 5.9 メールで返事を書く

いつものように--text follows this line--の行から下にメッセージを書きます。この行を消してはいけません。内容の編集については普通の Mule のつもりで操作が可能です。メールの中身を書き終わったら C-c C-c でメールを送信します。反対にメールを書いている途中で、そのメールを送信する気がなくなった場合は、C-x k とします。するとエコーラインに以下のような確認の為の質問をしますので、<Return>とします。

Kill buffer: (default *mail*)

これで、そのメールを破棄することが出来ます。

5.6.12 古い記事を読み返す

GNUS は、未読記事が一つもないとそのニュースグループをグループモードでは表示しなくなり、記事モードでも普通では未読のものしか表示しません。一度読んでしまったニュースグループから、古い記事を再び読み返したい時は以下の手順を追うのがもっとも簡単です。

1. (もしあれば) そのニュースグループの記事を全部読んでしまう。未読の記事をゼロにする。
2. (もしグループリストに表示されていないが、ニュースグループの名前を覚えていれば) j キーでニュースグループ名を指定して表示させる。
3. (もしグループリストに表示されていなければ) L キーでそのニュースグループを表示させる。
4. グループモードで未読ゼロのニュースグループを選択し、読む。

要するに GNUS は未読記事ゼロのニュースグループを読むという指示をしてやると、以前の記事を読み返せるように働いてくれるのです。残っている記事が非常に多いと、その中から最近のものをいくつか選んで表示するかを以下のようなメッセージで問い合わせてきます。

How many articles from sandai.general (default 197):

例では sandai.general ニュースグループの記事が結構多いので、そのうちいくら取り出すかを聞いています。どうやら全部で 197 記事あるようで、黙って <Return>すると 197 取り出してくれます。つまり自分が読み返したいと思う記事の数をタイプしてください。すると指定した数だけの既読記事が取り出され、図 5.7 のように表示されるでしょう。あとは今まで通りの操作で同じように扱えます。

5.6.13 記事の保存

ほとんど全てのネットニュースの記事は時間が経てばシステムの中から自動的に削除されてしまいます。つまり残しておきたい記事に関しては自分の手元に保存しておく必要があるのです。

記事を保存するには図 5.7 の状態で記事を読んでいる時に、C-o キーを押します。するとエコーラインに以下のようなメッセージを表示して何と言う名前で保存するかを聞いてきます。

```
Save article in Unix mail file: (default sandai.test) ~/News/
```

上の例ではたまたま sandai.test ニュースグループの記事を保存しようとしています。あなたのホームディレクトリの下で News というディレクトリの下に sandai.test という名前のファイルとして保存すると言っていますので、ここではそれに従うことにします。単に <Return> です。もしもファイルの名前を変更したければここでファイル名をタイプして <Return> です。ファイルが既存であればどんどん追加書きしていきます。

```
Loading rmailout...done
```

と言うメッセージが表示されて、記事が保存されます。

保存された記事をうまく読み返す方法もあるのですが、ここでは余り説明しません。保存したファイルは、特に指定をしなければあなたのホームディレクトリの下で News ディレクトリ以下にニュースグループごとの名前を付けて保存されているでしょうから、このファイルを直接見て下さい。

Mule の操作に慣れている人の為に

記事を保存する時に C-o ではなくて o キーで保存すると、記事はまるでメールのようにして保存されます。こうして保存された記事は MHE で読み返す事も出来ます。M-x mh-rmail で MHE を起動して、M-f で保存した記事のニュースグループをフォルダとして指定してやれば良いのです。MHE におけるフォルダの概念に付いてはここでは説明しません。

o で保存された記事は ~/Mail/sandai.test/1 などという名前のファイルとして保存されています。

但しこうやって作成されたファイルは漢字コードが cc 環境標準の EUC ではなくて JIS になっている²⁰ ので、普通に cat コマンドや more コマンドでその中身 (特に漢字の部分) を見る事が出来ません。中身を直接確認するには Mule で読み込んで見て下さい。メールが MHE によって保存される時も、このようになっています。

5.6.14 ちょっとしたテクニック

記事を選ぶ時に表題一覧を画面いっぱいに表示する

図 5.7 の様に、記事を表題を見ながら選んでいく時に表題一覧が数行分しか表示されなくて操作が面倒な時があります。そんな時は「= (等号、イコール)」キーが有効です。

図 5.6 の状態で、ニュースグループを選ぶ時に <Space> キーを押す代わりに = キーを押してやります。するとそのグループの表題一覧だけが画面いっぱいに表示されます。ここで記事を選んで <Space> キーを押せば普通に記事を読むことが出来ます。

図 5.7 の状態でも、= を押してやれば、画面いっぱいに表示されます。

²⁰ この表現が判らない人は無視して下さい。なにか普通ではないファイルになっているとだけ思って下さい。

あるグループの記事を全部読んだことにする

GNUS は記事を全て未読と既読に区別し、普通に記事を読もうとすると未読のものだけを表示します。そうすることによって GNUS を起動する度に、新たに届いた記事にだけ注目して読み続けることが出来るのです。

このような仕掛けは毎日ネットニュースを読んでいるような場合には有効ですが、しばらくネットニュースを読まなかったり新しいニュースグループを選んで読みはじめる時には困ることもあります。つまり既にそのニュースグループには記事が数百もたまっていて、とてもではないけれど読み切れないというような事が起こるのです。

そのために GNUS には「今ある記事を全部読んだことにする」という機能があります。グループモードでも記事モードでもいずれでも構いませんから c キーを押せば、今選んでいるグループの記事を全部まとめて読んだことにしてくれます。

c キーを押せばエコーラインに以下の様なメッセージを表示して確認してきます。

```
Delete all articles not marked as unread? (y or n)
```

まるで記事が全て削除されてしまうかのような表示ですが、単に「未読マークを消すよ」と言っているだけなので、安心して y キーを押してください。

5.7 記事を書くときの注意

ここでは操作方法ではなく、記事の中身の書き方やその周辺の事柄について説明します。

どこのニュースグループに投稿するか？

ニュースグループは大きく分けて、3 つあります。

sandai.*	京都産業大学内だけのニュースグループ 配布範囲 (以下 Distribution) は local を選択します。
fj.*,japan.*,tmn.*など	主に日本語だが対象は世界中のネットワーク Distribution は world を選択します。
fj.*,japan.*,comp.*,rec.*,soc.*,sci.*など	世界中のネットワーク Distribution は world を選択します。

初めのうちは学内のニュースグループで練習をしてから学外のニュースグループを利用するようにしましょう。なお、上記の他にも海外のニュースグループがいくつかあります。

モデレータがいるニュースグループといないグループ

- モデレータ (そのニュースグループの管理人) がいないニュースグループは unmoderated と呼ばれています。すなわち、投稿すれば必ず全体に投稿されます。
- モデレータがいるニュースグループは moderated と呼ばれています。このニュースグループに投稿すると、記事はそのニュースグループを管理している人に自動的にメールとして送られ、その人が有益であると考えた記事のみが全体に投稿されます。どのニュースグループが moderated かどうかは、fj に関しては、ときどき fj.guide.general にポストされる fj のニュースグループに関する記事を参照して下さい。

sandai.test, fj.test の使いかた

sandai.test はポストやフォローのテストを行なうためのニュースグループです。fj.test もその為のものなのですが、fj.test を用いると、fj を購読している 1000 を越えるサイトに記事が流れることとなります。fj.test はシステム管理者が使うべきものですから、あなたは fj.test を利用してはいけません。

記事の内容について

- 特にこのように書けというものはありませんが、自分の書いた記事は他人が読むことを考えて、読む人の立場に立って書きましょう。ときどき fj.questions.*などで、質問の内容がつかめないものがあります。
- ネットニュースのような文字による通信では、普段相手と会って話す時や電話で話す時と異なり、微妙なニュアンスが伝わりません。時々これに注意しなかったばかりに Internet で喧嘩をしていることがあります。注意しましょう。
- こう言ったことにならない為にも、しばらく人の投稿を見てネットニュース上でのマナーを学ぶのがいいと思います。喧嘩の元になるようなネットニュース上の「ひどい」記事は fj.misc というニュースグループなどでよく取り上げられますので参考にしてください。
- Subject の内容は、その記事の内容を反映しているものにすべきです。また、Subject には、漢字を使ってはいけません。
- 投稿の内容に関する責任は、書いた人の属する組織にあるのではなく、書いた人自身にあります。また、著作権はその記事を書いた人にあります。
- ネットニュースにおける誰かの発言は、発言者個人のものであって決して組織の代表としての発言ではないことに常に注意しておいてください。例えば某メーカーの社員が自社の製品について批判的なことを書いても、それは個人の感想に過ぎず、それ以上の意味はありません。その発言を取り上げてその会社の他の人に文句を言ったりするのは「反則」です。自分が買った製品が気に入らなくて「×社の人説明して下さい」などと発言するのナンセンスです。むしろこのような場合は「×社の製品を買った人、良い解決法を考えましょう」とやる方が余程建設的です。
- 違法な内容の記事（歌詞のポストなどによる著作権の侵害、公道を時速 〇〇で走ったなど）をポストしてはいけません。当たり前の話ですが、反社会的な記事を投稿するべきではありません。それが問題として取り上げられ、Internet が社会から迫害されてしまう可能性だってあるのです。（現在の社会を構成する大部分の人にとって Internet なんても無くてもどうでも良いものの一つなのです。）

フォローの方法

ネットニュースを読んでいるとわかりますが、相手の引用文の始めには「>」等をつけます。また、引用の前には、誰に対する引用なのかをはっきりさせます。引用の量はなるべく少なくなるようにして下さい。なお「>」で始まる行の行数は、自分がポストする記事全体の半分以下でなければなりません（ネットニュースリーダのデフォルトではこうなっています）。つまり引用大量、意見少量という事はするべきでない、という訳です。

5.8.1 フロッピーディスクの種類

フロッピーディスクは外見が同じでも実はいろいろな種類があります。

買ったフロッピーディスクはそのままでは使うことができず、フォーマット（初期化）が必要になります²¹。フォーマットはフロッピーディスクをきれいにして²²、コンピュータがデータを読み書きする時のための目印をつける作業です。その印の付け方、これをフォーマット形式といますが、これがコンピュータの種類によって違うため、あるコンピュータで使えたフロッピーディスクが他のコンピュータで使えないということが起こります。ただ最近のコンピュータはいくつかのフォーマット形式を扱えるようになっているので目的のコンピュータ両方で扱えるフォーマット形式があるはずで、ではどんなフォーマット形式があるか紹介しましょう。

²¹ 特定の機械用にフォーマットされたフロッピーディスクも売っています。それを買った場合はわざわざもう一度フォーマットする必要はありません。また、間違って他の機械用にフォーマットされたフロッピーディスクを買ってしまったら、目的のコンピュータでフォーマットしてやることで普通は使えるようになります。

²² 大事なファイルが入っていた場合でも全部消してしまいますので実行するときはよく確認しましょう。

表記	説明
PC-AT	IBM PC-AT 互換機。俗に DOS/V パソコンと誤って呼ばれているもの。51, 52, C1 情報処理教室と図書館パソコンコーナーにあるコンピュータはこの種類。
PC-98 Mac	NEC PC-9801 シリーズとその互換機。 Apple Macintosh シリーズとその互換機。11, 31, 32 情報処理教室と図書館パソコンコーナーにあるコンピュータはこの種類。
Ultra NeXT	21 情報処理教室の Sun Ultra1。 C3 情報処理教室の NeXT。
ワープロ専用機	文豪や OASYS、書院、Rupo 等のワープロ専用機。

表 5.1 コンピュータの表記

種類	容量	通称	利用できる主なコンピュータ
2ED	2.88MB	ネクストニィイーディー	NeXT
2ED	2.88MB	ニィイーディー	一部のワークステーション
2HD	1.44MB	1.44 メガニィイーチディー	PC-AT, 一部の PC-98, Mac, Ultra, NeXT, 一部のワープロ専用機
2HD	1.44MB	マッキントッシュニィイーチディー	Mac, NeXT
2HD	1.44MB	ネクストニィイーチディー	NeXT
2HD	1.44MB	UNIX ニィイーチディー	Ultra
2HD	1.25MB	1.2 メガニィイーチディー, 98 フォーマット	一部の PC-AT, PC-98, 一部のワープロ専用機
2HC	1.20MB	ニィイーチシー	PC-AT, PC-98
2DD	800KB	マッキントッシュニィディーディー	Mac, NeXT
2DD	720KB	720 ニィディーディー	PC-AT, PC-98, Mac, Ultra, NeXT, 一部のワープロ専用機
2DD	720KB	ネクストニィディーディー	NeXT
2DD	640KB	640 ニィディーディー	PC-98, 一部のワープロ専用機
2HD	?	ワープロ専用フォーマット	ワープロ専用機
2DD	?	ワープロ専用フォーマット	ワープロ専用機

表 5.2 フォーマット形式一覧

補足

実はフロッピーディスクの大きさにも種類があります。現在は 3.5" (インチ) が主流で、cc 環境はすべて 3.5" で統一されていますが、2", 5", 8" といったサイズのフロッピーディスクが存在します。なお、学校には 3.5" 以外のフロッピーディスクを読める環境がほとんどありません。この章では 3.5" であることを前提にしています。5" しかおもちでない場合、何らかの方法で 3.5" に変換してください。

どうですか?こんなに種類があったら覚えきれないですね。でも安心してください。あなたが覚えるのはこのうちたった2つでいいのです。上記のフォーマット形式は大きく2つのグループに分けることができます。1つはそのコンピュータのデータを100%記録するための専用フォーマット形式、そしてもう一つは多少ファイル名の長さ等に制限があるけれど一応読み書きできる互換フォーマット形式です。もうわかりましたね。あなたが普段よく使うコンピュータの専用フォーマット形式と、ファイルをコピーしたいどちらのコンピュータでも使える互換フォーマット形式の2つを覚えればいいということです。欲を言えば、互換フォーマット形式では使えない機能を理解すれば完璧ですね。

いくつか代表的なパターンを紹介しましょう。もっとも多そうなパターンは学校と自宅のパソコン間でしょうからそれを想定します。

- 自宅のパソコンが PC-AT 互換機または 1.44MB 2HD が使える PC-98 シリーズの場合
1.44MB 2HD を使います。自宅から学校へ持っていく場合には何の問題もありません。逆は相手が UNIX や Macintosh の場合、ファイル名の長さ制限に気をつけましょう。扱えるのは 8 文字.3 文字までです。
- 自宅のパソコンが 1.44MB 2HD の使えない PC-98 シリーズの場合

少し古いタイプの PC-98 シリーズですね²³。この場合 720KB 2DD を使った方がよさそうです。制限は上の 1.44MB 2HD の場合と同じです。

- 自宅のパソコンが Macintosh シリーズの場合
家では 1.44MB Macintosh 2HD を使えばよいでしょう。学校の Macintosh とデータをやりとりする場合は何の問題もありません。そうでないなら 1.44MB 2HD を使いましょう。同じくファイル名の長さ制限に気をつけましょう。
- ワープロ専用機の場合
ワープロ専用機では飾りや絵、拡大文字等を保存できるのは専用フォーマットだけです。学校とやり取りする場合、1.44MB 2HD か 720KB 2DD になりますが (MS-DOS フォーマットとかかかっているかもしれません。また、古い機種はこのフォーマット形式は扱えません。その場合方法は残されていません。あきらめてください。)、このディスクに保存した場合それらの情報が失われ、文字と (記号として) 一部の罫線が残るだけです。それを了承した上で他と同じようにできます。

このようなところでしょうか。それぞれのフォーマットの仕方はパソコンやワープロのマニュアルを参照してください。

5.8.2 ファイルの種類

テキスト形式とバイナリ形式

さてフォーマット形式は理解できたでしょうか? できたらついでにもう一つ覚えましょう。ファイルの種類です。ファイルにはテキスト形式とバイナリ形式の 2 種類があります。

- テキスト形式
目にみえる文書のデータです。mule で編集できるファイルです。
- バイナリ形式
プログラムデータ等、テキスト以外の表示できないデータを含むデータです。mule で開けようとして、cat で画面に表示しようとするとうどい目にあいます²⁴。

勘違いしやすいのですが、パソコンのワープロソフト (一太郎やワード等) で保存したファイルはいろいろな修飾データを保存するためバイナリ形式になっています。これらのソフトで作った文書をテキストとして扱いたい場合は保存するときにテキスト形式で保存するようにしてください²⁵

テキスト形式の場合

テキスト形式は行を変えるときに、目には見えない改行コード (改行を意味する文字) が存在しています。この改行コードはコンピュータの種類毎に違いがありこの扱いが違うコンピュータ間でファイルをやり取りするときはこれを変換する必要があります。改行コードの違いをまとめると表 5.3 のようになります。

表中の改行コードの意味は深く考えないでいいです。簡単に説明すると、たとえば UNIX で作ったテキストデータを Windows95 にそのまま持っていったとしましょう。UNIX で作った文書には改行するのに 0A としか書かれていません。しかし Windows95 で改行するには 0D と 0A が並んで存在する必要があります。従ってこれは改行コードとはみなされず、正しく改行がなされないことになってしまうのです。ま

²³ 私の家にもありますけど (^-^;)

²⁴ 画面が乱れてそれ以降正しい表示ができなくなる場合があります

²⁵ 詳しくはソフトのマニュアルを見てください。また、この場合拡大文字や下線などの情報が保存できません。

改行コード	主な OS
0A	UNIX
0D	Macintosh OS
0D 0A	Windows95, Windows3.1, MS-DOS

表 5.3 改行コード

た逆の場合には 0D が余分なため変な文字が表示される場合があります。

サンプルデータ	貴社の記者が 0A 車で帰社した	
各 OS での扱い	UNIX の場合	Windows95 の場合
	貴社の記者が 車で帰社した	貴社の記者が車で帰社した
サンプルデータ	貴社の記者が 0D 0A 車で帰社した	
各 OS での扱い	UNIX の場合	Windows95 の場合
	貴社の記者が^M 車で帰社した	貴社の記者が 車で帰社した

先の項目でファイルをコピーする時にテキスト形式で行うかバイナリ形式で行うかを選択できる場面がありますが、そこでテキスト形式のデータを選択すると改行コードを変換してコピーしてくれます。バイナリ形式を選択すると完全にそのままの形でコピーします。わからなければバイナリ形式を選択する方が無難でしょう。

改行コードの他にもう一つ、文字コードの違いもあります。文字コードとは日本語を扱う時のコンピュータの情報の持ち方を表したものです。コンピュータはアルファベットや記号やひらがなや漢字等、全ての文字をずらっと並べて 1 番目の文字、2 番目の文字、というように覚えているのです。

その並べかたが何通りもあり、それを文字コードと呼びます。例えば「あいうえお」という文字が、コンピュータ A の文字コードでは 1000 番目、1001 番目、...、1004 番目の文字として、コンピュータ B の文字コードでは 2000 番目、...、2004 番目の文字として記録しているとします。この場合、コンピュータ A で「あお」と書いて記録したテキストをコンピュータ B で呼び出しても、コンピュータ B はあくまでコンピュータ B の文字コードでの 1000 番目と 1004 番目の文字を表示しようとするだけで、「あお」とは表示できません。仮にコンピュータ B が 1000 番目からの文字は A B C D E となっていたら「A E」と表示されてしまいます。

コード番号	コンピュータ A	コンピュータ B	
:	:	:	
1000	あ	A	「あいうえお」という文書を
1001	い	B	・コンピュータ A で作った場合
1002	う	C	1000 1001 1002 1003 1004
1003	え	D	と記録される。
1004	お	E	・コンピュータ B で作った場合
:	:	:	2000 2001 2002 2003 2004
2000	亜	あ	と記録される。
2001	唾	い	・コンピュータ A で作った
2002	娃	う	「あいうえお」は
2003	阿	え	コンピュータ B では
2004	哀	お	「A B C D E」に見える。
:	:	:	

このようにコンピュータが扱う文字コードとファイルに使われている文字コードが違った場合は全く使い物にならないのです。でも安心してください。文字コードを変換してくれるアプリケーションが存在しますので、それを利用して目的の文字コードに直すことができます。

文字コードには表 5.4 のように 3 つの代表的なものがあります。覚えておいてください。また、本ガイド中ではあえて JIS コード、EUC コード、SJIS コードと表記することにします。

文字コードの名称	簡単な説明
JIS X 0208-1990	一般的に誤って JIS コードと呼ばれるもの。主に電子メールなど、ネットワークで用いられる。なお、JIS X 0208-1990 の古い規格として、JIS X 0208-1978、JIS X 0208-1983 が存在する。
ISO 2022-1993	一般的に EUC コードと呼ばれるもの。主に UNIX ワークステーションで用いられる。
Shift JIS	SJIS コード、MS 漢字コードと呼ばれることもある。主に PC-AT や PC-98、Macintosh 等のパソコンで用いられる。上記 JIS X 0208 の各規格から変換規則に従って定義されているため JIS X 0208 と同じ数の種類がある。

表 5.4 代表的な文字コード

cc 環境では EUC コード、一般的なパソコンが SJIS コードを使っているため、テキスト文字をコピーしてもそのままでは読むことができないはずで。

これを変換してやらないといけません。cc 環境では `nkf`²⁶ というコマンドが用意されています。利用方法は

```
nkf -変換したい文字コード 元のテキストファイル名 > 変換後のテキストファイル名
```

です。文字コードには `s`(SJIS)、`j`(JIS)、`e`(EUC) が選べます。例えば `cc2000` で `report2` というファイルを作り (EUC)、これを家のパソコンで読むために SJIS コードに変換するには

```
cc2000(80)% nkf -s report2 > report2.txt
```

²⁶ Network Kanji code conversion Filter から命名されているらしいです。

のようにします。もしくはそのまま持ち帰り、パソコン上で同様のソフトを使って変換すればよいでしょう。注意点として、変換後のファイル名に元のファイル名と同じ物 (例では report2) を指定するとファイルがからっぽになってしまいます。これはコンピュータの処理方法を理解するとわかるのですが、コンピュータはまず書き込むファイル report2.txt を用意して、その後 report2 を変換しながら report2.txt に書き込んでいきます。従って出力先を同じファイル名、例えば `nkf -s report2 > report2` とすると、書き込むファイルを用意する時 report2 をからっぽにします。それはすなわち元文書である report2 を消してしまうということです。結果、中身のなくなった report2 を変換して書き出すので、当然中身は何も残りません。

5.8.3 ファイルをフロッピーディスクにコピー

パソコンのファイルをフロッピーディスクにコピーする方法はここでは述べません。それぞれのマニュアルを見てください。ここでは各情報処理教室で UNIX コンピュータからファイルをフロッピーディスクに読み書きする方法を紹介します。

- 11、31 情報処理教室で Fetch を利用する
- 21 情報処理教室で cp コマンドを利用する
- C1、51 情報処理教室で WS FTP を利用する
- C3 情報処理教室で ファイルビューア を利用する

11、31 情報処理教室で Fetch を利用する

11、31 情報処理教室の Macintosh では fetch というソフトを使います。

アップルメニューから fetch という項目を選びます。🖱️のようなアイコンが描いてあると思います。これを選ぶと Host、USER ID、Password を入力する画面が出てくるので、それぞれ cc2000、あなたのユーザ名、あなたのパスワードを入力して OK ボタンを押します。パスワードは何を入力しても「*」が表示されると思いますが、これは後ろから覗かれても大丈夫なようにしているだけです。安心して入力してください。きちんと入力できていれば図 5.10 のような画面になります。

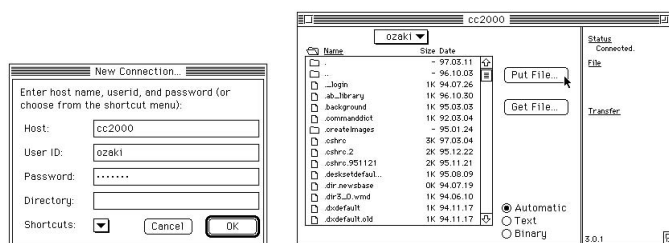


図 5.10 Fetch の起動

フロッピーディスクから UNIX へ

PUT ボタンを押します。するとコピーしたいファイルを選ぶ画面になりますので選択してください。選びたいファイルが見当たらない場合はフロッピーディスクではなく、ハードディ

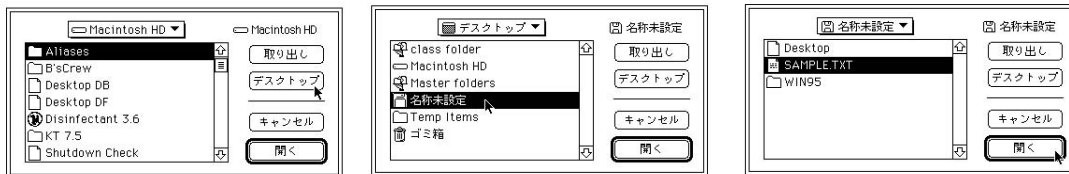


図 5.11 フロッピーディスクからファイルを選択

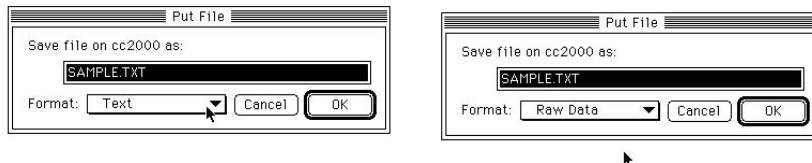


図 5.12 データ形式の選択

スクが表示されているのかもしれませんが。その場合、まずフロッピーディスクを選択しなければいけませんので、デスクトップというボタンを押すと一覧の中にフロッピーディスクが出てきますからそれを選択するといいでしょう。

無事目的のファイルを選ぶことができたなら、図 5.12 のようになります。ここで Text タイプとなっていますが、これは必要に応じて Raw Data に変更する必要があります。テキスト形式のデータなら Text を、バイナリ形式のデータなら Raw Data を選択してください。

UNIX からフロッピーディスクへ

同様に Fetch を起動して、今度は先にファイル形式を決めます。ファイル形式にあわせて、Automatic になっているボタンを Text か Binary にあわせてください。続いて表示されているファイルリストから必要なファイルを選択し、Get ボタンを押します。すると保存場所を聞いてきます。Text を選んだ時と Binary を選んだ時では若干画面が違いますが、気にせずフロッピーディスクを選択して保存してください。

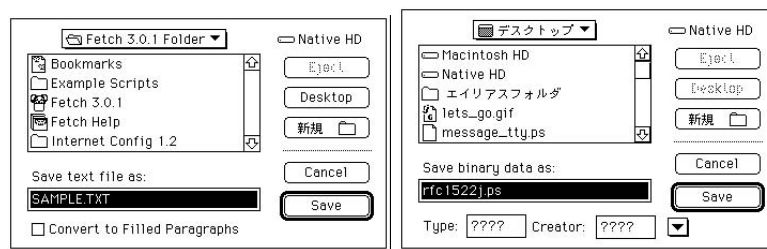


図 5.13 保存画面

21 情報処理教室で cp コマンドを利用する

21 情報処理教室の Ultra1 では UNIX からフロッピーディスクに cp コマンドで読み書きすることができます。

フロッピーディスクを挿入して、画面の何も無いところをクリックすると出てくるメニューから、Floppy Mount を選択すると /floppy というディレクトリにフロッピーディスクが接続されます。このディレクトリに対して例えば cp reprot2 /floppy/ のように cp, rm, mv 等のコマンドが使用できます。

取り出す時は同じくメニューから、Floppy Eject を選択してください。なお、この時にカレントディレクトリが /floppy 以下にあると「使用中です」とメッセージがでます。その場合、カレントディレクトリを移動して再度 eject してください。

C1、51 情報処理教室で WS FTP を利用する

51 情報処理教室の WindowsNT と C1 情報処理教室の Windows3.1 では WS FTP を使います。51 情報処理教室の場合は Start メニューからプログラムの WS_FTP32 を選択、C1 情報処理教室の場合はユーザーアプリケーションから WS_FTP を実行するとユーザ名、パスワードを求める画面が出てきます。図 5.14 のように入力し、OK ボタンを押すと左側にパソコンのファイル、右側に UNIX のファイルが表示された画面が出てきます。

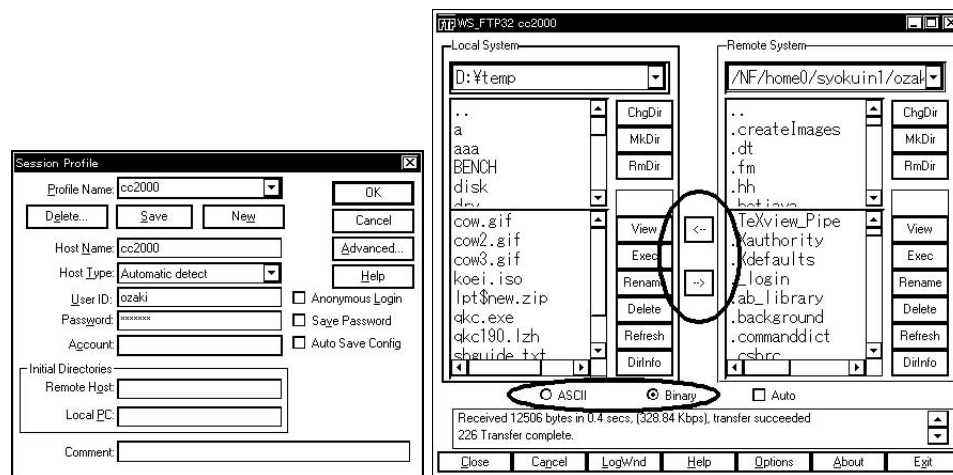


図 5.14 起動画面

さらに左右それぞれ 2 段に分かれており、上の段がディレクトリ、下の段がファイルになっています。上段のディレクトリ名はダブルクリックするとそのディレクトリに移動します。フロッピーディスクを選択するにはパソコン側上段のディレクトリ名一覧から、[-a-] というのが A ドライブ、つまりフロッピーディスクの番号ですので、これをダブルクリックします。

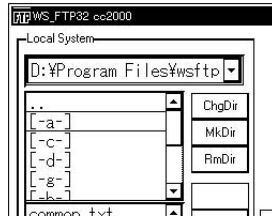


図 5.15 フロッピーディスクの選択

パソコン側、UNIX 側それぞれの目的のディレクトリに移動して、下段のファイル名一覧から目的のファイルをクリックして色を反転させます。そしてファイルにあわせて ASCII か Binary のどちらかに設定し、「パソコンから UNIX」なら「->」を、「UNIX からパソコン」なら「<-」のボタンを押すと転送を始めます。

C3 情報処理教室で ファイルビューア を利用する

C3 情報処理教室の NeXT はフロッピーディスクを挿入すると自動的にファイルビューアにフロッピーディスクのアイコンが追加されます。これを普通のディスクとして扱えますので、通常の NeXT でのファイル操作と同じようにファイルをドラッグ&ドロップでコピーできます。簡単ですので説明は省きます。

5.8.4 UNIX 間でファイルのコピー

もし、あなたが 2 種類以上の UNIX コンピュータ環境を利用していた場合、それらのコンピュータ間でファイルをコピーするのならばフロッピーディスクは必要ありません。

FTP(File Transfer Protocol)、日本語でいうならファイルを転送するためのルール、とでもなるでしょうか。違う UNIX コンピュータでもこの FTP に従って通信することでファイルのコピーができるのです²⁷。

例えば ozaki さんは cc2000 と ksunny という 2 つのコンピュータを利用しています。ここで ozaki さんが cc2000 を使っていて、ksunny というコンピュータの reidai.txt というファイルが欲しくなったとしましょう。まず cc2000 側で

```
cc2000(80)% ftp ksunny
```

とすると

```
Connected to ksunny.
220 ksunny FTP server (UNIX(r) System V Release 4.0) ready.
Name (ksunny:ozaki):
```

となり、ユーザ名とパスワードを求めてきますので ksunny でのユーザ名とパスワードを入力します²⁸。正しく入力できたら

```
User ozaki logged in.
ftp>
```

²⁷ 実は先の章の Fetch や WSFTP もこれを利用しているソフトです。

²⁸ ここで他人のユーザ名、パスワードを入力するとその人のファイルが FTP の対象になります。友人のファイルをコピーする時に使うといいでしょう。

となり、命令の入力待ちの状態になります。

どのようなコマンドが使えるかは `help <Return>` とすると一覧が出ます。とりあえずディレクトリを移動する `cd`、ファイルの一覧を見る `dir`、コピーのモードを選択する `ascii` と `bin`、ファイルを取得する `get`、ファイルを置く `put`、そして終了する `bye`。これだけ覚えていれば使えます。

最初は ozaki さんの ksunny でのホームディレクトリにいるはずですから、`cd` コマンドで目的のファイルのあるディレクトリに移動します。必要なら `dir` コマンドで目的のファイルを確認し、ファイルの種類にあわせてテキストなら `ascii`、バイナリなら `bin` コマンドを実行して、`get reidai.txt` とすれば `cc2000` で `ftp` コマンドを実行したときのカレントディレクトリに `reidai.txt` をコピーします。終了は `bye` コマンドです。

```
ftp> cd dir1
250 CWD command successful.
ftp> ascii
200 Type set to A.
ftp> get reidai.txt
200 PORT command successful.
150 ASCII data connection for reidai.txt (133.101.32.73,48069) (635 bytes).
226 ASCII Transfer complete.
local: reidai.txt remote: reidai.txt
648 bytes received in 0.004 seconds (1.6e+02 Kbytes/s)
ftp> bye
221 Goodbye.
cc2000(81)%
```

5.8.5 FTP コマンドの詳細

先ほどの章で `cd` コマンドや `get` コマンド、`bye` コマンドを使いましたが、ここでよく使うものをまとめておきましょう。

ディレクトリ関連	<code>cd</code> <code>pwd</code> <code>dir</code> <code>lcd</code>	ディレクトリを移動します。 現在のディレクトリを表示します。 現在のディレクトリのファイルの情報を表示します。 自分の使用しているコンピュータ側のディレクトリを移動します。
ファイルの種類	<code>bin</code> <code>ascii</code>	ファイルの転送モードをバイナリにします。 ファイルの転送モードをテキストにします。
ファイルの転送	<code>get filename</code> <code>put filename</code> <code>mget file1 file2 ...</code> <code>mput file1 file2 ...</code>	ファイルを受信します。 ファイルを送信します。 複数のファイルを受信します。 複数のファイルを送信します。
ヘルプ	<code>prompt off</code> <code>help</code>	<code>mget,mput</code> の際に確認を取りません。 コマンドの一覧を表示します。

5.8.6 anonymous FTP

今までの説明は自分のファイルをコピーする方法でした。実はこの応用で、インターネット上に提供されている様々なファイルを取得することもできるのです。

インターネット上のファイルを取得する場合はユーザ名に anonymous(匿名) を使うのでこれを anonymous FTP と呼びます。ユーザ名に anonymous、パスワードにメールアドレスを入力して利用します。パスワードにメールアドレスを入力するのが anonymous FTP を使わせてもらう上でのマナーです。違う文字列を入力してもおそらく受け付けますが、ここはマナーを守ってきちんとメールアドレスを入力してください。きちんと入力しておくことで FTP のよって得たものにウイルスなどの疑いがあれば連絡してくれるでしょう。パスワードの入力部分ですので入力した文字列は画面に表示されません。慎重に入力してください。

また、ファイルを転送している間はその相手先と自分との間のネットワークをいくらか占有することになります。ネットワークはみんなで共有しているものです。したがって大きなサイズのファイル²⁹ を転送すること(長時間占有することになります。)、遠くからファイルを転送すること(たくさんの回線を占有することになります。)はお勧めできません。どうしても大きなファイルを得たいときは夜などのすいている時間帯に実行するか、同じファイルをいくつものサイト³⁰ にコピーして置いてある場合³¹ がありますので、できるだけ近くの FTP サイトから得るようにするのがマナーです。ちなみに本学の場合なら一番近いのは本学内の ftp.kyoto-su.ac.jp 等、次は京都大学の ftp.kuis.kyoto-u.ac.jp です。

本学の ftp サービスのディレクトリ構成は以下のようになっています。

/pub	
/comm	シリアル通信関係
/net	LAN サービス関係
/util	汎用のユーティリティ
/fep	かな漢字変換
/doc	なんだかドキュメント
/X	X 関係
/GNU	GNU 関係
/TeX	TeX 関係
/DOS	DOS 関係
/Windows	MS-Windows 関係
/Win95	MS-Windows95 関係
/WinNT	MS-WindowsNT 関係
/OS2	OS2 関係
/Mac	Mac 関係
/NeXT	NeXT 関係
/PC98	PC98 関係 (DOS 汎用は ./DOS 行き。)
/OSF1	Dec OSF/1 関係
/Solaris2	Sun Solaris2 関係
/AIX	IBM AIX 関係

各アーキテクチャ(Windows, Mac 等)以下の構成(主なもの)

/AntiVirus	ウイルス駆除ソフト関係
------------	-------------

²⁹ 色々な条件によって違いますが、500KB ぐらいを目安にすればいいと思います。

³⁰ サイトとは直訳すれば敷地ですがここではネットワークのまとまった単位です。例：京都産業大学のサイト

³¹ ミラーサイトという完全にコピーして提供してくれているサイトもあります。

/DiskTools	圧縮解凍ソフト、ファイル操作関係
/Editor	エディタ関係
/Graphics	グラフィック関係
/NetTools	ネットワーク関係
/Others	その他

例えば本学の FTP サイトを利用して、/pub/doc/report_j.tex というファイルを取得する場合はこのようになります。

```
cc2000(80)% ftp ftp.kyoto-su.ac.jp
Connected to cc2000.kyoto-su.ac.jp.
220 cc2000 FTP server (Version wu-2.4(1) 1994 年 11 月 15 日 (火) 09 時 46 分 10 秒
JST) ready.
Name (ftp.kyoto-su.ac.jp:ozaki): anonymous
331 Guest login ok, send your complete e-mail address as password.
Password: ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp32
230-#####
230-# Welcome to the Kyoto Sangyo University Computer Center archive.
230-# All archive files are stored under /pub.
230-# Please report if you have problem to ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp
230-#####
230-
230 Guest login ok, access restrictions apply.
ftp>
```

となり、命令の入力待ちの状態になります。最初は FTP サービスのルートディレクトリにいますから、cd コマンドで目的のファイルのあるディレクトリに移動します。そして今回の例では取得するファイル形式がテキストなので ascii と宣言して、get report_j.tex とすれば cc2000 で ftp コマンドを実行したディレクトリに report_j.tex をコピーします。最後は bye コマンドで終了します。

```
ftp> cd /pub/doc
250 CWD command successful.
ftp> ascii
200 Type set to A.
ftp> get report_j.tex
200 PORT command successful.
150 Opening ASCII mode data connection for report_j.tex (6086 bytes).
226 Transfer complete.
local: report_j.tex remote: report_j.tex
6294 bytes received in 0.041 seconds (1.5e+02 Kbytes/s)
ftp> bye
221 Goodbye.
cc2000(81)%
```

³² 実際はここは画面には表示されません。

5.8.7 archie

ファイルの名前は分かるんだけどもどこの FTP サイトにあるか分からない場合には、archie³³ というサービスがあります。

```
cc2000(80)% archie -s 'strings'
```

のようにすると(しばらく時間がかかりますが) strings を含むファイル名を検索してそれがどこにあるか表示してくれます。

ただし、先述した通り本学にあるものをわざわざ他の FTP サーバに取りに行くのはネットワーク資源の無駄使いになります。また、この archie では本学の分は検知できませんので、これを行う前に本学の FTP サーバに目的のファイルがないか確認してください。そのために ccarchie というコマンドが用意してあります。使い方は以下の通りです。

```
cc2000(80)% ccarchie -s 'strings*' strings から始まるものを検索。
cc2000(80)% ccarchie -s '*strings*' strings を含むものを検索。
cc2000(80)% ccarchie -s '*strings' strings で終るものを検索。
cc2000(80)% man ccarchie ccarchie の詳しい使い方を表示。
一例を載せておきます。
```

```
cc2000(173)% ccarchie -s 'unixguide*'
```

```
Location: /pub/doc
  DIRECTORY drwxrwxr-x      4096 Mar 25 1994 UNIXguide
  DIRECTORY drwxrwxr-x      7168 Oct 17 10:22 UNIXguide_2nd
  DIRECTORY drwxrwxr-x      3072 Jul  4 1995 UNIXguide_append
Location: /pub/doc/UNIXguide_2nd
  FILE -rw-rw-r--          915 Apr  7 1995 unixguide.sty
```

これは学内 ftp サーバの ftp にある内、unixguide という文字列を含むディレクトリやファイル名が表示されています。例えば、下の 2 行は unixguide.sty というファイルが ccftp に anonymous FTP して、cd /pub/doc/UNIXguide_2nd とすればそのディレクトリにあることを示しています。

³³ アーチーと読みます。

5.9 World Wide Web

127 ページ、5.1.9 で紹介した WWW を実際に利用してみましょう。

京都産業大学のコンピュータ環境に関するいろいろな読みものを見てみましょう。WWW のブラウザ（後述）を起動すると最初に京都産業大学のホームページが表示されますのでその中から「情報サービス」を見つけ、クリックします。すると情報サービスのページが表示されます³⁴。そして、「WWW 個人ページを作ろう」や「産大 F A Q 初級者編」などをクリックすると、そのページが表示されます。

このようにして次々に情報をたどっていくことができますが、どこでもクリックすればいいという訳でもなく、リンクの定義がされている場所でクリックしないと何も表示されません。リンクの定義がしてある所は色が付いていたり、アンダーラインが付いていたり、マウスカーソルをあわせるとマウスカーソルが指の形になったりします³⁵ ので慣れればすぐに見分けがつくでしょう。文字だけでなく、画像上にリンクの定義がある場合もあります。

5.9.1 URL

URL とは Uniform Resource Locator の略でページの所在を示すものです。

```
http://www.kyoto-su.ac.jp/index-j.html
```

のように表記され、「http://」はこれは WWW のページだよということを示すもの、「www.kyoto-su.ac.jp」はページを持っているコンピュータの名前、その後ろはそのコンピュータ内でのページの場所を示しています。

この URL さえ知っていればその情報をすぐに得られることが出来ます。最近は雑誌や新聞でも URL の紹介を見かけるようになりました。しかし、URL が分からない場合はどうすればいいのでしょうか。電話番号なら 104 で聞いたり電話帳をめくったりしますね。実は WWW の世界にも同様のサービスを行っているページがあります。

一つはキーワードから検索するもの。これは例えば university と kyoto をキーワードにして検索すると京都産業大学や京都大学などが見つかります。このサービスはサーチエンジンと呼ばれています。正確にはキーワードから検索してくれる動力部分、つまり検索プログラムをそう呼び、WWW からサーチエンジンを呼び出し、その結果を表示するということになります。

もう一つは分類されている中から順次選んでいくもの。例をあげれば京都産業大学を探すのに、まずジャンルから学校を選び、都道府県から京都を選んで京都産業大学を見つける、なんていう感じです。

5.9.2 ブラウザ

WWW を見ることが出来る（利用することが出来る）ソフトを WWW のブラウザといいます。Microsoft internet Explorer や Netscape などがある代表です。

各コンピュータからの利用方法

WWW を利用できる本学の共同設備は現在³⁶ 以下のようになっています。

³⁴ ここには読んで役に立つ情報がたくさんあります。是非一度御覧ください。

³⁵ ブラウザ（後述）によって違います。

³⁶ 97/3/16 です。

Macintosh	11, 31, 32 情報処理教室、図書館パソコンコーナー
WindowsNT パソコン	51 情報処理教室
Windows95 パソコン	図書館パソコンコーナー
X ウィンドウ環境コンピュータ	21 情報処理教室、C1 情報処理教室

- Macintosh からの利用

Apple Menu から Netscape を選択します。Apple Menu とは画面左上にあるりんごマークを押すと出てくるメニューです。

- Windows からの利用

Netscape のアイコンをダブルクリックします。

- X ウィンドウからの利用

プロンプトから netscape と入力し<Return>を押します。

cc2000 の場合

```
cc2000(80)% netscape
```

Ultra1 の場合

```
cssol001(80)% netscape
```

ここで

```
Error: Can't open display:
```

のようなメッセージが表示された場合は何かを間違えています。ウィンドウ環境という意味を取り違えていませんか？この方法での利用は MS-Windows ではなく X ウィンドウでしか行なえません。

5.9.3 ブラウザの終了

File メニューから Exit を選択するとブラウザが終了します。

5.9.4 基本的なブラウザの利用方法

Netscape のメニュー画面を見てみましょう³⁷。



図 5.16 Netscape メニュー部分

真ん中の段に幾つかアイコン (絵のついたボタン) がありますね。これはそれぞれ以下のような機能を持っています。

³⁷ ここでは Netscape を例に説明しますが、基本的な部分は他のブラウザでも同じですので、同様の名称で同じ機能があります。

Back	直前の画面に戻ります。
Forward	back した時に元の画面に戻ります。
Home	登録されている（ここでは京都産業大学の）ホームページを表示します。
Reload	現在表示している画面を読み直します。
Images	通常は使用しません。画像を自動的に読み込まない設定にしている時にそれを読み込みます。
Open	直接見に行きたい URL を入力します。(Open URL)
Print	今の画面を印刷します。
Find	画面中の文字列を検索します。
Stop	読み込み中の動作をとりやめます。

これらのボタンの下に現在の URL を表示する欄があり、その下にボタンがいくつか並んでいます。そのうち、Net Search ボタンはこれを押すとネットスケープ社のページに飛び、サーチエンジンが利用できる画面になります。

しおりのはさみ方は、記憶したいページで Bookmarks メニューから Add Bookmark を選択します。逆に消したい場合は Window メニューから Bookmarks を選び、出てくる画面で消したいものをマウスで選択し、Edit メニューから Del を選びます。また、この画面ではしおりの順序や表題も変えられます。

このような機能を利用していろいろなページを見ることができます。例をあげてみましょう。

- 見たい所をマウスでクリックして次のページを表示する。
- 見たいページの URL を知っているならそれを Open URL で入力する。
- キーワードで検索したければそういうサービスを行なっているページに行く。
- 前のページに戻りたければ back ボタンをクリック。
- 覚えておきたい URL があればしおりをはさむ (Add Bookmark)。ただし、これは UNIX コンピュータを利用している時のみです。皆で使う情報処理教室のパソコンを使っている場合は個人の情報を記録できないのでこの機能は利用しないでください。

5.9.5 情報送信

WWW は基本的に情報を受けとるだけのサービスですが、一部情報を送信することの出来るものがあります。これには大きく分けて 2 種類あり、電子メールを使って送信する場合と、ページに情報を入力して送信ボタンを押すと情報を送れるものがあります。

前者はリンクの中にメールを送るための機能が埋め込まれてあり、その機能に対応しているブラウザを使っていればメールを送る画面が出てきます。しかし、後述しますが公共利用の情報処理教室からこの方法でメールを送信することには問題があります。

メールを送るのならば、そのページのどこかに

```
mailto: ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp
E-mail: ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp
```

などのようにメールアドレスが表記されていると思いますので、それを見て³⁸、別途 mule³⁹ 等から送るようにしてください。

³⁸ この例では ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp です。

³⁹ 132 ページ 5.3 章を参照してください。

後者はページに幾つか入力用のボックスがあり、そこに必要事項を書き込んでそのページに埋めこまれている送信ボタンを押すと、WWW のシステムがその情報を取り込みます。電子メールの機能は使わないので、メールアドレスを持っていない人でも利用できます。

両者の違いは送ろうとするとメールアドレスをブラウザに設定するように求めてくることでわかります。求めてくるのが前者です。

日本語の入力

ブラウザに対して日本語を入力する場合は、パソコンで使っている場合はパソコンの日本語入力機能を使って下さい。cc2000 など X ウィンドウ環境で使っている場合は面倒ですが、一度 Mule で文字を書き、それをコピーしてください。マウスを使えば Mule 側でコピーしたい部分を左ボタンでドラッグして、ブラウザ側の書き込みたい部分で真中のボタンを押すとペーストできます。2つしかボタンのないマウスなら左右のボタンを同時に押すことで真中ボタンの代用ができるでしょう。

5.9.6 ブラウザの問題点

Netscape は WWW のブラウザだけでなく、mail や news の読み書きが出来ますが、ユーザの認証がなされないので間違ったメールアドレスを設定したとしてもそのままメールが送れたりネットニュースの投稿が出来たりします。しかしそのメールをもらった人やネットニュース記事を読んだ人がメールを返そうとしてもメールは届きません。これは大変迷惑な話です。送り手がうっかり間違っただとしても返事を返そうとした人は宛先不明で返事が出せません、また送り手も返ってくるはずの返事が来ないことになります。うっかりではなく、何か悪意を持ってわざとそうしたならもっと迷惑な話です。

もっと安全なブラウザを使用すべきなのですが、Netscape が事実上世界標準であり、また Netscape でしか正しく表示することができないホームページが数多くありますので、これに代わるブラウザが存在しないのです。そこで現在は利用者の皆さんが Netscape の短所を理解し、そのような行為をしないものとして Netscape を使うことにしています。

5.9.7 トラブルは出さない

WWW のブラウザで mail や news を使うことの問題点は理解しましたね。この問題点を具体的に回避するために、「共用パソコンのブラウザで mail や news の利用を禁止する」ことが提案されました。しかし様々な事情から現状ではそれを禁止しないことにしました。

禁止とはならなかったものの、その話し合いの中でずいぶん収穫がありました。それは「パソコンの WWW ブラウザを mail や news に使うことの問題点がどのようなものか知っている」、さらに「その様な問題点を排除することは大切だ」という認識をもつ方が大部分だということです。これを無駄にしたくはありません。「トラブルは出さないという姿勢」こそが大切なわけです。この姿勢さえあれば、かなりの割合で問題の発生を回避できると考えられるからです。

京都産業大学からアドレスに関するトラブルは出さないようにしましょう！

これは大学としての姿勢です。

危ない使い方だと知らないで使っている人がいれば、安全な方法があることを教えてあげればいい。全く分からない人は、知っていそうな人に尋ねればいい。尋ねることは決して恥ずかしいことではありません。そうして、どうすることがより良い方法なのか皆で考えましょう。

5.9.8 あなたも作れるホームページ

皆さんはインターネットのサービスをフル活用できる環境にいるのです。WWW を見てだけでなく、自分のホームページを作ってみませんか？本学では学生が自由にホームページを作れる環境があります。利用するための条件は

- 本学の学生で、ユーザ名の交付を受けていること。
- 法律を守ること。

これだけです。法律とは著作権や肖像権等です。WWW のページは新聞に記事を掲載するようなものです。そのまま新聞に載せたとして問題がないかどうかを考えてください。

詳しくは、別冊、コンピュータガイド アプリケーション編のHTML の章を参照してください。

第6章 UNIXもっともっと

ここでは計算機センターが管理している UNIX 環境を例に取りながら、より進んだ UNIX 環境の利用方法の説明と、さまざまな機能の紹介をします。ここでの説明は網羅的なものではなく、部分を取り上げて曖昧に説明しています。これは本文の読者のコンピュータそのものについての知識のハードルを高くしすぎないためで済ませるためです。読者が UNIX、つまりコンピュータの利用に慣れて行くにしたがって自分でマニュアル、書籍、ネットワークなどから情報を常に取り込んで理解することが大切です。

6.1 ファイルの整理

cc 環境ではファイルは UNIX コンピュータのディスクと呼ばれる部分に保存されています。このディスクと呼ばれる装置に格納できるファイルの量には限界が有り、cc 環境で利用できるディスク装置の数も限られています。この限られた資源を千人を超える利用者で共同利用しているのですから、おのずと一人一人が利用できるディスクの量も限られてきます。これはすなわち利用者ができることの出来るファイルの数やその量の合計には限りがあるということです。その限界を超えてファイルを作ろうとしてもエラーメッセージが表示され、ファイルを作成することが出来ません。

cc 環境では利用者それぞれによるファイルの整理が必要なのです。

ディスクを大量に使っている人は login したときに「ディスクを既定値を超えて利用しているので不要なファイルを消去せよ」という意味のメッセージを見ることがあるかも知れません。これはその人が、一人の利用者が使用する事の出来るディスクの上限値を超えている事を意味しています。

このメッセージが表示された場合は、とにかくにも不要なファイルを消去しないといけません。

6.1.1 ファイルの大きさを調べる

ファイルの整理をするには、どれでも不要なファイルを削除すれば良いのですが、とにかく闇雲に削除するのではなく、サイズの大きなファイルから削除する方が良いでしょう。ファイルのサイズを見る方法は幾つかありますが、ここでは二つ紹介します。

ls -l : 個々のファイルの大きさを調べる

ls コマンドに引数として -l オプションを加えれば、ファイルの大きさが判ります。ファイルの大きさは Byte、バイトと呼ばれる単位で表現され、ls -l で表示される情報のうち、左から 4 番目にあるものです。以下に例を挙げます。

```
cc2000(93)% ls -l core
-rw-r--r--  1 root    daemon  153248 02月22日 22:32 core
cc2000(94)%
```

上記の例では `core` というファイルの大きさは 153248 バイトであることが判りました。ファイルの種類によって一概には言えないのですが、単純には 1 文字は 1 バイトで表現できますので、153248 文字くらいの内容がこのファイルには含まれていると考えられます¹。

`ls` コマンドはファイル名の指定をせずに、単に `ls -l<Return>` として実行した場合はカレントディレクトリのファイル全ての情報を表示します。

しかしカレントディレクトリに存在するディレクトリファイルについては、そのディレクトリの下にあるファイルの量をまとめて表示してくれるわけではありません²。ディレクトリファイル以下にあるファイルの大きさについては、そのディレクトリ以下に `cd` コマンドで移動して、もう一度 `ls -l<Return>` とするしかありません。それが面倒ならば `ls -lR<Return>` で階層的にファイルの情報を表示させることも出来ますが、これはかなり見にくいものです。

du -s : ディレクトリ以下に含まれるファイル大きさの合計を調べる

`ls -l` コマンドではディレクトリ以下に含まれるファイルの容量の合計を知ることは簡単には出来ません。そのような場合は `du` コマンドに `-s` オプションを付けて実行します。以下に `Mail` ディレクトリ以下のファイルの量の合計を表示する例を示します。

```
cc2000(82)% du -sk Mail
39      Mail
cc2000(83)%
```

勿論ファイル名に `Mail` ではなく `*` を指定すればカレントディレクトリ以下の全てのファイル³ の量を計算した結果が表示されます。

注意が必要なのは `du` コマンドは、その結果をバイト単位ではなくブロック単位、もしくはキロバイト単位で表示することです。1 Block = 512 Bytes , 1 KiloBytes = 1000 Bytes (場合によっては 1 KiloBytes = 1024 Bytes) となります。一般的にはキロバイト単位の方が扱い易いと思われるので、`du` コマンドを利用するときには `-sk` と言うように表示をキロバイト単位で行うようなオプションを付けておくといいでしょう。

上記の例では `Mail` というディレクトリ以下のファイルの量の合計は 39 キロバイトという事を意味しています。

但し `ccns001~ccns015` では `-k` オプションは存在せず、エラーとなります。その代わりに `ccns001~ccns015` では `du -s` だけで表示はキロバイト単位となります。

6.1.2 身に覚えのないファイル

UNIX を利用していくと、様々なファイルを作って作業することになるでしょう。それらのうち、幾つかはあなたが作った覚えのないファイルもあるでしょう。

以下にそれらのうち代表的なものを示します。

¹ この解釈は余りにも単純すぎて、現実には妥当ではありませんね。計算機の内部構造に興味のある人はもう少し自分で調べて納得してください。ここでは説明しません。

² このディレクトリファイルの「大きさ」については無視してください。これまた計算機の内部構造に興味のある人は調べてみるといいでしょう。

³ 厳密には名前が `.` で始まるファイルについては表示されません。

Mail 電子メールを読むためにあらかじめ作られているディレクトリです。削除しない方がいいでしょう。

Apps , Library ccns001~015 などの NeXTStation を利用するためにあらかじめ作られているディレクトリです。削除しない方がいいでしょう。

core プログラムやコマンドが実行している途中で何等かの原因によって実行が中断されたときに強制的に作成されます。このファイルの意味、使い道を知らない人は無条件に削除して構わないでしょう。むしろ大きさが結構大きいものが多いので積極的に削除すべきです。

dead.letter メールを書いている最中に何等かの原因によって作業が中断したときに強制的に作成されます。中身はきっと最後に書き掛けていたメールの中途半端な中身だと思います。内容を more dead.letter<Return>などして確認した後、保存の必要がなければ削除すれば良いでしょう。

mbox メールを扱うには MHE だけでなく、mail というコマンドも利用できます。このファイルは mail コマンドが作成するものです。cc 環境では mail コマンドによる日本語メールの読み書きは、その動作を保証していません。MHE 環境への移行を薦めます。移行が済めば mbox ファイルは内容を more mbox<Return>などして確認した後、保存の必要がなければ削除すれば良いでしょう。

名前は固定ではありませんが、ファイルの名前に特徴のあるものが勝手にできている場合があります。以下に代表的なものを示します。

#abc# など、# で囲まれたファイル

Mule がファイルを修正したときに一時的に作成するファイルです。Mule の作業が何等かの理由で中断した為に残ったものと思われます。内容を確認した後、保存の必要がなければ削除すれば良いでしょう。

abc~ など、~ が末尾に付くファイル

Mule がファイルを修正したときに、修正前のファイルの内容をそのまま「~」を付けた名前のファイルに残します。例えば abc というファイルを修正し、保存すれば、修正した後の内容は abc ファイルに残り、修正する前の内容は abc~ ファイルに残ると言うことです。内容を確認した後、保存の必要がなければ削除すれば良いでしょう。

.cshrc , .login など、. が先頭に付くファイル

これらのファイルは大抵の場合何等かの環境設定ファイルです。内容が判らない場合は不用意に変更したり削除したりしない方がいいでしょう。なお、これらの先頭が「.」(ピリオド)で始まる名前のファイルは普通に ls コマンドなどを実行してもその一覧には表示されません。ある意味では「隠された」ファイルとなっているのです。これらのファイルの一覧を表示させるには ls -a<Return>とするのが良いでしょう。

これら以外にも様々なファイルが知らない間に出来ているかも知れません。小さなファイルはまだ良いのですが、大きなものは注意して、不必要と思ったら削除しておく方がいいでしょう。どうしても何故出来たのか判らないようなファイルが出来ようであれば計算機センターの相談窓口か、sandai.question ニュースグループに相談してください。

6.1.3 ファイルを削除する

ファイルの削除には rm コマンドを利用します。rm ファイル名<Return>です。ディレクトリを削除するには rmdir コマンドを利用します。rmdir ディレクトリ名<Return>です。ディレクトリ以下にファイ

ルが残っていて、それらのファイルごと削除する場合は `rm -r ディレクトリ名<Return>` とします。

6.1.4 ディスクの利用量をチェックする

ファイルの量が限界に到達してから仕方なくファイルを削除するよりは普段からディスクの使用量をチェックしておく方がいいでしょう。あなたが現在使っているファイルが占めているディスクの中での量を表示するには `quota -v` コマンドを利用します。以下に例を示します。

```
cc2000(88)% quota -v
Disk quotas for sheryl (uid 2019):
Filesystem      usage  quota  limit   timeleft  files  quota  limit   timeleft
/NF/home         1433  30000  30000           141  10000  10000
cc2000(89)%
```

ここで表示される内容の意味を左から順に説明します。

Filesystem	余りにしないで下さい。(^^;)
usage	今使っているファイルの量の合計を表します。例では 1433KiloBytes 使っていることとなります。
quota	利用できるファイルの量の上限を表します。例では 30,000KiloBytes、つまり 30MegaBytes を意味しています。
limit	直前の quota と同じです。違いは気にしないで下さい。(^^;)
timeleft	余りにしないで下さい。(^^;)
files	今使っているファイルの数の合計を表します。例では 141 ファイルあることとなります。
quota	利用できるファイルの数の上限を表します。例では 10000 ファイルを意味しています。
limit	直前の quota と同じです。違いは気にしないで下さい。(^^;)
timeleft	余りにしないで下さい。(^^;)

すなわちファイルについてはその量と個数のそれぞれの合計に独立に制限があるのです。しかし現実には個数が限界を超えることは殆ど無いと思われますので、要は左から 2 番目の `usage` が 3 番目の `quota` を超えないように調整していれば良いわけです。

6.2 情報検索

6.2.1 学内の利用者情報の検索

電子メールやネットニュースなどを利用していると、あの人のユーザ名は何だったかな?と思うときがあるでしょう。の4「UNIX それから」では finger コマンドによる利用者情報の取得方法を紹介しましたが、ここではさらに詳しく利用者の情報を得ることが出来る whois コマンドを紹介します。

但し注意が必要なのはここで紹介している whois サービスは主として cc 環境の為に提供されているもので、全ての学内の UNIX コンピュータで利用でき、全ての学内の UNIX コンピュータ利用者の情報が登録されているわけではないということです。cc マシン群ではこのサービスが利用できますが、他の UNIX コンピュータからどの程度利用できるかは保証できません⁴。

whois コマンドを利用すると利用者のユーザ名などが検索できます。whois keyword<Return>です。以下にキーワードとして sigeta hiroyuki を与えた場合を示します。キーワードには空白が含まれて居ますので、念のため引用符でかこんで与えています。

```
cc2000(81)% whois 'sigeta hiroyuki'
[ Whois service for Kyoto Sangyo University.      1994.7.7 serviced from ccnic.]
[ Please contact ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp if you find some trouble.                ]
[ For more information, use 'whois -h ccnic.kyoto-su.ac.jp help:'                ]
```

```
ユーザ名,uid : sheryl , 2019
氏名          : Sigeta Hiroyuki
               : 重田 裕之
所属          : 計算機センター事務室 (事務職員)
アカウント    : sheryl@cc sheryl@cs
cc2000(82)%
```

教員、学生など、その人の種別によって表示される項目は様々です。ユーザ名の横に表示されている uid は個人を識別するためにユーザ名と一対一に割り当てられている番号です。whois コマンドのキーワードとしても使えます。例えば上記の例では whois 2019<Return>としても同じ結果が得られるでしょう。最後にアカウントという情報が表示される場合があります。これはその人がそこに表示されているシステムにユーザ登録されている事を示しています。しかし登録されているからと言って、そのアドレスにメールを送れば必ず読んでくれるとは限りません。あくまでメールを送るときの目安程度に考えてください。

キーワードにはユーザ名、名前、uid、所属などが使えます。また、これらの文字列の一部でも与えることが出来ます。先ほどの例ではキーワードにローマ字のフルネームを用いましたが、この一部分として whois hiroyuki<Return>などのようにする事も出来ます。以下に例を示します。但し hiroyuki というキーワードにマッチする利用者はちょっと多かったようです。このような場合はマッチした人の一覧を挙げるようになっていきますので、ここから uid などを元にもう一度 whois を行い、目標の人の詳細情報を得ることが出来ます。

```
cc2000(82)% whois hiroyuki
[ Whois service for Kyoto Sangyo University.      1994.7.7 serviced from ccnic.]
[ Please contact ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp if you find some trouble.                ]
```

⁴ 因みに cc 環境 whois サービスは ccnic マシンが提供しています。cc 環境マシン群以外から利用する場合は whois -h ccnic keyword などとしてください。

```
[ For more information, use 'whois -h ccnic.kyoto-su.ac.jp help:' ]
```

uid	ユーザ名	種別	名前
1913	hi44kubo	K	Kubo Hiroyuki 久保 宏之
2019	sheryl	S	Sigeta Hiroyuki 重田 裕之
2327	hiro	K	Itou Hiroyuki 伊藤 浩之
10265	gamera	G	Kamemoto Hiroyuki 亀本 裕之
	:	途中略	:
13559	hkodama	G	Kodama Hiroyuki 児玉 寛将
19026	oonishi	G	Oonisi Hiroyuki 大西 洋幸

種別 = G:学生 I:院生 K:教員 S:職員 M:その他

```
Many macthing. See the detail, use uid number for key.  
cc2000(83)%
```

ただ、余りにも漠然としたキーワードを与えた場合はマッチする利用者が多すぎ、以下のようなメッセージを表示して情報を表示しない場合があります。

```
cc2000(81)% whois hide  
[ Whois service for Kyoto Sangyo University.      1994.7.7 serviced from ccnic.]  
[ Please contact yasuda@ksuics.kyoto-su.ac.jp if you find some trouble.      ]
```

```
Too Many macthing. Try again with more detail information.  
cc2000(82)%
```

このような場合はキーワードを hide だけではなく、hideyuki などにするなどしてもう少し条件を絞り込んで whois を再実行してください。

6.2.2 学外の組織などの情報を調べる

6.2.1 で紹介した whois コマンドは cc 環境で独自に提供されているものです。学内の他の UNIX コンピュータで同じようにこのコマンドが通用するとは限りません。

産業大学以外の組織でも whois サービスが行なわれている場合があります。ここではそれらのうち、Internet を通じて公開されている whois サービスの使い方を紹介します。以下に紹介する公開 whois サービスは主にネットワーク関係の情報を提供しています。サービスは具体的には Internet 上のあるマシンで行なわれており、そのマシンに目掛けて whois コマンドでキーワードの問い合わせを行なうのです。

whois.nic.ad.jp 国内のネットワーク関係の情報を提供しています。これは JNIC（日本ネットワークインフォメーションセンター）という組織が行なっているサービスです。

rs.internic.net Internet 関係の情報を提供しています。これは Network Solutions Inc. というアメリカにある組織が行なっているサービスです。

nic.ddn.mil MILNET 関係の情報を提供しています。MILNET はアメリカの軍事関係の組織が繋がれたネットワークです。ですからこのサービスは国防省が行なっているはずですが。（ちょっと自信がありませんが。）

組織の情報を得る

例えば京都産業大学のドメイン名 (Internet 上の組織もしくは組織のネットワークの名前) を知りたい場合は、国内の情報ですから whois.nic.ad.jp に問い合わせます。このホスト名は whois コマンドに -h に続いてオプションとして与えます。whois -h whois.nic.ad.jp. 'kyoto sangyo'<Return>と入力して下さい。キーワードに空白が含まれるので念の為にキーワードを引用符で囲んでいることに注意して下さい。以下に例を示します。

```
cc2000(86)% whois -h whois.nic.ad.jp. 'kyoto sangyo'
[ JPNIC database provides information on network administration. Its use is ]
[ restricted to network administration purposes. For further information, use ]
[ 'whois -h whois.nic.ad.jp help'. To suppress Japanese output, add '/e' at ]
[ the end of command, e.g. 'whois -h whois.nic.ad.jp xxx/e'. ]
```

```
京都産業大学 (Kyoto Sangyo University)          KYOTO-SU.AC.JP
京都産業大学 (Kyoto Sangyo University)          133.101.0.0
```

To single out one record, look it up with '!xxx',
where xxx is a key shown on the right hand side.

```
cc2000(87)%
```

京都産業大学のドメイン名 kyoto-su.ac.jp とネットワークアドレス 133.101.0.0 が表示されました。詳細な情報を得る為に今度は キーワードに kyoto-su.ac.jp を与えて検索してみましょう。例は挙げません。試してみるといいでしょう。逆にドメイン名からその組織についての情報を得ることも出来ます。

勿論海外の組織やドメイン名などについての情報を得る為には whois -h に続けるホスト名を rs.internic.net. などに置き換えれば大丈夫です。

人の情報を得る

今度は例えば Internet 上の sherylさんを調べてみましょう。

whois -h rs.internic.net. sheryl<Return>と入力して下さい。以下に例を挙げます。

```
cc2000(93)% whois -h rc.internic.net. sheryl
whois: rc.internic.net.: cc2000(139)% whois -h rs.internic.net. sheryl
Birely, Diane (DB1506)          sheryl@SPRINGACRE.COM          714-851-8356 x.256
Bruno, Sheryl (SB657)          sheryl@COMMUNITY.NET           707-427-8458
Coppenger, Sheryl (SC295)      sheryl@SEAS.GWU.EDU            (202) 994-6853
Galchutt, Sheryl (SG420)       sheryl@NOC.DIGEX.NET           (703) 751-1905
Gruenler, Sheryl (SG558)       Sheryl@SPRINGACRE.COM          714-857-0300
Hamlin, Sheryl (SH195)         sheryl@DIGIRATI.COM            415-543-8290
Hungerford, Sheryl (SH956)     Sheryl@ADAGIOSYS.COM           (619)929-9565
Lindsell-Roberts, Sheryl (SL712)sheryl@TIAC.NET          508-229-8209
Sheryl Linsell_roberts (SHERYLWRIT-DOM)                   SHERYLWRIT.COM
Sheryl, Campbell (CS406)       postmaster@ENTHONE-OMI.COM      203-799-4922
```

The InterNIC Registration Services Host contains ONLY Internet Information

(Networks, ASN's, Domains, and POC's).

Please use the whois server at nic.ddn.mil for MILNET Information.

cc2000(95)%

組織やら人やらの情報がごちゃまぜに表示されています。目当ての sheryl こと'sigeta hiroyuki' は残念ながらありませんでした。ひょっとして表示されると思っていました? Internic 上に登録されている人というのは一般的にはネットワーク管理者である事が多いようです。それ以外の人はあまり登録されていない感じですが。しかし逆にネットワーク上での有名人というのは割合にネットワーク管理者だったりしますから、結構役に立つのです。

人の情報と違ってドメインの情報についてはほとんど完全に登録されているはずですが。

6.3 ファイルのアクセス権

誰か友達がファイルを作っていて、そのファイルをあなたが自分のホームディレクトリ以下にコピーしたいと思ったとします⁵。ファイルの階層構造を理解したあなたは早速以下のようなコマンドでコピーをしようとするでしょう。

```
cc2000(85)% cp ~tanaka/sample.tex ~
cp: /NF/home/g840/tanaka/sample.tex: Permission denied
cc2000(86)%
```

多くの場合は上の例のように失敗してしまいます。このエラーメッセージ「Permission denied」はUNIXを使っていると、時々みかけるエラーですね。これは「あなたにはアクセス権が無いよ」ということを意味しています。

6.3.1 アクセス権

UNIX コンピュータはみんなで使うコンピュータであることは初めに説明しました。そのため、あなたのホームディレクトリのとおりには他人のホームディレクトリがあったりします。つまり誰でも他人のファイルの置き場所が大体わかっているわけです。これでは誰でも他人のファイルを覗いたり、書き込んだり、消去したりできてしまいます。

これは安全上（セキュリティ）の問題です。たった一人の人が専有して一台のコンピュータを使用し続けるのなら、そのコンピュータを自分の部屋に置いて、その部屋の入口に鍵を掛けておけば良いのです。でも cc 環境の UNIX のようにみんなで使うコンピュータは閉じ込めるわけにはいきませんからセキュリティを確保するためには何か別の対策が必要です。

そこでみんなで使うコンピュータの多くではアクセス権限という考え方を採り入れています。つまりコンピュータ上の資源にはそれぞれ誰が使えるかという情報が書いてあるのです。逆にその情報から洩れた人は使えないということです。コンピュータ関係の世界では、この「(資源を)使う」という事を「アクセスする」と表現することがあります。「アクセス権」とはつまり(資源に対する)「使用権限」と言う意味です。

そして、cc 環境では安全のため（もしくはプライバシーのため）に「利用者のホームディレクトリ以下のファイルは、利用者自身しかアクセスできない」という設定になっています。先の「Permission denied」はこの制限に引っかかったためのエラーメッセージだったのです。

6.3.2 UNIX におけるアクセス権

UNIX では全てのファイルに常にアクセス権が設定されています。ファイルが利用者によって作成されると、利用者がまずファイルの所有者となり、自動的にアクセス権が設定されます。アクセス権の設定は後で所有者によっていくらかでも変更することが出来ます。

アクセス権は具体的には以下の 3 種類の項目に対してそれぞれ許可を与えることによって設定します。

⁵ もちろんその友達の了解を得て、ですよ！勝手に人のファイルをコピーしてはいけません。

種類 (略号)	ファイルの種類	設定することによって許可されるアクセスの内容
読み出し (r)	ファイル	そのファイルの中身を取り出す
	ディレクトリ	そのディレクトリ以下のファイルの一覧を表示する
書き込み (w)	ファイル	そのファイルの中身を書き変える、もしくは消去する
	ディレクトリ	そのディレクトリ以下にファイルまたはディレクトリを新たに作る、もしくはそのディレクトリを消去する
実行 (x)	ファイル	そのファイルを実行する
	ディレクトリ	そのディレクトリ以下に cd コマンドで移動する

上記の 3 種類のアクセス権の設定項目は「所有者 (user)」と「グループ (group)」と「その他の人 (other)」のそれぞれを対象に対して別個に割り当てられます。つまりあるファイルに対して「所有者は読み書きできて、グループは読むだけで、その他の人は読むことすら出来ない」という設定が出来るのです。

所有者とはそのファイルを作った人です。グループについてはここでは説明しません。自分がどのグループに属しているかは id コマンドで確認することが出来ますので、参考にして下さい。学生は全員 student グループの一員です。教員は全員 teach グループの一員です。その他の人と言うのは所有者でもグループのメンバーでも無い利用者のことです。

6.3.3 アクセス権限を調べる

ls -lg コマンドで、ファイルのアクセス権限を含めた詳細な情報を得ることが出来ます。書式は以下の通りです。

```
ls -lg [ファイル名...]
```

以下に実行例を示します。

```
cc2000(82)% ls -lg
total 5
drwxr-xr-x  2 sheryl  clerk      512 Mar 14  1995 Apps/
drwxr-xr-x  2 sheryl  clerk      512 Aug 11  1995 Clang/
drwxr-xr-x  3 sheryl  clerk    3072 Oct  4  1994 Comics/
drwxr-xr-x  2 sheryl  clerk      512 Mar  7 17:23 ETC/
drwxr-xr-x  8 sheryl  clerk      512 Nov  2  1993 Library/
-rw-r--r--  1 sheryl  clerk      379 Mar  7 18:42 a.adr
```

```
cc2000(83)%
```

これ以降に以下の一行を取りだして、詳細に説明します。

```
-rw-r--r-- 1 sheryl clerk 379 Mar 7 18:42 a.adr
```

-rw-r--r--	ファイルの種類とアクセス権限についての情報。(さらに後述)
1	リンク数。ここでは説明しない。
sheryl	所有者
clerk	グループ
379	ファイルの大きさ。単位は Byte(バイト)。ここでは説明しない。
Mar 7 18:42	作成年月日
a.adr	ファイル名

この、ロングフォーマットで得られる出力の最初の部分 (-rw-r--r--) に注目して下さい。以下にそれぞれの桁について説明します。

桁位置 (例での値)	意味
1(-)	ファイルの種類を表す。d ならディレクトリ、- ならファイル。
2(r)	所有者に対する読みだし許可を表す。r なら許可、- なら禁止。
3(w)	所有者に対する書き込み許可を表す。w なら許可、- なら禁止。
4(-)	所有者に対する実行許可を表す。x なら許可、- なら禁止。
5(r)	グループに対する読みだし許可を表す。r なら許可、- なら禁止。
6(-)	グループに対する書き込み許可を表す。w なら許可、- なら禁止。
7(-)	グループに対する実行許可を表す。x なら許可、- なら禁止。
8(r)	その他に対する読みだし許可を表す。r なら許可、- なら禁止。
9(-)	その他に対する書き込み許可を表す。w なら許可、- なら禁止。
10(-)	その他に対する実行許可を表す。x なら許可、- なら禁止。

つまり以下のような表組を一行に引き延ばして書いたようなものです。

対象	読みだし	書き込み	実行
所有者	r	w	-
グループ	r	-	-
その他	r	-	-

6.3.4 アクセス権限を設定する

アクセス権限は所有者によって設定を変更することが出来ます。chmod⁶ コマンドを利用します。書式は以下の通りです。

```
chmod mode file...
```

chmod コマンドは指定の file のアクセス権を mode の指定に従って変更します。mode は3つの部分からなる文字列で、対象... オペレータ 内容 となっています。以下にそれぞれの部分に与え得る記号とその

⁶ change mode の略のつもりなのです

意味を説明します。

対象	u	所有者
	g	グループ
	o	その他の人
	a	全ての人
オペレータ	+	追加
	-	取消
設定内容	r	読みだし
	w	書き込み
	x	実行

以下に chmod の具体例を挙げます。

1. `chmod a+r log` 全ての利用者に読みだし権限を与える
2. `chmod ug+rw log` 所有者とグループメンバーに読み出しと書き込み権限を与える
3. `chmod go-rw log` 自分以外の利用者から読み書き出来ないようにする

+ と - オペレータは元のアクセス権に新たな設定を「付加する」ように働きます。つまり元の設定で、影響を受けない部分はそのまま残ります。例えば 1. の例では書き込み権限や実行権限などには影響を与えず、もとの log ファイルが持っていたはずの書き込みに関するアクセス権限の設定はそのまま残ります。いろいろ試して、chmod の振舞いを理解するのがいいでしょう。

ちょっとマニアックな chmod の使い方

もっと直接的にアクセス権の設定をするために、chmod コマンドにはもう一つの mode 文字列の与え方があります。アクセス権を表す `rw-r--r--` などの文字列を以下のようにして二進数に見立てて計算するのです。

```
rw-r--r--   rw-,r--,r--  
110100100   110,100,100   6,4,4   644
```

つまり `rw` の部分で 3 つに分け、それぞれで二進数のつもりで計算するのです。r が 2^2 の桁、w が 2^1 の桁、x が 2^0 の桁、と言う訳です。計算すると、`rw-r--r--` は `rw-`、`r--`、`r--` と分割され、 $2^2 * 1 + 2^1 * 1 + 2^0 * 0$ 、 $2^2 * 1 + 2^1 * 0 + 2^0 * 0$ 、 $2^2 * 1 + 2^1 * 0 + 2^0 * 0$ となり、最終的に 6,4,4 となります。コマンドとしては `chmod 644 log` で完全に `rw-r--r--` を意味するアクセス権の設定が出来ます。

6.4 シェルよもう一度

6.4.1 ファイル名の補完

今までファイルを指定するときにはファイル名を全てタイピングしていたと思います。でも、ファイル名を全部タイプしなくてももっと簡単にファイルを指定することが出来る場合があります。その為にファイル名を記述する部分に用いる文字として*と?があります。これらの文字をUNIXではメタキャラクタと呼んでいます。以下にそれぞれ詳しく説明します。

説明はカレントディレクトリ以下のファイルの状況が以下のようにだと仮定して行います。

```
cc2000(88)% ls
bb      cc      log      log2     sample
cc2000(89)%
```

任意の文字列に適合するメタキャラクタ「*」

ここで「*」文字を紹介しましょう。例えば上記の例でlogとlog2の両方のファイルの中身を見たい場合は、以下のようにすれば良いのです。

```
cc2000(92)% more l*
```

つまりl*とは「lで始まり、それ以降はどんな文字列でも構わないファイル」を列挙することを意味しています。その結果more l*はmore log log2と解釈されて実行されます。

*が適用可能なのは何もファイル名の最後に限りません。

例えば上記の例でmore *2とすればそれは「どんな文字列で始まって構わないから、最後が2で終わるファイル」と解釈され、log2 ファイルを差します。

*o*とすれば、それは「どんな文字列で始まって構わないから、途中にoを含み、またどんな文字列で終わっても構わないファイル」と解釈され、log log2の二つのファイルを差します。

*とすれば、それは「どんな文字列でも構わないファイル」と解釈され、bb cc log log2 sampleの五つのファイルを差します。

*文字はファイル名の記述のどこに幾つ現れても構いません。

また、適合する文字が無くても適合したとみなします。例えばlog*とすれば「logで始まり、それ以降はどんな文字列でも構わないファイル」と解釈され、log log2の二つのファイルを差します。

任意の一文字に適合するメタキャラクタ「?」

今度は「?」文字を紹介しましょう。例えば上記の例でbbとccの両方のファイルの中身を見たい場合は、以下のようにすれば良いのです。

```
cc2000(92)% more ??
```

つまり??とは「どんな文字でも構わないから、二つからなるファイル」を列挙することを意味しています。その結果more ??はmore bb ccと解釈されて実行されます。

?が適用可能なのは何もファイル名の最後に限りません。例えば上記の例でmore ?bとすればそれは「どんな文字でも構わないから一文字あって、次がbで終わるファイル」と解釈され、bb ファイルを差します。

?文字はファイル名の記述のどこに幾つ現れても構いません。

ディレクトリに対してのメタキャラクタ

* と ? 文字はディレクトリに対しても適用可能です。例えば、`ls */*2` などとすれば「カレントディレクトリ以下の全てのディレクトリの下にある、どのような文字列で始まっても構わないから最後は 2 で終わる名前を持つファイル」を見つけてその一覧を表示します。

6.4.2 対話的なファイル名の補完

シェルからファイル名を記述しているとき、シェルが提供している対話的なファイル名の補完機能が幾つか利用できます。

再び説明はカレントディレクトリ以下のファイルの状況が以下のようにだと仮定して行います。

```
cc2000(88)% ls
bb      cc      log      log2     sample
cc2000(89)%
```

ファイルの名前を途中までタイプしてくれる「<Tab>」

例えば `more sample` とタイプしたくて、`more s` までタイプしたとします。この状況で <Tab> キーを一度押せば `more sample` と、シェルの方で勝手にタイプしてくれて、`sample` から一つ離れた位置にカーソルが移動します。そこで <Return> を押せば良いと言うわけです。

つまりシェルは `more s` とタイプされた段階で、`s` に続くファイル名としてはこの状況では `sample` しか無いよ、と気を利かせてくれているのです。

今度は `more log2` とタイプしたくて、`more l` までタイプしたとします。この状況で <Tab> キーを一度押せば `more log` と、シェルの方で勝手にタイプしてくれて、`log` に続く位置にカーソルが移動します。ベルが一度鳴るかも知れません。

今度はシェルは `more l` とタイプされた段階で、`l` に続くファイル名としてはこの状況では `log` と `log2` しか無い事が判ります。だからとにかく一致している途中までタイプしてくれているのです。そこで残り不足している `2` をタイプして、<Return> を押せば良いと言うわけです。

ファイル名の一覧を表示する「C-d」

<Tab> による補完を行って、カーソルがファイル名の記述のすぐとなりに来て (ベルが鳴る) 時は、まだ残りがあるかも知れないよ、という意味でした。この段階で、では一体どのような名前のファイルが可能性として残っているのかを確認するには C-d キーを押します。そうすれば以下のように、まだ可能性のあるファイル名の一覧を挙げてくれます。

```
cc2000(86)% more log ... ここで空白などあけずに<Control>-d
log  log2
cc2000(86)% more log
```

こうしてファイル名が長ったらしい場合でも、<Tab> キーと C-d を組み合わせて行けば、少ないタイピングで間違いなくそのファイルを指定することが出来ると言うわけです。

6.4.3 シェル変数と環境変数

シェルには⁷ シェル変数と環境変数と呼ばれる、コマンドなどの動作に影響を与えるものがあります。これを設定し直すことによって、もう少しあなたにとって都合の良い UNIX 環境が得られるかも知れません。ここではシェル変数や環境変数の本質については触れずに、その設定例やヒントを紹介します。本質的なことについては附録の参考文献などからシェルに関する記述を参照してください。

シェル変数の表示、設定

現在設定されているシェル変数に何が有るかを調べるには `set` コマンドを利用します。また、シェル変数の内容を変更するにも `set` コマンドを利用します。`set` コマンドには以下の 2 通りの書き方があります。

1. `set`
2. `set var = string`

1. の書き方の場合、現在設定されている全てのシェル変数を表示します。

2. の書き方の場合、シェル変数 `var` の内容を `string` に設定します。

また、`echo` コマンドを使って特定のシェル変数の内容を表示することも出来ます。`echo $var <Return>` とすると、`var` という名前のシェル変数の内容を表示します。シェル変数は慣例として英小文字と数字で構成されています。

例えば `tcsh` ではしばらく使わないでほうっておいた場合、自動的にそのシェルを終了する機能があります。これを制御しているのはシェル変数 `autologout` です。`echo $autologout<Return>` とする事によって、現在設定されている放置時間が分単位で確認できると思います。これは不用意に切り忘れてしまったような不要なシェルを放置しないための処置なのですが、この時間が短すぎて困る環境の人もいるでしょう。そのような人は、以下のようにして放置時間を延長できます。

```
cc2000(81)% set autologout=300
cc2000(82)%
```

また、例えばカレントディレクトリの情報はシェル変数 `$cwd`⁸ に格納されていますので、`echo $cwd` などとして表示させることが出来ます。それからホームディレクトリの情報はシェル変数 `$home` に格納されています。これまた `echo $home` などとして表示させる事が出来ます。

`echo` コマンドなど、一般のコマンドでシェル変数を扱うときは常に `$` 記号がシェル変数の名前の前に付きます。`set` コマンドでシェル変数の名前を指定するときは `$` 記号を付けないことに注意してください。

環境変数の表示、設定

現在設定されている環境変数に何が有るかを調べるには `env` コマンド⁹ を利用します。また、シェル変数の内容を変更するには `setenv` コマンドを利用します。

⁷ 特に `csch` と、それを模倣している `tcsh` には

⁸ `current working directory` の略なのです

⁹ UNIX の種類によっては `setenv` コマンドまたは `printenv` コマンドで行うというものもあります。

```
env
```

現在設定されている全ての環境変数を表示します。

```
setenv VAR string
```

環境変数 VAR の内容を string に設定します。

また、echo コマンドを使って特定の環境変数の内容を表示することも出来ます。echo \$VAR <Return> とすると、VAR という名前の環境変数の内容を表示します。環境変数は慣例として英大文字と数字で構成されています。

例えばプリンタの操作をするときは `lpr -Pcspr01 sample.tex` などして常にプリンタ名を指定するようにはしていました。環境変数 PRINTER が設定されている場合は、プリンタに関する各種コマンドは (-P オプションを省略した場合) 環境変数 PRINTER に指定されたプリンタに対して処理を実行しようとします。

```
cc2000(81)% setenv PRINTER cspr01
cc2000(82)% lpr sample.tex
cc2000(83)%
```

echo コマンドなど、一般のコマンドで環境変数を扱うときは常に \$ 記号が環境変数の名前の前に付けます。setenv コマンドで環境変数の名前を指定するときは \$ 記号を付けないことに注意してください。

6.4.4 リダイレクション

UNIX の標準的なコマンドには、標準入力と標準出力と呼ばれる入出力を処理対象としているものが数多くあります。普通にシェルを使っているときは、標準入力はキーボード入力、標準出力はディスプレイ表示に割り当てられています。

この例として bc コマンドを挙げておきます。bc コマンドを実行して四則演算をキーボードからタイプすると、画面上に計算結果を表示します。これはつまり bc コマンドは標準入力から四則演算を受け付けて、計算結果を標準出力に流していると言うことの結果です。

さて、標準入力、標準出力はそれぞれ他のファイルに割り当てることが出来ます。この標準入出力のファイルへの割り当て直しを「リダイレクション¹⁰」と呼んでいます。

標準入力のリダイレクション

標準入力のリダイレクションは「<」記号で表現します。

コマンド [オプション] [引数...] < ファイル名 と書いて、コマンドの標準入力を指定のファイルに割り当て直します。例えば bc コマンドの標準入力をキーボードではなくファイルに割り当ててみましょう。bc < ファイル名 <Return> です。

まず bc.in というファイル名で、四則演算を並べたファイルを用意します。Mule で新規に作成、編集して下さい。以下に出来上りを cat した例を示します。簡単な四則演算を 3 行用意しました。

```
cc2000(85)% cat bc.in
```

¹⁰ redirection 宛名を変える

```
1 + 2
2 * 3
4 / 2
cc2000(86)%
```

bc コマンドの標準入力に対するリダイレクションによってファイルの内容を四則演算の式の列として実行され、画面すなわち標準出力に結果が表示されます。

```
cc2000(86)% bc < bc.in
3
6
2
cc2000(87)%
```

標準出力のリダイレクション

標準出力のリダイレクションは「>」記号で表現します。

コマンド [オプション] [引数...] > ファイル名 と書いて、コマンドの標準出力を指定のファイルに割り当て直します。例えば bc コマンドの標準出力をディスプレイではなくファイルに割り当てて見ましょう。bc > ファイル名 <Return>です。

```
cc2000(88)% bc > bc.out
1 + 2
2 * 3
quit
cc2000(89)%
```

cat コマンドでリダイレクションによってファイルに結果が残っていることを確認しましょう。

```
cc2000(89)% cat bc.out
3
6
cc2000(90)%
```

標準出力のリダイレクションで追加書き

標準出力のリダイレクションを既存のファイルに対して指定すると、単純に上書きしてしまい、そのファイルの元の内容は失われてしまいます。しかし追加書きするようなリダイレクションもあります。標準出力の追加リダイレクションは「>>」記号で表現します。

コマンド [オプション] [引数...] >> ファイル名 と書いて、コマンドの標準出力を指定のファイルに追加するように割り当て直します。例えば bc コマンドの標準出力をファイル追加するように割り当てて見ましょう。bc >> ファイル名 <Return>です。

```
cc2000(90)% bc >> bc.out
5 * 2
quit
cc2000(91)%
```

cat コマンドでリダイレクションによってファイルにもとの結果に加えて新しい結果が追加されているのを確認しましょう。

```
cc2000(91)% cat bc.out
3
6
10
cc2000(92)%
```

標準入力、出力の両方のリダイレクション

先ほどの bc.in ファイルを利用して標準入力をそこから、標準出力をこれまた先ほどの bc.out ファイルに割り当てて見ましょう。以下にその例を挙げます。例では cat コマンドでファイルの中身を確認しています。

```
cc2000(92)% bc < bc.in > bc.out
cc2000(93)% cat bc.out
3
6
2
cc2000(94)%
```

6.4.5 パイプ

bc などのように、標準入力から何かを受取り、標準出力にその結果を返すようなコマンドをフィルタコマンド¹¹と呼んでいます。

先ほどの例で、bc.out というファイルが結果として出来上がっていると思いますが、例えばこのファイルの中身を数字の小さいもの順に並べ替える¹² 為に、sort コマンドの利用を考えます。sort もフィルタコマンドですから、実行は以下のようにする事になるでしょう。-n オプションはソートの順番を数値の小さいもの順にするためのオプションです。

```
cc2000(94)% bc < bc.in > bc.out
cc2000(95)% sort -n < bc.out
2
3
6
cc2000(96)%
```

単純なコマンドでも、それを組み合わせて実行すると、なかなか便利な¹³ ものです。ところで上記のコマンド 2 つの組み合わせを、もっと簡単に表現できるような仕掛けが UNIX には用意されています。以下の例を見てください。

```
cc2000(97)% bc < bc.in | sort -n
```

¹¹ あたかもフィルターのように働くという意味ですね。

¹² 並べ替える作業を一般的に sort (ソート) と呼んでいます。

¹³ ちょっと意味のない例しか挙げられませんでした

```
2
3
6
cc2000(98)%
```

2つのコマンドを一行で書いています。リダイレクションを使わないために中間的に発生していた bc.out ファイルも必要ありません。このような、コマンドとコマンドをつなぐ「|」記号を「パイプ」と呼んでいます。パイプがあれば、パイプの左のフィルタコマンドは標準出力をパイプの右のコマンドの標準入力につながわせて実行くれます。

例えば cat コマンドもフィルタコマンドですから、上の例は以下のようにも書き換えられます。

```
cc2000(98)% cat bc.in | bc | sort -n
2
3
6
cc2000(99)%
```

パイプは幾つでも重ねて使うことが出来ます。

あまり実用的な例ではありませんが、echo コマンドを使えば簡単な計算を標準入力からキーボード入力しないで処理するような組み合わせも出来ます。

```
cc2000(99)% echo '3 * 4' | bc
12
cc2000(100)%
```

UNIX ではパイプとリダイレクションを応用することによって、各種のコマンドを柔軟に組み合わせて実行することが出来ます。

6.4.6 シェルの鬼へのヒント

以下に少しだけシェルの鬼¹⁴へのヒントをあげておきます。

キーボードからの標準入力の終了

今回用意した bc.in ファイルなどは Mule を使わなくても以下のようなやり方で作成できます。

```
cc2000(100)% cat > bc.in
```

cat コマンドは引数としてファイル名が与えられていない時は、入力を標準入力から行ないますから、それをキーボードから入力して出力先を画面ではなくファイルにすると言うわけです。

上のコマンドを実行して、タイプする内容は 1 + 2<Return>2 * 3<Return>4 / 2<Return>C-d です。最後の C-d はファイルの終了を意味します。キーボードからファイルの終了¹⁵を入力するのは、大抵の場合この C-d です。

今まで黙っていましたが、bc コマンドは、サブコマンド quit ばかりでなく、このファイルの終了を受けとっても終了します。だからこそ cat bc.in | bc で文句も言わずにちゃんと処理を終了したのです。

¹⁴ ここでキックの鬼と言ってもわかる人は...

¹⁵ 一般的に end of file と表現します

複数のコマンドを一行に書く

「;」を利用して、複数のコマンドを一行に書くことができます。例えば以下のような感じです。

```
cc2000(101)% date ; hostname ; whoami ; id
1994年03月12日(土)16時13分33秒 JST
cc2000
yasuda
uid=2126(yasuda) gid=700(admin) groups=500(clerk)
cc2000(102)%
```

ところで上の4つのコマンドの結果をぜんぶ一つのファイルにリダイレクションしたい場合は、以下のようになります。

```
cc2000(102)% ( date ; hostname ; whoami ; id ) > hostinfo.txt
```

このような書き方で、別々に処理することももちろん出来ます。

```
cc2000(103)% ( date ; hostname ) > hostinfo1.txt ; ( whoami ; id ) > hostinfo2.txt
```

一連のコマンドをファイルに書いておく

シェルもフィルタコマンドです。ですからファイルにコマンド列を書いておいて、それをシェルの標準入力に与えて処理させることができます。cc環境標準のシェルは tcsh ですから、シェルのコマンド名は tcsh です。以下に例を挙げておきます。

```
cc2000(104)% cat batch
echo 'Here is my session information.'
date
hostname
whoami
id
cc2000(82)% tcsh < batch
```

対話形式ではないので警告のメッセージが表示される時がありますが、とりあえず結果は表示されると思います。単純な一連の手続きであればこれで十分ですね。

例のように短いものであれば問題ないのですが、長い複雑なものを作ったりしたときには何らかの覚え書きを入れておきたい時があります。そのような時には # を利用します。# より右に書いたものは覚え書き¹⁶とみなされて、その部分を一連の実行するべき手続きとして扱わず、無視されます。以下に覚え書きを含めて書いた例を挙げておきます。

```
cc2000(84)% cat batch
#
#   Sample shell program. '95.2 Yasu.
#
echo 'Here is my session information.'
```

¹⁶ コメントなどと呼ぶ時もあります。


```
date
hostname
whoami
id      # show my username and etc.
cc2000(85)%
```

6.4.7 シェルよ永遠に

シェルの説明をすると言うのにあの話（もしくはあの話）をしないとは何事か！と、お怒りの方もおられるでしょう。シェルには非常に多くの機能があります。さすがに全部書くのは無理ですので、これ以降は付録の参考文献を参照して下さい。

第7章 Mule

表記方法として

- C-h コントロールキーを押しながら h を押す。
- M-x ABC エスケープキーを押した後に x を押して普通に ABC と打つ。
- M-C-x エスケープキーを押した後にコントロールキーを押しながら x を押す。
- <Space> スペースキーを押す。
- <Return> リターンキーを押す。
- <Delete> デリートキーを押す。

などというものがあります。それを踏まえて以下を読んで下さい。

なお、機械の種類によってコントロールキーの機能がオプションキーに変更されている場合があります。(マッキントッシュ等)

7.1 なにそれ？

Mule とは、日本語、英語だけでなく、世界中の多くの言語を統一的に同時に扱える様に拡張された Emacs です。Emacs というのは多機能エディタで、単に文章を書くだけでは無く、ネットニュースを読んだり、メールを読み書きしたり、他にも色々な事が出来るエディタです。Mule は、その Emacs の機能を全て継承して、更に、多くの外国語を使えるようにしたエディタという訳です。本当にたくさんの機能があり、全てを説明すると本が一冊出来てしまいますので、ここでは基本的な Mule の使い方を説明します。

7.2 Mule の仕組み

Mule はバッファと呼ばれる作業場所を持ちます。流れとしては、まずディスク上に保存してあるファイルから文書を読み込んでバッファに記憶するか、もしくは新規に何も記憶していないバッファを用意して、それを編集します。そして編集した文章をディスクにファイルとして保存します。

また、Mule はバッファを一つだけでなくたくさん一度に持つことができ、それらを切替えて画面に表示することができます。Mule を起動した時にでてくる画面は「ウインドウ」と呼ばれる大きさが可変のもので、ここにバッファの内容が表示されます。例えば普通に Mule を起動した時はウインドウが一つと、下の方にモードラインという編集中のバッファの情報が表示される行（反転している行）そして一番下にエコーラインという Mule のメッセージを表示する行が表示されます。

このウインドウは幾つにも分割することができ、それらのウインドウに幾つかのバッファを同時に表示させることができます。また、同じバッファを二つ以上のウインドウに表示させることも可能です。その場合、どれかを編集すれば残りのウインドウにもそれが反映されます。

7.3 これだけ覚えたら Mule は使える!

これ以降の記述は UNIX の基本的な部分を一通り理解している事を前提として書きます。まず、UNIX のコマンドを入力できるターミナル画面がありますね。では、おもむろに `mule` と打ち込んでリターンキーを押してみてください。えむ、ゆー、える、いー、りたーんです。すると英語ばかりの画面が現れます。

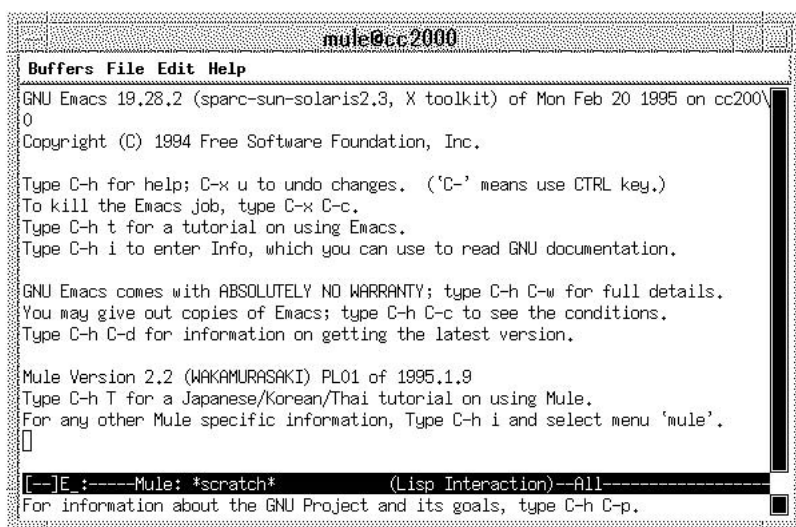


図 7.1 Mule 起動画面

ですが別に難しいことが書いてある訳ではありません。この画面は初心者の人にまず知っておいて欲しいことが書いてあります。ヘルプ、言い換えると簡単なオンラインの説明書の出し方やチュートリアルの始め方なんか書いてあります。

チュートリアル

チュートリアルというのは日本語にすると「個別指導」で、ここでは画面に従ってキー操作をしながら使い方を覚える入門用の練習のことをいいます。例えば `C-h T Japanese` で日本語のチュートリアルが起動すると書いてあります。チュートリアルをやりたい時はコントロールキーを押しながら `h` を押して、次に大文字の `T` ですからシフトキーを押しながら `T` を押します。そして `Japanese`¹ と入力してリターンキーを押すと始まります。チュートリアルの終わり方はいくつかありますが、Mule ごと終わらせるのが簡単でいいでしょう。`C-x C-c` です。チュートリアルは是非、一度やってみてください。

カーソルの移動

では本題のエディタの使い方に移ります。超基本部分から覚えていくことにしましょう。カーソルの移動はカーソルキーで行います。矢印の書いてあるキーです。間違えた場合はデリートキーで消します。普通はキーボードの上の段の一番右のキーですね。機械によってはバックスペースキーになっている場合もありますのでデリートキーでうまくいかないときは試してみてください。改行はリターンキーです。いろいろとキーボードを触って動作を確認して下さい。

¹ 先頭の J は大文字で後は小文字です。

変になったら

それから、まず覚えておいて欲しいのですが、この先の操作で間違えて、自分の意図しない変なメッセージが表示されてしまった場合は、C-g として下さい。これは指示途中の操作を取り消すコマンドです。変になったときは傷の浅いうちにこれをする方が無難です。下手に色々触るとどんどん変になることがよくあります。それでもダメなら周りのよく知っていそうな人に聞いて下さい。

名前をつけよう

話を戻しましょう。単に Mule を立ち上げた場合 *scratch* というバッファが開きます²。下の方に *scratch* と書かれていますね。これが今編集しているバッファの名前です。

scratch は「走り書き」の名のとおり落書き扱いですからそのまま *scratch* バッファに何か書いても Mule を終了すると保存されずに消えてしまいます。ですからこれを保存するために、まず何か名前をつけてあげないといけません。後から名前をつける方法もあるのですが³、ここでは最初に名前をつけることにします。まず Mule が起動した時に C-x C-f とします。すると

```
Find File: ~/
```

と表示してファイル名を聞いてくるのでそこで何かこのファイルにつける名前を指定します。例えば test とでもしましょうか。するとエコーラインに (New file) と表示されてモードラインの *scratch* と書かれていた場所に test と表示されますね。

続けて何か書いてみて下さい。なにか書いてから終わろうと C-x C-c をするとメッセージがでできます。

```
Save file /NF/home/g910/ozaki/test? (y, n, !, ., q, C-r or C-h)
```

これは今のバッファが変更されているのでそれを保存するかどうかを聞いているのです。保存するなら y、しないなら n を押して下さい。n と答えたときは本当にしないのかどうか確認してくれます。親切ですね。ここでは保存を選びましょう。y、と。他にも選択肢が表示されていますが、今は気にしないでいいでしょう。どうしても気になるのなら C-h を実行して出てくるメッセージを読んで下さい。

これだけで Mule を使うことはできます。後は知れば知るほど便利に使うことができるのが Mule の特徴で、初心者から上級者まで幅広く自分のレベルにあった使い方ができます。

7.4 もうちょっと覚えよう

ファイルの呼びだし

当然、前に保存した続きを書きたい事があります。そういう時は Mule を立ち上げる時に続けて保存したファイル名を打ちます。さっき保存した test なら mule test と後ろに続けて test と打ち込みます。また、ファイルの読み込みにはもう一つやり方があり、Mule が立ち上がった状態で C-x C-f とすると

```
Find File: ~/
```

と表示してファイル名を聞いてくるのでそこで指定してやるとそのファイルをバッファに読み込みます。あれ、この C-x C-f というキー操作は先ほど新しいバッファに名前をつける時に行ったものと同じですね。実は C-x C-f は本来ファイルを読み込むための操作なのですが、そのファイルが存在しないと (New

² バッファというのは Mule の作業を行う場所で、一度にいくつも開くことができます。Mule は文書をバッファで編集し、ディスク上のファイルと読み書きします。

³ C-x C-w で名前をつけて保存することが出来ます。

file) としてその名前で新しいファイルを作るのです。先ほどの場合は test というファイルが無かったから (New file) になった訳です。また、この場合のファイル名の入力には補完機能を使う事ができます。補完機能とはファイル名、例えば test という場合、他に t で始まるファイルがなければ、t だけを入力した時点で <Space>⁴ を打つと test とすべて補完されるという便利な機能です。また、他に t で始まるファイルがあればそれをバッファに表示しますので、お目当てのファイルの 2 文字目、3 文字目を入力して、他と区別できるところまで入力したら <Space> でまた補完します。同じ様に M-x *Command* によるコマンドにも補完機能が使えます。

他に、C-x i で前に作ったファイルをカーソル位置に差し込むことができます。C-x C-f と似たようなものですが、読み込んだファイルがカーソルの位置に差し込まれます。

大きなカーソル移動

ところで、慣れてきて文章が長くなるとカーソルを移動するのが面倒くさく感じてきます。そういう時は M-v と C-v でそれぞれ 1 ページ分上下に移動します。また、C-a と C-e は行頭と行末への移動です。もっと大きく動きたいなら M-< と M-> でバッファの先頭と末尾へ移動します。これだけ覚えておけば作業が大幅に楽になること請け合いです。

他にも M-x goto-line として行番号を入れるとその行へ飛びますし、今の行番号が知りたければ M-x what-line で表示してくれます。

C-1 も覚えておくと便利です。カーソルを画面の中央に移動するコマンドなのですが画面が乱れた時に書き直す役目も果たしてくれます。UNIX を良く使うようになると、Mule を使っている最中に talk コマンドや write コマンドで誰かから呼びかけられる事もあります。そうすると画面は相手の呼掛けのメッセージでぐちゃぐちゃになってしまい、折角編集していた貴方の文章が消えてしまいます。でも安心して下さい。これは画面上だけで実際には内容は変わっていないのです。C-1 の画面書き直し機能はこういう時に役に立ちます。後は余り使いませんから必要に応じて覚えるといいでしょう。

カット&ペースト

次にカット&ペーストを説明しましょう。文字のコピーですね。

まずコピー元を指定します。範囲の先頭で C-<Space> (コントロールを押しながらスペース) でマークをセットします。そして範囲の末尾へカーソルを移動します。このマークからカーソルまでの範囲をリージョンと呼びます。日本語で言うなら矩形 (くけい) ですね。セット位置からカーソル位置までをリージョンとしますので別に末尾でセットして先頭へカーソルをもっていっても構いません。

次に M-w でその範囲の文章を覚えます。また、C-w なら覚えると同時に削除する (カット) ので移動する時や単に消したい時に使えます。場合に応じて使い分けて下さい。

そしてコピーしたい先までカーソルを移動して C-y で覚えていた文章を挿入 (ペースト) します。マーク位置を忘れたときには C-x C-x でマーク位置とカーソルの場所を入れ替えるのでそれで確認して下さい。尚、C-x C-x はうまく使うと離れた場所から元の場所へ戻るときに使えます。

また、C-k でカーソル位置から行末までをカットします。C-k は行頭で 2 回連続して使うと 1 行消去することができます。これで消去した内容は (連続で消す限り) 覚えていますので C-y で挿入する事ができます。行の移動なんかが楽にできますね。

⁴ <Tab>でも補完機能が働きます。<Space>はハイフンなどの区切り記号で一度止まるのに対して、<Tab>は可能な限り全てを補完するのでこちらの方も合わせて使うと便利です。

Undo

ところで色々編集しているうちに間違えてしまい、元に戻したい時があると思います。そういう時は C-_ (アンダーバー) でいくらでも元に戻せます。Undo(アンドウ)という機能です。因みに、C-x u でも Undo になります。

保存

しかし、いつ何時、どんな理由で編集内容が壊れるか分かりません。一応ある程度書いたら内容を保存しておく習慣をつけておいた方がいいでしょう。精神衛生上もいいですしね。C-x C-s で今のファイル名で保存します。

また、別の名前をつけて保存したいのなら C-x C-w として下さい。

```
Write file: ~/
```

このように表示されましたね。ここで好きなファイル名を書けばその名前で保存します⁵。

7.5 日本語入力

では次は漢字の入力にいきましょう。mule は Wnn(うんぬ) という日本語変換システムで日本語を入力します。いままでタイピングと言えばアルファベットのタイピングについてのみ説明してきました。しかしやはりひらがなや漢字をファイルの中に書きたいものです。ここでは Mule を用いたひらがなや漢字などのタイピングの方法について説明します。

7.5.1 かな漢字変換

アルファベットの場合タイピングは簡単です。つまりキーボード上のキーに書いてある文字が、そのキーを押すことによって入力されるのです。ひらがなのタイピングについては何とかこの方法で済ませられるかもしれませんが、漢字についてはそういうわけには行きません。漢字は数万字(日常的に使う漢字だけでも数千字)あって、とても数千のキーを並べるわけには行かない⁶ からです。

そこで「かな漢字変換」による漢字の入力の登場です。つまりまず「かな」を目標の漢字の読みとして入力することによって、それを漢字に変換しようと言うアイデアです。最近市販されているワープロは殆ど全てこの方式を採用しています。UNIX コンピュータでもこの方法で漢字をタイプします。しかも「かな」の入力はローマ字からの変換です。つまり「かな」すらキーボードには載っていない(もしくは載っていても使わない)ので、まずアルファベットのキーを利用してローマ字で「かな」を目的の「漢字」の読みとしてタイプし、それを変換するのです。

Wnn⁷ は 京都大学数理解析研究所、オムロン株式会社、株式会社アステックの3者によって開発されたかな漢字変換システムです。cc 環境ではこの Wnn を標準的な漢字変換システムとして採用しています。

EGG⁸ は電子技術総合研究所の戸村哲氏が中心となって開発した、Mule 上で Wnn を利用するためのシステムです。cc 環境ではこの EGG を Mule 上での標準的なかな漢字変換システムとして採用しています。

⁵ 但し既に存在するファイルを指定した場合、上書きしてしまうので注意して下さい。

⁶ 昔の漢字タイプライタは正にその通り数千のキーを並べていましたけどもね。コンピュータではその方法は採用していません。

⁷ 「うんぬ」と読みます。名前の由来は「私の名前は中野です」の略から来ているそうです。

⁸ 「えっぐ」と読みます。名前の由来は「たくさんまたせてごめんさい」の略「たまご」から来ているそうです。

EGG のモード切り替え

さて、Mule 上で漢字をタイプするためには、まず EGG をローマ字かなモードにします。Mule が起動されている状態で、C-\ です。(キーボードによっては C-\ の代わりに、C-¥ かもしれません。)モードラインの左端に注目してください。以下のようになるのが判ると思います。

```
[あ]E_:-----Mule: *scratch*                (Lisp Interaction)--All-----
```

この状態から元に戻るためには、再び C-\ です。モードラインが元に戻りましたね。C-\ でモードラインの左端がくるくる変わるのを確認してください。

```
[--]E_:-----Mule: *scratch*                (Lisp Interaction)--All-----
```

モードラインの左端が [--] となっている状態を EGG の「透過モード」と呼んでいます。(透過モードと言うのは、つまり今までどうりアルファベットのタイピングがそのまま行える状態です。) [あ] となっている状態を「ローマ字かなモード」と呼んでいます。ローマ字かなモードにしておくと、タイプしたアルファベットはまず EGG に受けとられ、そこでローマ字として解釈されてひらがなが表示されます。それから漢字変換に関するキーを操作して目的の漢字かなまじり文へと変換するのです。

7.5.2 ためしに変換

ローマ字かなモードにして、アルファベットで「watasinonamaehanakanodesu」とタイプしてください。打ち込んだアルファベットが縦棒にはさまれながら次々とひらがなに変換されて行くのが判るでしょう。

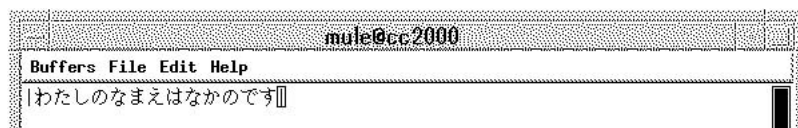


図 7.2 EGG のフェンスモード

この縦棒を EGG ではフェンスと呼び、変換途上のかな文字がフェンスにはさまれている状態をフェンスモードと呼んでいます。

フェンスの中の文字を編集するには普通の Mule の編集のときと同じくカーソルキー(や)と<Delete>キーです。カーソルキーが効かない場合は C-b でカーソル左、C-f でカーソル右と同じ動きをします。

ローマ字が全てかなに変換されたら <Space>⁹ キーを押すことによって今度はかなを漢字に変換する作業が始まります。

再び注意

あなたがその Mule で初めてかな漢字変換を行うときは、エコーラインに「ホスト local の WNN を起動しました」などというメッセージが表示されて、かな漢字変換が開始されるのに若干時間が掛かるかも知れません。

かな漢字変換が始まると、モードラインの左端が以下ようになります。

```
[漢]E_:---*-Mule: *scratch*                (Lisp Interaction)--All-----
```

⁹ C-w でも構いません。

フェンスの中は以下のようになっているでしょう。このモードラインの左端が「漢」となっている状態を「漢字変換モード」と呼んでいます。

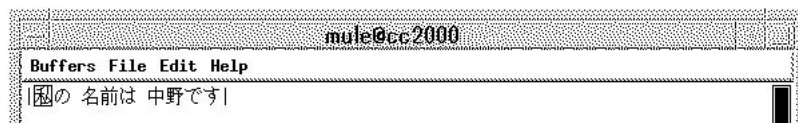


図 7.3 EGG の漢字変換モード

ここで<Return>とすれば現在表示されている漢字かなまじり文の候補「私の 名前は 中野です」が採用されて、Mule にタイプされます。フェンスがなくなって、漢字が Mule の普通の操作で編集できる状態になりましたね。

この作業を「確定」と呼んでいます。これでまず一つ漢字の文章がタイプされました。一安心です。

再変換

一度変換するだけで自分の目的の漢字に変換してくれれば良いのですが、先ほどのようにうまく行くことばかりではありません。そこで、EGG が最初に挙げてくれた漢字の候補を再変換しなければなりません。一度でうまく行かない例として、今度は「tonarinokyakuhayokukakikuukyakuda」とタイプして<Space>で変換してください。恐らく以下のようなになるでしょう¹⁰。

```
|戸なりの 客は 良くか 聞く 右-客だ|
```

おいしいですね。ここでは最終的に「隣の柿は良く客食う...」もとい、「隣の客は良く柿食う客だ」に変換し直す例をあげます。

かな漢字変換では変換は文節単位に行なわれます。はじめはローマ字でタイプされた一連のひらがなの列から EGG が自分で文節の区切りを見つけて変換します。上記の例ではその結果「戸なりの」「客は」「良くか」「聞く」「右」「客だ」と文節の区切りを付けました。EGG の漢字変換モードでは文節の区切りを一つの空白で表します。「戸なりの」と「客は」などの間にそれぞれ一つの空白があるのが判りますね。

次の候補を上げる

今、カーソルは「戸なりの」の上にあると思います。ここの文節の区切りはこれであっていますから、そこで<Space>を押すことによって次の候補が表示されます。この例では一度<Space>を押すと「隣の」が現れると思います。現れなかったら、現れるまで<Space>を押して下さい。あまり急いで<Space>を押しすぎると肝心の「隣の」が現れても勢いでもう一度<Space>を押してしまう時もあるでしょう。そういう時は C-p で一つ前の候補を再表示する事が出来ます。

さて、

```
|隣の 客は 良くか 聞く 右-客だ|
```

こうなりましたね。次の文節に移りましょう。C-f を押して下さい。「客は」はそのままで合っていますから、もう一度 C-f を押して「良くか」まで移動しましょう。もし行き過ぎてしまったら C-b で戻れます。

¹⁰ 漢字変換を行う度に良く使う漢字が先に出てくるようになるので必ずしもこのような変換になるとは限りません。

文節の区切りを変える

カーソルは「良くか」の上に移動しましたね。「良くか」は「良く」に文節の区切りを訂正しなくてはなりません。文節の区切りを縮めるには C-i です。一度押したら「良く」になりますね。さあ次の文節に移動しましょう。

|隣の 客は 良く 課 聞く 右-客だ|

「課」に移動しましたか。今度は文節を伸ばしてやる必要がありますね。C-o を押して下さい。「書き」になりますね。なったら<Space>で「柿」になるまで変換して下さい。先にも書きましたが、変換が行き過ぎてしまったら C-p で戻れます。

さて、今の「課」を「柿」にした時点で後ろが「食う客だ」になりましたね¹¹。さあ、これで全部が目的の漢字になりました。<Return>で確定しましょう。

7.5.3 特殊な文字列の入力

ちょっと普通でない文字を入力する必要がある場合の例をあげましょう。たとえば「今 America にいる タロウと しました。」¹² と入力したいとします。

次のように入力します。まず ima と打てば「いま」が入力されますね。次に入力モードをアルファベットに変更します。q を押して下さい。モードラインの[あ]が<aa>になりますね。この状態で America と入力します。できたら C-q で元の日本語入力モードに戻します。続いて niirutarouto で「にいたろうと」を入れて下さい。

まずここまですべて一度変換しましょう。<Space>を押して下さい。すると

|今 America に いたろうと|

となりますね。最初の二つの文節はあっていますから C-f を二回押して「いたろうと」の文節まで移動して下さい。そして C-i を四回押します。すると

|今 America に いる 太郎と|

となります。C-f で「太郎と」に移動します。今は、「太郎」をカタカナで書きたい訳ですから変換し直しましょう。<Space>を押して出るまで待ってもいいのですがちょっと待って下さい。文節を「たろう」に縮めてカタカナにしましょう。C-i を一回押した後、M-k としてみして下さい。M-k は文節をカタカナに変換するキー操作です。

|今 America に いる タロウ 戸|

こうなりましたね。あとは「戸」をひらがなにします。C-f で移動して M-h です。M-h は文節をひらがなに変換します。やっと目的の文字になりました。<Return>で確定しましょう。

さて、次の「 」ですが、どうやって入力しましょうか？もっとも簡単なのは「まる」で変換することです。しかし「 」はたまたまこういう入力可能な記号で、普通このような読みがなによる入力できません。そこで、C-¹³ で記号入力モードにします。最初の一回は少し表示が出るまでに時間がかかります。エコーラインに Garbage collecting...done のような表示がついたり消えたりしますね。点滅が止まったな、と思ったら C-1 を押して下さい¹⁴。すると

¹¹ もしなっていないければ同じように変換して下さい。

¹² は伏せ字の意味です。多分「でんわ」とでも入るのでしょう。;-)

¹³ うまく動作しないようなら M-x special-symbol-input <Return>として下さい。

¹⁴ C-1 は実は画面再表示のコマンドなのですが、最初に記号入力画面にした時は Garbage collecting...done と表示したまま、次の画面を表示してくれないので C-1 を押します。

記号入力: 0. JIS入力 1. 記号 2. 英数字 3. ひらがな 4. カタカナ 5. ギリシャ文字

エコーラインにこのように現れますので、該当する番号を選んで下さい。なお、ロシア文字、罫線、部首入力、画数入力、第一水準、第二水準、補助漢字という入力モードもありますのでこれらを使いたい時は C-n や C-p で切替えて選んで下さい。「」は 1. 記号の部類ですから 1 を押して<Return>を押します。C-n を押して次候補を出していくと 7 回ほどで「」が出てくると思います。「」の左に出ている数字、もしくはアルファベットを押して<Return>で確定して下さい。画面に「」が表示されましたね。もう一度 C-^ を押して下さい。先ほどの「」の位置にカーソルがありますから同じように「」を追加します。後は「simasita.」で入力できますね。

補足

C-^ を押すと二度目からは前に入力した記号の位置から始まります。他の種類の記号を入力したい時は C-g で一つ前の選択画面に戻して下さい。

また、記号の入力は、例えば「」なら z1 のように z と何かのキーという形でいくつか登録されています。これは一覧として A.3 で紹介していますので、参考にして下さい。

どれでもいいですから一番入力し易いものを覚えて下さい。

7.5.4 まとめ

以下にキー操作のまとめを示しておきます。

C-\ 漢字モードと英語モードの切り替え

ローマ字かなモードでのキー操作

<Delete>	タイプミスの修正、一文字削除
または C-b	カーソル一文字左
または C-f	カーソル一文字右
<Space>または C-w	かな漢字変換の開始

漢字変換モードでのキー操作

または C-b	カーソル一文節左
または C-f	カーソル一文節右
C-o	文節を伸ばす
C-i	文節を縮める
<Space>または C-n	次候補の表示
C-p	前候補の表示
M-s	候補の一覧をエコーラインに表示する。数字による選択かカーソルキー（もしくは C-b ,C-f ,C-p ,C-n ）による選択を行い<Return>で確定。 候補一覧表時から抜けて元に戻るには C-g 。
M-k	文節をカタカナに変換する。
M-h	文節をひらがなに変換する。
C-^	記号入力モードにする。数字による選択かカーソルキー（もしくは C-b ,C-f ,C-p ,C-n ）による選択を行い<Return>で確定。 候補一覧表時から抜けて元に戻る時、及び前の選択画面に戻る時には C-g 。

7.5.5 ローマ字入力のヒント

「たんい」（もしくは「んお？」など）のように「ん」の次に母音が来る場合

「ん」を単独でタイプするために N (大文字) と n' が用意されていますので、それを利用してください。「taNi」もしくは「tan'i」とタイプすれば「たんい」とローマ字変換されます。

「あっ」（もしくは「んあ？」など）のような小さい「っ」「ぁ」を入力したいのです

小さい「あいうえお」などは、x を前に付けてタイプします。「xa」とタイプすれば「ぁ」とローマ字変換されます。「xtu」で「っ」、「xyu」で「ゅ」です。

その他

変換せずにひらがなのまま確定してしまった時はその範囲をリージョン指定して M-x henkan-region、間違った漢字で確定してしまった時は、その範囲をリージョン指定して、M-gyaku-henkan-region とすると幸せになれることでしょう。

また、変換とは別に通常状態でリージョンを指定して M-x zenkaku-region や M-x hankaku-region でアルファベットや数字を全角、半角に変えられます。

M-x upcase-region <Space>や M-x downcase-region <Space>で大文字、小文字にすることも出来ます。

7.6 ちょっと中級者

7.6.1 単語登録

ちょっと一般的でない専門用語や人名、地名等はなかなか変換できず、漢字1文字ずつ入力しなければならないこともありますね。その単語を1回きりしか使わないのであればそれでもいいですが、何度もそ

という単語を使う必要がある場合はちょっと面倒ですね。そういう時は単語を辞書に登録することができます。例えば「神山(こうやま)」に登録してみましょう。まず登録したい単語をリージョン指定します。「神」の位置にカーソルを合わせて C-<Space> でマークをセットして、「山」の次の文字の位置にカーソルを移動させます。ここで、M-x toroku-region として下さい。

[あ] 辞書登録『神山』 読み :

エコーラインにこの様に表示されますね。ここで「こうやま」と入力して<Return>を押して下さい。

登録辞書名: 0.private

するとこのようになりますので、もう一度<Return>を押して下さい。そうすると品詞名を選択する画面になります。

品詞名: 0. 普通名詞/ 1. 固有名詞/ 2. 動詞/ 3. 特殊な動詞/ 4. 動詞以外の用言/

これらの他に C-n を押せば

詞名: 0. その他の独立語/ 1. 接頭語, 接尾語/ 2. 単漢字 3. 疑似品詞/

に切り替わりますので、該当する番号を選択して<Return>を押して下さい。「神山」は固有名詞ですから最初の 1. 固有名詞を選択します。

品詞名: 0./ 1. 人名 2. 地名 3. 人名&地名 4. 固有名詞

するとこのようになりますから、2. 地名を選択して<Return>を押します。これで「登録しました」という旨のメッセージが出て「神山」が辞書に登録されました。「こうやま」と書いて変換してみてください。「神山」に変換されましたね。他の場合、例えば動詞なども同様にして登録して下さい。

このように普段良く使う単語を登録することでどんどん漢字変換の効率が良くなります。また、それ以外にも Wnn は使用頻度を数えて、高いものを最初に変換するようにしますので使えば使うほど変換効率が上がっていきます。最初は変な変換をするかも知れませんが、どんどん辞書を鍛えて使い易いものにして下さい。

登録単語の抹消

M-x edit-dict-item として下さい。すると

[あ] よみ :

とエコーラインに現れますので消したい単語の読みがなを入力して<Return>を押して下さい。するとずらりとその読みがなで登録されている単語が出てきますので上下移動で消したい単語の行にカーソルを動かして d を押して下さい。その行の頭に D というマークがつきますね¹⁵。消したい単語の行、全てにマークをつけたら x を押して下さい。すると

いいですか? (yes or no)

と聞いてきますから yes<Return>か no<Return>で答えて下さい。元の画面に戻って q を押すと辞書編集を終わります。

¹⁵ ただし削除できるのは private 辞書に登録したものだけです。

7.6.2 検索

検索

検索は C-s とすると文字列を聞いてくるので探したい文字列を入力して下さい。すると入力した文字列の場所へジャンプします。見つけたい文字列は入力できたけれども、ジャンプした先が期待の物と違う場合は続けて C-s をすると同じ文字列で検索を続けます。行き過ぎた時や上方向に検索したい時は C-r です。目宛のものが見つけられたらカーソルを移動させれば検索モードから抜け出します。もし検索中に元の場所（検索を始めた場所）に戻りたくなったら C-g で戻る事が出来ます。

尚、検索を終えた後、続けて同じ文字列を検索したい時は C-s C-s、または C-r C-r とするとそれぞれ前の文字列で前後に検索をしてくれるので、再度文字列を入力する必要はありません。

置換

置換は M-% の後、検索文字列、置換文字列を入力した後、y で置換、n でパスします。また、!で残り全部を確認せずに置換を行いません。

7.6.3 画面分割

Mule は画面を何分割かして幾つかのウインドウにバッファを同時に表示することができます。

C-x 2 でカーソルがあるウインドウを上下に二分割します。それらのウインドウ間のカーソル移動は C-x o です。また、C-^ でカーソルのあるウインドウサイズを縦方向に拡大します。逆にバッファ表示を減らすときは C-x 1 でカーソルのあるウインドウ以外を隠しますし、C-x 0 (ゼロ) でカーソルのあるウインドウを隠します。ただし、隠すだけで完全に消去はしませんし、保存もしません。注意して下さい。

ふたつ以上のウインドウに同じバッファを読み込むことも可能ですし、違うバッファを C-x C-f で読み込んで同時に編集することも可能です。前者の場合はそれぞれのウインドウのバッファは違う場所を表示できますが実体は同じなのでどちらかを編集すると他のウインドウの同じバッファにもそれが反映されます。

7.6.4 バッファリスト

Mule は同時に幾つものバッファを扱えます。C-x C-b で現在のバッファリストを表示させることができ、バッファを切り替えるには C-x b でバッファ名を続けて指定します。幾つものバッファを開いている時はバックグラウンドのバッファの状態 (保存したか否か) に注意して下さい。画面分割と併用すると違う文章からのカット&ペーストが簡単にできます。

7.6.5 モードライン

モードラインとは Mule の下の方にある *scratch* 等のバッファ名やそのバッファの状態を表示する行です。例えば普通に Mule を立ち上げたときは

```
[--]E_:-----Mule: *scratch*          (Lisp Interaction)--All-----
```

こう表示されます。これは前から順に説明すると、

[--]

日本語入力の際に使われる領域です。

E_

バッファのファイルの読み書きに使用する漢字コードを表します。色々ありますが、ここでの E_ は**eu*c-japan*を表しています。EUC は Extended Unix Code の略で、主として UNIX の世界で広まってきたコードで、cc 環境の Mule では何も指定しなければこれが用いられます。JIS は通信の方でよく用いられ、J_と表されます。これはいわゆる日本工業規格ですね。中には絶対 JIS コードで書かなければいけないファイルなどもあります。何かパソコンとデータをやりとりする人は SJIS も使うことがあるかもしれません。これは Shift JIS の略で s_と表されます。DOS と PC の世界で使われています。

ファイルへの書き込みの際の漢字コードを変更するには C-x C-k f です。<Space>を押すと一覧が現れますので目的のコードを選んで下さい。

バッファの変更状態を表す領域。変更されてまだ保存されていない時は---*-、書き込み不可の時は--%-となります。

scratch

バッファ名です。

Lisp Interaction

この位置には Mule の動作モードを表示します。Fundamental モードや C モード、Fortran モード、T_EX モード、gnus モード、mh-e モード、dired モード等、Emacs-Lisp と呼ばれる言語で用意された、たくさんのモードがあります。

All

All はバッファの全てが画面に表示されていることを示し、他に Top(バッファの始めが表示されている)、Bot(最後が表示されている)、num% (全体を 100%としてどのあたりが表示されているか) があります。

7.6.6 Dired モード

Mule のファイラー (ファイル操作) 環境です。ファイルの呼びだしやコピー、リネームや消去などが簡単にできます。

M-x dired <Return>で Dired モード に移ります。(ファイル選択時にも起動します。)

カーソルキーで移動して目的のファイルまで移動します。ディレクトリを移動したい時はディレクトリにカーソルを合わせて f を押して下さい。ちなみに終了は C-x k です。

以下が目的のファイルの位置でできる機能一覧です。

- f カーソルのあるファイルを読み込む
- c カーソルのあるファイルを別ファイルにコピーする
- r カーソルのあるファイルを別の名前に変更する
- d ファイルに消去する印を付ける
- # # 印の付いた自動セーブファイル全てに消去印を付ける
- ~ ~ 印の付いたバックアップファイル全てに消去印を付ける
- u ファイルに付いた消去印を消去する
- x 消去印の付いたファイルを実際に消去する

便利な使い方としては honyarara~ のようなバックアップファイル¹⁶ をまとめて消したい時です。そのディレクトリで Dired モードの Mule を立ちあげて、~ を押して、続けて x を押せば本当に消すかどうか、消すファイルの候補リストと共に確認をとってくるので、yes と答えればそれらを消してくれます。手で rm コマンド等を使うより、速く、間違いなく消すことが出来ます。

7.7 上級者に向けて

Mule は個人個人が自分に使いやすいようにカスタマイズする事ができます。ただしカスタマイズに不具合があると最悪、Mule が動かなくなったりします。変更するときは十分な知識を持って自分の責任で行って下さい。ここでは詳しく触れずに幾つか簡単な例を A.3 で挙げておきます。後は必要に応じて勉強して下さい。

7.8 X 環境での Mule

X 環境での説明に入る前にマウスについて触れておきます。Mule はボタンが 3 つ付いたマウスで使えるように設計されています。その 3 つのボタンを、以後左ボタン、中ボタン、右ボタンと呼びます。さて、ボタンが 3 つ付いたマウスを使っている場合はそれで良いのですが、2 つ、ないしは 1 つのマウスもあります。ボタンが 1 つしかないマウスの場合は以下の説明の内、左ボタンの機能しか使うことが出来ません。しかしボタンが 2 つの場合は両方のボタンを同時に押すことで、中ボタンの代わりになります。

X 環境で Mule を使う場合、そうでない環境に比べて、少し便利に使うことができます。

一番使い勝手が違うのは文字カーソルの移動がマウスで出来ることでしょうか。移動先にマウスカーソルを合わせて左クリックでそこに文字カーソルを移動させることが出来ます。また、ボタンの役目は以下の通りです。(実はこれは X 環境の機能です。)

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| 左ボタンでのドラッグ | その範囲をリージョンとして記憶します。(M-w) |
| 中ボタン | コピーします。(C-y) |
| 右ボタンのダブルクリック | 文字カーソルからマウスカーソルまでをリージョンとしてカット。(C-w) |

次に、X 環境の Mule は、ウインドウの右側にスクロールバーがつきます。ここにマウスカーソルを合わせて左クリックで下方向にスクロール (C-v)、右クリックで上方向にスクロール (M-v)、中ボタンでバーを掴んで上下スクロールができます。

もう一つ。ウインドウの上側にメニューがついていますね。Buffers,File,Edit,Help の 4 つです。ここにマウスカーソルを合わせて左クリックしてみるといろいろな項目が現れます。Open File(C-x C-f) 等、普段良く使うキー操作が登録されています。これを利用すればキー操作を覚える必要がなくなります。ワントouchで日本語チュートリアル(練習)やネットニュースも立ち上がるので便利です。

他にも色々なモードの時の選択画面などの時にマウスで選択できたりします。

¹⁶ Mule はファイルを上書きする時に、前の古い内容のファイルを後ろに をつけたファイル名で置いておきます。これをバックアップファイルといいます。

7.9 とりあえずここまで

Mule は言い出すときりがありません。実際、Mule の解説書は何百ページもあります。しかし実際使う機能はここまでで取り上げた機能まで十分という方がほとんどだと思いますので、ここでの解説はこれぐらいで終わらせていただきます。A.3 に代表的な機能の一覧を載せておきましたので参照してください。もっと Mule を使い込んでみたいという方は図書館にいろいろ本がありますのでそちらを参照すると良いでしょう。

第8章 どこからでも telnet

ネットワークのある暮らしはなかなか便利なものです。自分宛のメールをチェックしたり、メッセージを誰かに送ったりしたいと急に思い付いても、学内にいる限りどこか近くの空いている情報処理教室などに飛び込めば何とかできます。ところで、あなたが大学のキャンパスを離れて、例えば下宿や自宅に帰ってしまったら、今度大学に行くまでメールのやりとりはお預けにしないと駄目なのではないでしょうか？

そんな事はありません。ネットは繋がっているのです。極端なことを言うと、コンピュータがあって、それをネットワークを経由して cc 環境につながるようにさえすれば、あなたはそこから cc 環境を利用することが出来るのです。

cc 環境が提供するネットワークサービスは telnet による Unix コンピュータへの login を基本としています。つまり、どこからでも cc 環境マシンに telnet して login 出来さえすれば、あなたは cc 環境のネットワークサービスを大学にいるときと大して変わり無く利用する事が出来るのです。

ここでは学外、特に下宿や自宅から cc 環境のネットワークサービスを利用する方法を説明します。

8.1 スロースタート

特に慣れない人にとって、ここからの道のりは結構遠いかも知れません。ゆっくり説明していくことにしましょう。

8.1.1 どこから telnet?

あなたが学外から cc 環境を利用できる場合は、おそらく以下のいずれかとなるでしょう。

- 他の大学などのインターネットに接続されたコンピュータの前に座っている。
- インターネット・カフェなどと呼ばれる場所のパソコンの前に座っている。
- 下宿や自宅のパソコンの前に座っている。

はじめから二つは共にインターネットに常時接続されたコンピュータだと思われれます。また、見方を変えると誰かが管理者となってインターネットへの接続の面倒を見ているコンピュータだとも言えます。逆に最後の場合は、あなたが管理者となって自分で自分のコンピュータをネットワークに接続する必要があります。つまり上の分類は以下のように言い替えることが出来ます。

- 誰かが管理してくれているコンピュータを使って telnet する。
- 自分のコンピュータを自分で telnet 出来るようにして、そこから telnet する。

この章ではそれぞれの場合について説明しています¹。

¹ 他の可能性、例えば学内の実験室や研究室のコンピュータから利用する場合もあるでしょう。しかしそれについては状況が個々に違い過ぎる為、ここでは説明しません。適当に以下の記述から類似点を手掛かりに情報を拾い上げて下さい。

8.1.2 どこへ telnet?

インターネットにつながっているコンピュータがある所なら、世界中のどこからでもあなたは cc 環境のマシンに telnet 出来るはずですが、しかしそのためには cc 環境のホストコンピュータの名前、それもインターネット上で通用するワールドワイドな名前を知っていないといけません。

京都産業大学のネットワークを表すインターネット上での名前は kyoto-su.ac.jp で、これをドメイン名と呼んでいる事は既に 128 ページの第 5.2 節のはじめの方で説明しました。

今まで学内のコンピュータはホスト名だけで指定していました。ホスト名の後ろにピリオドで区切って、このドメイン名を付け足した名前こそが、インターネット上どこからでも通用する名前なのです。具体的には学内で cc2000 と呼んでいたコンピュータは cc2000.kyoto-su.ac.jp と表記します。

cc 環境の中で telnet を受けてサービスを提供しているコンピュータは以下のものです。

機種名	ドメイン付きホスト名
SPARCcenter2000	cc2000.kyoto-su.ac.jp

計算機センター 1 階に設置の Sun 社製コンピュータ。

もしもどこかで telnet する場合、ホスト名としては上記のコンピュータをドメイン付ホスト名で指定して下さい。ドメイン名を省略できる場合もありますが、その判断が付かない場合はドメイン付ホスト名を使うように心掛けていると良いでしょう。

8.1.3 これ以降の読み方

先が少々長くなりますので読み進む順番をあらかじめ示しておきます。

- 誰かが管理してくれているコンピュータを使って telnet する場合は、次の第 8.2 節に進んで下さい。
- 自分のコンピュータを自分で telnet 出来るようにして、そこから telnet する場合は、215 ページの第 8.3 節に進んで下さい。
- 特に自分がモデムを使った PPP 接続などに慣れていると思える人は 256 ページの第 8.9 節に進み、拾い読みすれば足りるかも知れません。
ただし、ダイヤルアップ IP 接続を利用する場合は、221 ページの第 8.4.1 節に「利用上の注意と制限」がありますので、この部分だけは必ずしっかりと読んで下さい。

8.2 誰かが管理してくれているコンピュータから

結論は簡単です。その場所では、どのようにして telnet したら良いのかを調べてください。調べる方法が判らなければ、その場所のコンピュータの管理者などに連絡をとって「自分の大学のコンピュータがインターネットに接続されているので、そこに telnet をする」為に必要な操作方法を教えて貰う事になるでしょう。

非常に馬鹿な事に思えるかも知れませんが、これは大切なことです。つまりあなたが、もしその場所で telnet 出来そうに思える方法を知っていたとしても、その方法が管理者にとって望ましい方法かそうで無いかの問題なのです。その場所ではその場所の管理者の決めたルールに従うことが最も重要です。知っているからやってみる、出来るからする、という態度に単純に走るのは悪い考え方です。常に人と共有する機械を使っているという事を忘れないようにしましょう。

8.2.1 トラブル対策

以下にこのような場合で起こりそうなトラブルについて、その原因と解決策を示しておきます。少し技術的に細かな事が書かれている場合もあるでしょう。あなたがそれを読んで判らない場合でも、その管理者の参考になるかも知れないと思うからです。

なお、対策として設定を変えたら動作するという記述があると思いますが、その場合は常にその場所の管理者に設定を変更しても良いかどうか確認してから実行する必要があります。また、Mule がうまく使えない場合のトラブルには 100 ページの第 4.5.2 節、特に「非 X ウィンドウ環境」での起動方法とエラー対策を参考にしてください。

電話がつながらない

つなげる時はモデムから音が聞こえます。まずはその音をよく聞いてください。正常ならまず電話のダイヤル音（電話の種類によって「ピポパピポパ」か「カタカタカタ…」という音か。いつも普通の電話をかける時に受話器から聞こえてくる音です。）がなった後、ブルルルルと呼出音が 1 回鳴りガチャッと電話が受け取られた後、ピーという高い音が 2 秒程鳴り、続いてガーガーという音に変わります。

さて、ずっと呼出音のままになる場合は電話番号が間違っている可能性があります。電話番号をよく確認して下さい。正しいならば、たくさんの人が一度に使っているため回線に空きがない場合が考えられます。夜中は混雑するため、一度日中に試して下さい。

telnet したがつながらない

cc2000 を相手に telnet したがつながらない場合は、133.101.32.73 を相手に telnet してみてください。これでつながる場合は DNS の設定が間違っています。インターネットにつながっている機械には世界で唯一の番号がついています。それが 133.101.32.73 のような IP アドレス と呼ばれるものなので、コンピュータはこの IP アドレス を使って通信しているのですが、このままでは人間が覚えにくいので cc2000 というように ホスト名 をつけてそれを利用しています。telnet 133.101.32.73 とすればコンピュータにとって直観的に理解できて、telnet cc2000 とした場合は人間が直観的に理解できる、という訳です。

さて、だとしたら telnet cc2000 としたときはコンピュータはそれを理解することができないので、誰かが cc2000 とは 133.101.32.73 だよ、と教えてくれなくてははいけません。それをしてくれるのが DNS (Domain Name Server) なのです。

従って DNS を正しく 133.101.32.74 に設定していなければ cc2000 が誰なのか教えて貰えないのでつながらない訳です。

アルファベットは表示されるが漢字部分の表示がおかしい

お使いの telnet ソフトの文字コード² が正しく設定されていないようです。EUC コードにセットしてください。

² 161 ページ、5.8.2 参照

Mule を使おうと思うのだが C-s , C-c <Delete>などが動作しない

お使いの telnet ソフトの設定に問題があるようです。ソフトについてくる説明書を読んで設定してください。

8.3 あなたのパソコンから

ちょっとあなたの部屋の周りを見回して下さい。もしあなたが使えるパソコンと、電話回線がそこにあるのなら、少しお金を出して準備すれば、あなたのパソコンから電話線経由で cc 環境を利用することが出来るようになります。

あなたのパソコンから cc 環境を利用するには、とにかくあなたのパソコンと cc 環境のコンピュータを電線で結ばなければなりません。何故ならコンピュータの中では信号が電気に変えられて流れているからです。電話線だって電線なのですが、この電線に例えばコンピュータの電気信号を流すわけには行きません。しかしコンピュータの信号を、音に変えてから電話線に通す事は出来ます。それをまた元に戻せば良い訳です。音に変えられた信号が電話線を通り抜けて、あなたのパソコンと電話の向こうのコンピュータの間を往き来しているところを想像して下さい。

これ以降は下宿や自宅のあなたのパソコンを使って、大学のネットワークサービスを利用する方法を説明します。勿論旅行先にノートパソコンを持っていても同様のことが出来ます。

でもちょっと待って!

なんだか良さそうな事ばかり書きました。でも公平に良くない事も書かなくてははいけません。今までこの冊子に書かれてきた事は、全て誰かが管理者となって使いやすい状態に管理されたコンピュータを使う場合に、最低限知らなければならないことについて書かれていました。しかし今度はあなたが自分のコンピュータの管理者となるのです。コンピュータに関する知識や、トラブルを解決する為の努力が、ある程度要求される事に注意して下さい。それがどうしても嫌なら、誰かに管理されたコンピュータを使わせて貰うことをお勧めします。つまり大学に行けば良いという事です。あなたはそれが出来る立場なのですから。

8.3.1 準備段階

あなたが自分のコンピュータから電話線経由で telnet するためには、以下のものが必要になります。

コンピュータ

まずはコンピュータがないと話になりません。どのような種類のコンピュータでも、一般的にパソコン・ショップで売っているパソコンならば大抵問題なく電話線経由で telnet することが出来ます。購入前には誰か良く知っている知人などにアドバイスを貰うのが良いかも知れません。学内ローカルニュースグループの一つ、sandai.questionなどを覗く、または質問してみるのも最新の情報を集める一つの手段です。

自分が見える電話回線

これも無いと話になりません。なお、携帯電話、PHS での通信も可能ですが、ここでは説明しません³。NTT の(無線ではない)電話回線を使う場合についてだけ説明します。それから以下の点について確かめておいて下さい。

³ 技術的に少々難しくなる上に、余り一般的ではないと思えるからです。雑誌などを見ると結構載っていますのでトライしてみるのも楽しいですよ。

- あなたの電話回線はプッシュホン回線ですか？ダイヤル回線ですか？⁴
 まずこれを確認しておいて下さい。このすぐ後で必要になります。指で回すダイヤルがついている電話機の場合⁵ はまず間違いなくダイヤル回線です。押しボタン式の電話機で、電話を掛ける時に数字のボタンを押したら、数字に応じてそれぞれ違う音で「ピッポッパッ」と聞こえてくれば恐らくプッシュホン回線です。押しボタン式でも音の聞こえ具合がこうでない場合は毎月の料金明細を見るなどして要確認です。
- 回線の口がモジュラジャックになっていますか？
 電話機から出ている電話線の先端を見て下さい。そこには 5mm × 8mm 程度の大きさの、透明なプラスチックになっていませんか？このタイプの差し込み口のことをモジュラジャックと呼んでいます。もしそうになっていない場合は NTT に連絡してモジュラジャックの取り付け工事を頼む必要がありますが、それには工事費がかかりますので注意して下さい。

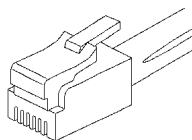


図 8.1 モジュラジャック

- その電話回線は ISDN と呼ばれるタイプではありませんね？
 ISDN 利用者はこのガイドの利用者には多くないと判断して、ISDN 利用者のための説明はここでは行ないません。これから行なわれる説明は全て ISDN でない電話回線に絞って書かれており、かなりの相違があります。ISDN 利用者はその相違を自分で理解して読み替えて下さい⁶。
- その電話回線はホームテレホンと呼ばれるタイプではありませんね？
 例えば「外線」などと書かれているボタンを押してからダイヤルしてはじめて外部に電話できる種類の電話などがそうです。この場合にはいろいろと複雑な問題が出がちです。大抵の場合、対処方法はあるのですが、電話機のメーカーなどによってまちまちなので、ここに一概にまとめて書くことができません。
 その電話回線からの接続をあきらめるのが簡単ですが、良く知っていそうな知人に聞くか、学内ローカルニュースグループの一つ、sandai.question などに質問してみるなどして解決策を捜してみると良いでしょう。
- その電話回線にはキャッチホン契約をしていませんか？
 キャッチホン契約をしていると、コンピュータが電話回線を使って大学と接続している時に誰かが電話を掛けてきた場合、あの「ぶちっ」という音によってコンピュータの電話接続が切れてしまいま

⁴ それにしてもこのプッシュホン回線、ダイヤル回線という呼び名はおかしなものです。トーンダイヤル、パルスダイヤルと言う呼び方もあります。要するに相手先番号を指定するのに、音色（トーン）を使うのか、断続的な信号（パルス）を使うのかを指していることに変わりはないのです。ボタンを押す（プッシュ）で音色を出し、円盤（ダイヤル）を回してパルスを作る。なるほど。でも押しボタンでパルスを作ることも出来るし、そもそもトーンでダイヤル（目盛り盤）って何なんだ？

⁵ 俗に言う黒電話など、少し古い電話機がそうですね。

⁶ 今のところ計算機センターは ISDN 接続設備を用意していません。つまりもしあなたが ISDN のデジタル通信機能つき TA を用意していたとしても、それを使うことはできません。通常のアナログモデムを用意して、それを TA のアナログポートに接続して使うことになります。ISDN 接続設備が導入された場合は sandai.center.announce などの学内ローカルニュースグループに掲載されるとお思いますので気になる人はチェックしておくとう良いでしょう。

す。キャッチホン契約をやめるか、途中で切れてしまうのをあきらめるか、もしくは NTT が行なっているパソコン通信対応のキャッチホンサービス、「キャッチホン II⁷」などで対応して下さい。

モデム

モデムとはコンピュータと電話回線を接続するための機器です。このモデムこそが、コンピュータの信号を音に変えて電話線に流してくれるのです。

モデムが最初からコンピュータに内蔵されている機種もありますが、そうでない場合の方が多いと思います。付いていない場合は商品ですから買わなければなりません。モデムと一口に言っても、性能別、またコンピュータに合わせて様々な種類があります。

まずモデムの性能は一般的には通信速度で測られます。bps⁸ という単位で表現されますがこれが 9.6Kbps (9600bps) もしくはそれ以上の値のものを推奨します。

もしも新規にモデムを購入するのであれば、28.8Kbps (28800bps) もしくはそれ以上の値のものを強く推奨します。通信速度が遅いと、必要な作業をするための時間が長くなってしまい、使えば使うほど電話代がより多く掛かることとなります。一概には言えませんが、例えば 14.4Kbps のモデムでは 28.8Kbps の半分の速度ですので、同じ作業をするのにおよそ倍の時間がかかり、電話代も倍になると言う具合です。

次にコンピュータの種別によって、主として以下の二種類の形のモデムが売られています。

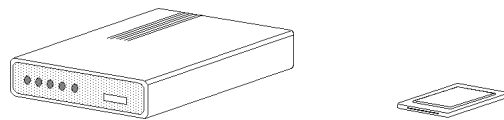


図 8.2 典型的なモデムの外形 (左:外置き型 右:カード型)

右のカード型がちょうどキャッシュカードの大きさと厚さ 3mm 程度、左の外置き型はそれとの比較で想像して下さい。つまりコンピュータの外に置いて電線で接続するものと、コンピュータの中に差し込んで接続するものです。後者は主にノートパソコンと呼ばれる種類のコンピュータで見られるものです。大抵のノートパソコンは前者の外置き型のモデムも使えますので、値段、利便性などを考えて選択すると良いでしょう。

接続の方法については基本的にはモデム購入時に製品に添付されるマニュアルに、どうやってコンピュータをモデムにつなぎ、そのモデムを電話回線につなぐのかが書かれているはずです。詳細はそちらを参照して下さい。

いずれにしても購入前にそのモデムが自分のパソコンとつないで使えるものかどうか良く確認するのがお勧めです。

通信に必要なソフトウェア。

これについては機種、接続方法 (後述) などによって違いがありますので、後で別々に説明します。

8.3.2 接続する二つの方法

ずいぶんと説明しましたが、まだ少しだけあります。電話線経由で telnet をするには、更に以下の二つの方法があるのです。

⁷ 0120-000-116 の「NTT サービスガイド」からキャッチホン II など各種サービスの説明を聞くことが出来ます。(1997 年 3 月時点)

⁸ bit per second の略。一秒間に送信、または受信できるビット数。

a. ダイアルアップ IP 接続

b. ターミナルサーバ接続⁹

これは純粋に技術的な分類です。両者の相違いについての細かな説明は次節の 8.3.3 で行ないます。しかし技術的な興味のない人はそこを読まずに、まずダイアルアップ IP 接続を利用されることをお勧めします。しかしまず最初にあなたのコンピュータがダイアルアップ IP 接続を利用できるか、確認しておかなければなりません。通信速度が 9.6Kbps (9600bps) 以上の比較的高速なモデムを持っていて、以下のような条件に該当するコンピュータならばダイアルアップ IP 接続が利用できます。

a1. 自分のパソコンは Windows95 で動いている。

a2. 自分のパソコンは Windows3.1 で動いている。

a3. 自分のパソコンは Macintosh である。

対して、通信速度が 2400bps 以下の比較的低速なモデムしか持っていないか、以下のような条件の人は、ターミナルサーバ接続をお勧めします。

b1. 自分のパソコンは DOS で動いていて、Windows は使えない。

また、以下のような場合もあるでしょう。

c1. 自分が使おうと思っているのはパソコンではなく流行の携帯情報端末 (SHARP の Zaurus や NEC の Mobile Gear 等) だ。

c2. 自分が使おうと思っているのは HP200LX もしくは通信機能つきワープロだ。

c3. 自分のパソコンは Unix が動いている。

ここから先は、それぞれ以下の節に進んで下さい。環境ごとの設定の方法をそれぞれ説明します。

- a1. の人は 223 ページの第 8.5 節へ。

- a2. の人は 232 ページの第 8.6 節へ。

- a3. の人は 244 ページの第 8.7 節へ。

- b1. の人は 252 ページの第 8.8 節へ。

- c1., c2., c3. の人は 256 ページの第 8.9 などを参考に、持っている機器に添付されていたマニュアルを良く読んでトライして下さい。

cc 環境と違って、各個人の環境と言うものは非常にばらつきがあって、一概には言えないことが多くあります。ここに書かれたことだけでうまく行かなかったとしても、個別の問題を少し解決してやるだけで何とかなる可能性もあります。うまく行かない場合などはインターネットやコンピュータ関連雑誌を読む、sandai.question などの学内ローカルニュースグループを覗く、またそこに質問するなどして見るのが良いでしょう。

次節にダイアルアップ IP 接続とターミナルサーバ接続の相違について説明しますが、技術的な興味のない人は読まずに、上に示した各環境ごとの設定方法に進めば良いでしょう。

⁹ この用語については殆ど京都産業大学ローカル造語の域です。しかも余り良い命名ではありません。用語については次節 8.3.3 を参照。

8.3.3 ダイアルアップ IP 接続とターミナルサーバ接続の違い

ダイアルアップ IP 接続とターミナルサーバ接続の違いとは何でしょうか。telnet しているだけなら大した違いはないように思えます。せいぜいダイアルアップ IP 接続で利用する telnet アプリケーションは複数の telnet ウィンドウを利用して、簡単に同時に複数 login できる事くらいでしょうか。

ところが telnet だけに限らず、各種のネットワークサービスを利用しようとしても、ダイアルアップ IP 接続でなければそれが出来ないことが多くあります。例えば機能的にぱっと目に付く以下の機能はダイアルアップ IP 接続でだけ使えるようになります。

- FTP クライアントソフトによるパソコンへのファイル転送。
- Netscape などの WWW ブラウザの利用。

つまり telnet による Unix マシンへの login と、そこから Mule を通して利用する電子メールやニュースなどのサービス以外の全てです。逆に言うとターミナルサーバ接続したパソコンからは、telnet して使うネットワークサービスしか利用できないのです。何故ならターミナルサーバと言うものは telnet だけを使えるようにするものだからです。

- ターミナルサーバ接続をすることとは、あなたのパソコンを電話線経由でターミナルサーバに接続し、そのターミナルサーバから telnet をするという事なのです。
- ダイアルアップ IP 接続とは、接続先のネットワークをあなたのパソコンまで延長してくることに他なりません。

つまりダイアルアップ IP 接続ではじめて、ネットワークがつながっていたら使える機能の全て¹⁰ をあなたのパソコンは使えるようになったのです。Netscape や FTP ソフトなどはそういうものの一例です。telnet ソフトなどもそういうものの一つに過ぎませんから、当然ダイアルアップ IP 接続している状態で telnet する事も出来ます¹¹。

用語の説明

今までの部分は何より専門的な知識の無いままで、概念的な理解をすることだけを目的に書かれていました。ところがダイアルアップ IP 接続をはじめとして、インターネットの流行にともなって多くの雑誌が自宅からダイアルアップ接続するための情報を載せはじめました。それらの雑誌で書かれている用語は、必ずしも適切なものではないかも知れませんが、だからと言ってこのガイドがそれとは違う独自の用語で書かれているのも困りものです。なにしろ熱心な人ほどその両方を読むのですから。

- ダイアルアップって何ですか？

単純に訳して「電話を掛けて受話器を上げる」という事でしょうか。つまりコンピュータを使って電話を掛けさせる事を言います。電話を受けるのはやはりコンピュータ的なものです。多く登場した「ダイアルアップ IP 接続」というのは、つまり電話を掛けて、電話線経由で IP 接続するという事なのです。ところで短く「ダイアルアップ接続」と呼べば良さそうなものですが、IP 接続でないダイアルアップ接続も世の中にはある¹² ので注意が必要です。

¹⁰ 技術的、構造的な理由で、正確には全てではなく「殆ど全て」と言うべきです。ここでは技術的な理解を追求していませんので、厳密でないところについてはこの程度で勘弁して下さい。

¹¹ ダイアルアップ IP 接続した状態で telnet セッションが複数張れて、ターミナルサーバ接続の状態ではたった一つしかセッションを扱えない、と言うこと理由はなかなか複雑です。ここでは説明しませんが、簡単には「そういうものだ」と思っておくのが良いと思います。厳密にはターミナルサーバが複数セッションを扱う機能を持っていて、パソコン上の端末ソフトがその管理機能を利用できれば良いのです。ちなみに京都産業大学の環境ではそれが実現出来ています。

¹² 京都産業大学の計算機センターは提供していません。

- IPって何ですか？IP 接続って何ですか？

IP というのは、ある種の通信規約の事ですが、難しいことはもうちょっと置いておいて、とにかくインターネットで使っているのと同じ通信のやり方なんだと思って下さい。つまり IP 接続というのは、インターネット的な方法でコンピュータもしくはネットワークをつないでしまうという事を意味しています。大学へのダイヤルアップ IP 接続と言うのは、つまり電話線経由であなたのパソコンを大学のキャンパスネットワークの一員にするという事なのです。京都産業大学のキャンパスネットワークはインターネットに接続されていますから、つまりあなたのパソコンはインターネットの一員になったという事ですね。

- PPPって何ですか？

PPP というのはネットワーク的な接続を実現するための、ある種の通信規約の事ですが、やはり難しいことは置いておきましょう。一般的にダイヤルアップで IP 接続をする時には、大抵の場合この PPP 技術を利用しています。そのためにダイヤルアップ IP 接続の事を「ダイヤルアップ PPP 接続」または短く「PPP 接続」と呼んだりする事があるようです。

- ターミナルサーバって何ですか？

この場合のターミナルは「端末」と訳されます。この端末、ないしはターミナルと呼ばれるものについては 19 ページの第 2.6.1 節に説明があります。ターミナルサーバとは、端末の役割を果たすものを接続して、そこからサービスを提供するための機械を指します。提供される機能は様々なものが考えられますが、当初から telnet サービスを主体としていました¹³。京都産業大学が用意しているターミナルサーバは telnet サービス以外の機能は (ほぼ) 提供していません。

- ターミナルサーバ接続って何ですか？

済みません。これは京都産業大学ローカルな造語です。しかも余り良い命名ではありません。本当は「無手順接続 (による telnet サービス)」と呼ぶべきだと思いますが、余りにも馴染めない名前なので単語を作ってしまった。技術的には「無手順」という通信規約にのっとってターミナルサーバに端末を接続する事を指します。ターミナルサーバは基本的には telnet 機能をサービスしていますが、機能的には telnet サービスのための接続と考えると良いでしょう。

- アクセスサーバって何ですか？

これも余り良い名前ではないように思います。ダイヤルアップ IP 接続のための設備を販売している企業が、その種の製品のことをこう呼んでいるのですが、余り一般的でもありませんし、意味的にも良くありません。(IP 接続という機能が追加された) ターミナルサーバと呼んでも良いと思うのですが、そうすると以前から売られていた telnet サービスを主体としたターミナルサーバと同一視されてしまうために、わざわざ新しい単語を用意したのでは無いかと思ってしまいます。いずれ妥当な呼び名が定着するでしょうから、それまで良い加減にして過ごしましょう。

より技術的な理解の為に

上の説明では省略して表現した部分を書いておきます。特に技術に興味のある人が、より正確な理解を得られるかも知れないと思うからです。

- PPP について。

PPP (Point to Point Protocol) 以外にも同様の機能を果たす実用化された別の規約、例えば SLIP (Serial Line IP) 等が存在します。しかし現在では PPP の方が、より普及しています。PPP 以外に

¹³ 因みに telnet そのものが Unix コンピュータなどの端末機能を提供するものです。つまり電話回線経由であなたのパソコンをターミナルサーバの端末に仕立て、そこからターミナルサーバの telnet 機能を使って Unix の遠隔端末に仕立てようという訳です。

よるダイヤルアップ IP 接続も存在しますし、ダイヤルアップでない PPP 接続も存在します。PPP による IP でないネットワーク接続も存在します¹⁴。一般的には「PPP によるダイヤルアップ IP 接続」が最も普及しているために、PPP という用語はダイヤルアップ接続や IP 接続の周辺で曖昧に用いられる傾向があるように見えます。電話というものは端点と端点を結ぶ (Point to Point) ものだから、そこに PPP が適用できるのだ、という理解が最も妥当だと思います。そして PPP は IP を扱えるので、電話 + PPP で IP 接続が出来るという訳です。

- ターミナルサーバについて。

ターミナルサーバは複数の telnet セッションを同時に扱うことも出来るのですが、残念ながらその機能をうまく使えるパソコン用端末ソフトはありません。もしそれがあれば、複数の端末セッションをターミナルサーバで効率良く扱えるようになるでしょう。つまり複数の telnet セッションが扱えると言うのはターミナルサーバ接続とダイヤルアップ IP 接続との決定的な差ではないのです。あくまでその差は、telnet などの遠隔端末サービスを提供するか、インターネットと同じ IP パケットの転送を実現するか、そこなのです。

また、京都産業大学計算機センターが用意しているターミナルサーバ、DecServer700 には telnet 以外の遠隔端末サービスが一つ用意されています。ここではその名前や機能についての説明はしません。

8.4 ダイヤルアップ IP 接続の設定と利用法

これから各機種ごとの設定と利用法を個別に説明します。

8.4.1 利用上の注意と制限

ダイヤルアップ IP 接続を利用する際に以下のことに注意してください。

長時間の回線占有に注意して下さい。

ダイヤルアップ IP 接続を行なう人は非常に多く、今後も増え続けると思われます。そのためタイプ IP 接続をしようとしても常に全ての回線が利用されており、話中ばかりで電話がなかなかつながらず増えています。ほんの一通か二通メールを読み書きするだけなのに何時間もダイヤルし続けなくてはならないなんて不合理です。

その為にダイヤルアップ IP 接続のための回線は以下の二種類用意されています。あなたのパソコンの設定の変更は電話番号の部分だけで、他の設定は全てそのままどちらのタイプでも正しく動作するはず

	電話番号 (内線)	最大接続速度	回線数
タイプ I	075-705-1502 (2992)	28.8Kbps	8
タイプ II	075-705-1489 (2592)	14.4Kbps	5

つまり、タイプ II 側はせいぜい数分間の短時間利用にとどめるようにして、いつも空きを多く作るようにしたいのです。それを超えるような時間の利用はタイプ I でお願いします。

いずれにしても電話線は多くの利用者で使い回しているのですから、つながったのを幸い何時間も回線を占有して他の人がつながらなくなってしまうようでは困ります。どちらのタイプにしても混雑している時間帯、特にテレホーダイ¹⁵ が適用できる時間帯などに、不必要に長時間接続して他の人に迷惑を掛けな

¹⁴ SLIP は名の通り IP しか扱えません。

¹⁵ NTT が提供しているサービスで、夜 11 時から朝 8 時頃までの近距離の特定電話番号に対する通話料金を月額固定にする。

いように心がけて下さい。

このルールは紳士協定であり、特に制限も罰則も設けられてはいません。しかし最終的にルールを全体として守れず、電話回線が小数の利用者によって占有されてしまうようなことになった時には、様々な利用上の制限や罰則が設けられる可能性があります¹⁶。もちろん計算機センターは監視と罰則付きの運用を望んでいません。受信設備は非常に高価¹⁷で、少なくとも近い将来にどれだけ回線を用意すべきなのか、計算機センターも利用者と一緒に妥当な答を探しているのです。そのことを理解して、控え目な利用と紳士的な運用に御協力下さい。

¹⁶ 例えば学内設備への接続以外出来なくする、利用者あたりの月間接続時間に上限を設ける、一定時間に達したら強制的に回線を切断するなど制限が考えられます。管理と運用のために利用統計も取っていますから、占有が激しい場合には制限を加えるより先に、利用者ごとの月間利用時間合計を毎月掲示する方法も考えられます。

¹⁷ 現在の製品では受信設備の追加には1回線当たり20万円以上掛かります。

8.5 Windows95 編

以下に Windows95 が動作する機械でダイヤルアップ IP 接続を行う例を示します。

8.5.1 用意する物

ハードウェア

- PC/AT 互換機や PC-98 Windows95 が動作していること。
- モデム 8.9.1 で紹介したモデムに接続可能であること。
- モデムケーブル (大抵の場合はそれぞれの機械用としてモデムを買うと付属しています。)

必要なソフトウェア

まずは接続のために。

Windows95 標準のダイヤルアップ機能。

接続してネットワークサービスを利用するために。

- Telnet Windows95 標準添付。Tera Term 等も利用可能。
- Ftp Windows95 標準添付。WinFTP 等も利用可能。
- Netscape 32bit 版の Ver. 2.0 など最新の物を推奨。教育、非営利団体の利用は無料。
- WinBiff 電子メールクライアント。最新の物を推奨。利用は有料。
- WinVN 電子掲示板クライアント。最新の物を推奨。利用は無料。

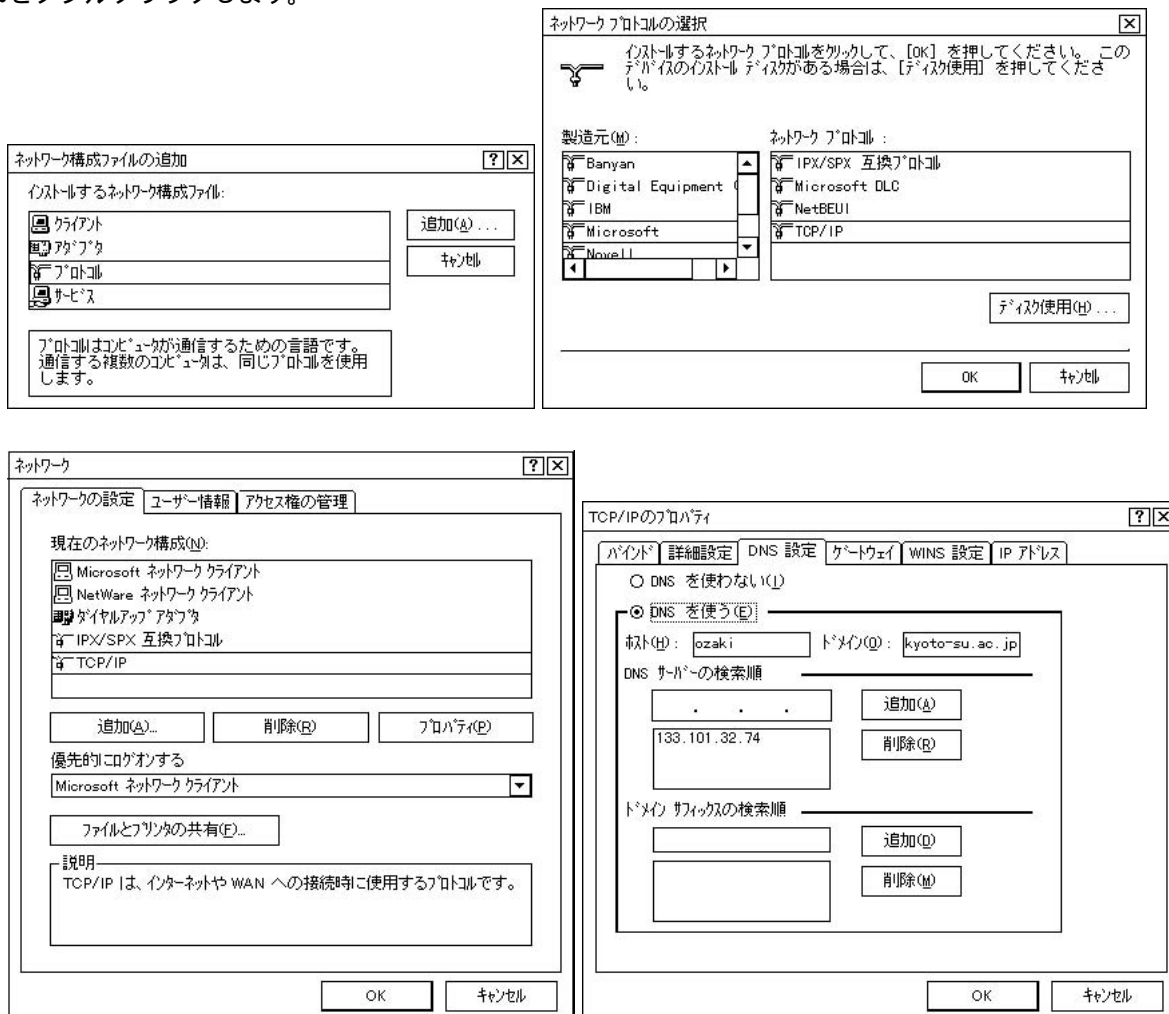
8.5.2 インストール

コントロールパネルからアプリケーションの追加と削除をダブルクリックします。出てくるメニューの
下の方にある「通信」をダブルクリックして、「ダイヤルアップネットワーク」をチェックします。



ここで、まだ入力していなければ コンピュータ名の入力を求めてきますので入力して下さい。コンピュータ名/グループ名/コンピュータの説明の3項目を聞いてきます。ダイヤルアップで京産大に繋げるのなら、この項目は京産大ネットワークに一切影響を与えません。自分の好きなように名前をつけて下さい。これが終わると再起動を聞いて来ますが、まだなくてもいいです。

次にコントロールパネルからネットワークをダブルクリックして追加ボタンを押して、プロトコル から Microsoft、TCP/IP を順にクリックして追加します。するとメニューに TCP/IP が追加されますのでそれをダブルクリックします。

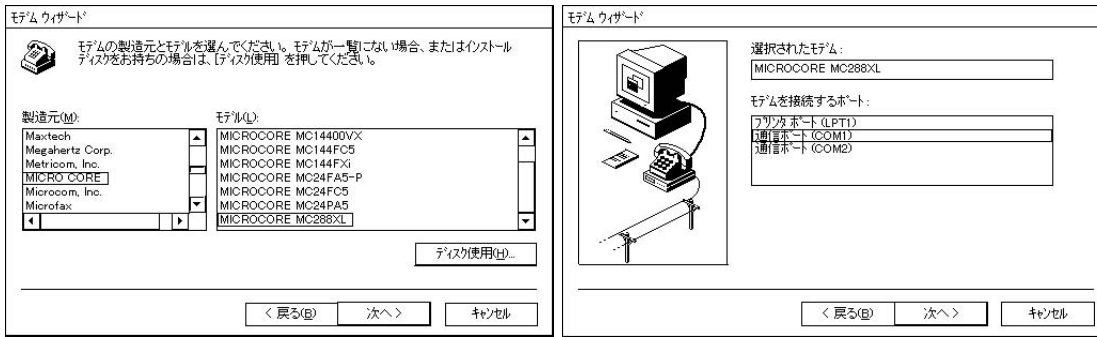


出てきたメニューから DNS の設定を選び以下のように入力します。

DNS を使うにチェック	
ホスト	自分のコンピュータ名
ドメイン	kyoto-su.ac.jp
DNS サーバーの検索順	133.101.32.74

この設定が終わったら再起動します。

再起動したらマイコンピュータのダイヤルアップネットワークをダブルクリックします。ここでモデムのインストールがまだならそれが始まりますので、お使いの機種を選んで以下の項目にそれぞれ入力します。



次に

- 市外局番
- 外線発信番号
- ダイヤル方法

にそれぞれ入力します。外線発信番号は0発信なら0を入れます。外線を掛ける時に何もせずに直接掛けられるのならここは空白にしておきます。ダイヤル方法はトーンかパルスかを選択します。ダイヤルする時にピッポッパと鳴るのがトーン、プチプチプチ、とノイズが聞こえるのがパルスです。みかけはプッシュホンでも実はダイヤル回線だということがあります。ダイヤル時の音で見分けるようにしてください。



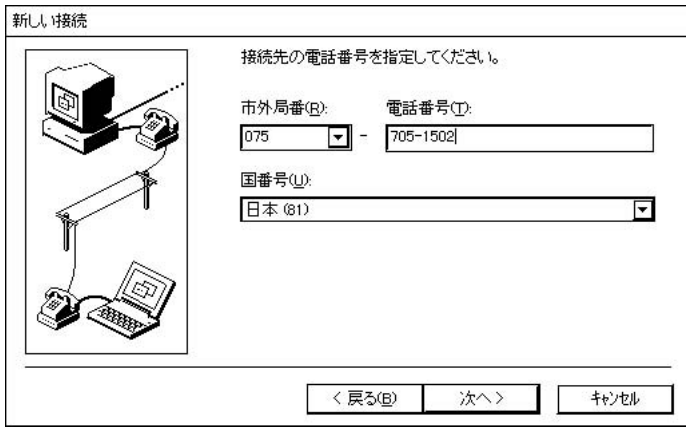
モデムのセットアップが出来たら、新しい接続として接続名を入力します。とりあえず産大とでもしておきましょう。次を選ぶと接続先の電話番号を聞いてきますので、

市外局番 075

電話番号 705-1502

国番号 日本

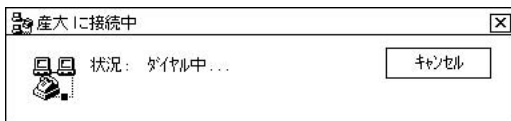
として次へ、終了を選んで完了です。



産大のアイコンをダブルクリックしてみましょう。次のような画面が出てきますのでいつも学校で使っているユーザ名、パスワードを入力して接続ボタンを押します。パスワードの保存の所をチェックしておけば次に接続する時に今回入力したユーザ名とパスワードを覚えていてくれます。パソコンを自分しか触らないのであればチェックしておいてもいいでしょう。多人数で使う可能性がある場合はチェックしてはいけません。



接続ボタンを押すと次のような画面に「ダイヤル中」「ユーザ名とパスワードを確認中」「ネットワークにログオン中」「xxxbps で接続」と出ます。これで PPP 接続は成功です。後は Telnet や Netscape 等を起動してネットワーク接続がうまくいっているかどうか確認してください。



8.5.3 ネットワークソフトウェアの入手およびインストール

あなたの自宅からダイヤルアップ IP 接続の環境をより便利なものにするためにあると便利なアプリケーションのインストールを紹介します。以下にそって作業するか、または雑誌で似たような作業の紹介とソフトウェアが入った CD-ROM が付いているものがあるのでそれを利用するのもいいでしょう。

インストールするソフトは以下のとおりです。これでわかる方は以下を読み飛ばして各ソフトウェアの

設定に進んでください。なお、これらのソフトウェアはバージョンアップされることが予想されます。新しいものはなんらかの誤動作をしていたものが直っていると思われるので新しいものを使うことをお勧めします。その場合似た名前で、数字部分が大きな数字になったファイル名になっているものを選んでください。

種類	ソフト名	取得先 (平成 9 年 3 月 26 日現在)
FTP	WS_FTP	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/Win95/NetTools/ws_ftp32.zip
Telnet	Teraterm	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/Win95/NetTools/Telnet/tterm20.zip
WWW	Netscape	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/Win95/NetTools/Netscape/n32e301p.exe
Archiver	unzip	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/DOS/DiskTools/unz50p1.exe

さて、上記の表記で判る方は好きな方法でファイルを取得してください。判らない方は、まずはそのソフトを入手することから説明します。手順は以下のとおり。

- ダイヤルアップ IP 接続がつながった状態にする。
- FTP ソフトの WS_FTP を手に入れる。
- 解凍ソフトを手に入れる。
- WS_FTP を解凍して使えるようにする。
- WS_FTP を利用して、Telnet ソフトの Teraterm を手に入れる。
- WS_FTP を利用して WWW ブラウザソフトの Netscape を手に入れる。

WS_FTP と unzip の取得

ダイヤルアップ IP 接続がつながった状態で「スタート」メニューから「プログラム」を選び、「MSDOS プロンプト」を起動します。続いて以下のように入力してください。

```
C:\WINDOWS>cd \progra~118
C:\Program Files>md net
C:\Program Files>cd net
C:\Program Files\net>ftp ftp.kyoto-su.ac.jp
```

するとユーザ名とパスワードを聞いてくるのでゲスト参加するために、それぞれ anonymous と自分の電子メールアドレス (例: hogehoge@cc.kyoto-su.ac.jp) を入力します。

きちんと入力できると数行のメッセージの後、「Guest login ok」と出て入力待ちになります¹⁹。ここで

```
ftp> cd pub/Win95/NetTools
ftp> bin
ftp> get ws_ftp32.zip
```

¹⁸ ~ は PC-AT 互換機の一般的なキーボードでしたら Shift キーを押しながら ^ (数字の 0 の二つ右のキー) を押すと入力できます。PC-98 シリーズでは Shift キーを押しながら @ (P の右隣のキー) でしょう。

¹⁹ PC-98 シリーズの場合、この作業がうまくいかない (途中で止まってしまう) 場合があります。その時は回避策がありませんので雑誌の付録 CD-ROM からか学校の情報処理教室でフロッピーディスクを利用して該当するファイルを取得してください。

とします。

```
200 PORT command successful.  
150 Opening BINARY mode data connection for ws_ftp32.zip (191957 bytes).  
226 Transfer complete.  
191957 bytes received in 0.38 seconds (538.60 Kbytes/sec)  
ftp>
```

このようにファイルが転送されます。続いてついでにもう一つソフトを入手します。ネットワーク上にあるソフトはそのほとんどが圧縮されていますので、それを解凍するためのツールが必要になります。それを手に入れましょう。

```
ftp> cd /pub/Dos/DiskTools  
ftp> get unz50p1.exe
```

これで二つのソフトを手に入れました。bye として接続を切ります。

WS_FTP の解凍

予備知識 - 圧縮と解凍 -

コンピュータは非常にたくさんのファイルを扱っていることは既におわかりのことと思います。その一つ一つは友人からきた電子メールかもしれないし、ワープロソフトが使うシステムのファイルかもしれない。さて、このようなファイルは得てしてどんどん増え続けるものです。そうすると置き場所がなくなって困ってしまいますね。どうしましょうか？ここで活躍するのが圧縮です。

ふとんの真空パックを想像してください。大きなサイズのふとんがぎゅっと圧縮されて小さくなりますね。すると、そのままの大きさでは5枚しか入らない押し入れに10枚押し込むことができるかもしれません。欠点はそのまま使うことができず、空気を入れて元の大きさに戻さないと使えないことです。しかしその欠点を理解した上で非常に便利に利用することができますね。

このようなことがコンピュータではファイルに対して実行できるのです。圧縮して小さくして²⁰保存しておき、必要なときに元に戻す作業、解凍をして使うのです。さて、これだけでは芸がありません。圧縮とセットで使うことで格段に整理整頓が便利にできる機能があります。いくつかのファイルをまとめて一つにしてしまう機能です。これをコンピュータの世界ではアーカイブ (archives) と呼んでいます。アーカイブしたファイルを圧縮すれば、あるまとまったデータを片づけておくことができますよね。普通、圧縮・解凍をするソフトウェアはアーカイブ機能を備えています。そのため圧縮・解凍ソフトウェアをアーカイバと呼ぶこともあります。

この機能は個人のファイルの整理にももちろん利用できますが、それよりも利用価値が高いのが、さまざまなソフトウェアを提供する場合です。ソフトウェアをアーカイブ・圧縮された一つのファイルの形にしておけば相手に過不足なくすべてのファイルを渡すことができますし、手軽に、通信を通じてなら短時間で、フロッピーディスクなら少ない枚数で渡すことができます。世の中にはこのような形でたくさんのソフトウェアが提供されています。

さて、ws_ftp32.zip というファイルを取得しましたが、このファイルは WS_FTP32 を圧縮したファイルなので、使えるように解凍しなくてははいけません。拡張子からこのファイルは ZIP 形式で圧縮されている

²⁰ 例えば、「aaaaabbbcccc」というデータを a が 5 個、b が 3 個、c が 4 個とみて「a5b3c4」とするのです。

ことがわかりますので、ZIP 形式の解凍ソフトが必要になります。これが一緒に取得した unzip です。実は unzip も圧縮された状態になっています。あれ?ではどうやって解凍すればいいのでしょうか?安心してください。これは自己解凍型と呼ばれる種類の圧縮方法で、unz50p1.exe を実行すれば自動的に unzip.exe が解凍されます。ではやってみましょう。続けて WinFTP の解凍も行います。unzip -x ws_ftp32.zip です。

```
C:\Program Files\net>unz50p1.exe
```

```
C:\Program Files\net>unzip -x ws_ftp32.zip
```

Tera Term と Netscape の取得

ここまでできたら、エクスプローラーを起動しましょう。Program Files の net というディレクトリを見てください。ws_ftp32.exe のファイルが増えているはずですが、次はこのソフトを使って、Telnet ソフトの Teraterm と必要なら WWW ブラウザの Netscape を入手しましょう。エクスプローラーから ws_ftp32.exe というファイルをダブルクリックして WS_FTP を起動してください。

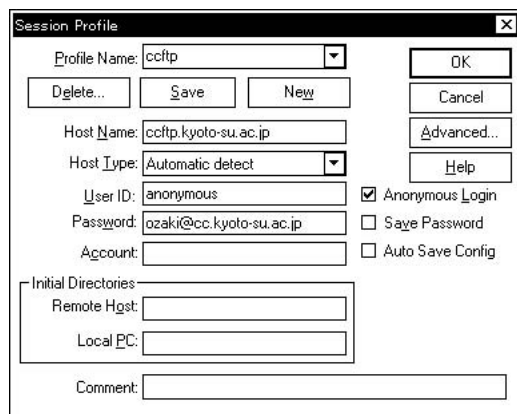


図 8.3 WS_FTP32 起動画面

```
Profile Name: ccftp
Host Name    : ccftp.kyoto-su.ac.jp
User ID     : anonymous
Password    : あなたのメールアドレス
```

とした後 OK ボタンを押してください。出てきた画面は左側が自分のパソコン、右側がホストコンピュータのディスクをあらわしています。また、上段がディレクトリ名、下段がそのディレクトリに含まれるファイル名を表示する欄です。ディレクトリ名をクリックしてパソコン側 (左側) を \Program Files\net に、ホストコンピュータ側 (右側) を /pub/Win95/NetTools/Telnet にします。ディレクトリ名をダブルクリックしてそのディレクトリに移動し、戻りたい場合「..」というディレクトリ名を指定する事で一つ上のディレクトリに移動することができます。

移動すると ホスト側下段に tterm20.zip というファイルが見えるはずですが、画面下の「ASCII」「Binary」「Auto」のボタンが「Binary」にある事を確認してください。違うところにチェックがあったら Binary にセットしてください。準備ができたなら tterm20.zip のファイル名をクリックして反転させておき、「<-」ボタンを押すと右から左、つまり UNIX からパソコン側にファイルをコピーします。これで Teraterm を

入手できました。

同様に、必要ならネットスケープも取得しましょう。ホストコンピュータ側のディレクトリを /pub/Win95/NetTools/WWW にして下段に出てくるファイル名から欲しいものを選択してコピーします。ネットスケープはかなり早いペースで新しくなります。最も新しいものは バージョンというテスト出荷のものですが、まだ誤動作する部分が含まれていたり使用期限があったりするので、それを承知で一番新しいものを使うか、正式リリースのものを使うか決めてください。ここでは正式リリースの n32e301p.exe というファイルをコピーすることにします。²¹

ttermp20.zip と n32e301p.exe の二つをコピーできたら Exit ボタンを押して終了します。

Teraterm の設定

Teraterm は WS_FTP の時と同様に解凍します。解凍できたら tt readmej.txt というファイルに説明書きがあるので目を通してください。(PC-98 シリーズの場合は Pc98keyb.cnf というファイルを keyboard.cnf という名前に変える、という記述があります。)

```
C:\Program Files\net>unzip -x ttermp20.zip
```

エクスプローラーから ttermpro.exe をダブルクリックして起動すると「Tera Term General setup」の画面が開きます。ここで図のように「TCP/IP」と「Japanese」を選択し、「OK」ボタンを押します。

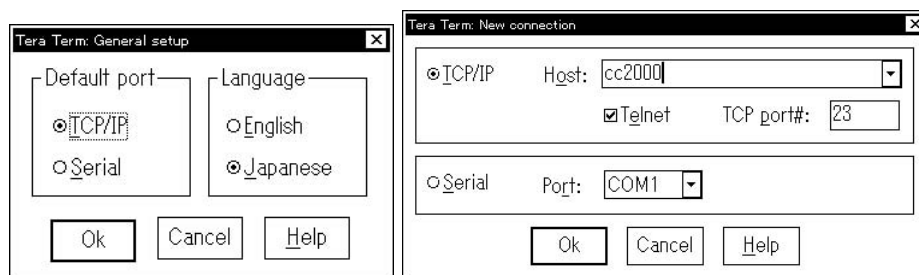
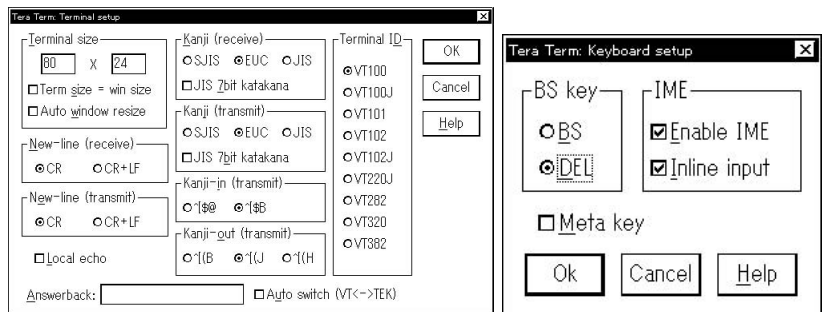


図 8.4 Tera Term 起動画面

New connection の Host で cc2000 と入力して OK ボタンを押すと cc2000 につながります。後の設定は「Setup」メニューから

Terminal	Kanji(receive transmit 両方) を EUC に変更。
Window	特に変更なし。Scroll buffer を必要なら増やす。
Font	画面サイズと相談しながら見やすいフォントを選択。
Keyboard	BS のチェックを DEL に変更。
Serial port	使用せず。(ターミナル接続はこちらを使います。)
TCP/IP	New connection 時に選択できるホストを登録できる。
general	最初の設定画面。間違えたならここで直す。
Save setup	上記設定を保存。teraterm.ini で保存すると起動時に読み込む。
Restore setup	Save setup で保存した情報を戻す。

²¹ このファイルはかなり大きなサイズ(約 6MB)です。28800bps のモデムでも 30 分近くかかるかもしれません。



以上で Teraterm の設定は終わりです。

Netscape の設定

エクスプローラーから n32e301p.exe をダブルクリックすると自動的にインストーラが起動するので画面に従って進めてください。「次へ」でどんどん進んで「セットアップを続ける」という選択をし、ライセンスに同意するとネットスケープが起動します。以下のようにオプションメニューから設定を変更してください。なお、括弧内は日本語版のメニュー名です。

メニュー項目	インデックス	変更内容
General Preferences (全般の設定)	Appearance(表示)	Home Page Location (ホームページのある場所) を http://www.kyoto-su.ac.jp/index-j.html にします。
	Language (言語)	選択肢から「Japanese[ja](日本語)」をダブルクリックして右の欄に表示させる。
Network Preferences (ネットワークの設定)	Proxies(プロクシ)	「Manual Proxy Configuration(手動)」にして、View(表示) ボタンを押す。出てきた欄で「HTTP Proxy(HTTP プロクシ)」の欄に www-proxy, 「Port(ポート)」 80 とする。また、「No Proxy for(プロクシなし)」の欄に kyoto-su.ac.jp とする。図 8.5 参照。
Document Encoding (文書の文字コードセット)		Japanese (Auto-detect)(日本語の自動判別) を選択します。
set default (オプションを保存)		設定を保存します。これをしないと次回もう一度同じ設定をしなければいけません。

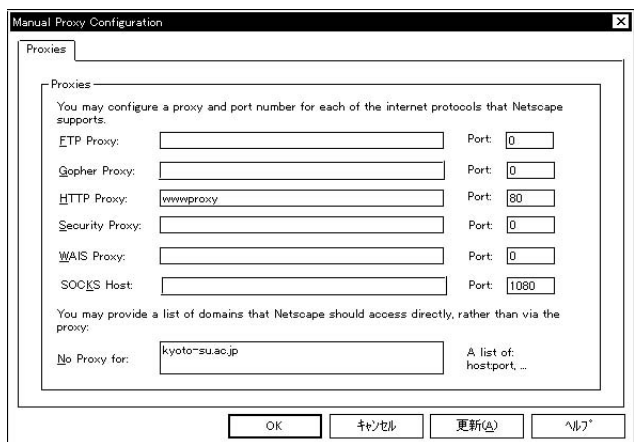


図 8.5 Netscape Proxy 設定

8.6 Windows3.1 編

以下に Windows3.1 が動作する機械でダイアルアップ IP 接続を行う例を示します。

8.6.1 用意する物

ハードウェア

PC/AT 互換機や PC-98	Windows3.1 が動作していること。
モデム	8.9.1 で紹介したモデムに接続可能であること。
モデムケーブル	(大抵の場合はそれぞれの機械用としてモデムを買うと付属しています。)

必要なソフトウェア

まずは接続のために。

Trumpet Winsock Ver. 2.1 Revision F(Ver. 2.0 Revision B でもほぼ同じです)

Trumpet Winsock は有償の製品 (シェアウェア) です。詳細は付属のドキュメントをお読みください。入手方法は学内の ccftp から取得したり、雑誌の付録 CD に含まれている物をご利用ください。

接続してネットワークサービスを利用するために。

Tera Term	Ver. 1.2 など最新の物を推奨。利用は無料。
WinFTP	FTP クライアント。最新の物を推奨。利用は無料。
Netscape	Ver. 2.0 など最新の物を推奨。教育、非営利団体の利用は無料。
WinBiff	電子メールクライアント。最新の物を推奨。利用は有料。
WinVN	電子掲示板クライアント。最新の物を推奨。利用は無料。

8.6.2 インストール

注意

Windows3.1 の動く機械は大きく 2 つの環境に分けられます。ハードディスクが A ドライブになるものと C ドライブになるものです。代表的な物では PC-98 が A ドライブ、PC/AT 互換機が C ドライブです。以後の説明ではハードディスクは C ドライブであるとして話を進めますので、ハードディスクは A ドライブだという方は C を A に読み替えてください。

まず、ソフトが圧縮されているので、それを解凍します²²。

Trumpet Winsock の解凍

良く知っている人へ

Trumpet Winsock を C:¥TRUMPET に解凍してください。

²² ソフトをぎゅっと小さくして置いておくことを圧縮と呼び、それを元に戻して使えるようにすることを解凍と呼びます。

上記の書き方ではわからない人へ

Trumpet Winsock は zip 形式で圧縮されています。zip 形式の解凍は色々方法がありますが、ここでは unzip(フリーウェア) を使った方法を紹介しします。このソフトは UNZ50P1.EXE という名前で ccftp の/pub/DOS/DiskTools から入手できます。PKUNZIP(シェアウェア) でも同様に解凍できます。

まず UNZ50P1.EXE、TWSK21F.ZIP を C:¥ にコピーします。そして、MS-DOS の画面に移ります。

```
C:¥>
```

と表示されていますね? もし

```
C:¥WINDOWS>
```

等となっていたら

```
C:¥WINDOWS>CD ¥
```

と入力して RETURN キーを押してください。

さて、UNZ50P1.EXE はこれ自身が圧縮されていますのでこれを解凍する必要があります。これは自己解凍型のファイルになっていますので、これを実行します。

```
C:¥>UNZ50P1.EXE
```

これで C:¥に UNZIP.EXE というファイルが出来上がります。

続いて Trumpet Winsock を入れる場所を作成し、そこに移動します。

```
C:¥>MD TRUMPET C:¥>CD TRUMPET
```

そして以下のように入力して RETURN キーを押してください。

```
C:¥TRUMPET>¥UNZIP ¥TWSK21F.ZIP
```

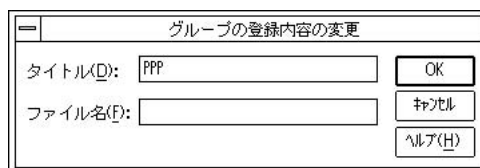
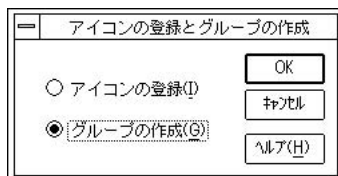
すると色々なメッセージが数十行表示されて解凍が終了します。

```
C:¥TRUMPET >DIR
```

として 10 数個のファイルができていることを確認してください。

Windows3.1 への登録

MS-DOS での作業はここまでです。Windows3.1 を起動してください。まずプログラムマネージャにグループを登録しましょう。プログラムマネージャの「アイコン (F)」を選んで、でてくるメニューの中から「登録とグループの作成 (N)...」を選択します。すると「アイコンの登録」、「グループの登録」の2つのどちらかを選択する画面になりますので、グループの作成の方を選んで OK のボタンを押します。そうすると、グループの登録内容の変更というタイトルの画面が表示されますので、タイトルに「PPP」と入力して OK のボタンを押してください。うまくできると PPP というタイトルのグループが作成されます。

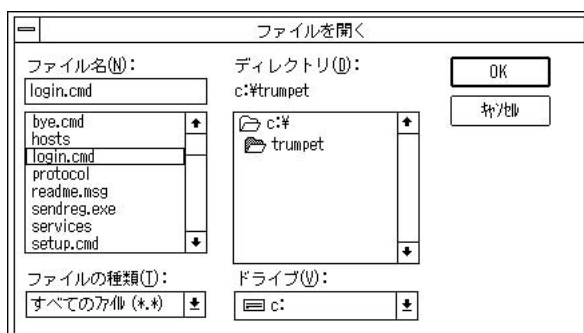


続けてアイコンを登録しましょう。再び「アイコン (F)」の「登録とグループの作成 (N)...」を選んで、今度は「アイコンの登録」を選び、OK ボタンを押します。するとアイコンの登録内容の変更というタイトルの画面になりますので、タイトルの欄に Winsock、コマンドラインの欄に C:¥TRUMPET¥TCPMAN.EXE と入力して OK ボタンを押してください。どうですか？トランペットの絵が描かれたアイコンが登録されましたね。



メモ帳で編集

さて、これを起動する前にまず前準備としてメモ帳を起動して、「ファイル」メニューの「開く」で C:¥TRUMPET¥LOGIN.COMD を読み込んでください。直接ファイル名の欄に C:¥TRUMPET¥LOGIN.COMD と書いてもいいですし、ファイルの種類をすべてのファイル、にしておいてマウスで選択してもいいですね。



開けたら以下の変更をします。

```

:
#
# send phone number
#
%n = 0
repeat
    %n = %n + 1
    if %n > %attempts
        message "Too many dial attempts"
        abort
    end
status Dialling $number...(attempt %n)
output "atdt"$number¥13
%busy = [input %busytimeout BUSY]

```

```

    if %busy
        status "The line is busy...pausing for a while"
        sleep %busywait
        %ok = 0
    else
        %ok = [input %connecttimeout CONNECT]
    end
end
until %ok
input 10 ¥n
#
# wait till it's safe to send because some modem's hang up
# if you transmit during the connection phase
#
wait %onlinetimeout dcd
status Connected. Now logging in as $username...
#
# now prod the terminal server
#
#output ¥13
#
# wait for the username prompt
#
input %logintimeout $userprompt
output $username¥13
#
# and the password
#
input %logintimeout $passprompt
output $password¥13
:

```

Ver.2.1 ではこのようになっていますが 2.0 でもほぼ同じです。このうち

```
output "atdt"$number¥13
```

という行がありますね。ここであなたの家の電話回線の種類が問題になります。ダイヤル回線とプッシュ回線です。見かけはプッシュホンでも実はダイヤル回線だということもありますので注意が必要です。見分ける方法は、ダイヤルするときにピポパと電子音がするのがプッシュ回線、カタカタとノイズがダイヤルの回る長さ分（1が短くて0が長い）鳴るのがダイヤル回線です。

まず、プッシュ回線（別名トーン回線）の人はそのままいいのですが、ダイヤル回線（別名パルス回線）の人は先ほどの行の atdt という文字列を atdp（t と p が違うだけ）に変える必要があります。

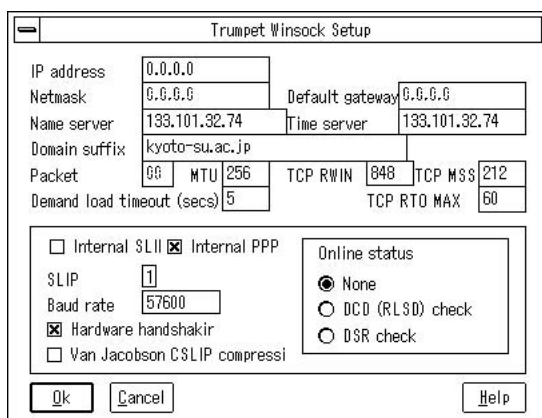
そして次はダイヤル回線の人でもプッシュ回線の人でも、

```
# now prod the terminal server
```

という行がありますので、ここから下の行を全て消してください。できたら保存して終了します。

Trumpet Winsock の設定

Winsock のアイコンをダブルクリックして起動してください。すると Network Configuration というタイトルの画面が表示されます。以下の図のように変更してください。

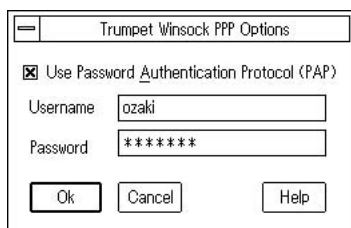


このうち、Baud Rate というのは、各自が使用しているモデムとパソコンの間で安定して通信できる速度を選んでください。300,1200,2400,4800,9600,14400,19200,28800,38400,57600,115200²³ のうちのいずれかの数になります。大きいものほど速く通信できますが機械の限界を越えて設定すると繋がりません。注意して下さい。最初は 9600 あたりで試して繋がったら大きい数字に変えていくと良いでしょう。

変更がすんだら OK ボタンを押してください。すると「この設定は Winsock を再起動したら有効になります」というメッセージを出すので OK ボタンを押します。いわれたとおり、Winsock を一旦終了させ、起動し直しましょう。

さて、Trumpet Winsock の画面が表示されていますね。File メニューから Setup を選んでみてください。先ほどの Network Configuration の画面が現れます。もし将来、変更したい点があればここで変更してください。画面の出し方が確認できたら Cancel ボタンで戻りましょう。

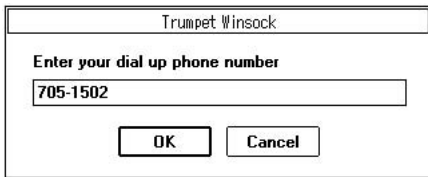
今度は、同じく File メニューから PPP options... を選びます。すると Trumpet Winsock PPP Options というタイトルの画面が表示されます。この画面の「Use Password Authentication Protocol」というチェックボックスをチェック (×がついた状態) にして、「Username」「Password」の欄にあなたがいつも使っているユーザ名とパスワードを入力してください。パスワードの欄は文字を入力しても、*(アスタリスク)が表示されるだけですが、パソコンはきちんとキーボードから入力された文字を認識しますので、そのまま正しくパスワードを入力してください。入力できたら OK ボタンを押して元の画面に戻ります。



次は Dialler メニューから Login を選んでください。すると順に電話番号、ユーザ名、パスワードを聞いてきますので、電話番号は 705-1502 もしくは 0 発信の電話をお使いの場合は 0,705-1502 です²⁴。

²³ 将来もっと速いものが現れるかもしれませんが。

²⁴ 勿論、市外でしたら 075 が必要です。



ユーザ名はいつも自分が使っているもの、パスワードは今回の説明での接続方法では使用しませんので何も入力せずに単にリターンキーを押すだけで結構です。

ここまで正しくできたなら設定は全ておしまいです。きちんとモデムが接続されていれば、以下のような Window が表示されて、モデムからダイヤル音が聞こえてきます。



この Window は次のようなメッセージを表示します。

initializing modem... モデムを初期化しています。

Dialling 075-705-1502...(attempt 1) 電話を掛けています。

Connected. Now logging in as ozaki... 接続しました。

Trumpet Winsock の方の Window には

```
Executing script c:\trumpet\login.cmd.  
PPP DISABLED  
atz  
OK  
at\&c1\&k3  
OK  
atdp705-1502  
CONNECT 28800/LAPM/V.42bis  
  
Script completed  
PPP ENABLED  
My IP address = 133.101.36.144
```

このように表示されます。

この状態で大学と PPP 接続できています。Teraterm や Netscape 等を起動してネットワーク接続がうまくいっているか確認してください。

8.6.3 接続を切る

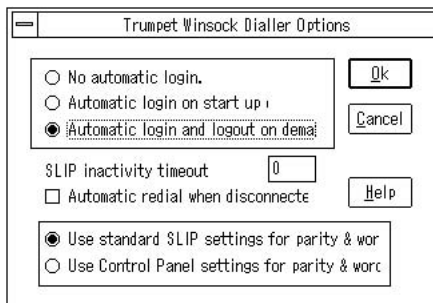
各ネットワークアプリケーションが終了しているのを確認してください。そして Dialler メニューから Bye を選択すると接続時に表示された Window が現れ、Disconnecting modem... と表示が出た後しばらくすれば接続が切断されます。Trumpet Winsock の Window には以下のように表示されます。

```
Executing script c:%trumpet%bye.cmd.  
PPP DISABLED
```

OK
ath0
OK

8.6.4 自動起動

Dialler メニューの Options を選ぶと次のような画面になります。



この画面で「No Automatic login」にチェックが入っていますが、これを Automatic にして、Trumpet Winsock のディレクトリにパスを設定しておくで PPP アプリケーションを起動したときに Trumpet Winsock が起動していなければ自動的に起動するようになります²⁵。

8.6.5 ネットワークソフトウェアの入手およびインストール

あなたの自宅からダイヤルアップ IP 接続の環境をより便利なものにするためにあると便利なアプリケーションのインストールを紹介します。以下にそって作業するか、または雑誌で似たような作業の紹介とソフトウェアが入った CD-ROM が付いているものがあるのでそれを利用するのもいいでしょう。

インストールするソフトは以下のとおりです。これでわかる方は以下を読み飛ばして各ソフトウェアの設定に進んでください。なお、これらのソフトウェアはバージョンアップされることが予想されます。新しいものはなんらかの誤動作をしていたものが直っていると思われるので新しいものを使うことをお勧めします。その場合似た名前で、数字部分が大きな数字になったファイル名になっているものを選んでください。

種類	ソフト名	取得先 (平成 9 年 3 月 26 日現在)
FTP	WS_FTP	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/Windows/NetTools/ws_ftp.zip
Telnet	Teraterm	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/Windows/NetTools/teraterm/ttermv13.zip
WWW	Netscape	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/Windows/NetTools/netscape/n16e301p.exe
Archiver	unzip	ftp://ftp.kyoto-su.ac.jp/pub/DOS/DiskTools/unz50p1.exe

さて、上記の表記で判る方は好きな方法でファイルを取得してください。判らない方は、まずはそのソフトを入手することから説明します。手順は以下のとおり。

- 大学にフロッピーディスクを持ってきて、必要なファイル (FTP ソフトの WS_FTP, 解凍ソフトの unzip, Telnet ソフトの Teraterm) を取得する。

²⁵ Trumpet Winsock をパスに含める必要があります。

- WS_FTP を解凍して使えるようにする。
- WS_FTP を利用して WWW ブラウザソフトの Netscape を手に入れる。

WS_FTP と unzip、Teraterm の取得

Windows95 のようにネットワークを利用してファイルを取得できればいいのですが、残念ながら Windows3.1 では標準で FTP 機能を備えていないので、まずは足を使いましょう。(^-^);

5.8 章を参照して cftp に anonymous ftp をして、先に挙げた下記のファイルをフロッピーディスクにコピーして家に持ち帰ります。

```
/pub/Windows/NetTools/ws_ftp.zip
/pub/Windows/NetTools/teraterm/ttermv13.zip
/pub/DOS/DiskTools/unz50p1.exe
```

/pub/Windows/NetTools/netscape/n16e301p.exe はサイズが大きく、フロッピーディスクに入りきらないため、後で WS_FTP を使ってネットワーク越しに取得することにします。

持ち帰ったソフトをハードディスクにコピーします。説明の都合上 C:\net というディレクトリにコピーしたとして話を進めます。コピーの仕方が分からない人は MS-DOS プロンプトにして以下のようにすると恐らくできます²⁶ が、後々のためマニュアルを見てコマンドの意味を理解して下さい。なお、以下の説明は PC-AT 互換機 (ハードディスクが C ドライブでフロッピーディスクが A ドライブ) を対象にしています。その他の環境の方は A ドライブと C ドライブをそれぞれ読み替えてください。また、\ (バックスペース) は ¥ と同じものです。¥ が無いコンピュータは ¥ を使ってください。

```
C:\WINDOWS>CD \           ディレクトリ移動。
C:\>\MD NET              ディレクトリ作成。
C:\>\CD NET              ディレクトリ移動。
C:\net>COPY A:\*.*       フロッピーディスクのファイルをコピー。
C:\net>dir               確認。ws_ftp.zip, ttermv13.zip, unz50p1.exe のファイルが
見えれば OK。
```

WS_FTP の解凍

予備知識 - 圧縮と解凍 -

コンピュータは非常にたくさんのファイルを扱っていることは既におわかりのことと思います。その一つ一つは友人からきた電子メールかもしれませんし、ワープロソフトが使うシステムのファイルかもしれません。さて、このようなファイルは得てしてどんどん増え続けるものです。そうすると置き場所がなくなって困ってしまいますね。どうしましょうか?ここで活躍するのが圧縮です。

ふとんの真空パックを想像してください。大きなサイズのふとんがぎゅっと圧縮されて小さくなりますね。すると、そのままの大きさでは 5 枚しか入らない押し入れに 10 枚押し込むことができるかもしれません。欠点はそのまま使うことができず、空気を入れて元の大きさに戻さないと使えないことです。しかしその欠点を理解した上で非常に便利に利用することができますね。

²⁶ もちろんファイルマネージャを使ってもいいです。

このようなことがコンピュータではファイルに対して実行できるのです。圧縮して小さくして²⁷ 保存しておき、必要なときに元に戻す作業、解凍をして使うのです。さて、これだけでは芸がありません。圧縮とセットで使うことで格段に整理整頓が便利にできる機能があります。いくつかのファイルをまとめて一つにしてしまう機能です。これをコンピュータの世界ではアーカイブ (archives) と呼んでいます。アーカイブしたファイルを圧縮すれば、あるまとまったデータを片づけておくことができますよね。普通、圧縮・解凍をするソフトウェアはアーカイブ機能を備えています。そのため圧縮・解凍ソフトウェアをアーカイバと呼ぶこともあります。

この機能は個人のファイルの整理にももちろん利用できますが、それよりも利用価値が高いのが、さまざまなソフトウェアを提供する場合です。ソフトウェアをアーカイブ・圧縮された一つのファイルの形にしておけば相手に過不足なくすべてのファイルを渡すことができますし、手軽に、通信を通じてなら短時間で、フロッピーディスクなら少ない枚数で渡すことができます。世の中にはこのような形でたくさんのソフトウェアが提供されています。

さて、ws_ftp.zip というファイルを取得しましたが、このファイルは WS_FTP を圧縮したファイルなので、使えるように解凍しなくてはなりません。拡張子からこのファイルは ZIP 形式で圧縮されていることがわかりますので、ZIP 形式の解凍ソフトが必要になります。これが一緒に取得した unzip です。実は unzip も圧縮された状態になっています。あれ? ではどうやって解凍すればいいのでしょうか? 安心してください。これは自己解凍型と呼ばれる種類の圧縮方法で、unz50p1.exe を実行すれば自動的に unzip.exe が解凍されます。ではやってみましょう。続けて WS_FTP の解凍も行います。unzip -x ws_ftp.zip です。

```
C:\net>unz50p1.exe
```

```
C:\net>unzip -x ws_ftp.zip
```

Tera Term と Netscape の取得

ここまでできたら、Windows3.1 のファイルマネージャを起動しましょう。Program Files の net というディレクトリを見てください。ws_ftp.exe のファイルが増えているはずですが、次はこのソフトを使って、(必要なら) WWW ブラウザの Netscape を入手しましょう。エクスプローラーから ws_ftp.exe というファイルをダブルクリックして WS_FTP を起動してください。

²⁷ 例えば、「aaaaabbbcccc」というデータを a が 5 個、b が 3 個、c が 4 個とみて「a5b3c4」とするのです。

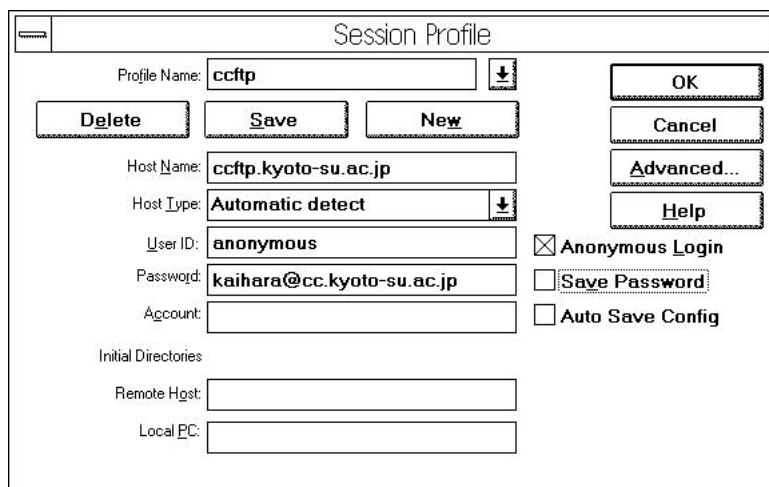


図 8.6 WS_FTP 起動画面

```
Profile Name: ccftp
Host Name   : ccftp.kyoto-su.ac.jp
User ID     : anonymous
Password    : あなたのメールアドレス
```

とした後 OK ボタンを押してください。出てきた画面は左側が自分のパソコン、右側がホストコンピュータのディスクをあらわしています。また、上段がディレクトリ名、下段がそのディレクトリに含まれるファイル名を表示する欄です。ディレクトリ名をクリックしてパソコン側 (左側) を \net に、ホストコンピュータ側 (右側) を /pub/Windowdown/NetTools/netscape にします。ディレクトリ名をダブルクリックしてそのディレクトリに移動し、戻りたい場合「..」というディレクトリ名を指定する事で一つ上のディレクトリに移動することができます。

移動すると ホスト側下段に n16e301p.exe というファイルが見えるはずですが、画面下の「ASCII」「Binary」「Auto」のボタンが「Binary」にある事を確認してください。違うところにチェックがあったら Binary にセットしてください。準備ができたなら n16e301p.exe のファイル名をクリックして反転させておき、「<-」ボタンを押すと右から左、つまり UNIX からパソコン側にファイルをコピーします。これで Netscape を入手できます。

ネットスケープはかなり早いペースで新しくなります。最も新しいものは バージョンというテスト出荷のものですが、まだ誤動作する部分が含まれていたり使用期限があったりするので、それを承知で一番新しいものを使うか、正式リリースのものを使うか決めてください。ここでは正式リリースの n16e301p.exe というファイルをコピーすることにしました。²⁸

n32e301p.exe をコピーできたら Exit ボタンを押して終了します。

Teraterm の設定

Teraterm は WS_FTP の時と同様に解凍します。解凍できたら tt readmej.txt というファイルに説明書きがあるので目を通してください。(PC-98 シリーズの場合は Pc98keyb.cnf というファイルを keyboard.cnf

²⁸ このファイルはかなり大きなサイズ (約 5.6MB) です。28800bps のモデムでも 30 分近くかかるかもしれません。

という名前に変える、という記述があります。)

```
C:\net>unzip -x ttermv13.zip
```

ファイルマネージャから teraterm.exe をダブルクリックして起動すると「Tera Term General setup」の画面が開きます。ここで図のように「TCP/IP」と「Japanese」を選択し、「OK」ボタンを押します。

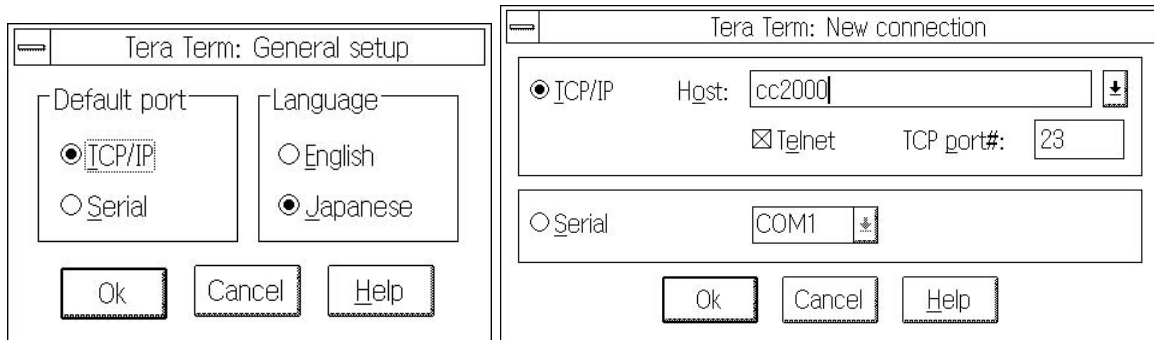
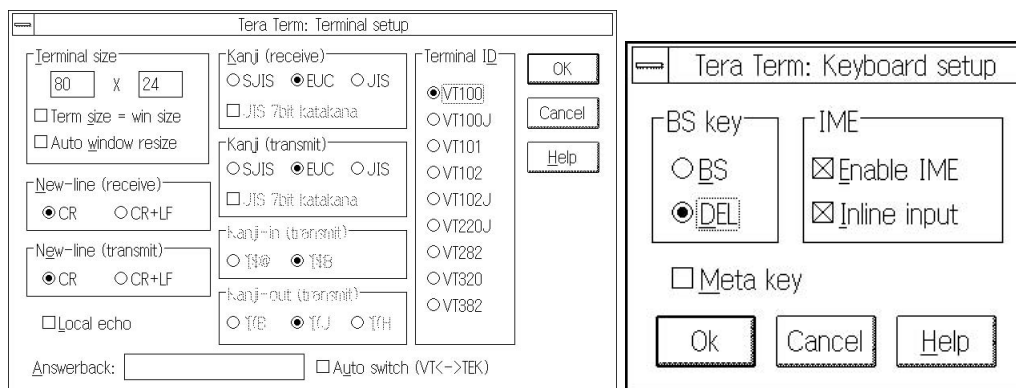


図 8.7 Tera Term 起動画面

New connection の Host で cc2000 と入力して OK ボタンを押すと cc2000 につながります。
後の設定は「Setup」メニューから

Terminal	Kanji(receive transmit 両方) を EUC に変更。
Window	特に変更なし。Scroll buffer を必要なら増やす。
Font	画面サイズと相談しながら見やすいフォントを選択。
Keyboard	BS のチェックを DEL に変更。
Serial port	使用せず。(ターミナル接続はこちらを使います。)
TCP/IP	New connection 時に選択できるホストを登録できる。
general	最初の設定画面。間違えたならここで直す。
Save setup	上記設定を保存。teraterm.ini で保存すると起動時に読み込む。
Restore setup	Save setup で保存した情報を戻す。



以上で Teraterm の設定は終わりです。

Netscape の設定

ファイルマネージャから n16e301p.exe をダブルクリックすると自動的にインストーラが起動するので画面に従って進めてください。「次へ」でどんどん進んで「セットアップを続ける」という選択をし、ライセンスに同意するとネットスケープが起動します。以下のようにオプションメニューから設定を変更してください。なお、括弧内は日本語版のメニュー名です。

メニュー項目	インデックス	変更内容
General Preferences (全般の設定)	Appearance(表示)	Home Page Location (ホームページのある場所) を http://www.kyoto-su.ac.jp/index-j.html にします。
	Language (言語)	選択肢から「Japanese[ja](日本語)」をダブルクリックして右の欄に表示させる。
Network Preferences (ネットワークの設定)	Proxies(プロキシ)	「Manual Proxy Configuration(手動)」にして、View(表示) ボタンを押す。出てきた欄で「HTTP Proxy(HTTP プロキシ)」の欄に www-proxy, 「Port(ポート)」 80 とする。また、「No Proxy for(プロキシなし)」の欄に kyoto-su.ac.jp とする。図 8.8 参照。
Document Encoding (文書の文字コードセット)		Japanese (Auto-detect)(日本語の自動判別) を選択します。
set default (オプションを保存)		設定を保存します。これをしないと次回もう一度同じ設定をしなければいけません。

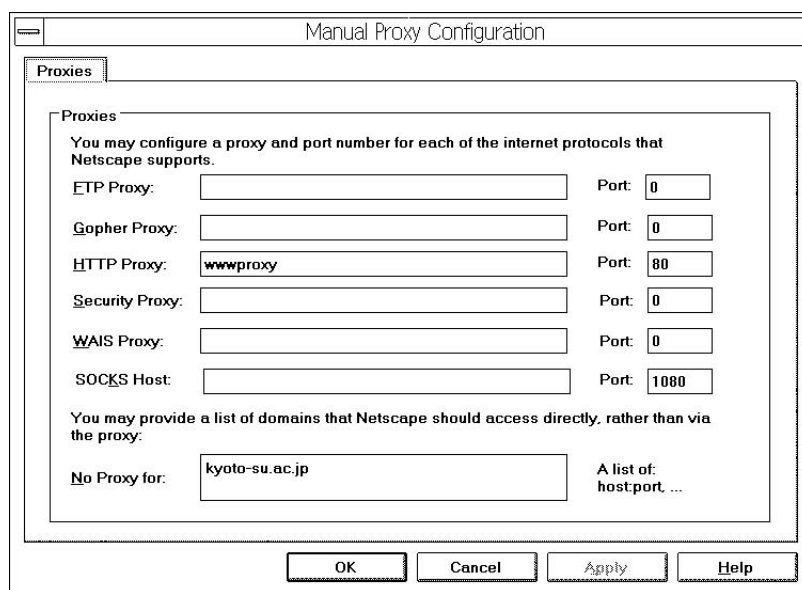


図 8.8 Netscape Proxy 設定

8.7 Macintosh 編

以下に Macintosh を用いてダイヤルアップ IP 接続を行う例を示します。OpenTransport 実装版の漢字 Talk を利用する場合については設定方法が一部異なりますのでご注意ください。なお、いくつかの機種については、本稿執筆時点で、PPP 接続上のトラブルが報告されています。

<ネットワークソフトの選択について>

漢字 Talk7.5.3～7.5.5 については、ネットワークソフトとして、Apple 社の新しい標準ネットワークアーキテクチャーである OpenTransport を利用するか、旧ネットワークソフト (MacTCP) を利用するか選択することができます (漢字 Talk 標準添付の「ネットワークソフト選択」というソフトウェアで切り替えができます。このソフトウェアはデフォルト状態で「Apple エクストラ」フォルダ内に格納されています)。この2つのうちどちらを利用するかユーザーが判断するわけですが、現在利用している環境 (ソフトウェア、ハードウェア) に影響が出ない (またはソフトウェアのバージョンアップなどで回避できる) と判断できる場合は OpenTransport を選択されることをお勧めします。ただし、OpenTransport はまだ新しい技術ですので、比較的不安定な部分や、未対応ソフトウェアも存在します。よって現在の環境の安定性を最重要視されるかたは、新技術がある程度安定するまで、旧ネットワークソフト (MacTCP) を利用するというのも一方法です。

8.7.1 用意するもの

ハードウェア

- Macintosh 漢字 Talk6.0.7 以降もしくは漢字 Talk7 以降が動作していること。
- モデム 8.9.1 で紹介したモデムに接続可能であること。
- モデムケーブル (Macintosh 用としてモデムを購入すると付属している場合もある。)

必要なソフトウェア

まずは接続のために。

- MacTCP version 2.0.6 以上が推奨。漢字 Talk7.5 以降には附属。
- MacPPP 漢字 Talk6.0.7 では version 2.0.1 を推奨。
漢字 Talk7～7.5.1 では version 2.2.0 以上を推奨。
漢字 Talk7.5.2 以降では version 2.5 等最新のものを推奨。
(注意!) 一部の機種では、特定のバージョンの MacPPP がうまく動作しない場合があります。このような場合は MacPPP のバージョンを変えて試してみたり、FreePPP <バージョン 1.05 を推奨> 等他の PPP 接続ソフトを試してみてください。それでもだめならメーカーのユーザーサポートセンターにご相談ください。
- OT/PPP 漢字 Talk7.6 では OpenTransport が標準になり、さらに PPP 接続を行う機能が標準実装されました。詳しい設定方法、利用方法は本体付属のマニュアルを参照してください。なお、設定時に必要な情報については、以下の説明を参考としてください。

MacTCP は有償の製品であることに注意が必要です。漢字 Talk7.5 の利用者はシステムの CD-ROM に MacTCP が含まれているので入手は簡単で利用権もありますが、古い漢字 Talk7.1 などのシステムの利用

者はそうではありません。MacTCP 単独でアップルから販売されてもいますが、Internet 関係の雑誌の附録 CD-ROM などに含まれていることも多いので、古いシステムで動作させているユーザはそのような方法で入手できると安上がりでしょう。

MacPPP、FreePPP はネットワーク上で流通しているので入手は容易です。学内であれば ccafs という名前の公共アクセス可能な AppleShare File Server などから取得できます。Internet 関係の雑誌の附録 CD-ROM に含まれていることも多いでしょう。

接続してネットワークサービスを利用するために。

NCSATelnet	version2.7J3 など最新のものを推奨。無料。
Fetch	ftp クライアント。3.0.1 など最新のものを推奨。教育、非営利団体の利用は無料。
NetscapeNavigator	version2.02[ja] 以降のものを推奨。特に最後に [ja] と書かれている日本語版を推奨。教育、非営利団体の利用は無料。
Eudora	電子メールクライアント。version1.3.8.5J など最新のものを推奨。無料のものと商品の両方がある。
NewsAgent	電子掲示板クライアント。最新のものを推奨。無料。

これらはネットワーク経由で大抵取得できます。他にも Gopher クライアントである TurboGopher など様々なアプリケーションが利用できますが、ここではこれ以上挙げません。


8.7.2 インストール

注意


漢字 Talk6.0.7 では MacPPP の為にシステムフォルダの名前を「System Folder」にしなくてはなりません。「システムフォルダ」などの名前になっている人は変更してください。どうしてもシステムフォルダの名前を変更したくない人は ResEdit など Config PPPなどを修正すればインストール可能です。しかしその場合のインストールは困難なので筆者はこれを推奨しません。

MacTCP または TCP/IP のインストール

- 漢字 Talk6.07 の場合 (MacTCP 利用)

MacTCP アイコン () をシステムフォルダの中にコピーします。

- 漢字 Talk7 以降の場合 (MacTCP 利用)

MacTCP アイコン () をシステムフォルダにドラッグ&ドロップすれば「コントロールパネル以下に入れるか?」と聞いてくるので「はい」と答えます。要はコントロールパネルフォルダ以下にコピーすれば構いません。また、漢字 Talk7.5 以降の場合は本体付属の CD-ROM からインストールすることもできます。詳しくは本体付属のマニュアルを参照してください。

- OpenTransport を利用する場合



MacTCP ではなく TCP/IP をインストールすることになります。まだインストールされていない場合は、本体付属の CD-ROM からインストールしてください。詳しくは本体付属のマニュアルを参照してください。

MacPPP のインストール

- 漢字 Talk6.07 の場合

Config PPP アイコン () と PPP アイコン () をシステムフォルダの中にコピーします。

- 漢字 Talk7 以降の場合

Config PPP アイコン () と PPP アイコン () をシステムフォルダの中にドラッグ&ドロップすれば「必要なフォルダ以下に入れるか?」と聞いてくるので「はい」と答える。要はコントロールパネルフォルダ以下に、ConfigPPP を、機能拡張フォルダに PPP をコピーすれば構いません。

MacTCP または TCP/IP の設定

旧ネットワークソフト (MacTCP) を利用する場合は、コントロールパネルで MacTCP を選択すれば以下のような表示になります。

OpenTransport を利用する場合は、コントロールパネルで TCP/IP を選択すれば図 8.10 の下図になります。もし同じような画面にならない場合は、「TCP/IP」コントロールパネルが選択されている状態で、メニューバーの「編集」から「利用者モード」を選択し、「詳しい情報も指定」をクリックしてチェックをつけた後、ok ボタンをクリックしてください。これで表示内容が変更されているはずですが。

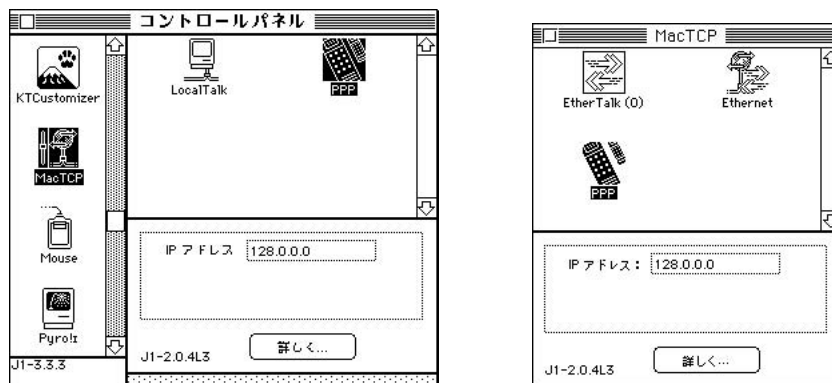



図 8.9 MacTCP で PPP を選択する (左:漢字 Talk6.0.7 右:漢字 Talk7 以降)

ここで旧ネットワークソフト (MacTCP) を利用する場合は、PPP アイコン () を選択します。更に詳細を設定するために「詳しく...」ボタンをクリックすると以下のような表示になります。

OpenTransport を利用する場合は、「経由先:」と書いてある右横のボックスを押し、MacPPP を選択します。次に各項目を設定しますが、図 8.10 を参照して同じ内容にしてください。

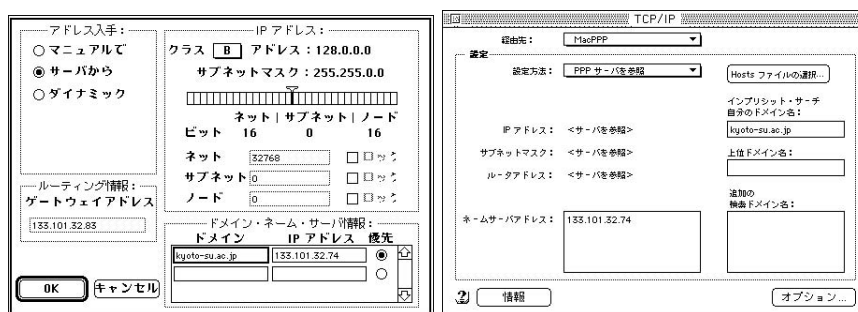


図 8.10 上: MacTCP 詳細設定、下: TCP/IP の設定 (OpenTransport 利用)

各部の情報は上記と全く同じにするのが良いでしょう。ただし、IP アドレス情報のネット、サブネット、ノード情報は設定する必要はありません。

旧ネットワークソフトウェア (MacTCP) を利用している場合、設定が终れば OK ボタンをクリックします。そして先に「詳細...」ボタンを押した MacTCP ウィンドウを閉じます。閉じた際に「MacTCP の設定を有効にしたければリスタートさせよ」という意味のメッセージが現れるかも知れませんが、その際は Macintosh をリスタートさせてください。

OpenTransport を利用している場合は、TCP/IP コントロールパネルを閉じてください。すると設定を保存するかどうかを問い合わせてきますので”保存”を選択してください。

MacPPP の設定

コントロールパネルで Config PPP を選択すれば以下のような表示になります。なお、MacPPP のバージョンによっては、ウィンドウ内の表示が英語で行われる場合がありますが、同じように設定していけば問題ありません。

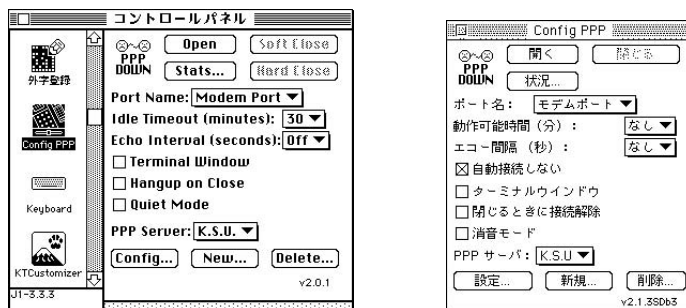


図 8.11 MacPPP 設定 (左:漢字 Talk6.0.7 右:漢字 Talk7 以降)

各項目を上記の例に合わせて設定してください。

- ポート名はモデムポート (Modem Port) プリンタポート (Printer Port) のいずれかモデムが接続されている方を選んでください。MacPPP2.5 の場合、最初は「Modem Port」と表示されていますが、一旦メニュー選択をすると「モデムポート」などとカナ表示に変化します。
- PowerBook などの一部機種では「モデム / プリンタポート」などと表示される場合があります。これはモデムポートとプリンタポートを一つのポートで兼用している場合に表示されるのですが、この場合はアップルメニュー以下のセレクトクを利用して AppleTalk を「不使用」に設定しておく必要があります。
- 動作可能時間はどれだけの時間回線を使わなかったら自動的に切断するかを分で指定します。ただし、技術的な理由からこの設定は行わないことをお勧めします。

PPP Server をまだ一つも登録していませんから、ここで京都産業大学のダイヤルアップ IP サーバを登録します。新規... ボタンをクリックすれば以下のような表示になります。

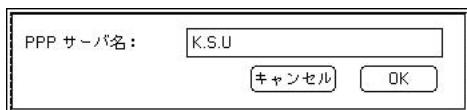


図 8.12 サーバ名の登録

ここで「K.S.U」などとサーバ名をタイプして OK ボタンをクリックします。すると「Config PPP」コントロールパネルの「PPP サーバ:」右横にいま登録したサーバ名が表示されているはずです。この状態で、設定... ボタンをクリックすると、以下のような表示になるでしょう。

図 8.13 サーバ詳細設定

各項目の情報は上記と全く同じにすれば良いでしょう。ただし、以下の項目は各自の状況によって変化することに注意してください。

- ポート速度については各自が利用しているモデムと Macintosh の間で安定して通信できる最高の速度にするのが良い。単位は bps。
- トーン か パルス かは各自の電話の契約に依存することに注意。黒電話などダイヤル式の電話機を使っていればパルスダイヤル。プッシュボタン式の電話機を使っていて、電話を掛けるときに番号のボタンを押したら「ピッポッパッ」と音がすればまず間違い無くトーンダイヤル。それ以外の条件の場合は良く確認すべき。
- 電話番号については市外局番が必要になったり、局内交換機からゼロ発信するためのゼロが一つ余計に必要になったりすることに注意。

更に認証情報の設定をします。認証... ボタンをクリックすると以下のような表示になります。

図 8.14 ユーザ名とパスワードの登録

上記のように cc 環境でのあなたのユーザ名、パスワードを設定して OK ボタンをクリックしてください。これで MacPPP の設定は終了です。接続用スクリプト、LCP オプション、IPCP オプションについては設定の必要はありません。

8.7.3 使い方

接続する

コントロールパネルで Config PPP を選択すれば以下のような表示になります。

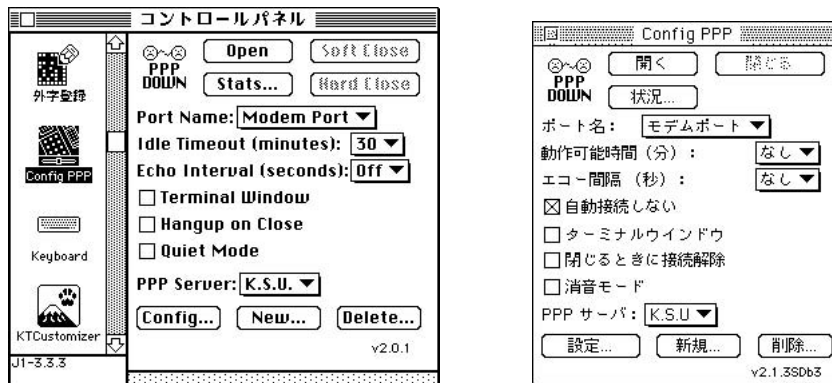


図 8.15 MacPPP (左:漢字 Talk6、右:漢字 Talk7 以降)

ここで PPP サーバとして先程登録した「K.S.U」などが選択されていることを確認してください。それが済めば「開く」ボタンをクリックします。

(注意!)この段階で「開く」ボタンが淡色表示されており、クリックしても反転表示されない場合は、MacTCP または Opentransport の設定を再確認してください。もしくは作業途中で、画面に「設定を有効にするため再起動してほしい」旨メッセージがでていたが、まだ再起動していないということはないでしょうか。

モデムが正しく電話回線に接続されていれば、ここで以下のようなウィンドウが表示され電話のダイヤル音が聞こえてくるでしょう。

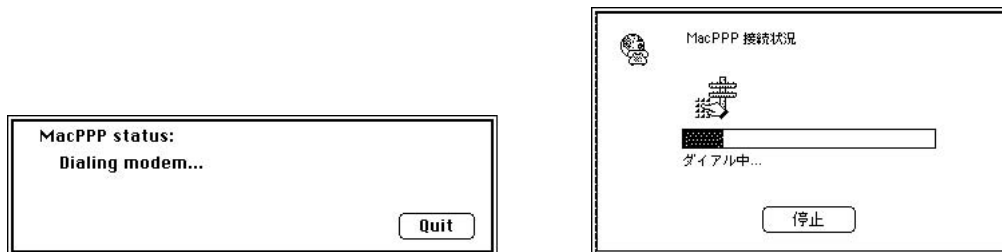


図 8.16 ダイヤル中の表示 (左:漢字 Talk6、右:漢字 Talk7 以降)

たとえば上図右側のウィンドウの表示は以下のように変遷します。

モデムの検索中...	モデムが接続されているかチェックしています。
ダイヤル中...	電話を掛けています。
接続に成功しました...	モデムの接続に成功しました。
ログオン状態...	ユーザ名、パスワードを与えています。
成功...	ネットワーク接続に成功しました。

そしてネットワーク接続が完了すると、このウィンドウは自動的に閉じます（ここまでにおよそ数十秒を要します）。これで PPP 接続は済みました。なお、古いバージョンの MacPPP を利用している場合は、以下のような確認の表示が出るかもしれませんが、OK ボタンをクリックしてください。



図 8.17 接続成功の表示

後は NCSA Telnet や NetscapeNavigator など起動してネットワーク接続がうまく行っていることを確認してください。Config PPP コントロール・パネルのウィンドウは閉じて構いません。因みにこの時、コントロールパネルのウィンドウの左上のアイコンは以下のように変わっています。



図 8.18 接続成功時のアイコン

接続を切る

Telnet や Netscape など、ネットワークアプリケーションが終了していることを確認してください。全て終了していることを確認後、コントロールパネルで Config PPP を選択すれば接続成功時と同様の表示になります。

ここで「閉じる」ボタンをクリックします。しばらくすると電話回線が切れます。これで完了です。因みにこの時、コントロールパネルのウィンドウの左上のアイコンは以下のように変わっています。



図 8.19 切断成功時のアイコン

8.8 ターミナルサーバ接続の設定と利用法

ここでは京都産業大学の計算機センターが用意しているターミナルサーバ、DecServer700の利用法を説明します。

8.8.1 準備

既に電話回線やモデムの準備が済んでいるものとして、次に通信のためのソフトウェアを入手する必要があります。

使用可能なソフトウェア

通信ソフトウェアについてはVT100エミュレーションの出来るものがが必要です。市販のもの、フリーソフトウェアなどと呼ばれる無料で配布されているものなど幾らかありますのでパソコンに合わせて用意して下さい。筆者が動作確認したものは以下のソフトウェアです。

Macintosh NinjaTerm (使用は無料)

DOS(PC-98,PC-AT 互換機,FMR) HTERM (使用は無料)

Windows3.1 ターミナル (Windows3.1 に付属) Tera Term (使用は無料)

Windows95 ハイパーターミナル (Windows95 に付属) Tera Term (使用は無料)

入手方法

少し慣れた人は、以下の様にして入手することが出来るでしょう。

- 情報処理教室にて本学のFTPサーバ ccftp に接続し、必要なソフトウェアをフロッピーディスクにコピーして持ち帰る。
- 既に利用している人にコピーしてもらおう。ただしウィルスには十分に注意を払ってください。
- 書店で売っているフリーウェアがたくさん収録されているCD-ROMの中で、必要なソフトウェアが収録されているものを探して購入する。

上記の方法ができない人は、計算機センターの相談窓口に来て下さい。

設定

使用する通信ソフトウェアの設定を以下のようにして下さい。

なお、項目名は通信ソフトウェアによって異なります。

項目	値
データビット長	8bit
パリティ・チェック	なし
ストップ・ビット	1bit
フロー制御	ハードウェア (RS/CS)
漢字コード	EUC
通信速度	38400bps (可能な限り高速を推奨)

ターミナルサーバ用の電話番号は以下の通りです。

電話番号 (内線)	最大接続速度	回線数
075-705-1501 (2591)	14.4Kbps	4

cc 環境の中で telnet を受けてサービスを提供しているコンピュータは以下のものです。

機種名	ホスト名	
SPARCcenter2000	cc2000	計算機センター 1 階に設置の Sun 社製コンピュータ。

8.8.2 ターミナルサーバの使い方

さあ実際にアクセスしてみましょう。実際にターミナルサーバへの接続を例に説明します。

1. 通信ソフトウェアを起動します。
2. 通信ソフトウェアを使ってターミナルサーバに接続します (電話をかけます)。
Windows3.1 のターミナルや、Macintosh の NinjaTerm など、電話をかける設定が出来ないものがあります。そういう場合は ATDT075-705-1501 <Return>などを入力します。ATDT がトーンダイヤルで電話をかけるコマンドで、電話回線がパルスダイヤルなら ATDP に続けて電話番号です。
3. 接続が成功すると以下のメッセージがでます。
CONNCTCT
このメッセージの後ろに接続速度などが表示される場合もあります。
4. 接続が成功したら<Return>です。画面がクリアされ、以下のようなメッセージと Local>プロンプトが表示されます。
Network Access SW V1.1 for DS700-08 (BL55-16)
(c) Copyright 1993, Digital Equipment Corporation - All Rights Reserved
Please type HELP if you need assistance
Local>
5. ホストコンピュータ (以下の例では cc2000 マシン) に接続するには telnet コマンドを利用します。
Local> telnet cc2000
Trying...
Local -009- Session 1 to CC2000 established
UNIX(r) System V Release 4.0 (cc2000)
login:
6. login:プロンプトが表示されます。login してみましょう。
login: kosa

```
Password:
Last login: Tue Aug 2 09:41:32 from platinum.kyoto-s
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3 Generic September 1993
you have mail
cc2000(81)%
```

実際の操作では login: に続く kosa はあなたのユーザ名になり、その後で <Return> キーを押すことになるでしょう。そして Password: に続くあなたのパスワードはいつものように表示されないまま打ち込まなくてはなりませんし、その後で <Return> キーを押すのです。

7. 上記のように Unix コンピュータのコマンドプロンプトが表示されたでしょうか。これで安心してはいけません。ホストコンピュータに対して VT100 (エミュレーション) の端末を使用していることを教えて上げる必要があります。以下のコマンドを実行してください。set term=vt100<Return>です。

```
cc2000(85)% set term=vt100
これで login に関する作業は終了です。
```

ターミナルサーバーとの接続を切るには以下のようにします。

1. ホストコンピュータ (この例では cc2000) を logout します。
cc2000% logout
2. DECServer のプロンプトが表示されますので、logout コマンドを実行してください。モデムの接続が切れます。
Local> logout
3. 通信ソフトウェアを終了します。

さらに詳しい使い方

ここに挙げた以外にもターミナルサーバーには多彩な機能があります。ターミナルサーバーのコマンド一覧は、Local> プロンプトから help<Return> とすると確認できます。各コマンドの使い方は Local> プロンプトから help コマンド名<Return> で確認できます。

8.8.3 利用上の注意と制限

- 長時間にわたる回線の占有をしないように注意して下さい。
- 直接学外のマシンに対する telnet は出来ないように設定されています。一旦学内の何かのマシンに login して、そこから再度外部のマシンへ telnet して下さい。

8.8.4 一般的なトラブル対策

以下にターミナルサーバ接続の場合に起こりそうなトラブルについて、その原因と解決策を示しておきます。

また、Mule がうまく使えない場合のトラブルには 100 ページの第 4.5.2 節、特に「非 X ウィンドウ環境」での起動方法とエラー対策を参考にしてください。

telnet したがつながらない

ホストコンピュータの名前を間違えていませんか？ホストコンピュータが予告された運用停止の期間なのではありませんか？

どうしても login: プロンプトが表示されないのであれば、それは何か計算機センター側でトラブルがあるのかも知れません。今の時間と状況をメモして、相談窓口に連絡して下さい。

8.9 慣れている人のために

以下に電話線経由でのコンピュータの接続に慣れている人のために、必要となる情報を示しておきます。

京都産業大学計算機センターが現在用意している設備には以下のものがあります。しかし各設備は随時構成変更の可能性があります。変更があった時点で sandai.center.announce などの学内ニュースグループなどに掲示されますのでチェックしておくといいいでしょう。

8.9.1 ダイアルアップ IP 接続に関する情報

PPP によるダイアルアップ IP 接続の為の設備と、その設定情報を以下に示します。

アクセスサーバ

製品名	Livingstone 社製 PortMaster
モデムとの接続速度	115.2Kbps

受信用電話回線とモデム

(タイプ I)

接続速度が高速 (28.8Kbps) で、回線数を多く (8 つ) とっていますので通常はこちらを御利用下さい。

回線数	8
電話番号	075-705-1502 (内線 2992)
製品名	Microcore 社製 MC288XL
通信速度	28800, 26400, 24000, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200, 300bps
通信規格	V.34(V.FC), V.32bis, V.32, V.22bis, V.22, V.21, BELL 103, BELL 212A, MNP Class5, Class4, V.42bis LAPM/V

(タイプ II)

接続速度が低速 (14.4Kbps) で、回線数も少なく (5 つ) になっており、通常はタイプ I を利用する方が有利です。タイプ I につながらない時に御利用下さい。

回線数	5
電話番号	075-705-1489 (内線 2592)
製品名	OMRON 社製 MD144XT10V
通信速度	14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200, 300bps
通信規格	V.32bis, V.32, V.22bis, V.22, V.21, BELL 103, BELL 212A, MNP Class5, Class4, V.42bis

設定

接続するためのソフトウェアの設定は以下のようにして下さい。

ユーザ名	cc 環境のユーザ名
パスワード	cc 環境のパスワード
認証方式	Connect Script 及び PAP。CHAP (暗号化パスワード) には対応していません。
IP アドレス	サーバから割り当て
ネットマスク	255.255.0.0
ドメインネームサーバ	133.101.32.74
ドメイン名	kyoto-su.ac.jp
デフォルトゲートウェイ	133.101.32.83

ネットワークアプリケーションの設定は以下のようにして下さい。

メールホスト	cc2000.kyoto-su.ac.jp
SMTP メールゲートウェイ	ccmail.kyoto-su.ac.jp
NNTP ニュースホスト	news.kyoto-su.ac.jp
WWW Proxy ホスト	wwwproxy.kyoto-su.ac.jp

利用上の注意と制限

221 ページの第 8.4.1 節を参照して下さい。

8.9.2 ターミナルサーバ接続に関する情報

無手順によるターミナルサーバへの接続の為の設備と、その設定情報を以下に示します。

ターミナルサーバ

製品名	DEC 社製 DecServer700
モデムとの接続速度	38.4Kbps

モデム

回線数	4
電話番号	075-705-1501 (内線 2591)
製品名	OMRON 社製 MD144FB5V
通信速度	14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200, 300bps
通信規格	V.32bis, V.32, V.22bis, V.22, V.21, BELL 103, BELL 212A, MNP Class5, Class4, V.42bis

設定

接続するためのソフトウェアの設定は以下のようにして下さい。

データビット長	8bit
パリティ	なし
ストップ・ビット	1bit
フロー制御	ハードウェア (RTS/CTS) を推奨
漢字コード	EUC

ターミナルサーバのコマンドなどの利用法については 252 ページの第 8.8 節を参照してください。

利用上の注意と制限

221 ページの第 8.4.1 節を参照して下さい。

第9章 NeXT

9.1 初めてNeXTStationを使う人へ

NeXTStation は計算機科学研究所棟 3 階の C3 情報処理教室に設置されているコンピュータです。NeXT では UNIX の環境をマウス操作やグラフィック (絵柄) を多用して、視覚的にわかりやすく利用することができます。使用できる主なソフトウェアとして、「Mathematica [マセマティカ]」(数式処理ソフト)「文机 [ふづくえ]」(日本語ワープロ)「Improv [インプロブ]」(表計算ソフト) があります。また「Objective C [オブジェクトィブシー]」でオブジェクト指向のプログラミングでのアプリケーション開発ができます。

この節を読み進めるに当たって、はじめて使う人にもわかりやすいマニュアル「ようこそ NeXT...」¹ をときどき参照してもらうことになりますので手元においてから次へ進むとよいでしょう。

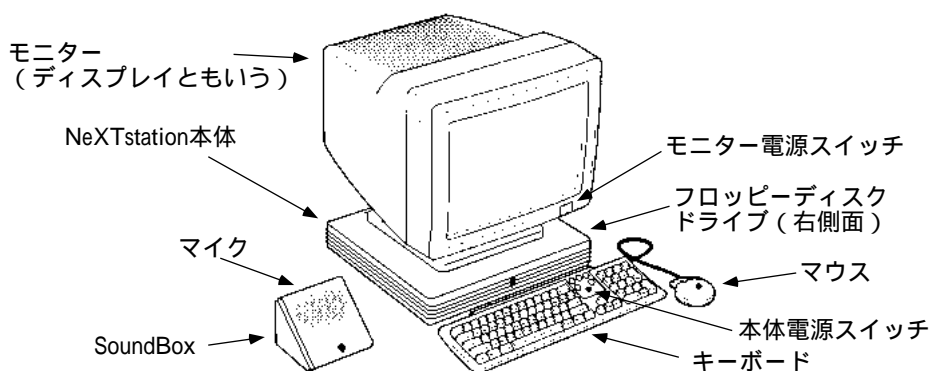


図 9.1 NeXTStation システム外観

9.1.1 まず部屋へ

まず、置いてあるところへ行ってみましょう。NeXTStation は計算機科学研究所棟の C3 情報処理教室に設置してあります。この教室は付録の「情報処理教室利用要項」に記載されている日・時間帯ならいつでも使えますが、次のことに留意してください。

部屋に入るときは、そこで授業をやっていないことを確認しましょう。もし授業中であれば入室して利用していいかどうか指導教員に確認を取るのが礼儀というものです。部屋に誰も居なかった場合は照明、空調機が切れている場合がありますので自分で適宜操作してください。照明スイッチは部屋に入っすぐの右側、空調装置は入り口の反対側にある窓際のデスクの向こう側に設置されています。部屋そのものの管理ですが、計算機科学研究所事務室が行っていますので、何か部屋の運用について質問、要望があれば計算機科学研究所事務室までお願いします。また、コンピュータについての質問、要望については計算機センターの相談窓口で受けています。

¹ C3 情報処理教室に入って左側の書架に並んでいる、60 ページほどの薄いマニュアルです。

9.1.2 電源を入れる

まず自分が利用するコンピュータを選びましょう。もし今回 NeXTStation を初めて使うのであれば、一連の操作に慣れるため、電源の入っていないマシンを選ぶのがいいでしょう。もし次の条件に当てはまっていれば、そのマシンの電源は入っています。

1. 画面に何か映っている。
2. 画面は暗いが、マウスを左右に転がすと急に画面が明るくなる。
3. モニターの電源が切れているが、次に述べている方法に従ってモニターの電源を入れて 10 秒程度待つと、何かが映る。もしくは 10 秒ほど待ってマウスを転がすと画面が急に明るくなる。

NeXTStation を使うためには NeXTStation 本体の電源とモニター² の電源を入れなくてはなりませんが、まず最初にモニターの電源スイッチを ON にしてください。画面の右下に「 0 」と「 1 」が付いているスイッチなのですが、「 0 」は「 0 」(ゼロ)を表し「OFF」を意味し、「 1 」は「 1 」を表し「ON」を意味します。今回は「 1 」の方にスイッチを押し込んでください。すると、スイッチの隣の緑色の電源ランプが点灯します。次に NeXTStation 本体の電源を入れます。キーボード上の図 9.2 の位置に「Power」と書かれた 1 つだけ緑色をしたキーがありますが、これが本体の電源スイッチです。これを押すと本体の電源が入り「カチッ・ブーン」という音とともに本体が起動しはじめます。

次の段階である login の準備を整えるまでしばらくかかりますので、そのまま数分間お待ちください。

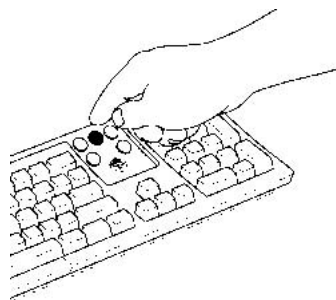


図 9.2 NeXTStation キーボード：本体電源を入れる

² いわゆるテレビの形をした画像を表示する装置のことです。

9.1.3 login する

画面中央には 10 センチ四方程度の枠が表示され、その中に更に二つの小さな枠が取られ、上の枠の左に「Name:」、下の枠の左に「Password:」と表示されていると思います。(図 9.3 を参照) キーボードを使ってまずあなたのユーザ名をタイプします。ユーザ名をタイプし終り、³ キー³ を一度押せば今度はパスワードを入力できる状態になります。ここでパスワードを入力するのですが、パスワードは横から見ている他の人にバレないように、タイプしてもその文字が画面に表示されません。キーを打ち間違えないように注意して入力し、もう一度³キーを押します。うまくユーザ名とパスワードを入力できれば画面表示が変わります。(図 9.4 を参照) もし失敗すれば「いいえ」と首を振るように中央の枠が左右に移動します。

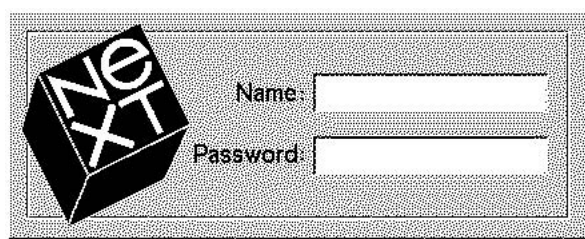


図 9.3 login 画面 :

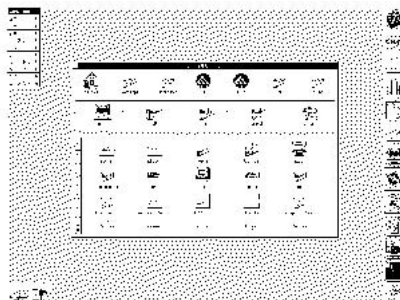


図 9.4 login が成功すると...

もしこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login であればパスワードは Sign 登録時にあなたがメモしたものの筈です。何度試しても login 出来ないようであればユーザ名、パスワードのいずれかが間違っているか、まだあなたのユーザ登録作業が計算機センター側で完了していないのです。計算機センターに自分のユーザ名が既に登録されているかどうか確認してください。もしもユーザ名も正しく、また登録作業も完了しているなら、これはパスワードが違っているとしか考えられません。計算機センター相談窓口 に連絡してパスワードを強制変更して貰ってください。

³ リターンキーと呼びます。

9.1.4 ちょっとメッセージ



図 9.5 login 直後のメッセージ

login すると計算機センターからのお知らせが表示されているかもしれません。よく読んで、自分に関係があるかどうか確認してください。もしも内容に付いてよく判らないことがあれば計算機センター相談窓口まで連絡するのがいいでしょう。

内容を読み終わったら ←キーを押すか、確認ボタンをクリックするかをすると、メッセージを表示しているウィンドウが消え、通常通り、図 9.5 の画面になります。

9.1.5 基礎知識

NeXT を便利に使う上で知っておいた方がいいことがいくつかあります。前述のマニュアル「ようこそ NeXT...」の「マウスの使用法」と「ウィンドウ」のところを読めば、この後の文章もわかりやすくなりますので、ぜひそちらの方を一度読んでみてください。

9.1.6 パスワードを変える (NeXT に初めて触れるなら...)

もしもこれがあなたにとって Sign 登録後初めての login ならば、ここでまずパスワードを変更しましょう。Sign 登録時のパスワードは機械的に決められたもので、余り安全とは言えません。ぜひパスワードをあなた自身が選んだ単語に変更してください。パスワードを決める際には 5 ページの 2.1.3 で述べている事に注意してください。また、より高い安全性のためパスワードを定期的に変更することをおすすめします。ただ、自分でパスワードをどのように変えたかだけは忘れないようにしてください。

NeXT でパスワードを変更するには Preferences アプリケーションのパスワードボタンを押して行います。詳しくはマニュアル「ようこそ NeXT...」の「パスワードの設定」のところを読んでください。



図 9.6 パスワード変更のウィンドウ

9.1.7 logout する

他にやりたいことも色々あるでしょうが今回は最初の利用でしょうし、まず一通りの操作をやってみるという意味で、logout をこの場でやってみることを勧めます。

まず画面の左上にあるメニュー（図 9.7）の一番下にある「ログアウト」をクリックしてください。⁴

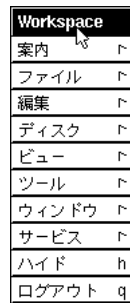


図 9.7 ログアウトのためのメニュー

すると logout パネルが画面に現れます。

⁴ もし、左上のメニューが「Workspace」ではない場合は、画面の右上にある



をクリックしてメニューを切替えてください。

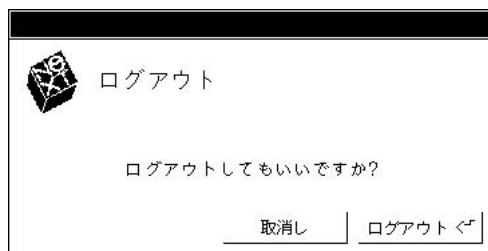


図 9.8 logout パネル

logout パネルは本当に logout してよいかどうかを聞いてきますので、ここで logout してよならマウスのポインタを「ログアウトする」ボタンの上を持って行ってマウスの左ボタンを押しましょう。

9.1.8 電源を切る

ログアウトしてしばらく待つと再び図 9.3 の login 画面が出てきます。次に、電源を切るために最初に電源を入れたのと同じ図 9.2 のキーボード上の緑の「Power」キーを押してください。

「Power」ボタンを押すと画面に電源 OFF パネル (図 9.9) が表示されますので「電源を Off にする」ボタンを押してください。しばらくすると「NeXTstation 本体の」電源が切れます (画面が真っ暗になる)。そして本体の電源が切れたのを確認したらモニターの電源スイッチを「 」側に押して、モニターの電源を切ってください。

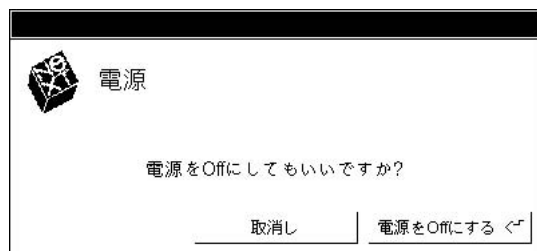


図 9.9 電源 OFF パネル

なお、部屋の入り口に入って正面にある ccns015 と、その左側の ccns013 の 2 台については本体の電源は常に入れっぱなしにしておいてください。その 2 台に関しては誤操作を防ぐため、キーボード上の「Power」キーを効かないようにしていますので、「Power」キーを押して図 9.9 の電源 OFF パネルが出てこなくても慌てないでください。

9.1.9 部屋を出る

マシンの電源が切れたら部屋を出ます。このとき、教室に誰もいなくなるようなら空調機、照明も切って退出してください。

9.1.10 マニュアルなど

NeXTStation に関するマニュアルは、教室に入って左側の書架に各アプリケーションのものも含めてすべて置いています。どれも台数分しかありませんので教室外への持ち出しは絶対しないでください。

9.1.11 さて、それから

NeXTStation は、UNIX コンピュータと呼ぶにはかなり異質な、NeXT 独自の環境が用意されています。勿論普通の UNIX コンピュータとして使うことも出来ますが、ここでは説明しません。本来の NeXT コンピュータとしての利用方法については前の節で説明したマニュアルの中の、特に「ようこそ NeXT...」と「ユーザズガイド」などを参照してください。

9.2 NeXT ファイル管理術

9.2.1 はじめに

あなたは NeXT を使っていて、次のようなことで困ったことはありませんか？

- ファイルの量が増えてしまって、すぐに制限を越えてしまう。
- 普段使うアプリケーションがあちこちのフォルダに分散しているので、起動するのが大変面倒である。
- 他のユーザーと同一フォルダを共有したい。
- パソコンとデータ交換をしたい。
- ファイルのバックアップを取りたい。

この章では、みなさんのこのような悩みの解決法を提供したいと思います。NeXT ではマウスとキーボードを使って、簡単にファイルの操作をすることができます。また、ファイルを上手に整理することによって、ディスクの量を節約できますし、セキュリティの確保やデータの有効利用にもつながります。

なお、ここでは NeXT の基本的な操作法（ウィンドウやアイコンの使い方）については述べません。これらは「ユーザーズガイド⁵」に詳しく書かれていますので、そちらを参照してください。

9.2.2 ファイルビューアの各部名称

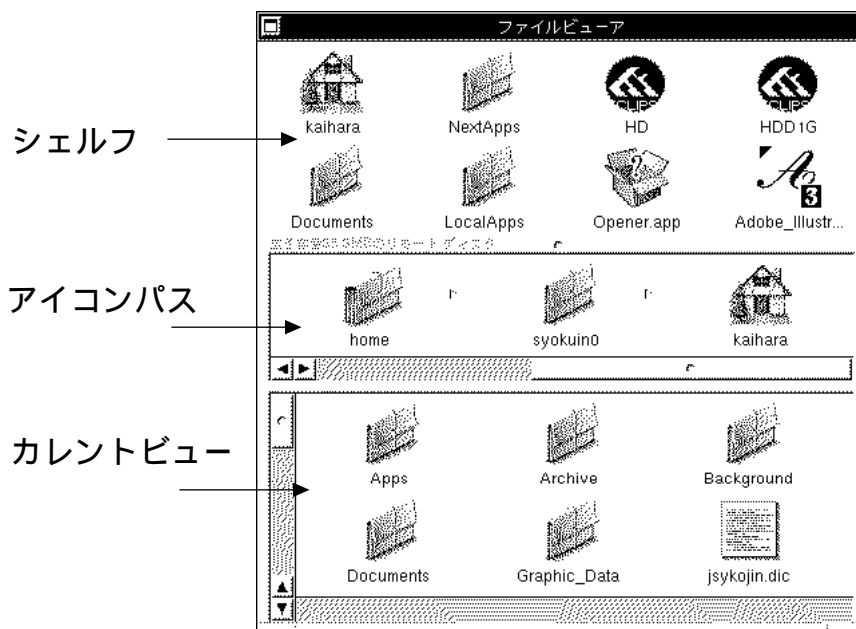


図 9.10 ファイルビューアの各部名称

⁵ C3 情報処理教室の書架に並んでいます。

9.2.3 ファイルとは

NeXT では情報をファイルとフォルダという2つの形式で管理しています。

ワープロで作成した文章も、グラフィックツールで作成した画像も、そしてアプリケーションの本体もすべてファイルとして管理されています⁶。

9.2.4 フォルダで整理

あなたは、自分のホームフォルダ⁷に多数のファイルができてしまったらどうしますか？ 目的のファイルを探すのは大変でしょうし、関連のある複数のファイルを一括してコピーや移動、削除するにしても苦労することでしょう。

そういった場合、UNIX コンピュータではディレクトリというものを使ってファイルを階層的に管理します⁸。

関連するファイルを一つのディレクトリに入れておくことによって、ファイルの管理が大変楽になります。またディレクトリの中に別のディレクトリを入れることもできますので、大分類・中分類・小分類といったように階層的にファイルを管理することも可能です。

なお、NeXT の世界ではディレクトリのことをフォルダと呼びます。呼び方が違うだけで機能や意味するところはディレクトリとまったく同じです。すなわち、ディレクトリと書かれているところをフォルダと読み替えても解釈上は問題ありません。ただ、NeXT の世界ではディレクトリと呼ばずフォルダと呼ぶのが一般的なようなので、ここでも NeXT での話をするときは、フォルダで統一しようと思います。

ファイルビューアを複数開く

ファイルやフォルダの操作をするときに複数のファイルビューアを開けていると、操作がしやすい場合があります。

1. ワークスペースマネージャのメニューから「ビュー」を選択します。
2. 「ビュー」メニューから「新規ビューア」を選択します。

フォルダの新規作成

新しいフォルダを作成します。

1. 中に新しくフォルダを作りたいフォルダ（ややこしい書き方ですみません）をファイルビューア上にオープンします。
2. ワークスペースマネージャのメニューから「ファイル」を選択します。
3. 「ファイル」メニューから「新規フォルダ」を選択します。
4. そのままではフォルダ名が「新規フォルダ」になってしまいますので、適当な名前をキーボードから入力し、↵キーを押します。

ここでフォルダに付ける名前について注意すべき点があります。269 ページの 9.2.9 の注意事項を参照してください。

⁶ 詳しくは 96 ページの 4.4 を参照してください。

⁷ 家の形をしたアイコンで示されるフォルダ。login 直後にファイルビューアに表示されているフォルダで、あなたのユーザー名と同じ名前がついたフォルダのことです。

⁸ 詳しくは 113 ページの 4.8 を参照してください。

9.2.5 コピー

ファイルやフォルダの複製を別のフォルダに作ります。

1. コピー先のフォルダをファイルビューアに表示します。
2. **Alternate** キーを押したまま、コピー元のファイルまたはフォルダをコピー先のフォルダにドラッグします。

このとき、コピー元とコピー先が離れたフォルダ階層にある場合など、2つを同時にファイルビューアに表示できない場合があります。そういった場合は9.2.4の方法でもう一つファイルビューアを開いて作業をするとよいでしょう。

複製

「ファイル」メニューの「複製」コマンドを使えば、同じフォルダ内でファイルまたはフォルダのコピーをすることができます。何かファイルに変更を加える前に複製を作成しておけば、状況を変更前に簡単に戻すことができます。

1. 複製したいファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「ファイル」メニューの「複製」コマンドを選択します。
3. 元のファイルまたはフォルダの名前の頭に「CopyOf」という文字列を挿入した名前で同じフォルダに複製が作られます。

9.2.6 移動

ファイルやフォルダを他のフォルダに移動します。

1. 移動先のフォルダをファイルビューアに表示します。
2. **Command** キーを押したまま、移動元のファイルまたはフォルダを移動先のフォルダにドラッグします。


このとき、移動元と移動先が離れたフォルダ階層にある場合など、2つを同時にファイルビューアに表示できない場合があります。そういった場合は9.2.4の方法でもう一つファイルビューアを開いて作業をするるとよいでしょう。


9.2.7 コピーと移動の違い

言葉の意味の違いをそのまま解釈すればよいのですが、コピーの場合、元ファイルはそのまま残されますが、移動の場合には移動元のファイルは削除され、移動先にファイルが作成されます。

9.2.8 ファイルをフォルダにドラッグすると …

キーボードを何も押さずにファイルやフォルダを他のフォルダにドラッグすると、ドラッグ先のフォルダの位置から、自動的にコピーか移動かを選んで実行します。どちらを実行しているかはマウスカーソルの形で分かります。

自動的にコピーをする場合というのは、コピー元とコピー先が異なるディスクにある場合です。異なるディスクというのは、手元のコンピュータのハードディスクから見たときの、フロッピーディスクやネットワーク上の他のコンピュータのディスクなどがあたります。コピーをしているときは、コピーカーソル  が表示されます。

自動的に移動する場合というのは、移動元と移動先が同じディスクにある場合です。おそらく同じディスクに同一のファイルは2つもいないという理由からなのでしょう。移動をしているときは、移動カーソル  (緑の矢印型のカーソル) が表示されます。

9.2.9 名称変更

作成済みのファイルまたはフォルダの名前を変更します。

1. アイコンパス (図 9.10 を参照) 内のファイルまたはフォルダアイコンの名前部分をクリックすると、「I」の形をした挿入ポイントが名前のところに現れます。
2. 変更したい名前に変更した後、↵キーを押すとその名前に変更されます。

漢字の使用について ファイルやフォルダの名称に漢字⁹ を使った場合、cc 環境の他のコンピュータでそのファイルやフォルダの名称を表示させることができない場合があります。ファイルやフォルダの名称に漢字を使うのはやめた方がよいでしょう。

注意

ファイルやフォルダの名称変更をするときは、以下のことに注意してください。

1. ホームフォルダは名称変更できません。
2. アプリケーションを名称変更すると、ファイルをダブルクリックしたときに正常にアプリケーションを起動できなくなることがあります。
3. ファイルの拡張子¹⁰ を変更すると、そのファイルをダブルクリックしたときに正常にアプリケーションを起動できなくなることがあります。

9.2.10 削除

リサイクル

NeXT でファイルまたはフォルダを削除する場合には、リサイクルを利用します。リサイクルは画面右

下にあるアイコン  で示されています。

- 削除したいファイルまたはフォルダをアイコンパスからリサイクルにドラッグします。

⁹ ここでいう漢字とは 2 バイト文字 (いわゆる全角文字) 全般を示します。

¹⁰ ファイル名の最後につくピリオドとそれに続く文字のことで、ファイルの種類を表すのに使います。

注意 このままでは、ドラッグしたファイルやフォルダは、リサイクル内に保存されたままになっています。削除したファイルやフォルダをいつでも復元できる半面、ディスクを消費しています。

リサイクル内に格納されているファイルがすべて不要であることを確認できたらリサイクルを空にして、リサイクル内のファイルやフォルダを抹消してしまいましょう。

リサイクルを空に

リサイクル内のファイルまたはフォルダが不要になったことが確認できたら、リサイクルを空にして、ファイルやフォルダをディスクから抹消します。

1. 「ファイル」メニューを選択します。
2. 「ファイル」メニューから「リサイクルを空に」を選択します。

復元

リサイクルを空にする前なら、いつでも一旦リサイクルにドラッグしたファイルを復元することができます。

1. 画面右下のリサイクルのアイコンをダブルクリックします。
2. リサイクルウィンドウから、復元したいファイルまたはフォルダをファイルビューア内のフォルダにドラッグします。

9.2.11 リンク

リンクとは

リンクとは、あるファイルまたはフォルダに対するポインタです。リンクにアクセスすると、自動的にリンク先ファイルやフォルダにアクセスします。リンクのアイコンとファイルの内容は、リンク先のファイルやフォルダとまったく同じです。

リンクを上手に利用するとファイルを指定する手間を大幅に省けます。フォルダ階層の離れたファイルやフォルダを指定しなければならないときに、リンクをフォルダ階層の比較的浅いところに作って、それを指定するようにすればいいのです。

また、リンクによってディスクを節約することもできます。気に入ったアプリケーションや画像ファイルなどがあって、自分のフォルダにおいておきたい場合などは、自分のホームフォルダにコピーを作らないでリンクを作ります。リンクは、リンク先のファイルやフォルダを示すだけのものなので、ディスクをほとんど消費しません。

注意 リンクは、リンク先のファイルやフォルダを名前と場所（パスと呼ぶこともあります）で指定します。リンクを移動したり名称変更してもリンクは成立したままですが、リンク元のファイルやフォルダを移動、名称変更、削除するとリンクは無効になります。

壊れたリンクは通常のアイコンにクエスチョンマークが追加されたアイコンで表されます。このようなアイコンが出来てしまった場合は、一旦このリンクを削除して新しくリンクを作り直すのがよいでしょう。

リンク作成

1. リンクを作成するフォルダをファイルビューアに表示します。
2. **Control** キーを押したまま、リンクを作成したいファイルまたはフォルダをリンクを作成するフォルダにドラッグします。

このとき、リンク元とリンク先が離れたフォルダ階層にある場合など、2つを同時にファイルビューアに表示できない場合があります。そういった場合は9.2.4の方法でもう一つファイルビューアを開いて作業をするとよいでしょう。

リンク削除

リンクを削除するときは、通常のファイルやフォルダを削除するのと同様にリサイクラを使います。この場合、リンク先のファイルやフォルダは削除されないで、リンクだけが削除されます。

9.2.12 アクセス権

これまで述べてきたファイルの各操作は、あなたのユーザアカウントがアクセス権を持つファイルやフォルダに対してのみ行うことができます。アクセス権に関する説明は184ページの6.3でされていますので、必ず参照してください。

アクセス権の確認と変更

NeXT でファイルまたはフォルダのアクセス権を確認、変更するには以下のようにします。

1. ワークスペースマネジャのメニューから「ツール」を選択します。
2. 「ツール」メニューから「インスペクタ」を選択します。
3. ファイルビューアでファイルまたはフォルダを選択します。
4. 「インスペクタ」パネル上部のポップアップリストから「アクセス管理」を選択します。

これでアクセス権を確認することができます。もし、アクセス権を変更したければ、「インスペクタ」パネルの中央にある表のチェックマークを操作して行います。該当する欄にアクセス権を与えたければチェックマークに、アクセス権を与えたくない場合はチェックマークを1度クリックして「x」マークに変えてください。

9.2.13 アプリケーションドック

画面の右端にアイコンが一行に並んでいるスペースをアプリケーションドック（略してドックと呼ぶこともあります。）といいます。すでに Mail や Edit などのアプリケーションが登録されていると思いますが、このスペースには頻繁に使用されるアプリケーションのアイコンを置いておくことができます。開いているスペースには自分で任意のアプリケーションを置くこともできますし、不要なアイコンは外すこともできます。

アプリケーションドックへの登録方法

ファイルビューアで目的のアプリケーションを、ドックの任意の空き位置にドラッグします。

アプリケーションをドックから削除する方法

1. ドックから削除したいアプリケーションが実行中であれば、終了します。
2. 削除するアプリケーションのアイコンをドックからドック以外の場所にドラッグします。
3. ドックからそのアプリケーションのアイコンが消えたら、マウスボタンを放します。

ドックからアプリケーションを削除しても、アプリケーション本体は残っていますので、ファイルビューアから他のアプリケーション同様に実行することができます。

9.2.14 シェルフ

シェルフは簡単にファイルやフォルダにアクセスできるように、頻繁に使用するファイルやフォルダを格納しておくためのスペースです。(図 9.10 を参照)自由にファイルやフォルダのアイコンを追加したり、削除したりすることができます。

シェルフの利用方法

- ファイルやフォルダをシェルフに登録するには、アイコンパスからシェルフにドラッグします。
- ファイルやフォルダをシェルフから削除するには、そのファイルまたはフォルダのアイコンをシェルフからファイルビューアのウィンドウの外にドラッグします。

シェルフのスペースを拡げるには...

あれもこれもとシェルフにファイルやフォルダに登録していくと、シェルフのスペースはすぐに一杯になってしまいます。ファイルビューアのウィンドウ自体を横に拡げてもよいのですが、それでもあまり多くのファイルやフォルダに登録することはできません。ファイルビューアをカスタマイズすることによって、シェルフのスペースを縦に拡げることができるようになります。

1. ワークスペースマネージャのメニューから「案内」を選択します。
2. 「案内」メニューから「プリファレンス」を選択します。
3. 「プリファレンス」パネル上部のポップアップリストから「シェルフ」を選択します。
4. 中央のやや下に「リサイズ可能シェルフ」という項目が出てきますので、その右側の をクリックし、チェックマークを付けてください。
5. シェルフの中央下部に「 」の形をしたリサイズノブが表示されるようになります。このノブをドラッグすることにより、シェルフのスペースを調節することができます。

9.2.15 フロッピーディスク

NeXT には 3.5 インチフロッピーディスクドライブが 1 基搭載されています。このドライブでは以下のフォーマットのフロッピーディスクを使用することが出来ます。

- NeXTSTEP < 2ED(2.88MB),2HD(1.44MB),2DD(720KB) >
- MS-DOS < 2HD(1.44MB),2DD(720KB) >
- Macintosh < 2HD(1.44MB) >

フロッピーディスクを挿入すると、フロッピーディスクの形をしたアイコンがファイルビューア内に表示されます。ファイルビューアではフロッピーディスクがあたかも一つのフォルダであるかのように扱われます。

フロッピーディスクの初期化

NeXT 上で、NeXTSTEP フォーマット・MS-DOS・Macintosh の各フォーマットで初期化ができます。

1. フロッピーディスクを NeXT 本体右側面のドライブに挿入します。
2. まったく新しいディスクを挿入した場合、ワークスペースマネージャによって、そのディスクを初期化するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。もし何らかの初期化がすでになされている場合に、そのディスクを再初期化したいときは、9.2.15 を参照してフロッピーの再初期化を行ってください。
3. 確認メッセージの下部に表示された「初期化」ボタンをクリックしてください。
4. 「初期化」パネルのポップアップリストからフォーマットの種類を選択します。
5. ディスク名をキーボードから入力します。
6. 「消去」ボタンをクリックします。

フロッピーディスクの再初期化

1. フロッピーディスクを NeXT 本体右側面のドライブに挿入します。
2. ファイルビューアでフロッピーディスクを選択します。
3. ワークスペースマネージャのメニューから「ディスク」を選択します。
4. 「ディスク」メニューから「初期化」を選択します。
5. 「初期化」パネルのポップアップリストからフォーマットの種類を選択します。
6. ディスク名をキーボードから入力します。
7. 「消去」ボタンをクリックします。

注意

フロッピーディスクを一旦初期化すると、記録されていた情報はすべて消去されます。また、一旦消去された情報を復元する方法はありませんので、フロッピーディスクを初期化する際には十分に注意してください。

フロッピーディスクの取り出し

挿入したフロッピーディスクをドライブから取り出します。

1. ファイルビューアでフロッピーディスクを選択します。
2. ワークスペースマネージャのメニューから「ディスク」を選択します。
3. 「ディスク」メニューから「イジェクト」を選択します。

以上の操作をすると、フロッピーディスクがドライブから排出されます。稀に NeXT の不具合により、上記の操作をしてもフロッピーディスクが排出されないことがあります。そのときは計算機センターの相談窓口までご連絡ください。

9.2.16 光磁気ディスク

C3 情報処理教室にある 15 台の NeXT のうち、ホスト名 ccons015 (教室の入口を入れて正面にあるマシン) には 128MB タイプの 3.5 インチ光磁気ディスクが接続されています。NeXT では光磁気ディスクをフロッピーディスクと同じ操作法で利用することができます。また、NeXTSTEP フォーマットの他に Macintosh フォーマットのディスクも使用することができます。初期化やイジェクトについてもフロッピーディスクと同様に行います。

9.2.17 おわりに

ここではごく簡単に、NeXT でのファイル管理術について述べました。もっと多くの機能が NeXT にはありますので、それらについては「ユーザーズガイド」を見てください。

9.3 NeXT で使うネットワークサービス

9.3.1 最初に

これからあなたに NeXT での電子メールとネットニュースの簡単な使い方をご紹介します。NeXT を使えば他の UNIX マシンよりたいへん手軽にこれらのサービスを利用できるので、「ネットワークサービスってよくわからないけど、なんだかおもしろそうじゃん」という人には NeXT を使ってみることを勧めます。ネットワークサービスに慣れる一番の方法を紹介しましょう。

1. 「コンピュータガイド インターネット編」¹¹ の以下の節を読む¹²。
 - (a) 123 ページの 5.1
 - (b) 128 ページの 5.2
 - (c) 155 ページの 5.7
2. 自分がネットワークサービスを縦横無尽に駆使している姿を想像する¹³。
3. NeXT の基本的な使い方（メニューやウィンドウ、アイコンの操作法）を知らないのなら、259 ページの 9.1 に沿って、NeXT の雰囲気（作法？）を学ぶ。
4. この節を自分で実行しながら順番に読んでいく。
5. 実際に自分でバリバリ使っていく。
6. 使ってみてよかったら、友達に紹介して仲間を増やす¹⁴。


こう書いてあると、とっても大変そうですがそんなことはありません。”百聞は一見に如かず”です。あせらずゆっくり進んでいきましょう。

9.3.2 文通しよう

この節では電子メールソフトウェア「Mail」の使い方を紹介します。ここではメールのやりとりの練習と、C3 情報処理教室設置の NeXT 独自のメールに関するルールを中心に述べることにします。

始めよう

まずは「Mail」を起動¹⁵する方法を説明します。画面の一番右側にずらっとアイコン（絵柄）が一行並んでいるのがわかるでしょうか？

そのアイコン群の上から 3 番目にある  のアイコンをダブルクリックすると「Mail」が起動します。「Mail」の画面が現れるまでしばらくかかりますが、そのままお待ちください。

起動すると図 9.11 のようなメール箱（Active.mbox という名前が付いています）ウィンドウがオープンします。はじめて起動したときには、おそらく空っぽだと思えますが¹⁶、心配はいりません。これからどんどんたまっていくだろうあなた宛のメールに思いを馳せましょう。

¹¹ この本のことです。

¹² 量としてはほんの少しですからさっと読めることでしょう。

¹³ 秘訣は強く念ずることです。

¹⁴ 仲間は多ければ多い方が良いのは何をしても同じです。

¹⁵ ここでの起動とは、ソフトウェアを実際に使える状態にすることです。

¹⁶ もしかすると友達が先にあなた宛に送っていたメールが届いているかもしれませんね。

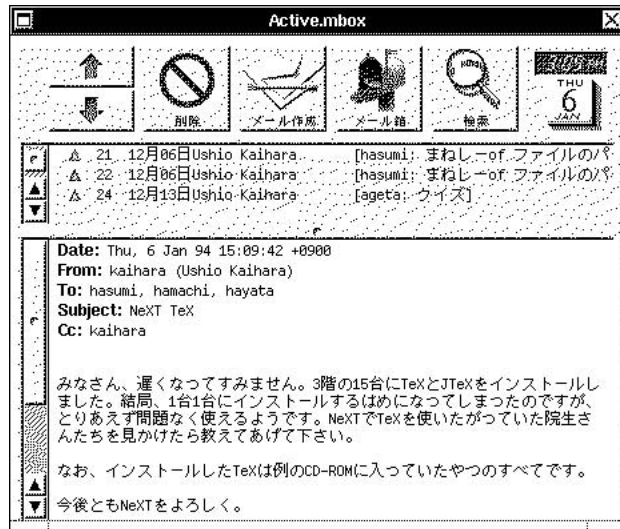




図 9.11 メール箱ウィンドウ

送ろう

まず試しに自分で自分宛に練習メールを送ってみましょう。

最初にメール作成ボタン  をクリックして、メール作成ウィンドウをオープンします (図 9.12 参照)。宛て先のメールアドレス (今は練習ですのであなたのメールアドレスですね) と表題、そして本文を書き込んで、最後に投函ボタン  をクリックします。詳しくは「ユーザーズガイド」¹⁷ の 198~199 ページの「メッセージを送信するには」に説明がありますので、それを見ながらやってみてください。

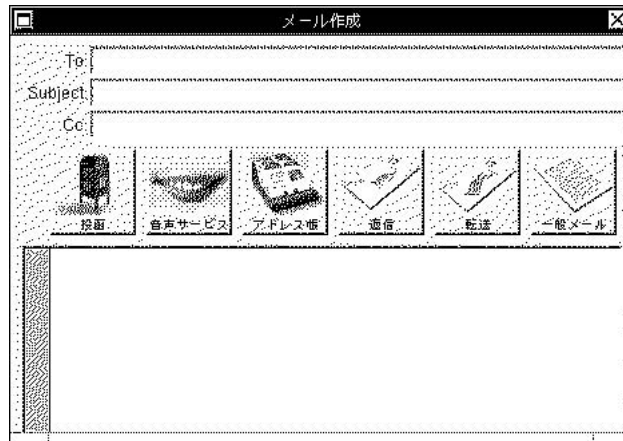


図 9.12 メール作成ウィンドウ

NeXT ユーザーのメールアドレスについて

¹⁷ C 3 情報処理教室に入って左側の書架に並んでいます

もし、あなたのユーザー名が kaihara であったとするとあなたのメールアドレスは kaihara@ccnext.kyoto-su.ac.jp となります。他の cc 環境のマシン群 (SPARCcenter2000 や Ultra1) でのあなたのメールアドレス kaihara@cc.kyoto-su.ac.jp とまちがわないように気を付けましょう。前者のアドレスに送れば NeXT の方に届きますが、もし後者のアドレスに送ってしまえば他の cc 環境のマシン群の方に届けられてしまいます。

読もう

では次に、先の章で送った自分宛てのメールを読んでみたいと思います。おそらくまだメールがメール箱に届いていないので、次の手順で新着メールの取得をして、先ほどのメールを自分のメール箱に入れましょう。

1. 画面左上の Mail メニュー (図 9.13) から「ユーティリティ」をクリックする。
2. 隣に「ユーティリティ」メニューが出てくるので、その中の「新着メールを取得」をクリックする。
3. メール箱に新しいメールが入ってきたら、日付や差出人名などが書いてあるメッセージ行がメール箱ウィンドウに追加されることでわかります。もし、数秒待ってもメール箱の中に自分からのメールが入っていないようならあと数回、上の作業を繰り返してみてください。数回繰り返しても駄目な場合は、宛先を間違えたか、投函ボタンをクリックし忘れたかのどちらかが考えられますので、もう一度 9.3.2 を読んでトライしてください。



図 9.13 Mail メニュー



先ほどの練習メールはメール箱に入ったと思います。それではそのメッセージ行のどこでも結構ですからクリックしてください。メール箱ウィンドウの下半分にあなたが先ほど書いたメッセージが表示されたでしょうか？表示されればまずは大成功。この練習メールと同じ要領で宛名の部分を他の人のメールアドレスにすると、その人にメールを送ることができます。どうです、試してみたくありませんか？

ところで NeXT でメールを送るときには、そのメールが一般メールか NeXT メールかに注意してください。NeXT メールに関する説明と 2 つのメールの種類の見分け方など、詳しくは 9.3.2 を参照していただくこととなりますが、他の UNIX マシンに NeXT メールを送っても、受け取った人は判読ができませんので注意が必要です。

返事を出そう

返事といっても 9.3.2 と同じやり方で宛名と表題を付けて送っても構わないのですが、「Mail」には簡単に返事を出す機能として、自動的に宛名や表題を付けたり、もらったメールの中から引用をしたりする機

能があり、それらを利用することによって、あまり手間をかけずに返事を出すことができるようになっていきます。

返信ボタン  と転送ボタン  を使います。

では先ほど自分宛に送ったメールに返事を出してみましょう。先のメールの内容を表示した状態で返信ボタンをクリックしましょう。「メール作成」ウィンドウが表示されますが、中にある「To:」欄に注目してください。すでに送り先のメールアドレスが書き込まれていると思います。ここに書かれたメールアドレスは元のメールから情報ももらって決められます。メールアドレスは長く間違いやすいものが多いので大変助かりますね。また、メールの題名も「Subject:」欄に元のメールの表題の先頭に「Re:」¹⁸を付けたものが自動的に書き込まれます。

もらったメールからの引用をしたい場合ですが、転送ボタンをクリックしてみてください。「メール作成」ウィンドウの中の本文の部分にもらったメール全部がコピーされているのがわかるでしょうか？この中から必要な部分以外を削除すれば引用の完成です。あとの操作は9.3.2のメールを送る場合と同じです。本文を完成させ投函ボタンをクリックすれば相手のところへ送られます。

NeXT メールをやりとりしよう

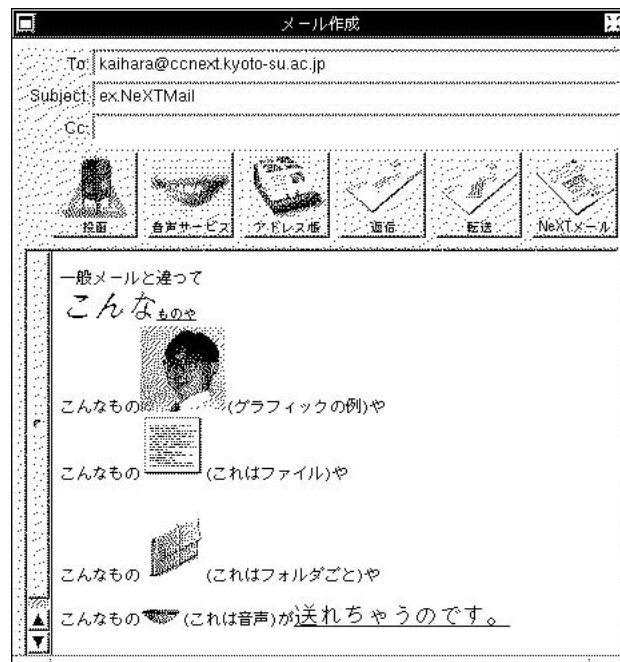



図 9.14 NeXT メールの例


NeXT メール形式のメールでは、文字はもちろん絵や音声を相手に送ることができます。しかもそれらを普通の文字だけのメールとほぼ同じ方法で扱うことができるのです。このように便利なメールですので、自分が NeXT メールを使える環境にあるということをメール友達に教えておくことをお勧めします。メールを出すときや、後の節で述べるネットニュースの記事を自分で投稿するときに、シグネチャ(署名)に「NeXT Mail is welcome」などと書いて自分が NeXT メールも使えるということを示しておく、そこか

¹⁸ response (返答) の意です

ら絵や音声を使ったメールのやりとりが始まるかもしれませんが。しかし便利なこの NeXT メールにもいくつか問題があります。詳しくは「ユーザズガイド」の 198～199 ページを読んでもらいたいのですが、NeXT メールを NeXT 以外のコンピュータに送っても受け取った方には判読できません。

このことに気を付けて NeXT でメールを使ってほしいのですが、自分が今書いているメールが NeXT メールか、通常のメールかがときどきわからなくなることがあります。そういったときは「メール作成」

ウィンドウの右から 2 番目のボタンを見てください。この位置にあるボタンが  NeXTメール ならばあなたが今

作っているメールは NeXT メールです。もし、 一般メール ならば、他の UNIX マシンにも送ることができる一般メール形式です。また、このボタンを押すことによって一般メールならば NeXT メールに、またその逆といったように、作成中のメールの形式を変更することができます。ただし作成中の NeXT メールの中に絵や音声などが既にある場合は、それらを削除しないと形式の変更ができません。

もっと便利に使おう

「Mail」にはもっと便利な使い方がありますが、ここでは紹介はしません。興味のある人は「ユーザズガイド」の第 13 章「メールの送受信」と第 14 章の「Mail アプリケーションの管理」をぜひぜひ、ぜひともごらんになってください。

また、電子メールを使っていく上で知っておいた方がよいルールやマナーを、141 ページの 5.5 で紹介していますので必ず読んでおいてください。

9.3.3 ネットニュースしよう

この節ではネットニュースソフトウェア「NewsBase」¹⁹ の基本的な使い方を説明します。「NewsBase」は目次の役目をする「NewsBase」と、記事を読んだり書いたりするためのノートである「MMEdit」の 2 つのアプリケーションソフトから構成されています。この両方のソフトウェアを使ってネットニュースを読みます。

なお C3 情報処理教室では cc 環境でうまく動作するように、変更を加えた「NewsBase」を使っています。難しい変更作業をやり遂げてくれた本学理学部計算機科学科の吉信さんに感謝します。

NewsBase の起動

まず「NewsBase3.02」フォルダの中が見える状態にしましょう。ルートフォルダ²⁰ LocalApps フォルダへ階層を下りていきます。(図 9.15 を参照) このフォルダの中に、先程名前を出した「NewsBase」や「MMEdit」などのアイコンが置かれているのがわかるでしょうか。

次に「NewsBase」を起動します。「NewsBase.app」のアイコンをダブルクリックしてください。すると、図 9.16 のパネルが出てきますので、「nntp サーバマシン名:」の欄が「cc2000」になっているかを確認してから²¹、OK ボタンをクリックします

¹⁹ (株)リクルートのフリーソフトウェアです。

²⁰ ファイルビューアの一番左にある NeXT station のセットの形をしたアイコン

²¹ もし、「localhost」となっているのならば、cc 環境仕様の NewsBase ではなく、別の NewsBase を起動しています。もう一度最初から丁寧にこの節を読み直して、やり直してください。

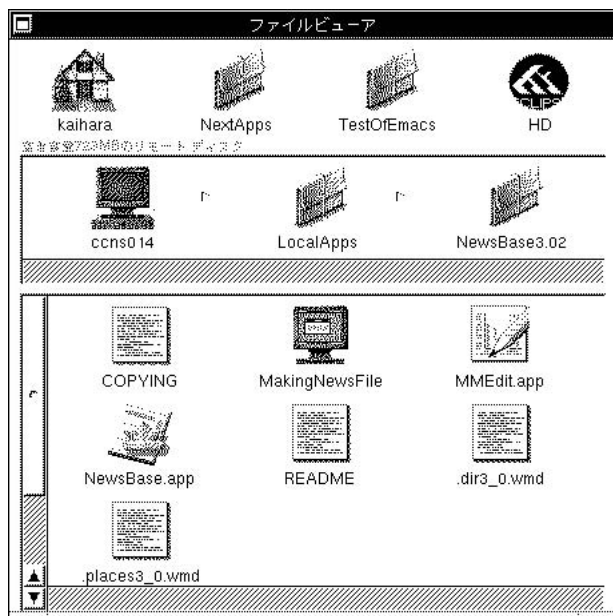


図 9.15 NewsBase の置き場所

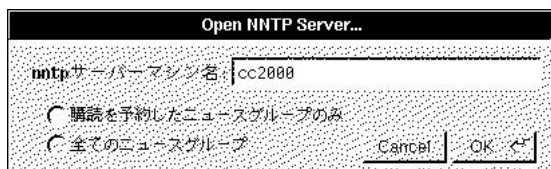


図 9.16 サーバマシン名の設定

読んでみよう

図 9.17 のウィンドウが画面に表示されているはずですが。

ここで試しに「sandai.question」²² というニュースグループを覗いてみましょう。cc2000 のアイコンの下に「sandai」という文字がありますね。「sandai.question」は「sandai」の下の階層に属しますので、まず「sandai」の方をクリックしてください。クリックすると右隣のリストの中から「question」を探してください。これが「sandai.question」というニュースグループを表しますので、これをクリックしてください。

パネルが現れて「××個を読み込みます」とたずねてくるかもしれません。もしそのニュースグループに含まれる未読記事の数が多ければ、このようにたずねてくるようになっているのです。

「OK」ボタンをクリックすると「sandai.question」の記事の見出しが図 9.17 の NewsBase のウィンドウの右半分にならんと表示されます。

この中から自分の読みたいものを選び、見出しをクリックすることによって、自動で「MMEdit」が起動し、選んだ記事を表示します。(図 9.18 参照)

他の記事を読みたい場合は、「MMEdit」のウィンドウの下に隠れている(でも一部は見えていると思いますが...)「NewsBase」ウィンドウの内をクリックをすると「NewsBase」のウィンドウが一番手前になり

²² このニュースグループでは様々な質問がいつも飛び交っています。

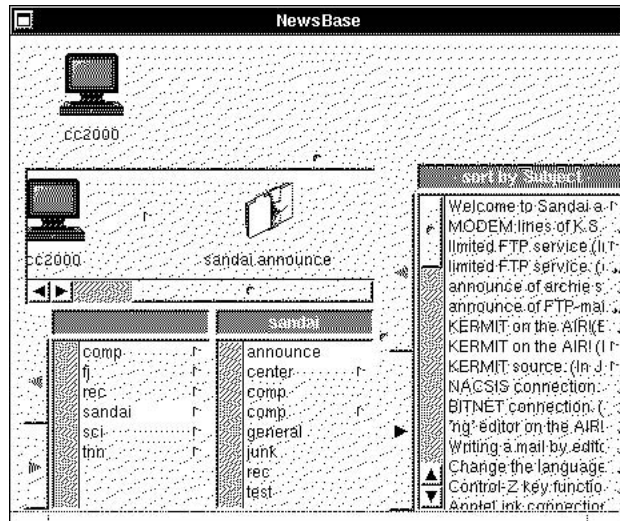


図 9.17 ニュースグループの表示

ますので、次の読みたい記事をクリックしてください。

別のニュースグループを覗きたい場合も同様です。ニュースグループをクリックし直せば、そのグループの記事を表示してくれます。

発言しよう

人の書いているものを読んでいるうちに、自分でも投稿したくなったのではないのでしょうか?でも、ネットニュースの雰囲気になれないうちに投稿するのはあまり勧められません。たくさんの記事を読んで、マナーやルールになじんでから投稿しましょう。京都産業大学内のニュースグループには投稿テスト用のニュースグループ「sandai.test」があります。投稿の練習にはここを利用するのがよいでしょう。

新しい話題を投稿しよう 画面左上にある「MMEditor」メニューから「ファイル」をクリックし、続いて現れたメニューから「新規作成」をクリックします。ウィンドウが開きますので各欄を設定します。Newsgroup 欄²³と Subject 欄²⁴それから Distribution 欄²⁵に記入してください。あとは記事本文をウィンドウ下半分の白いスペースに書き込んで「MMEditor」メニューから「ファイル」をクリックし、次に「ポスト」をクリックすると投稿がされます。

フォローしよう 他の記事に対して意見を投稿することをフォローといいます。投稿されている記事にフォローをするには、まず元の記事を「MMEdit」に表示させます。(つまり読むってことですね。)表示できたら、画面左上の「MMEditor」メニューから「ファイル」をクリックし、続いて現れたメニューから「フォロー作成」をクリックします。自動的に Newsgroup 欄と Subject 欄が設定されますので、あなたは Distribution 欄と記事本文を書くだけです。記事ができ上がれば、先程の「MMEditor」メニューからまた「ファイル」をクリックし、今度は「ポスト」をクリックすると投稿の完了です。

²³ 記事を投稿するニュースグループの名前 (sandai.question や fj.sys.next) を書く欄です。

²⁴ 記事の表題を書く欄です。フォローの場合は自動的に元記事の表題の先頭に「Re:」(Response の略)を付けたものが設定されます。

²⁵ 記事の属性を設定します。sandai ニュースグループ群なら「local」、fj ニュースグループ群なら「fj」、その他のニュースグループ群なら「world」を設定します。

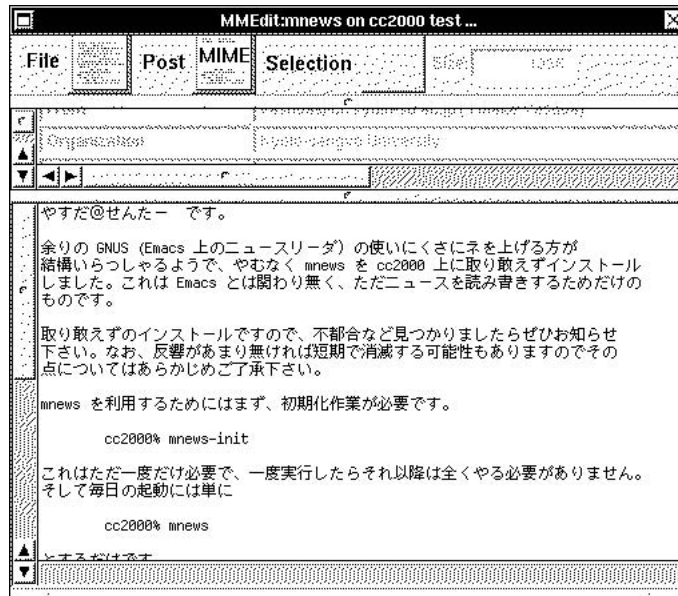


図 9.18 記事を読む

取り消したいときは... 自分で投稿した記事の取り消しをしたい場合があります。キーボードの [Control] キーと [Command] キーを押しながら取り消したい記事をクリックすると、自分が投稿した記事なら記事を取り消すことができます。

しかし、取り消せるからといって安易に投稿するのは困りものです。取り消さないで済むように慎重に投稿することを心がけてください。

GNUS と併用する人へ

NewsBase では記事の購読記録ファイルに、他の cc 環境マシンでの標準ネットニュースリーダである GNUS の購読記録ファイルと同じものを使っています。従って NeXT で NewsBase を使って読んだ記事は、次に GNUS を使ったときでもちゃんと既読扱いになっていますし、その逆もまたそうです。ただ、NewsBase を使って記事を読むと、ニュースグループの順序がバラバラになってしまいます。(NewsBase はニュースグループを自動で並べかえて表示してくれるので、NewsBase だけを使っていると関係ありません。) 現在のところ、これを根本的に回避する方法はありません。ご了承ください。

また、NewsBase で投稿した記事は GNUS から取り消すことはできません。また、その逆もできませんので注意してください。

お願い

ネットニュースを使っていく上で知っておいた方がよいルールやマナーを、155 ページの 5.7 で紹介していますので必ず読んでおいてください。ネットニュースは一旦投稿してしまうと大変多くの人に読まれることとなります。思いがけない失敗をしないためにもルールやマナーには慎重になってほしいと思います。

9.3.4 最後に

さあ、これであなたもネットワークサービスの達人へ続く階段の一段目を登りました。たくさんの情報が洪水のようにやって来ることと思います。その洪水に溺れることなく上手に情報を使っていきましょう。

これから、もしわからないことができたなら電子メールやネットニュースで質問を投げかけてみましょう²⁶。ネットワークにはおせっかいな人がたくさん住んでいますから、だれかがきっとあなたの質問に答えてくれることでしょう²⁷。

²⁶ でも見知らぬ人にいきなりメールを出すのは考えものですね。

²⁷ でも、必ず答えてくれるという保証もありませんが...

付録 A 章 リファレンス

A.1 UNIX コマンド

ここでは UNIX のコマンドのうち、代表的なものを示します。例示は以下のような体裁をとります。

```
command      : コマンドの働き (full spec of command)
  command [option] string...
    option    (full spec of option) オプションの働き
    }
  string      引数の意味
  }
```

一行目にコマンド名とその概略を、二行目に実際にコマンドを実行する時のスタイルを、三行目以降に二行目で使われた記号の説明をしています。

以下にそれぞれの意味を説明します。

command	まさにコマンド名です。
コマンドの働き (full spec of command)	そのコマンドがどのような働きをするかを簡単に書いています。 コマンド名はその働きを示す単語の省略形である事が良くあります。その元となった単語です。
option	そのコマンドに適用できるオプションです。代表的なものだけを書いていきます。
(full spec of option)	オプション記号はその働きを示す単語の省略形である事が良くあります。その元となった単語です。
オプションの働き	そのオプションがどのような働きをするかを簡単に書いています。
string	そのコマンドに適用できる引数です。
引数の意味	与えられた引数がどのようなものとして解釈されるかを簡単に書いています。

オプションや引数の与え方のスタイルを示している二行目の部分では、[] | { } などの記号を使って表現しています。以下のルールに従って解釈して下さい。

- オプションや引数が [] で囲まれている場合がありますが、これは囲まれた部分はなくともいいと言う事を意味しています。
特にオプション記号が並んでおり、それが [] で囲まれていた場合は囲まれた部分から任意の記号を組み合わせて書いても良い事を示しています。例えば [-abc] と書かれていた場合は -a -b -ab -abc -cb などのいずれの書き方をしても構わないのです。
- オプション記号が並んでいる時に | で仕切られている場合がありますが、これは仕切られた両側の記号のいずれか一つを選ぶ事を示しています。
例えば [-a|-b] と書かれていた場合はオプション無しか -a か -b かいずれかで実行しなければなりません。もしも [-a|-b] ではなく {-a|-b} と書かれていた場合はオプションなしは許されず、-a か -b かいずれかを選ばなければなりません。

- 引数など斜体文字で書かれた部分については、その部分をファイル名やキーワードなど何か別の文字列で置き換えて与える事を意味しています。
特に引数の後ろに ... と書かれていた場合は引数を空白で区切りながら複数個書いても良い事を示しています。例えば *string...* と書かれていた場合は `sample test try` と書いても構わないのです。

A.1.1 ファイル管理に関するコマンド

ls : ファイルの一覧を表示する (list)

```
ls [-lagdF] [names...]
  -l      (long format)  詳細情報を表示する
  -a      (all)          隠しファイルも含めて表示する
  -g      (group)       グループ情報も表示する
  -d      (directory)   ディレクトリ以下をたどらない
  -F      ファイルの属性が判るようにディレクトリには/を、実行ファイルには*をつける
  names   ファイル名
```

pwd : カレントディレクトリの表示 (print working directory)

```
pwd
```

cd : カレントディレクトリの移動 (change directory)

```
cd directory
  directory  移動先のディレクトリ名
```

mkdir : ディレクトリの作成 (make directory)

```
mkdir directory...
  directory  作成するディレクトリ名
```

rmdir : ディレクトリの消去 (remove directory)

```
rmdir directory...
  directory  消去するディレクトリ名
```

cp : ファイルのコピー (copy)

```
cp [-i|-f] source-file destination-file
cp [-i|-f] source-file... destination-directory
cp -r[i|f] source... destination-directory
  -i      (inquiry)   コピー先でファイル名が既存の場合、上書きするかを問い合わせる
  -f      (force)     コピー先でファイル名が既存であっても問い合わせをせずに上書きする
  -r      (recursive) ディレクトリ構造ごと階層的にコピーする
  source-file          コピー元ファイル
  destination-file     コピー先ファイル
  destination-directory コピー先ディレクトリ
  source               コピー元ファイルもしくはディレクトリ
```

mv : ファイルの移動 (move)

```
mv [-i|-f] source-file destination-file
mv [-i|-f] source... destination-directory
  -i      (inquiry)   移動先でファイル名が既存の場合、上書きするかを問い合わせる
  -f      (force)     移動先でファイル名が既存であっても問い合わせをせずに上書きする
  source-file          移動元ファイル
  destination-file     移動先ファイル
  source               コピー元ファイルもしくはディレクトリ
  destination-directory 移動先ディレクトリ
```

rm : ファイルの消去 (remove)

```
rm [-[r][i|f]] [name...]
  -r      (recursive) ディレクトリ構造ごと階層的に消去する
  -i      (inquiry)   消去するかどうか確認する
  -f      (force)     消去するかどうか確認しない
```

A.1.2 ファイルに関する雑多なコマンド

cat : ファイルの内容を表示する (catalog)

```
cat [-n] [name...]  
-n      (number) 行番号をつける  
name    ファイル名
```

more : ファイルの内容を一ページずつ表示する

```
more [name...]  
name    ファイル名
```

head : ファイルの先頭を表示する

```
head [-number] [name...]  
-number 先頭から number 行めまで表示する  
name    ファイル名
```

tail : ファイルの末尾を表示する

```
tail [-number|+number] [name...]  
-number 末尾 number 行を表示する  
+number number 行めから末尾まで表示する  
name    ファイル名
```

file : ファイルの種類を表示する

```
file [name...]  
name    ファイル名
```

touch : ファイルの更新日付を新しくする

```
touch [-c] name...  
name が存在していない場合にはその名前で空ファイルを作成する。  
-c      name が存在していない場合にはファイルを作成しない。  
name    ファイル名
```

od : ファイルの内容をダンプする (octal dump)

```
od [-bcx] [name...]  
-b      8 進数で表示する  
-c      可視コードは文字表示する  
-x      (hex) 16 進数で表示する  
name    ファイル名
```

split : ファイルを行単位で分割する

```
split [-number] [name [prefix]]  
number 行ごとに name ファイルを分割し、prefix に aa から zz までアルファベット順に合成した番号を付けた複数のファイルとして出力する  
-number 分割する行単位。デフォルトでは 1000 が与えられる  
name    元ファイル名  
prefix  出力ファイルの頭に付く名前
```

du : ファイルの量を表示する (disk use)

```
du [-sk] [name...]  
-s      (size) name それぞれの総合計のみを表示する  
-k      (kilobyte) 表示単位をキロバイト単位にする  
name    ファイル名
```

ln : リンクを作成する (link)

```
ln [-fns] link [name...]  
-f      (force) リンク先 link が書き込み禁止であっても確認の問い合わせをしない  
-n      リンク名 link が既存であれば上書きしない  
-s      (symbolic link) シンボリックリンクを作成する  
link    リンク名  
name    ファイル名
```

A.1.3 テキスト処理に関するコマンド

wc : ファイルの単語数などを調べる (word count)

```
wc [-clw] [name...]  
-c      (character)  文字数 (但しバイト数) を数える  
-l      (line)      行数を数える  
-w      (word)      単語数を数える  
name    ファイル名
```

diff : 二つのファイルの差分を表示する (difference)

```
diff [-biw] file1 file2  
-b      (ignore blank) 行末の空白を無視する  
-i      (ignore case)  大文字と小文字を区別しない  
-w      空白及びタブ文字を無視する  
file1   ファイル名  
file2   ファイル名
```

diff3 : 三つのファイルの差分を表示する (differences of 3 files)

```
diff3 file1 file2 file3  
file1   ファイル名  
file2   ファイル名  
file3   ファイル名
```

sort : ファイルの内容を行単位で順に並べ変えて表示する

```
sort [-cunfr] [name...]  
sort には非常に多くのオプションがある。man sort などして確認するのが良い。  
-c      (check)      正しくソートされているか否かのチェックのみ行なう  
-u      同一行を出力しない  
-n      (number)     数値表現として解釈してソートする  
-f      大文字と小文字を無視する  
-r      (reverce)   並び順を逆にする  
name    ファイル名
```

grep : パターンをファイルから検索して表示する (general regular expression)

```
grep [-[AB]number] [-cinlv] pattern [name...]  
pattern には正規表現が利用できる。  
-number  マッチした行の前後 number 行を含めて表示する  
-Anumber (after)  マッチした行の後ろ number 行を含めて表示する  
-Bnumber (before) マッチした行の前 number 行を含めて表示する  
-c      (count)     マッチした行数を数えるだけ  
-i      (ignore case) 大文字と小文字を無視する  
-n      (number)     マッチした行を行番号とともに表示する  
-l      少なくとも一つはマッチした行を持つファイルの名前を表示する  
-v      (invert)    マッチしなかった行を表示する  
pattern  検索するキーワード  
name     ファイル名
```

egrep : grep の完全版 (expression grep)

egrep [-cinlv] *pattern* [*name...*]

pattern には全ての正規表現が利用できる。

-c	(count)	マッチした行数を数えるだけ
-i	(ignore case)	大文字と小文字を無視する
-n	(number)	マッチした行を行番号とともに表示する
-l		少なくとも一つはマッチした行を持つファイルの名前を表示する
-v	(invert)	マッチしなかった行を表示する
<i>pattern</i>		検索するキーワード
<i>name</i>		ファイル名

fgrep : grep の高速版 (fast grep)

fgrep [-cinlv] *pattern* [*name...*]

pattern には正規表現は利用できない。簡略化された表現だけを提供する。

-c	(count)	マッチした行数を数えるだけ
-i	(ignore case)	大文字と小文字を無視する
-n	(number)	マッチした行を行番号とともに表示する
-l		少なくとも一つはマッチした行を持つファイルの名前を表示する
-v	(invert)	マッチしなかった行を表示する
<i>pattern</i>		検索するキーワード
<i>name</i>		ファイル名

tr : 文字を置き換える (translate character)

tr [-ds] [*string1* [*string2*]]

string1, *string2* には "\012" などとして 8 進数表記も可能。[a-z] などと a から z の連続した文字を意味する省略記法も可能。

-d	(delete)	標準入力から <i>string1</i> に含まれる文字を削除して標準出力に出す
-s		標準入力の連続する <i>string1</i> を一つの <i>string2</i> に置換して標準出力に出す

sed : ストリームエディタ (stream editor)

sed [-n] [-e *script*] [-f *scriptfile*] [*name ...*]

-n		デフォルトの出力を抑制する
-e		編集スクリプト <i>script</i> のバリエーションは多数あるのでマニュアルを参照の事
-f		編集スクリプトを <i>scriptfile</i> ファイルから読みとる
<i>name</i>		ファイル名

spell : 単語のスペルチェックをする

spell [-bvx] [*name*]

spell コマンドは非常に高機能だがここでは基本機能のみ載せる

-b	(British)	British 綴りをチェックする
-v	(verbose)	その綴りでスペリングリストに入っていないすべての単語を表示し、その単語から可能性のある派生語が示す
-x		可能性のある語幹を等号 (=) と共に表示する
<i>name</i>		ファイル名

A.1.4 プリンタに関するコマンド

プリンター一覧

プリンタ名	設置場所
ccpr01	計算機科学研究所 2 階ミニコン室 (白くて小さな方)
ccpr02	計算機科学研究所 2 階ミニコン室 (茶色の大きな方)
cgpr01	1 号館 2 階 11 情報処理教室
cgpr02	1 号館 2 階 11 情報処理教室
cgpr03	1 号館 2 階 11 情報処理教室
cgpr04	1 号館 2 階 11 情報処理教室
cspr01	2 号館 4 階 21 情報処理教室
cspr02	2 号館 4 階 21 情報処理教室
clpr01	3 号館 2 階 31 情報処理教室
clpr02	3 号館 2 階 31 情報処理教室
clpr03	3 号館 1 階 32 情報処理教室
clpr04	3 号館 1 階 32 情報処理教室
clpr05	3 号館 1 階 32 情報処理教室
clpr06	3 号館 1 階 32 情報処理教室
cepr01	5 号館 1 階 51 情報処理教室
c1kpr01	第 1 研究室棟 2 階共同利用室
c2kpr01	第 2 研究室棟 1 階共同利用室
c3kpr01	第 3 研究室棟 1 階共同利用室
c9pr01	9 号館

lpr : プリンタに出力する (line printer)

`lpr [-Pprinter] [name...]`

cc 環境でプリンタに出力できる内容は単純なテキストファイルか、PostScript ファイルに限られる。

`-Pprinter` printer で示されるプリンタに出力する
`name` ファイル名

lpq : プリント待ちキューの内容を表示する (line printer queue)

`lpq [-Pprinter]`

`-Pprinter` printer で示されるプリンタの待行列を表示する

lprm : プリント待ちエントリを消去する (line printer remove entry)

`lpq [-Pprinter] [-] [job...]`

job は lpq コマンドであらかじめ確認する。

`-Pprinter` printer で示されるプリンタのエントリを処理対象にする
`-` 自分が最後に出力したエントリを消去する
`job` job で示されるエントリを消去する

A.1.5 アクセス権、アクセス制御に関するコマンド

whoami : 現在の利用者名を表示する (who am i)

`whoami`

id : 現在の利用者名、現在のグループ名などを表示する

`id`

id コマンドは各 OS によって相違が見られるので、`man id` などして確認するのが良い。

groups : 所属するグループ名の一覧を表示する

`groups [username...]`

`username` 表示させたい利用者名。デフォルトでは現在の利用者の利用者名が与えられる

newgrp : 新しいグループへのログイン (new group)

`newgrp [group]`

`group` グループ名。デフォルトでは現在の利用者のデフォルトグループが与えられる

chmod : ファイルのアクセス権を変更する (change mode)

```
chmod [-R] mode name...
-R      (recursive)  name がディレクトリであった場合は階層的に処理を行なう
mode    下部参照
name    ファイル名
```

相対指定における *mode* は {u|g|o|a}{+|-|=}{r|w|x} となる。

対象	オペレータ	設定内容
u 所有者	+ 追加	r 読みだし
g グループ	- 取消	w 書き込み
o その他の人	= 強制	x 実行
a 全ての人		

絶対指定における *mode* は以下の数値の和となる。

値	対象	設定内容	値	対象	設定内容	値	対象	設定内容
0400	所有者	読みだし	0040	グループ	読みだし	0004	その他の人	読みだし
0200	所有者	書き込み	0020	グループ	書き込み	0002	その他の人	書き込み
0100	所有者	実行	0010	グループ	実行	0001	その他の人	実行

chgrp : ファイルのグループを変える (change group)

```
chgrp [-R] group name...
-R      (recursive)  name がディレクトリであった場合は階層的に処理を行なう
group   変更したいグループ名
name    ファイル名
```

A.1.6 マニュアルに関するコマンド

man : コマンドなどのマニュアルを表示する (manual)

```
man [-s section] title
man -k keyword...
-s section  title のセクションを section に限定する
-k keyword  keyword にマッチするタイトルの一覧を表示する
            keyword はコマンド名などの一部でも良い
title      コマンド名など
```

whatis : コマンドなどの要約を表示する (what is)

```
whatis title...
title      コマンド名などのキーワード
```

which : コマンドファイルの位置を表示する

```
which command...
command    コマンド名
```

whereis : コマンドファイル、マニュアルファイルの位置を表示する

```
whereis command...
command    コマンド名
```

A.1.7 雑多なコマンド

date : 現在の日付を表示する

```
date
```

sleep : 実行を保留する

```
sleep [time]
time    待ち時間 (秒)
```

cal : カレンダーを表示する (calender)

`cal` *[[month] year]*

オプションを全て省略すると今月のカレンダーを表示する。*year* だけを与えるとその年のカレンダーを表示する。*month* も与えるとその年のその月のカレンダーを表示する。

month 月の指定を 1 から 12 までで与える

year 年の指定を西暦で与える

echo : 引数を表示する

`echo` *[-n] [argument...]*

-n (no return) 出力に改行文字を加えない

argument 引数

banner : 引数を花文字で表示する

`banner` *string...*

string 10 文字までの花文字にしたい文字列

clear : 画面を消去する

`clear`

bc : 電卓

`bc` *[name...]*

name ファイル名。但しファイルの最後には `quit` を `bc` へのサブコマンドとして書く

look : 英単語を辞書検索する

`look` *[-df] [-tc] string*

-d (dictionary order) 文字、数字、タブ及びスペースが比較される

-f (fold case) 大文字と小文字を区別しない

-tc (termination character) *c* とその後に続く文字を無視する

string 検索単語

tee : 標準入力を標準出力とファイルに書く

`tee` *[-ai] [name...]*

-a (append) ファイルへの出力を追加書きにする

-i (ignore interrupts) 割り込みを無視する

name ファイル名

script : 端末の操作をファイルに記録する

`script` *[-a] [name]*

`script` コマンドは新しくシェルを起動する。このシェルを終了することによって `script` コマンドも終了する。シェルを終了するには `exit` コマンドを利用すれば良い。

-a (append) *name* ファイルに対する出力を追加書きで行なう。デフォルトは上書き

name ファイル名。省略するとデフォルトとして `typescript` が与えられる

df : 利用可能なディスクブロックを表示する (disk free)

`df` *[directory...]*

`df` コマンドは各 OS によって相違が見られるので、`man df` などして確認するのが良い。

directory *directory* が存在するファイルシステムだけに限定して表示する

yppasswd : パスワードを変更する (YP password)

`yppasswd`

ypchfn : フルネームを変更する (YP change full name)

`ypchfn`

`ypchfn` コマンドは Sun OS 独自のコマンドで、`cc` 環境では `cc2000` でしか動かない。これによってメールの From: 行や `finger` などの表示に現れるローマ字の名前を変更できる。

ypchsh : login シェルを変更する (YP change shell)

`ypchsh`

`ypchsh` コマンドは Sun OS 独自のコマンドで、`cc` 環境では `cc2000` でしか動かない。これによって `login` した後に実行されるシェルを変更できる。この表現が理解できない場合はこのコマンドは実行しない方がよい。変更できるシェルには限りがあり、`cat /etc/shells <Return>` などして確認できる。

A.1.8 ファイル圧縮などに関するコマンド

tar : テープ用集積ファイル (tarfile) を扱う (tape archiver)

`tar [-] [c|r|t|u|x] [v] [-b block] [-f device] [name...]`

テープにファイルを書き込む時などに使うが、ブロックサイズなどはテープドライブに依存するので各デバイスなどのマニュアルで確認する事。

-c	(creat)	tarfile を <i>name</i> から作成する
-r	(replace)	tarfile に <i>name</i> を追加する
-t	(title)	tarfile の内容一覧を表示する
-u	(update)	tarfile を更新する。最後に tarfile へ <i>name</i> ファイルを書き込んでから変更があれば tarfile に追加する
-x	(extract)	tarfile からファイル <i>name</i> を抽出もしくはレストアする
-v	(verbose)	現在の状態を表示しながら実行する
-b	(block size)	ファイルのブロック化係数を <i>block</i> にする
-f	(device file)	tarfile を格納するデバイスを <i>device</i> にする
<i>block</i>		ブロックサイズ。デフォルトは 20
<i>device</i>		デバイスファイル名。-で標準入出力、通常のファイル名の指定も可能
<i>name</i>		ファイル名もしくはディレクトリ名

uuencode : バイナリファイルを可視コード文字列に変換する

`uuencode [name] label`

結果は標準出力に出る。*name* を省略すると標準入力から読んだデータを変換する。

<i>name</i>	ファイル名
<i>label</i>	変換したファイルを uuencode コマンドで戻す時のファイル名

uudecode : uuencode によって変換されたファイルをバイナリファイルに逆変換する

`uudecode [name]`

uuencode 時の *label* によって指定されたファイル名で結果が作成される。*name* を省略すると標準入力から読んだデータを変換する。

<i>name</i>	ファイル名
-------------	-------

compress : ファイルを圧縮する

`compress [-cv] [name...]`

圧縮されたファイルは *name.Z* という名前で作成され、元の *name* ファイルは消去される。

-c		圧縮結果を <i>name.Z</i> ファイルに作成せずに標準出力に出力する <i>name</i> ファイルは消去されない
-v	(verbose)	圧縮率を表示する
<i>name</i>		ファイル名

uncompress : compress コマンドで圧縮されたファイルを復元する

`uncompress [-cv] [name...]`

name は最後が.Z でなければならない。復元されたファイルは *name* から.Z が外された名前で作成され、元の *name* ファイルは消去される。

-c		復元結果を <i>name</i> から.Z を取り除いたファイルに作成せずに標準出力に出力する <i>name</i> ファイルは消去されない
-v	(verbose)	圧縮率を表示する
<i>name</i>		ファイル名

gzip : ファイルを圧縮する (GNU zip)

`gzip [-cdhlv] [name...]`

圧縮されたファイルは *name.z* という名前で作成され、元の *name* ファイルは消去される。

-c		圧縮結果を <i>name.z</i> ファイルに作成せずに標準出力に出力する <i>name</i> ファイルは消去されない
-d	(decompress)	圧縮ファイルを復元する
-h	(help)	オプション一覧を表示する
-l	(list)	圧縮ファイルの内容一覧を表示する
-v	(verbose)	圧縮率を表示する
<i>name</i>		ファイル名

gunzip : gzip および compress コマンドで圧縮されたファイルを復元する (GNU unzip)

gunzip [-cv] [name...]

name は最後が.Z もしくは.z でなければならない。復元されたファイルは name から.Z もしくは.z が外された名前で作成され、元の name ファイルは消去される。

-c		復元結果をファイルに作成せずに標準出力に出力する name ファイルは消去されない
-d	(decompress)	圧縮ファイルを復元する
-h	(help)	オプション一覧を表示する
-l	(list)	圧縮ファイルの内容一覧を表示する
-v	(verbose)	圧縮率を表示する
name		ファイル名

zcat : compress コマンドで圧縮されたファイルを表示する (cat Z file)

zcat [name...]

name は最後が.Z でなければならない。gzip 圧縮ファイルを扱える場合もある。gunzip 同様のオプションが使える場合もある。

name ファイル名

A.1.9 プロセスに関するコマンド

ps : 現在処理中のプロセス一覧を表示する (process)

ps [[-]aux]

ps コマンドはオプションもその表示も各マシン、その OS 種類によって大きく異なる。man ps などして確認するのが良い。

a	(all)	全ての利用者のプロセスを表示する
u	(user)	利用者情報指向に整形して表示する
x		端末制御を持たないプロセスも含めて表示する

kill : プロセスを終了させる

kill [-l] [-signal] process-id...

process-id についてはあらかじめ ps コマンドで確認しておく。signal の種類によっては終了ではなくプロセスの再起動などが行なわれる場合がある。

-signal	process-id によって示されるプロセスに対して送られるシグナルの種類。
1	signal に利用可能な記号の一覧を表示する デフォルトでは-15 (-TERM) が与えられ、大抵これで終了させられる。強制終了の為に-9 (-KILL) を与える
process-id	終了させたいプロセスの番号

A.1.10 現在使っているコンピュータに関するコマンド

tty : 端末回線名を表示する (tele type terminal)

tty

hostname : ホスト名を表示する (host name)

hostname

uname : OS に関する情報を表示する

uname [-apsv]

-a	(all)	全ての情報を表示する
-p	(processor)	プロセッサ型を表示する
-s	(operating system)	OS 名を表示する。これはデフォルトで与えられる
-v	(version)	OS のバージョンを表示する

uptime : 起動されてからの時間と CPU 負荷率を表示する

uptime

A.1.11 利用者に関するコマンド

who : 現在利用している利用者の一覧を表示する

who [-Hq]
-H (header) 見出しを出力する
-q 簡略化された形式で出力する

w : 現在利用している利用者と作業内容の一覧を表示する

w [-hls] [*username*]
見出しに `uptime` コマンドで表示されるのと同じ CPU 負荷率などが表示される
-h 見出しを表示しない
-l (long format) 長い出力形式。これはデフォルトで与えられる
-s (short format) 短い出力形式
username 利用者名 *username* に関する情報だけに限定する

finger : 利用者情報を表示する

finger [-lms] [*keyword*...]

finger [-l] [*username*]@*hostname*...

`finger` コマンドによって表示される最後にメールを読んだ日付については `cc` 環境では正しく表示されない場合がありますので無視して下さい。

-l (long format) 長い出力形式
-m *keyword* を利用者名に限定して検索する
-s (short format) 短い出力形式
keyword 利用者名、氏名などの断片
username 利用者名。省略した場合は *hostname* コンピュータを利用している利用者一覧が表示される
hostname リモートコンピュータのホスト名

whois : 利用者情報を表示する (who is)

`whois [-h hostname] keyword`

`whois` サービスの内容や使い方はそれが行なわれているサーバに大きく依存する。

`-h hostname` *hostname* コンピュータを whois サーバとする
`keyword` 検索するキーワード

A.1.12 ネットワークサービスに関するコマンド

telnet : TELNET プロトコルによるリモートログインを行なう

`telnet [hostname]`

hostname リモートログインするホスト名

rlogin : リモートログインを行なう (remote login)

`rlogin [-8] [-l username] hostname`

`-8` (8 bit) 通信に 8 ビットを利用する。デフォルトは 7 ビットの可能性が高い。

`-l username` リモートログイン用の利用者名として *username* を使う

デフォルトでは現在の利用者名が与えられる

hostname リモートログインするホスト名

rsh : リモートマシンにコマンドを実行させる (remote shell)

`rsh [-l username] hostname command`

`-l username` リモートログイン用の利用者名として *username* を使う

デフォルトでは現在の利用者名が与えられる

hostname *command* を実行させるホスト名

command 実行させたいコマンド行

rcp : リモートマシンのファイルをコピーする (remote copy)

`rcp [[username@]hostname:]source-file [[username@]hostname:]destination`

`rcp -r [[username@]hostname:]source... [[username@]hostname:]destination-directory`

コピー元、先のファイル名の記述の先頭に *hostname:* を付加する事によって「:」以降に記述されているファイルはそのホストに存在する事を意味する。*hostname:* を省略すればデフォルトとして現在のホスト名が与えられる。更に *username:* を与える事によって「@」以降に記述されているホストに対するアクセスは利用者名 *username* で行なわれる事を意味する。*username:* を省略すればデフォルトとして現在の利用者名が与えられる。

`-r` (recursive) ディレクトリ構造ごと階層的にコピーする

username @以降に記述されるホストでの利用者名

hostname :以降に記述されるファイルが存在するホスト名

source-file コピー元ファイル

destination コピー先ファイルもしくはディレクトリ

destination-directory コピー先ディレクトリ

source コピー元ファイルもしくはディレクトリ

A.1.13 シェル (tcsh) のサブコマンド

cd, which, kill などシェルのサブコマンドだが、これらは普通のコマンドとして紹介している。ここでの記述は tcsh 特有のものを含んでいる事に注意。

シェル変数、環境変数に関するサブコマンド

set : シェル変数を定義する

set [variable[=string]]

引数なしで現在定義されているシェル変数を表示する。variable を与えながら string を省略すると variable で示されるシェル変数を空文字列とする。

variable シェル変数名
string 文字列

unset : シェル変数の定義を解除する

unset variable

variable シェル変数名

setenv : 環境変数を定義する (set environment variable)

setenv [variable [string]]

引数なしで現在定義されている環境変数を表示する。variable を与えながら string を省略すると variable で示されるシェル変数を空文字列とする。

variable 環境変数名
string 文字列

unsetenv : 環境変数の定義を解除する (unset environment variable)

unsetenv variable

variable 環境変数名

ジョブ制御に関するサブコマンド

jobs : 現在実行中のコマンドの一覧を表示する

jobs [-l]

l (long) プロセス番号も表示する

fg : 停止中のジョブを再開する (fore ground)

fg [%job]

job jobs コマンドで表示されたジョブ番号

bg : 停止中のジョブをバックグラウンドで再開する (back ground)

bg [%job]

job jobs コマンドで表示されたジョブ番号

stop : バックグラウンドで実行中のジョブを一時停止する

stop [%job]

job jobs コマンドで表示されたジョブ番号

notify : バックグラウンドで実行中のジョブの状態変化を知らせる

notify [%job]

job jobs コマンドで表示されたジョブ番号

wait : 全てのバックグラウンドジョブの実況終了を待つ

wait

%job 番号の指定方法

100	プロセス番号 100 番
%1	ジョブ番号 1 番
%	直前に操作したジョブ
%-	一つ前のジョブ
%cc	実行コマンドが cc で始まるジョブ
/?sort	実行コマンドに sort を含むジョブ

プロセス番号は ps コマンドもしくは jobs -l コマンドで確認できる
ジョブ番号は jobs コマンドで確認できる

雑多なサブコマンド

alias : コマンドの別名を定義する

`alias [name [string]]`

引数なしで現在定義されているエイリアス一覧を表示する。*name* を与えながら *string* を省略すると *name* で定義されているエイリアスを表示する。

name エイリアス名
string 定義する文字列

unalias : エイリアスの定義を解除する

`unalias name`

name エイリアス名

rehash : コマンド参照の為に内部ハッシュテーブルを更新する (re-assign hash table)

`rehash`

unhash : コマンド参照の為に内部ハッシュテーブルを使わなくする (unuse hash table)

`unhash`

login : login シェルを終了し、新たに login する

`login`

logout : login シェルを終了する

`logout`

exit : シェルを終了する

`exit (expr)`

expr で与えられた数値は \$status シェル変数に与えられる

expr 数値もしくは数値になる式。() は省略できる

exec : コマンドを実行する (execute)

`exec name`

name を実行する。実行が終っても制御は返ってこない。

name コマンド名もしくは実行可能なファイル名

source : 実行するコマンドの指定をファイルから読む

`source name`

ファイル名 *name* に書かれたコマンドを現在のシェルで実行する。

name ファイル名

history : 実行したコマンドの履歴を見る

`history [-hr] number`

ファイル名 *name* に書かれたコマンドを現在のシェルで実行する。

h イベント番号を表示に付けない

r (reverse) 履歴から最新の *number* 個のイベントを逆順に表示する

number 表示するイベントの数

A.1.14 索引

コマンド	頁 (章節)	コマンド	頁 (章節)	コマンド	頁 (章節)
alias	297 (A.1.13)	jobs	296 (A.1.13)	split	286 (A.1.2)
banner	291 (A.1.7)	kill	293 (A.1.9)	stop	296 (A.1.13)
bc	291 (A.1.7)	ln	286 (A.1.2)	tail	286 (A.1.2)
bg	296 (A.1.13)	login	297 (A.1.13)	tar	292 (A.1.8)
cal	291 (A.1.7)	logout	297 (A.1.13)	tee	291 (A.1.7)
cat	286 (A.1.2)	look	291 (A.1.7)	telnet	295 (A.1.12)
cd	285 (A.1.1)	lpq	289 (A.1.4)	touch	286 (A.1.2)
chgrp	290 (A.1.5)	lpr	289 (A.1.4)	tr	288 (A.1.3)
chmod	290 (A.1.5)	lprm	289 (A.1.4)	tty	293 (A.1.10)
clear	291 (A.1.7)	ls	285 (A.1.1)	unalias	297 (A.1.13)
compress	292 (A.1.8)	man	290 (A.1.6)	uname	293 (A.1.10)
cp	285 (A.1.1)	mkdir	285 (A.1.1)	uncompress	292 (A.1.8)
date	290 (A.1.7)	more	286 (A.1.2)	unhash	297 (A.1.13)
df	291 (A.1.7)	mv	285 (A.1.1)	unset	296 (A.1.13)
diff	287 (A.1.3)	newgrp	289 (A.1.5)	unsetenv	296 (A.1.13)
diff3	287 (A.1.3)	notify	296 (A.1.13)	uptime	293 (A.1.10)
du	286 (A.1.2)	od	286 (A.1.2)	uudecode	292 (A.1.8)
echo	291 (A.1.7)	ps	293 (A.1.9)	uuencode	292 (A.1.8)
egrep	288 (A.1.3)	pwd	285 (A.1.1)	w	294 (A.1.11)
exec	297 (A.1.13)	rcp	295 (A.1.12)	wait	296 (A.1.13)
exit	297 (A.1.13)	rehash	297 (A.1.13)	wc	287 (A.1.3)
fg	296 (A.1.13)	rlogin	295 (A.1.12)	whatis	290 (A.1.6)
fgrep	288 (A.1.3)	rm	285 (A.1.1)	whereis	290 (A.1.6)
file	286 (A.1.2)	rmdir	285 (A.1.1)	which	290 (A.1.6)
finger	294 (A.1.11)	rsh	295 (A.1.12)	who	294 (A.1.11)
grep	287 (A.1.3)	script	291 (A.1.7)	whoami	289 (A.1.5)
groups	289 (A.1.5)	sed	288 (A.1.3)	whois	295 (A.1.11)
gunzip	293 (A.1.8)	set	296 (A.1.13)	ypchfn	291 (A.1.7)
gzip	292 (A.1.8)	setenv	296 (A.1.13)	ypchsh	291 (A.1.7)
head	286 (A.1.2)	sleep	290 (A.1.7)	yppasswd	291 (A.1.7)
history	297 (A.1.13)	sort	287 (A.1.3)	zcat	293 (A.1.8)
hostname	293 (A.1.10)	source	297 (A.1.13)		
id	289 (A.1.5)	spell	288 (A.1.3)		

A.2 UNIX でよく使われる記号など

ここでの記述は tcsh 特有のものを含んでいる事に注意。

A.2.1 シェル変数の一覧

argv	シェルスクリプトに渡された引数の列
status	直前のコマンド終了時の返り値を示す
cwd	Current Working Directory. カレントディレクトリを示す
home	ホームディレクトリを示す
path	コマンドパスを示す。set サブコマンドで設定可
user	現在のシェルプロセスのユーザ名を示す
uid	現在のシェルプロセスのユーザ id を示す
gid	現在のシェルプロセスのグループ id を示す
term	現在利用しているターミナル種別を示す。set サブコマンドで設定可
tty	現在利用しているターミナルの回線番号を示す
prompt	シェルプロンプトの形式を示す。set サブコマンドで設定可
autologout	セットした場合、この秒数の間入力がなければ tcsh は自動的に終了する
ignoreeof	セットした場合、端末から C-d を読んでもシェルは終了しない。終了には exit を使う
noclobber	セットした場合、シェルは既存のファイルに出力をリダイレクトする事を許さない。この設定を無視してコマンドを実行するには!を使う
noglob	セットした場合、*,?などのワイルドカードによるファイル名の補間を行なわない
nonomatch	セットした場合、ファイル名の補間に失敗してもエラーとせずコマンドを起動する
verbose	セットした場合、シェルはエイリアス、コマンド、ファイル名、変数などの置換えをした後のコマンドを表示しながら実行する
history	コマンド履歴の最大数を示す。set サブコマンドで設定可
histchars	履歴置き換え文字を示す。未設定の場合!を使う
savehist	ファイルに残すコマンド履歴の最大数を示す。set サブコマンドで設定可
shell	現在のシェルを示す
tcsh	tcsh のバージョンを示す
version	現在の tcsh のバージョンを示す

A.2.2 環境変数の一覧

PATH	コマンドパスを示す。path シェル変数と連動している
HOME	ホームディレクトリを示す
PWD	カレントディレクトリを示す
SHELL	現在のシェルを示す
HOST	ホスト名を示す
HOSTTYPE	ホストコンピュータの種別を示す
LOGNAME	現在のシェルプロセスのユーザ名を示す
USER	現在のシェルプロセスのユーザ名を示す
LANG	言語環境を示す
TERM	現在利用しているターミナル種別を示す。term シェル変数と連動している
MANPATH	man コマンドが検索するマニュアルファイルの置き場所を示す
DISPLAY	X ウィンドウアプリケーションの表示画面先を示す
EDITOR	標準のエディタを示す
PAGER	標準のページャを示す
PRINTER	標準のプリンタ名を示す
TEXTFONTPATH	T _E X のフォントディレクトリを示す
TEXTFMPATH	T _E X のフォントディレクトリを示す
ARCH	ホストコンピュータのアーキテクチャを示す。cc 環境特有
ENVIRON	ホストコンピュータの環境種別を示す。cc 環境特有
XENVIRON	ホストコンピュータの X ウィンドウの環境種別を示す。cc 環境特有
COMMON	共通設定ディレクトリを示す。cc 環境特有

A.2.3 リダイレクション記号など

<	標準入力をファイルから読む
<< string	文字列 string が入力行の先頭に現れるまで標準入力を読む
>	標準出力をファイルに書く
>>	標準出力をファイルに追加書きする
>&	エラー出力をファイルに書く
>>&	エラー出力をファイルに追加書きする
>!	標準出力をファイルに書く (noclobber シェル変数による保護を無視)
>>!	標準出力をファイルに追加書きする (noclobber シェル変数による保護を無視)
>&!	エラー出力をファイルに書く (noclobber シェル変数による保護を無視)
>>&!	エラー出力をファイルに追加書きする (noclobber シェル変数による保護を無視)
	標準出力をパイプに書く
&	エラー出力もパイプに書く

リダイレクション記号などを使ったコマンド実行の例

command	通常のコマンド実行
command &	バックグラウンドでのコマンド実行
command1 ; command2	command1 の実行が済めば command2 を実行する
(command1 ; command2)	command1 ; command2 に同じ。但し単一コマンドのようにシェルは扱う
command1 command2	通常のパイプ付き実行
command1 & command2	エラー出力を含めたパイプ付き実行
command1 && command2	command1 の実行が成功すれば command2 を実行する
command1 command2	command1 の実行が失敗すれば command2 を実行する
(command > outfile) >& errorfile	標準出力とエラー出力を分ける

A.2.4 ファイル指定のワイルドカードなど

*	任意のゼロ個以上の文字
?	任意の一文字
[characters]	[] に囲まれた文字列 characters に含まれる任意の一文字
[char1-char2]	文字 char1 から char2 までの範囲に含まれる任意の一文字
{string1,string2,...}	文字列 string1 もしくは string2 などのいずれか
.	カレントディレクトリ
..	カレントディレクトリの一つ上の階層のディレクトリ
~	自分のホームディレクトリ
~username	ユーザ名 username のホームディレクトリ

A.2.5 コマンド履歴を扱う為の表記法

!!	直前のコマンド行
!n	n 番目のコマンド行
!-n	n 番前のコマンド行
!string	string から始まる最近のコマンド行
!?string	string を含む最近のコマンド行
!\$	直前のコマンド行の最後の単語
!*	直前のコマンド行の 1 番めから最後の単語 (つまりコマンド以外の全ての引数)
!n:\$	n 番目のコマンド行の最後の単語
!n:^	n 番目のコマンド行の最初の単語
!n:m	n 番目のコマンド行の m 番目の単語
!n:m-1	n 番目のコマンド行の m 番めから 1 番目の単語
!n:*	n 番目のコマンド行の 1 番めから最後の単語 (つまりコマンド以外の全ての引数)
~str1^str2^	直前のコマンドの str1 を str2 に置き換える

A.2.6 正規表現

a	a (通常の文字) にマッチする
.	任意の1文字にマッチする
^	行頭にマッチする
\$	行末にマッチする
^.....\$	5文字の行にマッチする
	前後の正規表現のいずれかにマッチする
ab cd	ab もしくは cd のどちらかにマッチする
ab cd ef	ab、cd もしくは ef のいずれかにマッチする
(ab cd)(12 34)	ab12 ab34 cd12 cd34 のいずれかにマッチする
[abc]	abc のどれか1文字にマッチする
[^abc]	abc のどれか1文字以外にマッチする
[a-z]	a から z までの範囲のどれか1文字にマッチする
[a-hxyz0-9]	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789 のどれか1文字にマッチする
?	?直前の正規表現のゼロ個ないしは一個にマッチする
ab?c	ac abc にマッチする。abbc などにはマッチしない
*	*直前の正規表現のゼロ個以上の繰り返しにマッチする
ab*c	ac abc abbbc などにマッチする。ab1c などにはマッチしない
a.*c	ac abc abbbc a123c などにマッチする
+	+直前の正規表現の一個以上の繰り返しにマッチする
ab+c	abc abbc abbbc などにマッチする。ac ab1c などにはマッチしない
a.+c	abc abbc abbbc a1c などにマッチする。ac にはマッチしない
\{num\}	直前の正規表現の num 個の繰り返しにマッチする
\{num,\}	直前の正規表現の num 個以上の繰り返しにマッチする
\{num1,num2\}	直前の正規表現の num1 個から num2 個までの繰り返しにマッチする

\ ^ \$. [] () | * + ? は普通の文字ではなく、意味を持ったメタキャラクタである。メタキャラクタに使われている記号をそのまま表現したい時は\\$などのように \ 記号に続けて書く。 \ 記号を表現したい時は\\である。

A.3 Mule コマンド

表記方法

C-h	コントロールキーを押しながら h を押す
M-x ABC	エスケープキーを押した後に x を押して普通に ABC と打つ
M-C-x	エスケープキーを押した後にコントロールキーを押しながら x を押す
<Space>	スペースキーを押す
<Return>	リターンキーを押す
<Delete>	デリートキーを押す

A.3.1 絶対覚えておいた方がいいもの

mule <Return>	Mule を起動する
C-x C-c	Mule を終了する
C-h T Japanese <Return>	Mule(日本語) のチュートリアルを表示する
C-x C-f <i>filename</i> <Return>	ファイルを読み込む
C-x C-w <i>filename</i> <Return>	ファイル名を変更して保存する
C-g	指示途中のコマンド操作を取り消す
C-l	カーソルのある行を中央へ移動する
C-x u または C-_	直前の編集操作を取り消す (Undo)
M-x goto-line <Return>	指定した行にジャンプする

カット&ペースト

C-<Space>	カーソルの位置にマークをセットする
C-x C-x	カーソルの位置とマークの位置を入れ替える
C-w	マークの位置からカーソルの前までを記憶して消去する (カット)
M-w	マークの位置からカーソルの前までを記憶する (コピー)
C-y	記憶した文字列をカーソルの位置に挿入する (ペースト)
C-k	カーソルの位置から行末までを記憶して消去する

検索

C-s <i>String</i>	カーソル位置より下方向に向かって検索する
C-r <i>String</i>	カーソル位置より上方向に向かって検索する
C-s	下方向に検索を続ける
C-r	上方向に検索を続ける
C-g	検索を終了しカーソルを検索開始前位置に戻す

Wnn

C-\	Wnn を起動 / 終了する
<Space>	変換する、次候補を表示する (C-n でも可)
C-p	前候補を表示する
<Return>	変換文字を確定する
C-o	文節を伸ばす
C-i	文節を縮める
C-f	右の文節へ移動する
C-b	左の文節へ移動する

カーソル操作

		先頭	M-<			
		前ページ	M-v			
		1行上	C-p			
行頭	1語前	1字前		1字後	1語後	行末
C-a	M-b	C-b		C-f	M-f	C-e
		1行下	C-n			
		次ページ	C-v			
		末尾	M->			

A.3.2 必要に応じて覚えるもの

起動時

mule <i>filename</i>	<Return>	Mule を起動して <i>filename</i> をバッファに読み込む
mule -q		.emacs を無視して Mule を起動する
mule -u <i>usr_name</i>		<i>usr_name</i> の人の .emacs の設定で Mule を起動する

ファイル操作

C-x i <i>filename</i>	<Return>	別ファイルをカーソルの位置に差し込む
C-x C-s		カレントバッファを保存する
C-x s		すべてのバッファを保存する
C-x k		カレントバッファを保存せずにクローズする
C-x C-v		カレントバッファにファイルを読み込む (カレントバッファの内容はクローズする)
C-x b		バッファを切替える
C-x C-b		バッファリストを表示する
C-x C-q		書き込みモードを変更する
M-x recover-file	<Return>	autosave された内容を読み込む

コードの変更

C-x C-k d		画面入出力コード変更
C-x C-k i		キーボードからの入力コード変更
C-x C-k f		ファイルの入出力コード変更

その他

全角、半角文字

M-x zenkaku-region リージョン範囲を全角にする
M-x hankaku-region リージョン範囲を半角にする

確定後の再変換

M-x henkan-region リージョン範囲を変換する。
M-x gyaku-henkan-region リージョン範囲の漢字をひらがなに戻す。
M-x roma-kana-region リージョン範囲のローマ字をひらがなにする

文字の入れ換え

C-t カーソルの位置の文字とその左の文字を入れ換える

繰り返し

C-u *n Command* *Command* を *n* 回繰り返す
または M-*n Command* 例: C-u 5 C-_ アンドウ5回

カーソル操作

M-a 文の先頭へ移動する
M-e 文の末尾へ移動する

カーソルの位置

M-x what-line <Return> 今カーソルが何行目にあるか表示する
C-x l 全部の行数と現在のカーソル位置を表示する

改ページ

C-q C-l 改ページ文字^{^L}を入力する

消去、カット&ペースト

M-x kill-rectangle <Return> マークセット位置からカーソル位置までのブロックを消去する
M-x clear-rectangle <Return> マークセット位置からカーソル位置までのブロックを空白に置換する
M-x yank-rectangle <Return> 消去したブロックをカーソル位置に挿入する

置換

M-% *search-string* <Return> *change-string* <Return>
検索文字列を置換文字列に確認しながら置換する
<Space>または y で置換を行なう
<Delete>または n で置換を行なわない
! で残り全部を確認せずに置換を行なう
^ で一つ前にもどる
M-x replace-string <Return> *search-string* <Return> *change-string* <Return>
検索文字列を置換文字列にすべて置換する

画面分割

C-x 2	上下に二分割する
C-x 3	左右に二分割する (Emacs では C-x 5)
C-x o	カーソルを別ウインドウに移動する
C-x 1	カーソルのあるウインドウ以外のウインドウを隠す
C-x 0	カーソルのあるウインドウを隠す

ウインドウのリサイズ

C-x ^	カーソルのあるウインドウを縦方向に拡大する
C-x }	カーソルのあるウインドウを横方向に拡大する

バッファリスト

C-x C-b	バッファ一覧を表示する
?	バッファリスト簡易ヘルプを表示する
f	カーソルの行のバッファをウインドウに表示する
l	カーソルの行のバッファだけをウインドウに表示する
q	バッファ一覧を終了する

ヘルプ

C-h	ヘルプを呼び出す
C-h C-h C-h	ヘルプオプションとその説明を表示する
C-h k <i>Command</i>	<i>Command</i> の引数説明を表示する
C-h a <i>String</i>	<i>String</i> を含むコマンドの一覧を表示する
C-h b	現在のキー割当を表示する

オンラインマニュアル

C-h i	オンラインマニュアルを起動する
q	オンラインマニュアルを終了する
m	メニューを選択する
u	前のメニューに戻る
<Space>	続きを読む
<Delete>	前に戻る
n	次の項目に進む
p	前の項目に戻る
d	オンラインマニュアルの最初のメニューに戻る

マクロ

C-x (キーボード操作記憶開始
C-x)	キーボード操作記憶終了
C-x e	記憶したキーボード操作実行
M-x name-list-kbd-macro <Return> <i>macroname</i> <Return>	マクロに名前を付ける
M-x <i>macroname</i>	マクロ実行
M-x insert-kbd-macro <Return> <i>macroname</i> <Return>	マクロ定義ファイル書き出し
M-x local-set-key C-c C-d ' <i>macroname</i>	マクロを C-c C-d に定義

Wnn

変換

M-h	(変換途中で) ひらがなにする
M-k	(変換途中で) カタカナにする
q	アルファベット入力モードにする
C-q	アルファベット入力モードをやめる
C-k または C-c	変換をキャンセルする (ひらがなに戻る) (C-f C-b で前後して訂正可能)

変換候補の一覧

M-s	変換候補一覧をエコー行に表示する
C-n	次の一覧部分を表示する
C-p	前の一覧部分を表示する

記号の入力

C-^	記号一覧のメニューをエコー行に表示する
または	0. JIS 入力
M-x special-symbol-input	1. 記号 2. 英数字 3. ひらがな 4. カタカナ 5. ギリシャ文字 6. ロシア文字 7. 罫線 8. 部首入力 0. 画数入力 a. 第一水準 b. 第二水準 c. 補助漢字

C-n	次の一覧部分を表示する
C-p	前の一覧部分を表示する

単語登録

M-x toroku-region	リージョン (矩形) 指定した単語を登録する
M-x edit-dict-item	単語を登録した辞書を編集する

その他

x?	小さい文字を出す (例: 「xa」で「あ」)
z?	特殊記号を出す (例: 「z(」で「【」)

z を用いた記号の入力

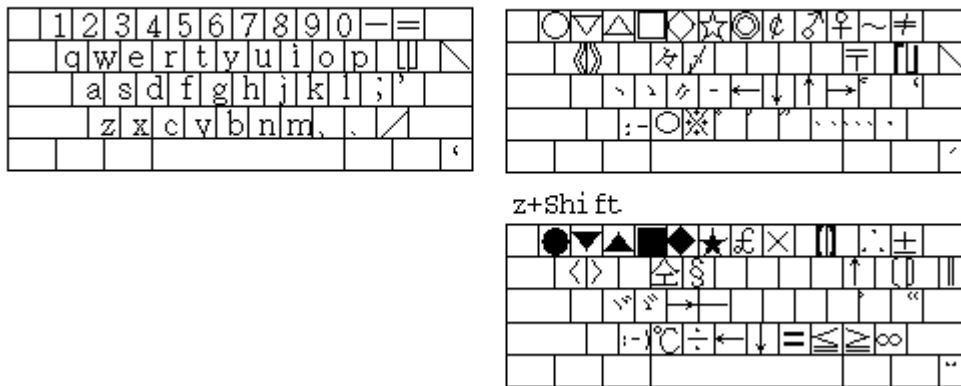


図 A.1 z キーとの組合せによる記号

MHE

読む

M-x mh-rmail <Return>	MHE メールリーダを起動する
q	MHE メールリーダを終了する
.	メールを読む
<Space>	続きの部分を読む
<Delete>	前の部分を読む

書く

M-x mh-smail <Return>	メールを書く
C-c C-c	メールを送信する
C-c C-q	メールを送信するのをやめる

返事

a	メールに返事を書く
C-c C-y	メールの内容を引用する
C-c C-c	返事を送信する
C-c C-q	返事を送信するのをやめる

整理

o <i>foldername</i>	メールを~/Mail 以下のフォルダに振り分ける
---------------------	--------------------------

メールボックス

M-f <i>folder_name</i>	~/Mail 以下のフォルダのメールを読む
M-r	現在のフォルダを読み直す。古いメールを読み返す時に便利。
M-p	メールの番号を振り直す

GNUS

M-x gnus <Return>	GNUS を起動する
q	GNUS を終了する
ニュースグループ選択画面	
<Space>	カーソル位置のニュースグループを読む
c	すべて既読にする
u	次の起動から表示しないようにする
L	すべてのニュースグループを表示する
記事画面	
<Space>	カーソル位置のネットニュースを読む
<Space>	記事の続きを読む
q	ニュースグループ選択画面に戻る
<Delete>	記事の前の部分を読む
d	記事に既読マークを付ける
f	表示中の記事に対してフォローする
F	表示中の記事に対して引用付きでフォローする
a	投稿のための原稿を編集する
C-c C-c	(フォロー、投稿記事編集画面で)記事を投稿する
o	記事を保存する

Directory モード

M-x dired <Return>	Dired モードを起動する
q	Dired モードを終了する
f	カーソル位置のファイルを読み込む。ディレクトリなら移動
v	カーソル位置のファイルを見る。元に戻るのは C-c
~	親ディレクトリに移動
~	バックアップファイル filename に削除マークを付ける
d	カーソル位置のファイルに削除マークを付ける
u	カーソル位置のファイルのマークを取り消す
x	マークファイル(削除など)を実行
C	カーソル位置のファイルのコピー
D	カーソル位置のファイルの削除
R	カーソル位置のファイルのリネーム
M	カーソル位置のファイルの chmod

C モード

M-x c-mode	C モードにする
M- C-\ (または M-x indent-region)	リージョンの範囲をインデントする

コンパイル

M-x compile <Return>	コンパイラを起動する
----------------------	------------

.emacs の設定例

```
(setq enable-double-n-syntax t)
```

「nn」で「ん」と変換するようにします。

```
(load "/NF/local/general/lib/mule/19.28/lisp/its/hira.el")
```

```
(its-defrule "string" "string2")
```

但し、emacs の場合は

```
(defrule "string" "string2")
```

string をローマ字入力すると string2 になるようにします。

例

```
(load "/NF/local/general/lib/mule/19.28/lisp/its/hira.el")
```

```
(its-defrule "dhi" "でい")
```

```
(its-defrule "thi" "てい")
```

```
(setq-default case-fold-search nil)
```

case-fold-search という検索時に大文字小文字を区別するかどうかのデフォルト値を設定します。この場合は全てのバッファにおいて区別します。

```
(global-set-key "\C-x@" 'compile)
```

C-x @のキー操作に対して compile のコマンド操作を割り当てます。因みに M- C-a なら "\e\C-a" と表します。

```
(autoload 'gnus "gnus" "Read Network News" t)
```

起動時に gnus 関数を自動的に読み込みます。

```
(setq kill-whole-line t)
```

ただし emacs の場合は

```
(defun kill-line-twice (&optional numlines)
```

```
  "Acts like normal kill except kills entire line if at beginning"
```

```
  (interactive "p")
```

```
  (cond ((or (= (current-column) 0)
```

```
            (> numlines 1))
```

```
    (kill-line numlines))
```

```
  (t (kill-line))))
```

```
(global-set-key "\C-k" 'kill-line-twice)
```

通常、一行削除は行頭で C-k を 2 回行なう必要がありますがこれで一回で済むようになります。

A.4 京都産業大学 FAQ(抄)

A.4.1 目次

はじめに (312 ページから)

FAQってなんですか？

この FAQ リストの最新版(全部)はどうしたら得られますか？

FAQ に載っていないトラブルなんですけど、どうすれば良いですか？

補助員ってなんですか。

UNIX 編

各種のコマンドに関すること (312 ページから)

コマンドの実行結果をプリントアウトしたいのですが？

grep の使い方、正規表現が良く分かりません。

実行中のプロセスの終了

LINKって何？

テキストのファイルがぐちゃぐちゃで読めません

Mule に関すること (315 ページから)

mule でのかな漢字変換で「nn」で「ん」と変換するにはどうすれば良いのですか？

Mule で単語登録したものの一覧は得られますか？

メールに関すること (316 ページから)

メールを相手が読んだかどうかを確認したいのですがどうすればよいですか？

シグネチャを付けるにはどうすれば良いのでしょうか？

相手のメールアドレスが判らないのですが、調べる方法はありますか？

特定の人から来たメールだけ別のフォルダに入れる方法はありませんか？

ネットニュースやメールの返事を書く時に引用符が付けられなくなっちゃいました。

フォルダ内のメールの番号を日付順にするにはどうしたらいいのですか？

ネットニュースに関すること (318 ページから)

ニュースグループのソートの仕方 (GNUS)

ネットニュースを読んでいたら、ニュースグループの頭に「*」が付いてしまいました。偶然の産物なので、消し方を知りません。どうすれば消えるのでしょうか。

時々相手が文頭や文末に自分のことを「安田@計算機センターです」などというように書いていますが、これはどういう意味ですか？

シグネチャを付けるにはどうすれば良いのでしょうか？

ネットニュースに記事を投稿したのですが、うまく投稿できたかどうかを確認するには、どうすれば良いのですか？

いろんなニュースグループがありますが、それぞれどんなものなのですか？

クロスポストってなんですか？

Followup-To: ってなんですか？

X に関すること (321 ページから)

リモートログインした機械でアプリケーションを立ち上げようとすると Can't open display が出て出ます。

それ以外のこと (321 ページから)

パーミッションって何ですか？

ディレクトリを他の人からも見られるようにしたいんですが

キーボードを打っても文字が化ける、あるいは何も表示されずとも動かないのですが

印刷したいのですが、どのプリンタを指定したら良いのでしょうか？

家のパソコンとデータをやりとりしたいのですが

Mac 編 (322 ページから)

マックにリセットスイッチはついていないのですか？

Mac でフロッピーが取り出せない。

Mac でディスクがロックされている。ディスクに保存できない。

Mac でことえり入力時にカタカナしか出ない。

Program 編 (323 ページから)

math.h を使ったらコンパイルできない。

その他 (323 ページから)

フロッピーディスクを買いたいのですが、

A.4.2 はじめに

Q. FAQってなんですか？

A. 何度も繰り返される質問をまとめた Q & A 集です。

Frequently asked question の略です。何度も同じ質問が出ると答える方も疲れるし、質問する方も気が引けてくるので、まずこれを見ることでそれを解決しようという意図があります。ここでは学内にあ
る計算機の環境に対するさまざまな質問に答えています。

Q. この FAQ リスト (の最新版) はどうしたら得られますか？

A. 次の内からお選び下さい。

- ・ 計算機センター相談窓口 (計算機運用補助員待機場所) まで取りに行く。
- ・ World Wide Web の各種ドキュメントにある F A Q を見る。
- ・ sandai.question に定期的に投稿されるものを見る。

Q. 補助員、または MiCS 補助員ってなんですか？

A. アルバイトの学生によるコンピュータ環境のお助け部隊です。

皆さんは学内のコンピュータ施設を使っていて、何か困った事があったことはないでしょうか。プリンタから印刷されてこない、コンピュータが使用中に止まってしまった、このアプリケーションの使い方が分からない、等々。そんなときにはぜひ補助員を呼んでください。

補助員とは正確には「計算機運用補助員」という名前です。計算機センターで学内のコンピュータのトラブルに対応するために待機している、その方面の知識を持った学生達のアルバイトです。「計算機運用補助員」ではイメージが固いので MiCS 補助員というニックネームを付けました。以下 MiCS 補助員と呼びます。

MiCS 補助員は学内で授業が行われている間中、複数の人間が勤務しており、少なくとも一人は計算機センターが管理している C1, C3, 11, 21, 31, 32, 51, 52 情報処理教室、それぞれの部屋を何かトラブルはないかと巡回を続けています。また少なくとも一人は計算機センターで常時待機しており、いつでもコンピュータ施設のトラブルに対する電話を受け付けています。あなたがもしどこかの情報処理教室でトラブルに遭遇した時、その部屋にタイミング良く補助員がいれば解決しますし、いなくても、各情報処理教室に設置されている内線電話を使って補助員に連絡すれば電話で、もしくはかけつけて問題を解決してもらえというわけです。

MiCS 補助員を呼ぶには先ほども書いたように各情報処理教室に設置されている内線電話を使って「2578」をプッシュしてください。すると「MiCS 相談窓口」というところにつながり、補助員がトラブルの状況を聞いてきます。もしそれが簡単な対処法で解決するような問題ならば電話で補助員が解決方法の指示を出します。そうでなければ補助員が何らかの方法で解決しますので指示を聞いて下さい。

また補助員は年度の初めに新たにスタッフの募集をしております。コンピュータをやってみようという意欲のある方、応募をお待ちしています！

- MiCS 補助員 -

業務内容：計算機センターが管理しているコンピュータ施設のトラブル全般の解決

業務期間：学内で通常講義のある期間全て

特典：計算機に対する知識が得られる

連絡方法：各情報処理教室に設置してあるコ - ドレスホンで 2578 をプッシュしてください

A.4.3 UNIX 編

各種のコマンドに関すること

Q. FAQ に載っていないトラブルなんですか、どうすれば良いですか？

A. 補助員や良く知っている人に聞きましょう。

計算機について分からないことがあれば、各情報処理教室にあるコードレス電話で 2578 をダイヤルして下さい。MiCS 補助員というナイスガイ&ナイスギャル達がお答えします。また、お急ぎでない場合や、専門的な質問は京都産業大学ローカルニュースグループの sandai.question に投稿して下さい。誰か知っておられる方からフォローが入るでしょう。

Q. コマンドの実行結果をプリントアウトしたいのですが？

A. いくつか方法があります。

まず script コマンドを利用する方法。例えば、

```
cc2000(121)% script filename
```

とすると exit を実行するまでのことが filename という file に書き込まれます。これは画面に出力される事がそのまま書き込まれます。

もう一つ、リダイレクトを利用する方法。

```
cc2000(127)% a.out > filename
```

とすると実行結果が filename という file に出力されます。

他には、既に行われて画面に結果が表示されているならば、それを Cut&Paste で

```
cat > filename
```

を使って filename のファイルにする事も出来ます。

後は lpr コマンドでプリンターに出力して下さい。

Q. grep の使い方、正規表現が良く分かりません。

A. grep はある文字列を含む行の一覧を出力するコマンドです。たとえば、

```
% grep hello sample.txt
```

または

```
% cat sample.txt | grep hellow
```

とすれば、sample.txt ファイル中の”hello”という文字列が出現する行が全部画面（正確には標準出力）に出てきます。

文字列にはワイルドカード（「*」や「?」）も使用可能です。

サポートしている正規表現は

^: 行頭に Match

\$: 行末に Match

.: CR (改行 Code) 以外の任意の 1 文字に Match、2 Byte Code も Document の Script に応じ 1 文字として認識

です。このように使います。

例: 1: sample document 12345
2: 12345
3: 123456789 this is a test
4: abcdefg9

```
grep '^123' で、2: 3: がヒット (先頭から 123 があるもの)
grep '123' 1: 2: 3: (123 があるもの)
grep '9$' 4: (9 で終るもの)
grep '9' 3: 4: (9 を含むもの)
grep 'a...e' 1: 4: (a に続いてどんな文字でもいいから
3 文字あって、e があるもの)
grep 'ae' 全くヒットしない (ae があるもの)
grep 'a*e' 全くヒットしない (ae, aae, aaaa, ... を含むもの)
grep 'a.*e' 1: 3: 4: (a に続いてどんな文字でもいいから
何文字かあって (ゼロ文字でも良い)
e があるもの)
```

Q. 実行中のプロセスの終了

A. ps コマンドと kill コマンドを使用します。

とりあえず ps コマンドを実行します。すると以下のようなものができます。

```
cc2000(82)% ps
  PID TT      S   TIME COMMAND
25830 pts/10  S   0:00 -tcsh
25138 pts/12  0   0:00 ps
29506 pts/12  S   0:01 -tcsh
25931 pts/13  S   0:00 -tcsh
26171 pts/13  S   0:41 mule
```

これで目的とする物がでてこないなら次のようにします。但しこれは cc2000 の場合ですのでそれ以外の機種は下記の表に対応するオプションを指定して下さい。

```
-----
ホスト名      O S      オプション      備考
cc2000        Solaris2  -axu             /usr/ucb/ps の場合
               /bin/ps の場合は -ef
cssol????    Solaris2  -aux             cc2000 と同じ
ccns0???     BSD4.2    -axu
--           標準的な SVR4  -ef
--           標準的な BSD   -axu             SunOS なら -xu で良い
-----
```

```
cc2000(83)% ps -aux | grep ozaki
ozaki  24908  0.2  0.1  972  836 pts/12  0 14:06:57  0:00 ps -aux
ozaki  24909  0.1  0.1  708  484 pts/12  S 14:06:57  0:00 grep ozaki
ozaki  29506  0.1  0.2 1080  996 pts/12  S 09:11:17  0:01 -tcsh
ozaki  25830  0.0  0.2 1084  948 pts/10  S 08:30:45  0:00 -tcsh
ozaki  25931  0.0  0.2 1080  940 pts/13  S 08:31:09  0:00 -tcsh
ozaki  26171  0.0  0.5 4472 3280 pts/13  S 08:31:19  0:41 mule
ozaki  26196  0.0  0.2 1080  952 pts/14  S 08:31:52  0:01 -tcsh
```

このようにすると全てのプロセスから ozaki さんのプロセスを表示します。パイプより前の部分でシステム中の全プロセスをリストして、パイプより後ろの部分で前半の結果から自分のユ - ザ名 (例では ozaki) の文字列を含む行だけ抜き出して表示させている訳です。これで自分のプロセスが表示されます。ですから上記の ozaki を自分のユ - ザ名に置き換えると自分のプロセスを表示してくれます。

そして一番左の数字がプロセス番号ですので、殺したい (終了させたい) プロセス番号 (PID) を指定した kill コマンドを実行します。

```
cc2000(83)% kill 26171
```

これで、もし止まらない場合はもう少し強力的に止めるオプションをつけます。

```
cc2000(83)% kill -1 26171
```

単なる kill (実は kill -15 と同じ), kill -1, kill -2, kill -9 の順に強力的になりますので、順に試してください。

Q. LINKって何?

A. ファイルを扱う方法の一つです。

LINK にはシンボリックリンクとハードリンクという2種類が存在します。ファイルというのはシステム的に見ると、2つに分割して考えることができます。

- ・ 現実にディスクに書き込んである内容そのもの。
- ・ その開始位置を指し示しているポインタ。

普段私たちが目にしているファイル名は2つめのポインタにあたります。

シンボリックリンクとはファイル名を指すファイル名です。下記のように file1 を指す file2 のようなものです。file2 を参照すると、file1 を見にいき、それは file の内容を指しているので無事 file の内容を参照できる訳です。

File の内容

```
file1  file2
```

ハードリンクとはファイルの内容を指し示すもう一つの名前をつけてやる事をいいます。

File の本体

file1 file2

通常使うのはシンボリックリンクの方です。リンクの利点は主に二つあります。一つはディレクトリ構造の離れた所にあるファイルを指定してアクセスし易くする事。もう一つはコピーと違ってファイルの実態は一つなのでディスク容量を節約することが出来ることです。ハードリンクは普通ディレクトリに対して使うことが多いです。例えば、プログラムのコンパイル等でライブラリの指定をリンクで行ってれば、それを変える事でライブラリを簡単に切り換える事もできます。

シンボリックリンクの設定方法

```
% ln -s file1 file2
```

ここで file1: 元のオリジナルファイル名

file2: 元ファイル名 (file1) を指し示すようにしたいファイル名

この時に file1 を消すと file2 は指し示すファイルが無くなるので名前だけ残って使えないファイルになってしまいます。

File の本体	file1 を消す	File の本体
file1 file2		??? file2

それに対してハードリンクは

```
% ln file1 file2
```

と実行します。この場合、file1 と file2 の立場は同等で、実体は同じで名前を二つ持っている状態になります。この時は file1、file2 のどちらかを消してももう一つの側でファイルにアクセスすることが出来ます。

File の本体	file1 を消す	File の本体
file1 file2		file2

Q. テキストのファイルがぐちゃぐちゃで読めません

A. ファイルの文字コードを変換します。

漢字やひらがな等のアルファベット 2 文字分の大きさのある文字 (全角文字) は規格によりその文字のコード (文字を記号とみなした通し番号) が違うので違う規格で読むと全然違う文字が表示されてしまいます。主に本学の環境では EUC コードを用いていますがメールやネットニュースでは JIS コードも用いられています。cc 環境では nkf という Network Kanji code conversion Filter があります nkf コマンドを使ったコード変換は次のようにして行ないます。

1. ファイルを一旦別の名前にして、
2. nkf で 目的のコードに変換し、それを 元のファイル名に書き出し、
3. 別の名前にしておいたファイルを消去する

というところです。以下に具体的な手続きを。

1. cc2000(20)% mv filename1 filename2
2. 目的に合わせて次の何れかを選んで下さい。
それぞれ、j(JIS) e(EUC) s(ShiftJIS) に変換します。
cc2000(21)% nkf -j filename2 > filename1
cc2000(21)% nkf -e filename2 > filename1
cc2000(21)% nkf -s filename2 > filename1
3. cc2000(22)% rm filename2

Mule に関すること

Q. mule でのかな漢字変換で「nn」で「ん」と変換するにはどうすれば良いのですか？

A. .emacs に一行書き加えます。

まず


```
cc2000(01)% mule .emacs
```

として下さい。これで .emacs という mule の環境設定ファイルを読み込み mule が起動します。今まで何も変更していない人は

```
;;  
;;      Emacs common settings.  
;;  
  
(load "/NF/home/common/settings/_emacs.load")
```

このような内容になっていると思います。

ここで、(load... の行の次の行に

```
(setq enable-double-n-syntax t)
```

を書いて下さい。

```
;;  
;;      Emacs common settings.  
;;  
  
(load "/NF/home/common/settings/_emacs.load")  
(setq enable-double-n-syntax t)
```

このようになりますね。これを保存して終了します。すると次に mule を起動した時には「nn」で「ん」が出るはずですが。

なお、emacs ならば上記の代わりに

```
(defrule "nn" "ん")
```

と書いて下さい。

Q. Mule で単語登録したものの一覧は得られますか？

A. dtoa コマンドを使います。

```
cc2000(80)% dtoa ~/Wnn/private  
とすれば一覧を得られます。
```

また、大がかりに辞書を編集したい時は

```
% dtoa ~/Wnn/private > private.txt  
% private.txt を mule など編集する。  
% atod ~/Wnn/private < private.txt
```

という手順を用いることもできます。ただし、この方法は間違ると辞書を壊してしまうかもしれませんので注意して下さい。

メールに関すること

Q. メールを相手が読んだかどうかを確認したいのですがどうすればよいですか？

A. 自動的に相手が読んだら確認できるようなシステムはありません。

もし必要ならメールに読んだら返事をしてくれるよう書いておけば良いでしょう。
また、NeXT メールなら受領証という機能がありますのでそれで確認することができます。

Q. シグネチャを付けるにはどうすれば良いのでしょうか？

A. あらかじめファイルを作っておいてそれを挿入します。

前もってシグネチャをファイルに書いて作っておきます。そして必要に応じてその内容を取り込みます。そうすると毎回タイプする必要がなくなりますね。

mule を使ってメールを書いている人を対象に説明します。例えば sig というファイル名で 1 ~ 4 行程度のシグネチャを作っておきます。そしてメールを書き終わった時に C-x i と (コントロールキーを押しながら x キーを押して、コントロールキーを離して i キーを押す) すると、下に Insert file: ~/ の様なメッセージが出ると思います。出たら、そのメッセージに続けて sig とタイプします。

Insert file: ~/sig

となりましたか? になったらリターンキーを押して下さい。無事にシグネチャがカーソルのあった位置へ書き込まれたと思います。なお、余り長いシグネチャはマナーに反しますので4行までにしましょう。

Q. 相手のメールアドレスが判らないのですが、調べる方法がありますか?

A. 基本的に調べる方法はありません。

ただし cc 環境ならば whois コマンドを利用して調べる方法があります。

Q. 特定の人から来たメールだけ別のフォルダに入れる方法はありませんか?

A. 読み終えたメールを振り分けることが出来ます。

mule でメールを読んでいる時に o を押すと

Destination folder? +

と聞いてきます。ここで、そのメールを保存したいフォルダを入力して<Return>を押すと振り分けてくれます。指定したディレクトリが存在しない場合は

Folder +hoge hoge does not exist. Create it? (y or n)

と聞いてきますので y と答えて下さい。

まとめて行ないたい場合は、コマンドで行ないます。例として、suzu3 から来たメールをフォルダ suzu3 に入れる場合

```
cc2000(81)% refile 'pick -from suzu3' +suzu3  
( ' と ' を間違えないように! )
```

これで ~/Mail/inbox のメールのうち、suzu3 から来たメールが全て ~/Mail/suzu3 に移されます。~/Mail/suzu3 が存在しなければ

```
Create folder "/NF/home/syokuin0/ozaki/Mail/suzu3"?
```

と聞いてきますので y と答えれば OK です。

Q. ネットニュースやメールの返事を書く時に引用符が付けられなくなっちゃいました。

A. supercite がうまく動いていないのです。

具体的にはメールを読んだ後、それを引用してメールを書こうとして C-c C-y とすると

```
Wrong type argument: listp, " . "
```

と表示される場合です。

ホームディレクトリ以下に、.src.el というファイルがあると思いますが、これが supercite という引用符号を付けるプログラムが使う設定ファイルです。

今まで定義した引用記号の設定が失われてもいいのであれば、このファイルを削除してやればうまく行くようになると思います。

設定が失われるのが嫌であれば、このファイルの中を覗いて、怪しげな部分を手で修正する (mule で開いて修正、保存する) というのが良いと思います。

Q. フォルダ内のメールの番号を日付順にするにはどうしたらいいのですか?

A. mule + mh-e の機能を使います。

mule or emacs + mh-e を使ってるのでしたら、そのフォルダを visit している状態 (メールの subject の一覧がでている状態) で

```
M-x mh-sort-folder <return>
```

をすると日付順に番号をつけ直してくれると思います。

mule や emacs で何かする機能が無いかどうかを調べるには「並びかえる」は「sort」なので C-h a sort <Return> とすると「sort」と言う文字列を含んだ関数の一覧が表示されます。その一覧の中で「mh」や「folder」と言う文字列を含むものを探すと「mh-sort-folder」を見つけることが出来ます。

ネットニュースに関すること

Q. ニュースグループのソートの仕方 (GNUS)

A. 直接順番を入れ換えるか、ファイルをソートします。

ニュースグループ選択画面のニュースグループを編集して行を入れ変えるとその順番になります。

```
:
9: sandai.comp.announce
4: sandai.comp
1: sandai.general
11: sandai.rec
:
```

例えばこのようなニュースグループの並びになっていて、sandai.rec を sandai.comp の上に持ってきたい、というような場合は、まずカーソルを sandai.rec の行の先頭 (1 カラム目) に移動させます。ここで C-k (コントロールキーを押しながら k) を二回実行すると sandai.rec の行が消えます。消えたら今度は sandai.comp の行の先頭にカーソルを移動させて C-y を実行します。

```
:
9: sandai.comp.announce
11: sandai.rec
4: sandai.comp
1: sandai.general
:
```

こうなりましたね。これで今後もこの順序でニュースグループが表示されます。他にはコマンドラインからソートする方法もあります。

sort <元ファイル名> -o <出力ファイル名>

でアルファベット順にソートできます。そしてニュースグループが書いてあるファイルは ~/.newsrc-cc2000 なので、自分のホームディレクトリで

```
cc2000(20)% sort .newsrc-cc2000 -o .newsrc-cc2000
```

というコマンドを実行してやればニュースグループをソートすることが出来ます。

!!! やってはいけないこと !!!

```
cc2000(20)% sort .newsrc-cc2000 > .newsrc-cc2000
```

こういう書き方は一見出来そうな気がするのですが、> .newsrc-cc2000 の部分で書き込み場所を先に確保してしまうので .newsrc-cc2000 が初期化され無くなってしまいます。無くなった物をソートしても何も残るはずは無く、.newsrc-cc2000 というファイルは中身なしのファイルになってしまいます。

Q. ネットニュースを読んでいたら、ニュースグループの頭に「*」が付いてしまいました。偶然の産物なので、消し方を知りません。どうすれば消えるのでしょうか。

A. gnus で読んでいる時に、u を押してしまったのではないのでしょうか？

記事を読んでいる時に u を押すと、mule の上の画面のその NG の記事一覧の一番左にあるマークが - になって、既読で記事を消去するのを一時保留します。(普通は、ここが D になって q で抜けると、D マークがついた記事は既読として消去されてしまいますよね。)それで、NG 一覧の画面では、そういうファイルが NG の中にあると、その横に*をつけて、以上の処理をした記事がありますよと、知らせます。だから、もういちどその記事を読んだことにしてやるために記事の場所で'd'を押すと既読マークがつくので、すべて解決となるはずですよ。

Q. 時々相手が文頭や文末に自分のことを「尾崎@計算機センターです」などというように書いていますが、これはどういう意味ですか？

A. これは「尾崎」さんが「計算機センター」の人ですという意味です。

要は「@」マークが区切りとなっていて、個人@所属を表します。こういう書き方の元はメールアドレスからきています。メールアドレスは honyarara@cc.kyoto-su.ac.jp という風になっていますね。これは honyarara さんが jp(日本)の ac(大学・研究機関)の kyoto-su(京都産業大学)の cc(ホストマシン名)の人ですという意味です。きちんと個人@所属になっていますね。尚、「個人%コメント等@所属」という表記もあるようです。これにも由来はあるのですがここではふれません。参考程度に覚えておいてもいいでしょう。

Q. シグネチャを付けるにはどうすれば良いのでしょうか？

A. あらかじめファイルを作っておいてそれを挿入します。

前もってシグネチャをファイルに書いて作っておきます。そして必要に応じてその内容を取り込みます。そうすると毎回タイプする必要がなくなりますね。

mule を使ってメールを書いている人を対象に説明します。例えば sig というファイル名で 1 ~ 4 行程度のシグネチャを作っておきます。そしてメールを書き終わった時に C-x i と (コントロールキーを押しながらか x キーを押して、コントロールキーを離して i キーを押す) すると、下に Insert file: ~/ の様なメッセージが出ると思われます。出たら、そのメッセージに続けて sig とタイプします。

```
Insert file: ~/sig
```

となりましたか？ なかったらリターンキーを押して下さい。無事にシグネチャがカーソルのあった位置へ書き込まれたと思います。なお、余り長いシグネチャはマナーに反しますので 4 行までにしましょう。

Q. ネットニュースに記事を投稿したのですが、うまく投稿できたかどうかを確認するには、どうすれば良いですか？

A. その記事を自分で読みましょう。

GNUS を使っているならニュースグループ選択画面で g キーを押す、または GNUS を一度終了して、もう一度起動すると新しく投稿された記事を読み込むのでそれで確認して下さい。ただし投稿後しばらくしないと記事が処理されません (最大 15 分) ので注意して下さい。

Q. いろんなニュースグループがありますが、それぞれどんなものなのですか？

A. 以下に一覧を挙げておきます。

京都産業大学に限ったニュースグループ

sandai 京都産業大学からのみ読み書き出来るニュースグループ。まずはここで慣れてから fj.* 等を読み書きすると良いでしょう。

京都産業大学以外の一般的なニュースグループ

fj 主に日本語によって論議をするためのもの。特定の組織や団体が管理・運営をしている訳ではなく、利用者全員の合意に基づいて運営されている。現在のところ営利目的の記事の投稿はできない。

tnn IJ が主催する営利目的の記事を投稿できるニュースグループ

jp 日本の IP 接続組織用のニュースグループ

comp USENET のうちコンピュータに関する話題用

news USENET のうち NetNews に関する話題用

rec USENET のうち趣味に関する話題用

sci USENET のうち科学に関する話題用

soc USENET のうち社会問題に関する話題用

talk USENET のうち各種の論議用

misc 上記以外の USENET の話題用

alt USENET ニュースグループ群に代わる、各種の話題用。非常に緩いルールしかなく、かなり自由にニュースグループを作成して利用できる。

bionet 医学・生物学の話題用

biz ビジネスの話題用

gnu FSF(フリーソフトウェアファウンデーション) やその製品 (GNU プロダクト) に関する話題用

k12 アメリカにおけるネットワークを使った教育の実験のためのニュースグループ

vmsnet DEC VAX/VMS OS に関する話題用

Q. クロスポストってなんですか？

A. 複数の NG に同じ記事を投稿する時に使用する機能です。

クロスポストとはネットニュースの記事をポストする時、ポスト先のニュースグループを複数指定 (通常 2 つか 3 つ) して、同じ記事を各ニュースグループに投稿するものです。各ニュースグループに個別に投稿するのに比べて、記事の実体は一つで済みますので、ネットワーク資源の節約になります。

方法は、通常のポスト時に Newsgroup の指定行を

```
Newsgroups: sandai.test, sandai.junk
```

のようにカンマで区切って複数のニュースグループを書きます。この状態で投稿すると指定した各ニュースグループに投稿します。この状態の記事にフォローを入れた場合、Newsgroups の指定はそのまま受け継がれるので全てのニュースグループに同じフォローを入れる事になります。(このフォロー先を一意に決めたい時はフォローアップを使います。)

通常クロスポストを使うのは何箇所かのニュースグループで同時に議論したいときと、そのニュースグループで議論を続けるのにふさわしくない記事に対して、他のニュースグループにふる時につかいます。前者の場合は議題が幾つかのニュースグループにまたがっていて、どうしてもそれら全てのニュースグループの読者の意見を交えて議論したい、という場合です。通常のポストの際に Newsgroups に上記のように二つ以上のニュースグループを指定して下さい。

後者の場合は、フォローして、そのニュースグループと新しいニュースグループとのクロスポストにして、フォローアップを新しいニュースグループにします。例えば sandai.question のある記事に対して sandai.junk の方が適切だ、と思ったらフォローする際に次のようにします。まず F キーを押して引用符を決めるとこの様になりますね。

```
- - - ここから - - -  
In-reply-to: ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp's message of 26 Jan 1995 12:39:48 +0900  
Newsgroups: sandai.question  
Subject: Re: .emacs  
Distribution: local  
References: <TANIMA.95Jan26114834@cssol020.kyoto-su.ac.jp>  
           <OZAKI.95Jan26123945@cc2000.kyoto-su.ac.jp>  
--text follows this line--  
(引用した本文)  
- - - ここまで - - -
```

通常、「-text follows this line-」より上の部分は書き換えないのですが、Newsgroups: 行の変更と、Followup-To: 行の追加を行ないます。

```
Newsgroups: sandai.question, sandai.junk  
Followup-To: sandai.junk
```

この様に修正、追加します。次のようになりましたね。

```
- - - ここから - - -  
In-reply-to: ozaki@cc.kyoto-su.ac.jp's message of 26 Jan 1995 12:39:48 +0900  
Newsgroups: sandai.question, sandai.junk  
Followup-To: sandai.junk  
Subject: Re: .emacs  
Distribution: local  
References: <TANIMA.95Jan26114834@cssol020.kyoto-su.ac.jp>  
           <OZAKI.95Jan26123945@cc2000.kyoto-su.ac.jp>  
--text follows this line--  
(引用した本文)  
- - - ここまで - - -
```

二行以外は変更ありません。これでいつものようにポストするとその記事は sandai.question と sandai.junk に投稿され、それぞれの記事を見た人がそれにフォローしようとするニュースグループに sandai.junk が選択されます。

そして、一言、「sandai.junk に振ります」と書き添えて下さい。こうすると sandai.question の読者は sandai.junk に議論の場が移るんだ、ということが分かりますし、sandai.junk の読者は sandai.question から移ってきた議論だ、ということが分かります。

Q. Followup-To: ってなんですか？

A. 記事に対してのフォロー先のニュースグループを決めるものです。

例えば sandai.test にある記事に

```
Followup-To: sandai.junk
```

となっていたらその記事のフォローは sandai.junk に投稿されます。

X に関すること

Q. リモートログインした機械でアプリケーションを立ち上げようとする `Can't open display` が出て出ます。

A. 貴方が使っている機械の環境を変えなければいけません。

これはそのリモートログインしている機械が貴方の使っている機械に表示しようとしたけれども出来ませんでした、という事です。Xウィンドウはネットワークを介して繋がっている機械に画面を表示する為に作られたウィンドウシステムで、その為、何処に表示するのか、何処から自分の画面への表示を許すのか、を指定してやる必要があります。`Can't open display` とは表示しようとしている機械に表示出来ませんでした、ということです。他からの画面の書き込みを許すには `xhost` というコマンドを使います。

`% xhost 機械名`

とするとその機械からの表示を許可します。何処に表示するかは環境変数の `DISPLAY` で指定するのでログインした先のコマンドラインで

`% setenv DISPLAY 自分の使っている端末の名前:0.0`

と入力します。これで、目の前の端末が、ログイン先の機械の画面を表示出来るようになります。

例

```
cssol011(81)% xhost cc2000
```

```
cc2000 being added to access control list
```

```
cssol011(82)% rlogin cc2000
```

```
Last login: Thu Sep 22 11:00:56 from cssol031
```

```
tcsh: using dumb terminal settings.
```

```
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.3 Generic September 1993
```

```
cc2000(81)% setenv DISPLAY cssol011:0.0
```

(下線部が入力部分)

`setenv` の `0:0` は 0 番目のディスプレイの 0 番目の画面という意味で、この意味のよく解らない人はおまじないとして打っていただければ O.K.

それ以外のこと

Q. パーミッションって何ですか？

A. ファイルに対するアクセス権の事です。

パーミッションとはファイルに与えられるアクセス権で、オーナー、グループ、他人の三種類の人に対してリード権、ライト権、実行権があるか無いかで決めます。詳しくはコンピュータガイド インターネット編「UNIX もっともっと ファイルのアクセス権」を見て下さい。

Q. ディレクトリを他の人からも見られるようにしたいんですが

A. ディレクトリのアクセス権を変更します。

そのディレクトリに対するアクセス権を変えます。読めるようにするにはリード権と実行権を与えます。さらに書き込めるようにするにはライト権を与えます。あるグループに対して解放するなら所属グループを変更します。

この文章を読んで意味が分からない人はセキュリティ上、危険ですので少し勉強した方が良いと思われれます。例えば自分宛のメールを覗かれたり大切なデータをいじられたりする危険性があります。自信のない人は分かっている人に見て貰って下さい。

Q. キーボードを打っても文字が化ける、あるいは何も表示されずまともに動かないのですが

A. 状況として3通り考えられます。

一つは何かバイナリデータなどの普通表示できないデータを画面に表示してしまった場合、端末設定が変わってしまい、以後の文字がすべて化けてしまう場合。そしてカナキーや CAPS キーなどの特殊なキーを押してしまった場合。もう一つは `C-s`(コントロールキーを押しながら `s` キーを押す) の場合です。順に対処法を。

一番目の場合

- ・端末状態をリセットする
- ・端末エミュレータを再起動してやる

二番目の場合

カナキーや CAPS キーを解除する。(もう一度押す)

三番目の場合

C-q (コントロールキーを押しながら q キーを押す) をする。

Q. 印刷したいのですが、どのプリンタを指定したら良いのでしょうか？

A. ccinfo コマンドで参照できます。

% ccinfo<Return>で ccinfo コマンドを起動して、「cc 環境の設備について」の「プリンタの配置について」を見て下さい。

C3 情報処理教室の NeXT についてはモノクロの印字は綺麗で速いレーザープリンタの TAKE や UME で、どうしてもカラーでないといけないものは遅いけどカラー印刷のできる MATSU で行って下さい。プリンタの場所は MATSU と TAKE が C3、UME が C4 情報処理教室です。

Q. 家のパソコンとデータをやりとりしたいのですが

A. コンピュータガイド -インターネット編- FTP の節をお読み下さい。

A.4.4 Mac 編

Q. マックにリセットスイッチはついていないのですか？

A. キーボードによるリセットがあります。

ctrl とアップルキー (花文字の奴) を押しながら電源を入れる時に押す、キーボードの上にある四角いボタンを押します。(一部機種では使えません)

Q. Mac でフロッピーが取り出せない。

A. フロッピーに保存された書類からアプリケーションを立ちあげていませんか？

作業中に書類を保存して、一旦アプリケーションを終了させてください。取り出せるようになります。もし、フロッピーが入ったままハングしたときは、アップル+シフトキー+数字の 1 を試してください。それで駄目なら、マウスのボタンを押したままリブートしてください。大概はこれで吐き出されるはずですが。

ちなみに、この 2 つは Macintosh での、フロッピーディスクの強制 eject 方法です。もし、それでも駄目なら、もう一度、アップル+シフトキー+数字の 1 を押してください。

どうしても無理なら MiCS 相談室 (内線 2578) までお電話下さい。補助員が対処しに行きます。

Q. Mac でフロッピーディスクがロックされている。フロッピーディスクに保存できない。

A. フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっていませんか？

フロッピーディスク (差し込む方向に持って、そのまま手を返してください。向かって右側にあります) のスライド式の黒い小さなノブ (ライトプロテクトノッチ) を書き込み禁止状態 (穴が空いている状態) にしていませんか？

一旦フロッピーを取り出して、確認してください。もしそうになっていなくとも、これで直る場合もあります。もう一度お試下さい。

どうしても無理なら、MiCS 相談室 (内線 2578) までお電話下さい。補助員が対処しに行きます。

Q. Mac でことえり入力時にカタカナしか出ない。

A. キーボード左下の Capslock キーが押されています。

もう一度 CapsRock キーを押して、上に飛び出た状態 (押し込まれていない状態) にして下さい。それでも直らなければ、鉛筆メニューから「操作パレット表示」を選んで、操作パレットの「あ」という文字のボタンを押して下さい。シフトキーを押しながら打つと、カタカナが出ます。

A.4.5 Program 編

Q. math.h を使ったらコンパイルできない。

A. UNIX 上で C 言語で、sin 関数などのいわゆる math.h を include するようなプログラムを cc しようとした時 NeXT ではそのままコンパイル出来るのですが、cc2000 や cssol や SUN では数学ライブラリを組み込む -lm オプションが必要です。

例: cc test.c -lm

それでも出来ない時... プログラムミスかな? (^_^;)

A.4.6 その他

Q. フロッピーディスクを買いたいのですが、

A. 基本的に電気屋さんやパソコンショップで売っています。種類は 3.5' 2HD (サンテンゴインチ ニイエイチディー) と呼ばれるものです。

学内では丸善などで取り扱っています。但し少し市場より値が高いため大量に買うのなら他のパソコンショップなどで買う方が良いでしょう。また、異なる機種間でデータのやり取りをされるのであれば 3.5' 2DD (ニイディーディー) と呼ばれる種類の方がいい場合もあります。

付録B章 情報処理教室の利用について

学生便覧より抜粋

計算機を利用しての授業や自習のため、学内には10か所の情報処理教室を設置しています。この情報処理教室に設置している機器は、計算機システムの端末として利用できる他、パーソナル・コンピュータ（パソコン）としても利用できます。利用できるソフトウェアは各情報処理教室ごとに異なりますので、その教室を管理する所管の事務室または計算機センター事務室で確認してください。

(1) 情報処理教室の利用機器等

建物	教室名	機器		所管
計算機科学研究所棟 2階	C1 情報処理教室	FMV-466D	32台	計算機科学研究所
計算機科学研究所棟 3階	C2 情報処理教室	PanaStation	22台	理学部
計算機科学研究所棟 3階	C3 情報処理教室	NeXT station	15台	計算機科学研究所
計算機科学研究所棟 4階	C4 情報処理教室	NeXT station	6台	理学部
1号館 2階	11 情報処理教室	PowerMacintosh6100	90台	一般教育研究センター
2号館 4階	21 情報処理教室	Ultra1	40台	理学部
3号館 2階	31 情報処理教室	PowerMacintosh6100	44台	外国語学部
3号館 1階	32 情報処理教室	PowerMacintosh8500	98台	計算機センター
5号館 1階	51 情報処理教室	Digital PC	35台	経済学部
5号館 2階	52 情報処理教室	Compaq Contura	45台	経営学部

(2) 利用資格

本学の学生であれば自由に利用することができますが、利用機器によっては、計算機利用資格 (ID) が必要となります。計算機利用資格の申請は、計算機センターで行ってください。

(3) 利用時間

平日 午前8時45分～午後8時まで

土曜日 午前8時45分～午後5時まで

情報処理教室の利用は授業を優先しますが、授業のない時間帯は研究や自習として自由に利用できます。授業に利用される時間帯は、「情報処理教室利用時間割表」として各建物の掲示板に掲示しますので、授業の有無を確認のうえ、利用してください。なお、日曜日・祝日、夏期一斉休業期間および年末年始期間には使用できません。その他、保守等によるシステム停止日、清掃等による閉室日は、その都度掲示で連絡します。

(4) 入室方法

入室は、学生証を情報処理教室出入口のカード読み取り装置に通し開錠のうえ、入室してください。なお、C2、C3、C4、11 情報処理教室の利用時間は開錠しています。ただし平日の午後4時30分以降および

土曜日の正午以降に C2、C3、C4 の情報処理教室を利用する場合は、事前に計算機科学研究所事務室に届け出のうえ鍵を借用してください。また、52 情報処理教室への入室は常時鍵での開閉となりますので、経営学部事務室で鍵を借用してください。

(5) 利用心得

利用者は、次に掲げる利用心得を遵守してください。

1. 利用後は、機器の電源を切ること。
2. 最終利用者は、室内を消灯すること。
3. C2、C3、C4 および 52 情報処理教室での最終利用者は施錠し、鍵を借用した事務室の扉の郵便受けに返却すること。
4. 教室内のマニュアルおよび備品の持ち出しの禁止
5. 教室内での飲食及び喫煙の禁止
6. その他所管の学部事務室から特に指示のあった場合は、これに従うこと。

付録C章 著作権法 (抜粋)

出典 ニフティサーブ 法令データベース

タイプミスなどの誤りが含まれている可能性があることを予めご了承ください。

(昭和四十五年五月六日法律第四十八号)

昭和四十六年一月一日

平成五年一月一日法律第八九号

著作権法(明治三十二年法律第三十九号)の全部を改正する。

第一章 総則

第一節 通則

(目的)

第一条 この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一 著作物 思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

二 著作者 著作物を創作する者をいう。

三 実演 著作物を、演劇的に演じ、舞い、演奏し、歌い、口演し、朗詠し、又はその他の方法により演ずること(これらに類する行為で、著作物を演じないが芸術的な性質を有するものを含む。)をいう。

四 実演家 俳優、舞踊家、演奏家、歌手その他実演を行なう者及び実演を指揮し、又は演出する者をいう。

五 レコード 蓄音機用音盤、録音テープその他の物に音を固定したもの(音をもつばら映像とともに再生することを目的とするものを除く。)をいう。

六 レコード製作者 レコードに固定されている音を最初に固定した者をいう。

七 商業用レコード 市販の目的をもつて製作されるレコードの複製物をいう。

八 放送 公衆によつて直接受信されることを目的として無線通信の送信を行なうことをいう。

九 放送事業者 放送を業として行なう者をいう。

九の二 有線放送 有線送信のうち、公衆によつて同一の内容の送信が同時に受信されることを目的として行うものをいう。

九の三 有線放送事業者 有線放送を業として行う者をいう。

十 映画製作者 映画の著作物の製作に発意と責任を有する者をいう。

十の二 プログラム 電子計算機を機能させて一の結果を得ることができるようこれに対する指令を組み合わせたものとして表現したものをいう。

十の三 データベース 論文、数値、図形その他の情報の集合物であつて、それらの情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したものをいう。

十一 二次的著作物 著作物を翻訳し、編曲し、若しくは変形し、又は脚色し、映画化し、その他翻案することにより創作した著作物をいう。

十二 共同著作物 二人以上の者が共同して創作した著作物であつて、その各人の寄与を分離して個別的に利用することができないものをいう。

十三 録音 音を物に固定し、又はその固定物を増製することをいう。

十四 録画 映像を連続して物に固定し、又はその固定物を増製することをいう。

十五 複製 印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により有形的に再製することをいい、次に掲げるものについては、それぞれ次に掲げる行為を含むものとする。イ 脚本その他これに類する演劇用の著作物 当該著作物の上演、放送又は有線放送を録音し、又は録画すること。ロ 建築の著作物 建築に関する図面に従つて建築物を完成すること。

十六 上演 演奏(歌唱を含む。以下同じ。)以外の方法により著作物を演ずることをいう。

十七 有線送信 公衆によつて直接受信されることを目的として有線電気通信の送信(有線電気通信設備で、その一部分の設置の場所が他の部分の設置の場所と同一の構内(その構内が二以上の者の占有に属している場合には、同一の者の占有に属する区域内)にあるものによる送信を除く。)を行うことをいう。

- 十八 口述 朗読その他の方法により著作物を口頭で伝達すること（実演に該当するものを除く。）をいう。
- 十九 上映 著作物を映写幕その他の物に映写することをいい、これに伴つて映画の著作物において固定されている音を再生することを含むものとする。
- 二十 頒布 有償であるか又は無償であるかを問わず、複製物を公衆に譲渡し、又は貸与することをいい、映画の著作物又は映画の著作物において複製されている著作物にあつては、これらの著作物を公衆に提示することを目的として当該映画の著作物の複製物を譲渡し、又は貸与することを含むものとする。
- 二十一 国内 この法律の施行地をいう。

略

第二章 著作者の権利

第一節 著作物

（著作物の例示）

第十条 この法律にいう著作物を例示すると、おおむね次のとおりである。

- 一 小説、脚本、論文、講演その他の言語の著作物
 - 二 音楽の著作物
 - 三 舞踊又は無言劇の著作物
 - 四 絵画、版画、彫刻その他の美術の著作物
 - 五 建築の著作物
 - 六 地図又は学術的な性質を有する図面、図表、模型その他の図形の著作物
 - 七 映画の著作物
 - 八 写真の著作物
 - 九 プログラムの著作物
- 2 事実の伝達にすぎない雑報及び時事の報道は、前項第一号に掲げる著作物に該当しない。
- 3 第一項第九号に掲げる著作物に対するこの法律による保護は、その著作物を作成するために用いるプログラム言語、規約及び解法に及ばない。この場合において、これらの用語の意義は、次の各号に定めるところによる。
- 一 プログラム言語 プログラムを表現する手段としての文字その他の記号及びその体系をいう。
 - 二 規約 特定のプログラムにおける前号のプログラム言語の用法についての特別の約束をいう。
 - 三 解法 プログラムにおける電子計算機に対する指令の組合せの方法をいう。

（二次的著作物）

第十一条 二次的著作物に対するこの法律による保護は、その原著物の著作者の権利に影響を及ぼさない。

（編集著作物）

第十二条 編集物（データベースに該当するものを除く。以下同じ。）でその素材の選択又は配列によつて創作性を有するものは、著作物として保護する。

2 前項の規定は、同項の編集物の部分を構成する著作物の著作者の権利に影響を及ぼさない。

（データベースの著作物）

第十二条の二 データベースでその情報の選択又は体系的な構成によつて創作性を有するものは、著作物として保護する。

2 前項の規定は、同項のデータベースの部分を構成する著作物の著作者の権利に影響を及ぼさない。

（権利の目的とならない著作物）

第十三条 次の各号のいずれかに該当する著作物は、この章の規定による権利の目的となることができない。

- 一 憲法その他の法令
- 二 国又は地方公共団体の機関が発する告示、訓令、通達その他これらに類するもの
- 三 裁判所の判決、決定、命令及び審判並びに行政庁の裁決及び決定で裁判に準ずる手続により行なわれるもの
- 四 前三号に掲げるものの翻訳物及び編集物で、国又は地方公共団体の機関が作成するもの

第二節 著作者

（著作者の推定）

第十四条 著作物の原作品に、又は著作物の公衆への提供若しくは提示の際に、その氏名若しくは名称（以下「実名」という。）又はその雅号、筆名、略称その他実名に代えて用いられるもの（以下「変名」という。）として周知のものが著作者名として通常の方法により表示されている者は、その著作物の著作者と推定する。

（職務上作成する著作物の著作者）

第十五条 法人その他使用者（以下この条において「法人等」という。）の発意に基づきその法人等の業務に従事する者が職務上作成する著作物（プログラムの著作物を除く。）で、その法人等が自己の著作の名義の下に公表するものの著作者は、その作成の時にける契約、勤務規則その他に別段の定めがない限り、その法人等とする。

2 法人等の発意に基づきその法人等の業務に従事する者が職務上作成するプログラムの著作物の著作権は、その作成の時にける契約、勤務規則その他に別段の定めがない限り、その法人等とする。

(映画の著作物の著作権)

第十六条 映画の著作物の著作権は、その映画の著作物において翻案され、又は複製された小説、脚本、音楽その他の著作物の著作権を除き、制作、監督、演出、撮影、美術等を担当してその映画の著作物の全体的形成に創作的に寄与した者とする。ただし、前条の規定の適用がある場合は、この限りでない。

第三節 権利の内容

第一款 総則

(著作権者の権利)

第十七条 著作権者は、次条第一項、第十九条第一項及び第二十条第一項に規定する権利(以下「著作者人格権」という。)並びに第二十一条から第二十八条までに規定する権利(以下「著作権」という。)を享有する。

2 著作者人格権及び著作権の享有には、いかなる方式の履行をも要しない。

第二款 著作者人格権

(公表権)

第十八条 著作権者は、その著作物でまだ公表されていないもの(その同意を得ないで公表された著作物を含む。次項において同じ。)を公衆に提供し、又は提示する権利を有する。当該著作物を原著物とする二次的著作物についても、同様とする。

2 著作権者は、次の各号に掲げる場合には、当該各号に掲げる行為について同意したものと推定する。

一 その著作物でまだ公表されていないものの著作権を譲渡した場合 当該著作物をその著作権の行使により公衆に提供し、又は提示すること。

二 その美術の著作物又は写真の著作物でまだ公表されていないものの原作品を譲渡した場合 これらの著作物をその原作品による展示の方法で公衆に提示すること。

三 第二十九条の規定によりその映画の著作物の著作権が映画製作者に帰属した場合 当該著作物をその著作権の行使により公衆に提供し、又は提示すること。

(氏名表示権)

第十九条 著作権者は、その著作物の原作品に、又はその著作物の公衆への提供若しくは提示に際し、その実名若しくは変名を著作者名として表示し、又は著作者名を表示しないこととする権利を有する。その著作物を原著物とする二次的著作物の公衆への提供又は提示に際しての原著物の著作者名の表示についても、同様とする。

2 著作物を利用する者は、その著作者の別段の意思表示がない限り、その著作物につきすでに著作者が表示しているところに従って著作者名を表示することができる。

3 著作者名の表示は、著作物の利用の目的及び態様に照らし著作者が創作者であることを主張する利益を害するおそれがないと認められるときは、公正な慣行に反しない限り、省略することができる。

(同一性保持権)

第二十条 著作権者は、その著作物及びその題号の同一性を保持する権利を有し、その意に反してこれらの変更、切除その他の改変を受けないものとする。

2 前項の規定は、次の各号のいずれかに該当する改変については、適用しない。

一 第三十三条第一項(同条第四項において準用する場合を含む。)又は第三十四条第一項の規定により著作物を利用する場合における用字又は用語の変更その他の改変で、学校教育の目的上やむを得ないと認められるもの

二 建築物の増築、改築、修繕又は模様替えによる改変

三 特定の電子計算機においては利用し得ないプログラムの著作物を当該電子計算機において利用し得るようにするため、又はプログラムの著作物を電子計算機においてより効果的に利用し得るようにするために必要な改変

四 前三号に掲げるもののほか、著作物の性質並びにその利用の目的及び態様に照らしやむを得ないと認められる改変

第三款 著作権に含まれる権利の種類

(複製権)

第二十一条 著作権者は、その著作物を複製する権利を専有する。

(上演権及び演奏権)

第二十二条 著作権者は、その著作物を、公衆に直接見せ又は聞かせることを目的として(以下「公に」という。)上演し、又は演奏する権利を専有する。

(放送権、有線送信権等)

第二十三条 著作権者は、その著作物を放送し、又は有線送信する権利を専有する。

2 著作権者は、放送され、又は有線送信されるその著作物を受信装置を用いて公に伝達する権利を専有する。

(口述権)

第二十四条 著作者は、その言語の著作物を公に口述する権利を専有する。

(展示権)

第二十五条 著作者は、その美術の著作物又はまだ発行されていない写真の著作物をこれらの原作品により公に展示する権利を専有する。

(上映権及び頒布権)

第二十六条 著作者は、その映画の著作物を公に上映し、又はその複製物により頒布する権利を専有する。

2 著作者は、映画の著作物において複製されているその著作物を公に上映し、又は当該映画の著作物の複製物により頒布する権利を専有する。

(貸与権)

第二十六条の二 著作者は、その著作物(映画の著作物を除く。)をその複製物(映画の著作物において複製されている著作物にあつては、当該映画の著作物の複製物を除く。)の貸与により公衆に提供する権利を専有する。

(翻訳権、翻案権等)

第二十七条 著作者は、その著作物を翻訳し、編曲し、若しくは変形し、又は脚色し、映画化し、その他翻案する権利を専有する。

(二次的著作物の利用に関する原作者の権利)

第二十八条 二次的著作物の原著作物の著作者は、当該二次的著作物の利用に関し、この款に規定する権利で当該二次的著作物の著作者が有するもの同一の種類の特権を専有する。

略

(私的使用のための複製)

第三十条 著作権の目的となつている著作物(以下この款において単に「著作物」という。)は、個人的に又は家庭内その他これに準ずる限られた範囲内において使用すること(以下「私的使用」という。)を目的とする場合には、公衆の使用に供することを目的として設置されている自動複製機器(複製の機能を有し、これに関する装置の全部又は主要な部分が自動化されている機器をいう。)を用いて複製するときを除き、その使用する者が複製することができる。

2 私的使用を目的として、デジタル方式の録音又は録画の機能を有する機器(放送の業務のための特別の性能その他の私的使用に通常供されない特別の性能を有するもの及び録音機能付きの電話機その他の本来の機能に附属する機能として録音又は録画の機能を有するものを除く。)であつて政令で定めるものにより、当該機器によるデジタル方式の録音又は録画の用に供される記録媒体であつて政令で定めるものに録音又は録画を行う者は、相当な額の補償金を著作権者に支払わなければならない。

(図書館等における複製)

第三十一条 図書、記録その他の資料を公衆の利用に供することを目的とする図書館その他の施設で政令で定めるもの(以下この条において「図書館等」という。)においては、次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として、図書館等の図書、記録その他の資料(以下この条において「図書館資料」という。)を用いて著作物を複製することができる。

一 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分(発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあつては、その全部)の複製物を一人につき一部提供する場合

二 図書館資料の保存のため必要がある場合

三 他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な図書館資料の複製物を提供する場合

(引用)

第三十二条 公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

2 国又は地方公共団体の機関が一般に周知させることを目的として作成し、その著作の名義の下に公表する広報資料、調査統計資料、報告書その他これらに類する著作物は、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行物に転載することができる。ただし、これを禁止する旨の表示がある場合は、この限りでない。

略

第四十七条 美術の著作物又は写真の著作物の原作品により、第二十五条に規定する権利を害することなく、これら

の著作物を公に展示する者は、観覧者のためにこれらの著作物の解説又は紹介をすることを目的とする小冊子にこれらの著作物を掲載することができる。

(プログラムの著作物の複製物の所有者による複製等)

第四十七条の二 プログラムの著作物の複製物の所有者は、自ら当該著作物を電子計算機において利用するために必要と認められる限度において、当該著作物の複製又は翻案(これにより創作した二次的著作物の複製を含む。)をすることができる。ただし、当該利用に係る複製物の使用につき、第百十三条第二項の規定が適用される場合は、この限りでない。

2 前項の複製物の所有者が当該複製物(同項の規定により作成された複製物を含む。)のいずれかについて滅失以外の事由により所有権を有しなくなつた後には、その者は、当該著作権者の別段の意思表示がない限り、その他の複製物を保存してはならない。

(出所の明示)

第四十八条 次の各号に掲げる場合には、当該各号に規定する著作物の出所を、その複製又は利用の態様に応じ合理的と認められる方法及び程度により、明示しなければならない。

略

第四節 保護期間

(保護期間の原則)

第五十一条 著作権の存続期間は、著作物の創作の時に始まる。

2 著作権は、この節に別段の定めがある場合を除き、著作権者の死後(共同著作物にあつては、最終に死亡した著作物の死後。次条第一項において同じ。)五十年を経過するまでの間、存続する。

略

第七節 権利の行使

(著作物の利用の許諾)

第六十三条 著作権者は、他人に対し、その著作物の利用を許諾することができる。

2 前項の許諾を得た者は、その許諾に係る利用方法及び条件の範囲内において、その許諾に係る著作物を利用することができる。

3 第一項の許諾に係る著作物を利用する権利は、著作権者の承諾を得ない限り、譲渡することができない。

4 著作物の放送又は有線放送についての第一項の許諾は、契約に別段の定めがない限り、当該著作物の録音又は録画の許諾を含まないものとする。

略

(侵害とみなす行為)

第百十三条 次に掲げる行為は、当該著作人的人格権、著作権、出版権又は著作隣接権を侵害する行為とみなす。

一 国内において頒布する目的をもつて、輸入の時に国内で作成したとしたならば著作人的人格権、著作権、出版権又は著作隣接権の侵害となるべき行為によつて作成された物を輸入する行為

二 著作人的人格権、著作権、出版権又は著作隣接権を侵害する行為によつて作成された物(前号の輸入に係る物を含む。)を情を知つて頒布し、又は頒布の目的をもつて所持する行為

2 プログラムの著作物の著作権を侵害する行為によつて作成された複製物(当該複製物の所有者によつて第四十七条の二第一項の規定により作成された複製物並びに前項第一号の輸入に係るプログラムの著作物の複製物及び当該複製物の所有者によつて同条第一項の規定により作成された複製物を含む。)を業務上電子計算機において使用する行為は、これらの複製物を使用する権原を取得した時に情を知つていた場合に限り、当該著作権を侵害する行為とみなす。

3 著作者の名誉又は声望を害する方法によりその著作物を利用する行為は、その著作人的人格権を侵害する行為とみなす。

以下略

付録D章 参考文献

ここにあげる文献にある記述が全て cc 環境で適用出来るとは限らないことに注意してください。

—— Unix 全般、シェル、コマンドなどについて ——

たのしい UNIX -UNIX への招待- 坂本 文著：アスキー出版局刊
月刊雑誌 UNIX Magazine の連載を集成した UNIX 初心者向けの入門書。

続 たのしい UNIX -シェルへの招待- 坂本 文著：アスキー出版局刊
上の一冊の続編。今度はシェルについて解説してくれる。

実用 UNIX ハンドブック 舟本 奨著：ナツメ社
UNIX コマンドの簡単なリファレンス。

UNIX & X コマンド辞典 Alan Southerton, Edwin C. Perkins, Jr. 著、加藤大典訳：丸善、1995年7月
刊、3,800円

UNIX コマンドの非常に詳細なリファレンス。比較的高価ではあるが、400ページ以上にわたり各種のコマンドに関して、およそありとあらゆる例が挙げてある。多くのユーザのコマンドの使い方を試す手間をかなり省いてくれるだろう。ざーっと眺めて新しいコマンドの使い道を発見するのもよし。

DOS ユーザのための UNIX 入門 Douglas W. Topham 著、中西隆訳：技術評論社、1991年刊、1900円
タイトル通り、DOS ユーザの視点から見た UNIX の機能説明です。後半はむしろシステム管理社向けに書いてあります。

UNIX C SHELL フィールドガイド G・アンダーソン、P・アンダーソン著：落水 浩一郎、大木 敦
雄訳：パーソナルメディア刊
csh のほぼ完全なガイド。

UNIX step++ シェルプログラミングのコツ 西沼 行博著：マグロウヒル刊
残念ながら csh ではなく、sh についての説明が主体。記述も少々古いですがシェルを使いこなしたい人には便利。

The Unix Super Text 山口 和紀監修、于 旭・中村 敦司・新城 靖・西山 博泰・古瀬 一隆・石川 佳
治・佐々木 重雄・林 謙一・荻原 一隆・金谷 英信・鈴木 孝幸・黒石 和宏 著：技術評論社刊
BSD と呼ばれるタイプの UNIX 主体に書いてあるため、cc 環境とは相違がある場合が散見されるが、一般的な概念からハウツーまで、広い分野に関して教えてくれる。上下巻の二冊組。上巻は一般的な UNIX の使い方、電子メール、ネットニュース、X ウィンドウなどについて。下巻は L^AT_EX、プログラミング、システム管理などについて。高価なのが難点か。

誰にでも使える UNIX 講座 安岡孝一著：ソフトバンク社刊、1992年
yasuoka さんが root さんに色々教えてもらう対話形式の本。login, logout から始まって UNIX

の基本的なツール sh, csh, sed, make, awk の使い方がこれ一冊でわかる。UNIX を使いこなしてみたい人の入門書。

MH & xmh Jerry Peek 著、倉骨彰 訳、砂原秀樹・鈴木麗 監訳：アスキー出版局刊、1994年11月、5,800円

MH に関するマニュアル。

UNIX の環境設定 久野禎子、久野靖著：アスキー出版、1993年9月刊、1,800円

cc 環境は最初の段階で殆ど全ての環境設定が行われていますが、この本は様々な UNIX での機能設定の方法について説明されています。これから自分の環境を構築したい、しなければならない人向けといえるでしょう。

—— Mule について ——

入門 Mule 大木 敦雄著：アスキー出版刊

まさに Mule の入門書。

Mule でにゃん! だって UNIX ですよ 平山弘之著：メロン出版刊、1,600円

おじさんには頭がいたくなるような題名ですが、内容もそのとおり、くだけたもので、計算機を専門としない超ビギナーには、面白く読めるものと思います。mule に関する一切の難しいことが、ばっさり省略されている ところがこの本の特徴です。

—— Emacs について ——

Emacs は Mule の前のバージョンです。基本的な操作などに付いては殆どこの Emacs の文献が利用できます。参考にしてください。

GNU Emacs 入門 (株) 京都ソフトウェアリサーチメディアデザイン編：オーム社刊、1994

Emacs を非常に分かり安く解説しています。自習にも向いていると思います。付録としてついている切り取り式のコマンド一覧も便利。

GNU Emacs Debra Cameron and Bill Rosenblatt 著：ハイパーウェア監訳：ソフトバンク株式会社刊

Emacs のほぼ完全なガイド。NutsShell (ナッツ(どんぐり)のカラ?) シリーズと呼ばれる非常に詳細な Unix 関係のドキュメントのシリーズの一冊。

GNU Emacs 完全ガイド M.A. シュノーバー、J.S. ボウイ、W.R. アーノルド著・小畑喜一、磯谷正孝、山野修、林秀幸訳：アジソン・ウェスレイ・トッパン刊 (情報科学シリーズ 30,35) (上巻：1992年11月 3,400円、下巻：1993年3月 3,900円)

本書が取り上げている GNU Emacs は Version が、18.57 です。紐解く時に「完全ガイド」の安心感があります。

GNU Emacs マニュアル Richard Stallman 著：竹内郁雄・天海良治訳：共立出版刊、1988年2月、2,930円

GNU の御大自らの解説です。《古典》の部類なのかもしれませんが。

入門 NEmacs 大木 敦雄著：アスキー出版刊

Emacs だけでなく、EGG, MHE, GNUS などについても説明してくれている。

—— TeX について ——

楽々 \LaTeX 野寺 隆志著：共立出版刊、第二版、1994、2,900 円

\LaTeX を用いた TeX の入門書。初心者には最適。

\LaTeX 入門-美文書作成のポイント- 奥村 晴彦監修：技術評論社刊、1994

TeX についていろいろ丁寧に教えてくれる。

やさしい \LaTeX のはじめかた すずき ひろのぶ著：オーム社刊、1991

表題通り \LaTeX のやさしい入門書です。その割に、便利なのがチョコチョコと書いてある。

日本語 \LaTeX 定番スタイル集 No.1, No.2 鷲谷 好輝著：インプレス刊

京都産業大学でキャンパスライセンスを取得している \LaTeX のスタイルファイルの使い方解説書。きれいなスタイルファイルの見本としてもよい。

\LaTeX エラーマニュアル 今井豊著：カットシステム (Tel.0423-94-2218) 刊、1994 年 6 月、2,300 円

マイナーなところからの出版のためか、話題になりませんでした。「エラーをなおし、エラーから学ぶ本格的解説書」ではあります。AU \TeX があれば、半減しているのでしょうか、TeX を使う楽しさの半分は、「エラーとの格闘」ゲームではないでしょうか。その意味では、ゲーム本に分類すべきなのかもしれませんが。

てくてく TeX 阿瀬はる美著：アスキー出版局刊、(上巻 1994 年 11 月、2,000 円、下巻 1994 年 12 月、2,000 円)

語り口の楽しさが、坂本文著「たのしい UNIX」に似ているのは、「UNIX MAGAZINE」1989/04-90/07 連載だったせいでしょうね。

逆引き \LaTeX D.J. パーガー著、引地 信之・引地 美恵子訳：マグロウヒル刊

「こんなことが出来るのではないか？」と思った機能から、その方法を調べる。

\LaTeX トータルガイド 伊藤 和人著：秀和システムトレーディング刊

\LaTeX 技能の華麗な一覧表。

文書処理システム \LaTeX Leslie Lamport 著、Edgar Cooke・倉沢 良一監訳、大野 俊治・小暮 博道・藤浦 はる美著：アスキー出版局刊

他の \LaTeX 解説書の説明では納得出来ない時の駆け込み寺。入門書なのに理論的。

改訂新版 TeX ブック Donald E. Knuth 著、斉藤信男監修、鷲谷好輝訳：アスキー出版局刊

教祖様直筆 TeXnician の Bible。頭から嘔じるに困難でも、昼寝の枕に最適。

日本語 $\LaTeX 2\epsilon$ ブック 中野 賢 著：株式会社アスキー刊

株式会社アスキーが日本語版で縦組ができる \LaTeX をリリースし、現在 p $\LaTeX 2\epsilon$ という名前で公開され、それに対するマニュアル本と位置づけられるでしょう。

$\LaTeX 2\epsilon$ 階梯 藤田 眞作 著：アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン刊

$\LaTeX 2\epsilon$ にかなり詳しい参考書。 $\LaTeX 2\epsilon$ と本気で取り組むのなら是非揃えておくべき。

—— インターネットについて ——

インターネット 村井純著：岩波書店、1995 年 11 月刊、650 円

岩波の新書版です。WIDE 代表、日本のミスターインターネットとも言える村井氏がインターネッ

トの経緯、理念などについて述べています。多分に技術的な内容を含んでおり、技術と理念が同時に語られているところが良いと思います。

ハッピー・ネットワークング 山本和彦著：アスキー出版局、1994年7月刊、1,500円

NEmacs, mail, news, FTP だけに焦点を絞った若者による新入生向けであることに好感が持てました。cc 環境では殆ど等価のドキュメントを ccinfo コマンドで印刷させることも出来ますが、綺麗に製本された物が欲しければやはりこれを買うことになるでしょう。

インターネット情報生活入門 グループまたたび著：技術評論社、1994年10月刊、1,700円。 インターネットの全体的な紹介をビジュアルにしている点がよいと思います。

インターネット参加の手引き～1994年度版 WIDE Project 編・村井純、吉村伸 監修：共立出版、bit 別冊、1994年7月刊、4,800円

情報はタツブリ詰まっていますけど、高価。1995年度版が出るそうです。

インターネットユーザーズガイド Ed Krol 著・村井純 監訳：インターナショナル・トムソン・パブリッシング・ジャパン刊 1994年5月刊、4,400円

ブームに向けてタイミング良く出版されてスタンダードなものになったようですけれど悪評を批判されたりもしていました。1995年の1月に「改訂版」が出ていましたが、訳の改善がはたしてどの程度行なわれたのか、確認していません。(これでは紹介文にならない!)

インターネット・ナビゲータ Paul Gilster 著・菱山博陸訳：丸善、1995年2月刊、6,592円

原書第2版が底本。「本書は常にモデムでインターネット利用する人を念頭においています。」(p.vii)って台詞に、コロっと心底、騙されました。インターネット論としても優れているものだと思います。

—— WWW ページ作成、HTML について ——

インターネット ホームページデザイン 吉村信、家永百合子、鏡聡：翔泳社、1995年6月刊、2,400円

HTML 文法のリファレンス。かなり細かく書いてあり、殆ど全ての HTML 文法をカバーしていると思われる。各文法がどのクライアント向けの拡張なのか、即ちどのクライアントソフトでならどのような効果が出るのかについて特に注意が払われているので、多くの人にページを見て欲しいページ制作には欠かせません。

HTML 入門 WWW ページの作成と公開 ローラ・リメイ著、武舎広幸、久野禎子、久野靖訳：プレントニスホール出版、1995年12月刊、3,900円

WWW ページ制作に関するノウハウと技術がぎっしり詰まっています。ページのデザインに関しての助言も数多く、バランスの取れたページデザインや構成をする上で一度は見るのがお勧めです。

続 HTML 入門 新機能、CGI、Web の進化 ローラ・リメイ著：武舎広幸、久野禎子、久野靖訳：プレントニスホール出版、1995年12月刊、3,900円

上記「HTML 入門」の続編です。前作の出版以降に追加された機能について解説しています。特に CGI (Common Gateway Interface) を使って、プログラムによる機能を WWW に組み込む方法の紹介が含まれています。

はじめての HTML3.0 Sachi 著、宇野謙吉監修：リブロス、1995年11月刊、2,700円

非常に簡潔に多くの HTML 記述についてまとめられています。クリックブルマップ、テーブルも押さえており、せいぜい CGI についてほとんど抜かしている程度です。

索引

- 11 情報処理教室, 30
- 21 情報処理教室, 22
- 31 情報処理教室, 30
- 32 情報処理教室, 30
- 51 情報処理教室, 35
- 52 情報処理教室, 45

- anonymous FTP, 168
- archie, 170

- bc, 88

- C-, 11, 85
- C1 情報処理教室, 54, 64
- Can't open display, 321
- cat, 97
- Cc:, 136
- cc 環境, 4
- chmod, 186
- command 索引, 298
- Contura, 45
- cp, 99, 119

- date, 86
- DECpc, 74
- Dired モード, 209

- EGG, 201
- Emterm, 74
- End Session, 61
- env, 190
- EUC コード, 162
- eXceed, 54
- eXceed/W, 57

- FAQ, 311, 312
- fetch, 163
- fj, 319
- FMV, 54, 64
- Followup-To, 320

- FreePPP, 245
- FTP, 166

- GNUS の起動, 144
- grep, 313

- Host Presenter, 64
- hostname, 87

- Internet, 125

- JIS コード, 162

- kill, 313
- kterm, 25, 59
- kyoto-su.ac.jp, 129

- LINK, 314
- login, 11
- logout, 11, 28
- lpr, 108
- ls, 87, 96

- M-, 85
- Macintosh, 30
- MacPPP, 245
- MacTCP, 244
- mail アドレス, 128
- mail サービス, 126
- man, 89
- math.h, 323
- more, 98
- MO ディスク, 274
- Mule, 100, 197
- Mule のエラーメッセージ, 101
- mule の環境設定, 316
- Mule の終了, 105
- mv, 98, 120, 121

- NCSATelnet, 30
- news サービス, 127

NeXT, 259
NeXT のファイル管理, 266
nkf, 162

OpenTransport, 244

Permission denied, 184
ps, 313
pwd, 116

Quick ユーザーズガイド, 46, 55, 65
quota, 179

rm, 99, 121
root menu, 25

save, 105
script, 97, 313
setenv, 190
signature, 157
Sign 登録, 5, 6
Sign 登録作業を中断, 9
SJIS コード, 162
Subject:, 136
Suspended, 92

telnet, 19
Teraterm, 74
tnn, 319
To:, 136
tree, 115

Ultra1, 22
Undo, 201
UNIX, 4
UNIX コマンド, 298
UNIX それから, 84
UNIX への道, 21
UNIX もっともっと, 176
URL, 171

whois, 180
Windows 95, 75
Windows 終了, 51
Wnn, 201
World Wide Web, 171
WS FTP, 165

WWW, 124
WWW サービス, 127
WWW の利用方法, 171

X ウィンドウ, 19
X 環境で Mule, 210

yppasswd, 26, 31, 41, 50, 60, 70, 79

zip, 233

アーティクル, 144
アクセス権, 184
圧縮, 228, 239
アプリケーションドック, 271
一連のコマンド, 195
イベント, 95
印刷, 108
印刷が薄い, 110
引用, 138
引用のマナー, 157
引用符が付けられない, 317
ウィンドウ, 13
ウィンドウ環境, 12
ウイルス, 20
ウインドウ, 197
エコーライン, 197
X 環境, 54
遠隔操作, 19
オプション, 87
カーソル, 85
カーソル移動, 200
カーソルの移動, 103
カードロックシステム, 35
改行コード, 160
解凍, 228, 232, 239
カスタマイズ, 210
(ことえりで)カタカナしか出ない, 322
カット, 200
紙詰まり, 110
画面が乱れた, 200
画面の移動, 104
画面分割, 208
カレントディレクトリ, 116
環境変数, 190
漢字 Talk6.0.7, 244

漢字 Talk7, 244
慣習, 2
漢字 Talk, 244
キー表記, 84
キーボード, 11
記号入力モード, 204
記事, 144
記事を全部読んだことにする, 155
機能ガイド, 46, 55, 65
キャンセル, 152
キャンセルについて, 157
今日から使える Windows3.1, 46, 55, 65
行の移動, 104
矩形, 200
クロスポスト, 319
計算機センター窓口, 3
検索, 208
語句の説明, 85
コマンド, 86
コマンド索引, 298
コマンド名を調べる, 90
コンピュータ利用にあたって, 1
サーチエンジン, 171
サイン登録, 6
サブコマンド, 88
シェル, 93, 188
シェルフ, 272
シグネチャ, 316
実行結果をプリントアウト, 313
シャットダウン, 28
ジャム, 110
情報検索, 180
人権, 2
シンボリックリンク, 314
セーブ, 105
正規表現, 313
セクション, 90
相談窓口, 3
ターミナル, 19
ダイヤルアップ IP 接続 (Mac), 244
ダイヤルアップ IP 接続 (Win3.1), 232
ダイヤルアップ IP 接続 (Win95), 223
単語登録, 206
単語登録の一覧, 316
端末, 19
置換, 208
チュートリアル, 106, 198
著作権, 2
次の候補, 203
ツリー, 115
ディスクの利用量, 179
ディレクトリ, 113
テキスト形式, 160
電子メール, 124
投稿, 144
投稿する, 148
道徳, 2
特殊な文字, 204
図書館読書室パソコンコーナー, 74
トップディレクトリ, 115
トラブル, 16, 312
トラブルからの脱出, 91
日本語入力, 201
ニュースグループ, 144, 319
ニュースグループのソート, 318
ニュースグループを選ぶ, 147
ネットニュース, 124
ネットニュースの読み書き, 144
ネットワーク, 125
ネットワークサービス, 123
ネットワークの世界へようこそ, 123
ハードリンク, 314
パーミッション, 186, 321
バイナリ形式, 160
パイプ, 194
パス, 116
パスワード, 4, 5
パスワードを変える, 26, 31, 41, 50, 60, 69, 79
パソコンから UNIX, 18
バッファ, 197
バッファリスト, 208
光磁気ディスク, 274
引数, 87
ヒストリ, 94
ファイル, 96
身に覚えのないファイル, 177
ファイルの一覧を見る, 96
ファイルの移動, 120

ファイルの印刷, 108
ファイルの大きさ, 176
ファイルのコピー, 119
ファイルの消去, 99, 121
ファイルの整理, 176
ファイルの内容を見る, 97
ファイルの名前を変える, 121
ファイルの複写, 99
ファイルの呼びだし, 199
ファイルビューア, 266
ファイルへの保存, 105
ファイル名の指定, 103
ファイル名の変更, 98
ファイルを編集, 100
フィルタコマンド, 193
フェンスモード, 202
フォーマット, 158
フォルダ, 267
フォロー, 151, 156
ブラウザ, 171
プリンタ, 108, 289, 322
プリンター一覧, 289
プリンタのトラブル, 110
古い記事を読み返す, 153
プロセス, 92
プロセスの終了, 313
(Mac で) フロッピーが取り出せない, 322
フロッピーディスクの種類, 158
フロッピーディスクの利用, 157
プロンプト, 86
文節の区切り, 204
ペースト, 200
編集, 103
(Mule で) 変になったら, 199
ホームディレクトリ, 115
法律, 2
ポスト, 144
ホストコンピュータ, 19
保存, 105, 201
(フロッピーに) 保存できない, 322
ボタン, 16
マウス, 12
マック, 30
マックのリセットスイッチ, 322
メールを日付順にする, 317
メールを振り分ける, 317
メール, 124
メールアドレス, 128
メールでの返事の作法, 138
メールの実体, 140
メールの整理, 139
メールの返事を書く, 137
メールを書く, 136
メールを書くときの注意, 141
メールを破棄, 137
メールを読み返す, 136
メールを読む, 133
モードライン, 197, 208
文字コード, 161, 315
文字コードの変換, 162
モデレータ, 155
モラル, 2
ユーザ名, 4
リージョン, 200
リサイクラ, 269
リサイクラを空に, 270
リダイレクション, 191
リダイレクト, 313
リンク, 270
ルートディレクトリ, 115
ルートメニュー, 25, 59
レターモード, 137
ローカルニュースグループ, 145

配布、改変

このドキュメントは非営利目的に利用する限り、自由に複写、改変、配布して構いません。逆に営利目的に利用する事は許しません。この基本線を守る限り、あなたはこのドキュメントに対して何をしても自由です。ここではこれ以上述べません。あなたが執筆者達の期待を裏切らないよう、信じています。

連絡など

訂正や誤りに対する連絡は京都産業大学の計算機センター事務室までお願いします。ここはまずい、こうした方がよいという相談は大歓迎です。我々の環境は時代に合わせてどんどん変化します。このドキュメントもまずいところはどんどん直して変えていって欲しいと思います。そうしてこのドキュメントが実際に役に立つものとして成熟して行けば良いなと考えているのです。

執筆者

谷川 正幸 竹内 茂夫 大本 英徹 安田 豊
山崎 英知 辻本 将彦 笠 克明 小坂田 浩孝
松浦 正和 坪内 伸夫 吉田 浩史 重田 裕之
土肥 順一 岡田 光博 開原 潮 尾崎 孝治

発行

京都産業大学 計算機センター
〒 603 京都市北区上賀茂本山
電話 075-705-1483

謝辞

このガイドでは計算機センターが、コンピュータを初めて使うところから電子メールやネットニュースが使えるようになるまでの一連のチュートリアルを書いています。残りの部分については cc 環境利用者の有志から原稿を頂きました。

まず最近話題の WWW では、HTML おいしいホームページの作り方を外国語学部の竹内茂夫先生に書いていただきました。Mule の章とそのリファレンス、レポートシステムと FAQ の部分を当時理学部計算機科学科の学生だった尾崎君が書いてくれています。そして彼は現在計算機センター職員となりこのガイドの編集に携わっています。また、FAQ は計算機センターの MiCS 補助員（計算機運用補助員）がまとめてくれたものを利用しています。L^AT_EX の章を理学研究科物理学専攻の山崎君が書いてくれました。L^AT_EX 前半の一部分は同じく物理学科の辻本君が書き起こしてくれたものが元になっています。AUC_TE_X と TGIF の章については理学研究科物理学専攻の松浦君が、Mathematica の章については理学研究科数学専攻の笠君が書いてくれました。MODEM から telnet の章は経済学部の小坂田君¹ が書いてくれてものを元に計算機センターの開原君が書いてくれました。GNUPLOT の章は理学部の谷川正幸先生が書いてくださいました。NeXT の章は計算機センターの開原君が書いてくれました。彼はまた著作権法の部分をまとめてくれています。NQS、*xv*、*xpaint* の章と UNIX コマンドリファレンスは元計算機センターの安田君² が cc 環境の一ユーザとして書いています。ダイアルアップ IP は安田君、尾崎君と一般教育研究センターの吉田君の合作となっています。今回も突然の依頼となりましたが工学部の黒住先生には巻頭を引き受けていただきました。ガイド執筆では直接現れませんが、cc 環境の Mule の設定には理学部の立木先生や他のの方々から多くの御協力を得て何とかになりました。その他にも多くの方の協力を戴きました。

それら全ての人に感謝いたします。

経緯

cc 環境は 1993 年の夏に計算機センターが導入した UNIX マシン群を核としたコンピュータ利用環境です。それまで大学の中に共用 UNIX 環境が存在しなかったという事もあって、当時大学の中では UNIX の利用者は少なかったのですが、1994 年の春から一般学生にも授業と関わりなくアカウントを出すということになりました。そこで授業などとは関係なく UNIX 環境を利用することになる学生のために、ガイドが必要となったのです。そうして「UNIX ガイド」初版が cc 環境の設計者でもあった当時の計算機センター職員安田君によって書かれました。

1994 年の夏には多くの人の執筆協力を得て「UNIX ガイド追補版」を出版する事が出来ました。これは学内で UNIX 利用者がそれだけ育った事を象徴する出来事でした。1995 年この二冊を合本して更に内容を加えた第二版が出版されました。

そしてこの度「UNIX ガイド」はさらに内容を加えて「コンピュータガイド・インターネット編」と「コンピュータガイド・アプリケーション編」に分冊されることになりました。第二版がすでに 400 ページ近い厚さになっており、常に携帯してもらうために、もう少し見やすく軽くなるかとの配慮からです。

Netscape に代表されるブラウザは簡単な操作で WWW の利用を可能にし、利用者層を拡大しました。いわばインターネットの「大衆化」を急激に進めたといえます。1996 年からは 4 回生が就職における求人情報収集のためにインターネットを使うでしょう。1993 年の cc 環境設計当時には想像できなかったほど、大衆化は進んでいます。「コンピュータガイド・インターネット編」は UNIX をあまり意識せずにインターネットを使う人達のために書かれています。一方、古くからの cc 環境利用者、つまり UNIX をより使いたい人達のために「コンピュータガイド・アプリケーション編」が書かれています。

¹ 小坂田君は 1995 年 3 月卒業

² 安田 豊君は 1995 年 11 月に京都産業大学を退職し神戸大学経済経営研究所に移られました。その後も cc 環境のために協力してくれています。

cc 環境の設計者である安田君は、多くの利用者によって支えられている現在の cc 環境をみて「1993 年に苦労して cc 環境の設計を行っていたのが嘘のように昔の事に思える。最初の半年の利用者には何のドキュメントも用意してやれず苦労を掛けたと今更ながらに思う。」と述懐しています。

これから cc 環境がどのように育っていくのか予想がつかない部分もありますが、このドキュメントがその助けになってくれればと願っています。

最後に。論文やレポート時代の貴重な時間をさいて、この「コンピュータガイド」を書いてくださった有志の方々、そしてその成果物のとりまとめにまるまる一カ月を費やした編集者たち、こうして cc 環境を支えてくれているすべての人々に感謝します。

1997.3.31 計算機センター